２０２１年度　点検評価改善報告書

［教育研究活動報告］

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

学　　長

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　浅野嘉延	職名　　教授	学位　医学博士（九州大学 1989 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、保健統計学、高齢者福祉学、大学運営学	血液内科、看護教育、大学運営

研　究　課　題
これまで、医療現場での臨床医と看護大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を適切かつ効率的に教授する教育法の確立を目指してきた。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材を利用して、７冊のテキストを出版してきた（現在、150 校以上で教科書採用されている）。また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」での研究から商品化した「車椅子用フットプレートカバー」は、有薗製作所より販売を継続中である。 2021 年度４月より学長に就任し、社会から求められる大学であり続けるための大学運営の方法を模索している。

担　当　授　業　科　目
疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科） 医学総論（前期）（福祉学科） キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科） 疾病学各論Ⅱ（後期）（看護学科） 保健統計学（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 キリスト教と西南女学院のあゆみ 】 看護学科、福祉学科、栄養学科の１年生に対して、本学の歴史とキリスト教教育について解説した。複数の教員によるオムニバス形式で進行したが、私は学長として初回のガイダンスを担当した。自学の歴史を知ることで愛着と誇りを持ち、「感恩奉仕」という共通の精神基盤のうえで学部学科を超えて高めあうことの大切さを強調した。
授業科目名【 保健統計学 】 看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。ただ、馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂３版）」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。 ほとんどが遠隔授業であったため、例年以上に復習の時間をとり、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 昨年に引き続き、授業中に統計データから社会問題を考察するなどのレポートを課した。

授業科目名【 疾病学各論Ⅰ 】【 疾病学各論Ⅱ 】

自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂３版）」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、婦人科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は現役の専門医に依頼し、臨床の第一線の現状も紹介して貰った。

ほとんどが遠隔授業であったが、配布資料などを多用して、対面授業と変わらない授業効果を目指した。学生からは外科疾患の手術動画などは遠隔授業の方が見やすいと好評であった。

疾患に関する知識を伝えるだけでなく、病める患者と向き合う医療者としての心構えも折に触れて教授するように心がけた。

授業科目名【 医学総論 】

福祉学科２年生に、基礎医学（解剖生理）、臨床医学（主要疾患）、社会医学（公衆衛生）といった非常に広範囲な内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容を中心に解説した。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。

医学の解説だけでなく、福祉現場で働くことの尊さなども繰り返し伝えた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学会	認定医・専門医試験の病歴評価担当	1983 年 6 月～現在
日本血液学会	評議員（1998 年 4 月～現在）	1985 年 6 月～現在
	九州支部評議員（2011 年 4 月～現在）	
日本癌学会		1986 年 6 月～現在
アメリカ内科学会	上級会員 FACP（2000 年 1 月～現在）	1998 年 12 月～現在
日本看護科学学会		2008 年 12 月～現在
日本看護学教育学会		2008 年 12 月～現在
	＜学会等の認定資格＞	
日本内科学会	指導医・認定医	1993 年 5 月～現在
	専門医	1993 年 12 月～現在
日本血液学科	専門医	1994 年 10 月～現在
	指導医	1994 年 12 月～現在
日本医師会	認定産業医	2001 年 5 月～現在

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
＜教科書の執筆＞ １．なるほどなっとく！臨床検査	単著	2021 年 11 月	南山堂 （全 202 ページ）	著者：浅野嘉延 パラメディカルを対象に臨床検査の方法やデータの読み方を解説した。

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
＜雑誌の執筆＞ １．ニガテ科目克服講座 ホルモン	単著	2021 年 10 月	プチナース 10 月号 p30-34, 2021、照林社	ホルモン臓器と作用について解説した
＜その他の執筆＞ １．学長就任のご挨拶	単著	2021 年 4 月	西南女学院月報 第 684 号:2, 2021	著者：浅野嘉延 巻頭言、就任挨拶
２．学長就任のご挨拶	単著	2021 年 4 月	西南女学院大学ホームページ	著者：浅野嘉延 就任挨拶
３．学長メッセージ	単著	2021 年 4 月	西南女学院大学ホームページ	著者：浅野嘉延 学内外へのメッセージ
４．学長就任のご挨拶	単著	2021 年 4 月	西南女学院キリスト教センター便り 114:1, 2021	著者：浅野嘉延 就任挨拶
５．十で神童、十五で才子、二十過ぎればただのひと	単著	2021 年	西南の杜 第 13 号:142-149, 2021	著者：浅野嘉延 エッセイ
６．学長メッセージ	単著	2021 年	西南女学院大学 2023 入学案内 5, 2023	著者：浅野嘉延 高校生へのメッセージ
７．理事長挨拶	単著	2021 年 6 月	ふれあいの里とばた ホームページ	著者：浅野嘉延 就任挨拶
８．学長就任のご挨拶 ～地域社会から求められる大学であり続けるために～	単著	2021 年	広報 西南女学院 第 100 号:2, 2021	著者：浅野嘉延 就任挨拶
９．学長就任のご挨拶	単著	2021 年 8 月	同窓会だより「しおん」 第 13 号	著者：浅野嘉延 就任挨拶
10. 思い出は家族の宝物	単著	2021 年 9 月	しおんのそののあゆみ	著者：浅野嘉延 巻頭言
11. 巻頭言	単著	2021 年	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所　2020 報告書、p3, 2021	著者：浅野嘉延 巻頭言

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
12. 創立100周年記念誌	単著	2021年11月	西南女学院月報 第691号:2, 2021	著者：浅野嘉延 記念誌編集の進捗状況
13. 受験生の皆さまへ	単著	2022年1月	西南女学院大学ホームページ	著者：浅野嘉延 受験生へのメッセージ
13. 100周年記念誌編集の進捗状況（その2）	単著	2022年2月	広報 西南女学　第101号	著者：浅野嘉延 記念誌編集の進捗状況
13. コロナ禍に想うこと	単著	2022年3月	全国栄養士養成施設協会　月報	著者：浅野嘉延 エッセイ
14. 2021年度の地域貢献活動と地域連携室の取り組み	単著	2022年	地域活動論叢2021	著者：浅野嘉延 巻頭言
15. ようこそ　西南女学院大学へ	単著	2022年	西南女学院大学生協加入のご案内　2022年度	著者：浅野嘉延 巻頭言
＜講演など＞				
１．入学式式辞		2021年4月	西南女学院大学入学式（2021.4.2.）	演者：浅野嘉延 学長式辞
２．入園式式辞		2021年4月	シオン山幼稚園入園式（2021.4.13.）	演者：浅野嘉延 学長式辞
３．閉講式式辞		2021年8月	ファーストレベル閉講式（2021.8.20.）	演者：浅野嘉延 学長式辞
４．卒業式式辞		2021年9月	西南女学院大学 秋の卒業式（2021.9.22.）	演者：浅野嘉延 学長式辞
５．人生の道標		2021年10月	西南女学院大学チャペルアワー奨励（2021.10. 北九州）	演者：浅野嘉延 チャペル礼拝の奨励
６．閉講式式辞		2021年12月	セカンドレベル閉講式（202112.11.）	演者：浅野嘉延 学長式辞

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人　福音会	産業医	2007年4月～現在
医療法人起生会 大原病院	評議員	2009年4月～現在
	産業医	2016年6月～現在
全国栄養士養成施設協会	理事	2019年4月～現在
九州労災病院	治験審査委員会委員	2021年4月～現在
	研究倫理委員会委員	2021年4月～現在
キリスト教学校教育同盟	西南地区協議会代議員	2021年4月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院 評議員　2011年4月～現在
地域連携室 運営協議会委員　2016年8月～現在
西南女学院 理事　2019年4月～現在
公的研究費運営管理部門 統括責任者　2019年4月～現在
点検評価改善会議メンバー　2019年4月～現在
創立100周年記念事業実行委員会　2019年7月～現在
大学短大事前行事担当　2019年7月～現在
100周年記念誌編集委員長　2019年10月～現在
COVID-19対策班　責任者　2020年9月～現在
西南女学院 常任理事　2021年4月～現在
西南女学院大学・大学短期大学部 学長　2021年4月～現在
将来計画検討プロジェクトメンバー　2021年4月～現在

大　　学

保健福祉学部

看　護　学　科

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　安藤　愛	職名　　助教	学位　　修士（看護学）（福岡県立大学　2017 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
看護学	精神疾患　ストレングス

研　　究　　課　　題
精神科看護の臨床現場におけるストレングスモデルの活用・継続に向けた課題の明確化

担　　当　　授　　業　　科　　目
精神看護学演習　（前期）（看護学科） 精神看護方法論、精神看護学実習（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神看護学演習　　】 コロナ感染症により遠隔授業を行った。感染者の状況により 7 月の授業は学内で実施できた。主に、実習に向けてペーパーペイシェントによる看護展開とプロセスレコードを活用した自己の対話の振り返り方法の伝授を主に行った。看護展開は、classroom の meet を活用し 3 人 1 組でグループワーク形式で行った。アセスメントを発表する時間を設け、他学生との意見や考えの共有、意見交換ができるよう具体的な質問や進行を心掛けた。また、解説を参考に自分の行ったアセスメントを追加修正することで思考の整理を促した。臨床現場や精神科看護師の関わりがイメージできるように DVD などの教材を活用し、学生が事例の展開を行う過程で患者の気持ちを考え、成育歴や生活歴を踏まえたアセスメントが行えるように具体的な問いかけや解説を心がけた。さらに、1.2 年次に行われる基礎看護学実習において臨地実習が経験できなかった学生であったため患者との対話時に配慮することを考えてもらいながら対話の演習を行った。
授業科目名【　精神看護方法論　　】 「パーソナリティ障害」「大人の発達障害」「強迫性障害」「適応障害」「身体合併症」をもつ人の看護を担当した。1 コマ 100 分と長く、集中力の低下が懸念されたため授業資料は、大事な部分が分かりやすいように簡潔に明記するようにした。また、適度に自身の看護体験を語る時間も設け、国家試験に出やすいところを強調したり、患者の苦痛や生活のしづらさがイメージしやすいように DVD や本を活用し、できるだけ学生へ患者の思いに関する問いかけを行うように心がけた。そして、特に現代社会で問題になっている事柄や病院での実際の状況などを伝え、自分の身近な問題として興味関心をもてるように工夫した。
授業科目名【　精神看護学実習　　】 コロナ感染症の影響により臨地に行けた実習は少なく、ほとんどが学内実習であった。臨地実習では、朝・昼・夕の検温、手指消毒・手洗の徹底、アルコールによる物品消毒などの感染予防をしっかり行った。学生が自分の傾向と向き合い受け持ち患者と関係性を築き、患者の希望や思いを尊重した看護計画の立案・実施ができる

よう学生の理解度に応じた問いかけを心がけた。学内実習では、できるだけ臨地実習と同様の流れにし、教員の作成したカルテをもとに事例展開を行った。教員が患者役を行い、看護計画の立案・実施までの 6-7 日間は毎日対話を行った。その際に、自己の対話の傾向を認識できるようにフィードバックを行っていった。また、精神科病院の様子がわかるように DVD や写真の活用、臨床での具体的な事例を話すことを心がけた。さらに、臨機応変な対応ができるようにグループごとにレクリエーションの企画と実施を取り入れた。実践では、受け持ち患者以外の患者役も学生に行ってもらい調子悪化時や症状出現時の臨機応変な対応が経験できるように患者役の設定を考えるとともに学生自身が楽しむことの重要性に気づいてもらえるように関わった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県看護協会会員 日本教師学学会会員 日本精神科看護協会会員 日本精神保健看護学会 日本看護科学学会会員 PAS セルフケアセラピィ看護学会		2014 年 4 月～現在に至る 2015 年 1 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2020 年 11 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 精神科における長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究	共著	2022 年 3 月	西南女学院大学紀要 Vol.26	①事例研究 12 件を対象に精神科における長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護の特徴を明らかにするために文献研究を行った。 ②共著者名：安藤愛、後藤有紀、前田由紀子 ③p15-23
被害妄想に対する介入に関する文献レビュー	共著	2022 年 3 月	福岡県立大学看護学研究紀要 19	①国内において医療職が被害妄想に対して介入している先行研究を検討し、研究の動向と概観をまとめた。 ②共著者名：中本亮、安藤愛、宮﨑初、坂部澪 ③p35-43
（翻訳）				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表）				教育研究業績　総数総数 （2022.3.31現在） 著書：3（内訳：共3） 学術論文：4（内訳：共4） 学会発表：3（内訳：共3）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
高度実践看護師の患者との対話場面における沈黙の意味解釈と活用技法の検討	文部科学省	（○増満誠） （中本亮） （上田智之） （緒方浩志） 安藤愛 （森　雄太）	3,770,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会	事務	2021年4月～2022年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
1年アドバイザー　　（2021年4月～2022年3月31日） 研究推進委員　（2021年4月～2022年3月31日）

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　飯野　祥之	職名　　助教	学位　修士（看護学）（九州大学　2012年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学 看護教育学	看護基礎教育 臨床判断 アクティブラーニング

研　究　課　題
・看護学生の臨床判断力向上を目指した研究。 ・コロナ禍の学内看護学実習における学生の学びに関する研究。

担　当　授　業　科　目
成人看護学演習（前期　看護学科） 成人急性期看護学実習（後期　看護学科） 成人慢性期看護学実習（後期　看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　成人看護学演習（前期　看護学科）　】

＝看護過程＝

１．肝硬変患者、胃癌の術後の患者の事例を用いて、看護過程の展開についての指導を行った。
看護過程の内容としてデータベースアセスメント、フォーカスアセスメント、全体像、看護計画の立案
看護計画の評価などについて講義とグループワークにて授業が進められた。

２．講義毎に看護過程の記録の課題があり、グループ単位で課題ファイルの提出を求めた。
教員は課題ファイルのチェックを行い、グループごとの理解について確認した。指導が必要な点について教員間で情報共有を行い、統一した指導を行えるように配慮した。

３．グループワーク時に教員が適宜巡回し、疑問点などをその場で解消できるように指導した。
アセスメントに必要な病態などの知識が不足している場合は、教科書の該当ページなどを学生と一緒に確認し、根拠のあるアセスメントが出来るように学習を促した。また、アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。

＝技術演習＝

１．胃癌の術後患者に対する全身観察や清拭・更衣の援助について、モデル人形や模擬患者を用いた演習を行った。

２．学生が術後患者の創部やドレーンの挿入部位等について体感的に学べるよう、術後患者の創部やドレーンの挿入部位などを模擬皮膚の作成を通して再現する工夫を行った。

３．術後の患者の帰室時の観察や清拭・更衣についての技術演習の練習時に指導を行った。
手術や病態について学生の知識の及ばないところは参考書などに戻して根拠づけたケアを行えるように指導した。既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。
また、術後患者の観察について、初回の説明時はかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いながら演習を進めた。

授業科目名【　成人急性期看護学実習（後期　看護学科）　】

1．コロナ禍の影響により一部を除きほぼすべての実習が対面での学内実習となった。
2週間の病棟実習を模した実習内容として患者役の教員とのコミュニケーションや模擬電子カルテの情報を基に看護過程の展開を行った。立案した内容に沿って術後の全身観察、清拭・更衣・離床の実践、パンフレットを用いた退院指導の実践を行った。それぞれの実践は、モデル人形や学生・教員が演じる模擬患者に対して行われた。

2．患者事例の作成においては、急性期患者の理解などを含めた実習目標を達成する為に必要な情報を盛り込むことを意識した。
患者の身体的側面として、日々の情報収集やケア実践において術後患者の回復過程を学生が感じられるように、患者の疼痛の状況・ドレーンの排液の状況・バイタルサインの変化・離床の状況などが日々回復に向かって変化していくようにした。また、心理的側面や社会的側面を表現するために手術に対する不安などの発言や退院前の生活の情報、家庭内や職場での役割などがわかる情報を盛り込んだ。

3．個別の指導としては、術後侵襲における生体反応、事例ごとの疾患、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。看護過程についての理解が進んでいない場合が多かったため、看護過程の各セクションの書き方や視点などについて演習の講義資料等をもとに学生の進行に合わせて説明を行った

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010年7月～現在に至る
日本看護科学学会	一般会員	2021年7月
日本看護教育学会	一般会員	2021年9月
日本看護シミュレーション学会	一般会員	2021年9月

２０２１年度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究

研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1年次アドバイザー(2021．4.1～2022．3.31) 研究推進委員(2019．4.1～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　石井　奈央	職名　　助教	学位　学士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護基礎教育 基礎看護学教育	看護基礎教育　基礎看護教育　生活援助　遠隔実習 カリキュラム開発

研　究　課　題
看護基礎教育における清拭の教育内容に関する研究 コロナ禍における基礎看護学領域の学内実習のあり方

担　当　授　業　科　目
看護技術論　生活援助技術論演習　診療関連技術論演習　看護過程論　基礎看護学実習Ⅰ　基礎看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【看護技術論】 学生が技術を習得できるよう、手本を見せながら繰り返し説明した。早期看護実習では、視聴覚教材の作成を行い、学内実習において臨地により近い教育ができるよう努めた。
授業科目名【生活援助技術論】 清潔の単元を担当。密にならないようなグループ編成、学生の寒さ等に配慮した換気をおこない、人権に配慮した。講義と演習の関連性を小田教授から指導を受け、実施した。
授業科目名【看護過程論】 進捗状況を細かく確認しながらすすめた。学生に知識を教授するのではなく、学生自身が学問的な問いを立てられるように指導した。学生の思考を揺さぶるような発問を絶えず考え、思考力が養われるように工夫した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】 学内実習であったため、「仮想電子カルテ」を作成した。なるべく現実の病院に環境を近づけ、リアリティを少しでも持たせられるよう工夫した。学生自身の気付きや学びを肯定的にフィードバックすることに努めた。不足がある部分に関しては、そこを指摘するだけでなく、どうすれば克服できるかについて学生と話し合った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
3年アドバイザー（2021/4/1～2022/3/31） 実習コーディネーター（2021/4/1～2022/3/31）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　石井　美紀代	職名　　准教授	学位　修士（看護学）大分医科大学　2001 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
地域・在宅看護学	在宅ケア、訪問看護

研　　究　　課　　題
医療・介護の一体化改革によって、在宅の定義が単に自宅を指すものではなく、「生活の場」に拡大されている。そこで、地域包括ケアにおける看護職の機能や役割について研究する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
社会保障概説（看護学科１年　後期） 家族と健康（看護学科２年　前期） 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ（看護学科２年　後期） 看護研究（看護学科３年　前期） 在宅看護学（看護学科３年　前期） 在宅看護学演習（看護学科３年　前期） 在宅看護学実習（看護学科３年後期･４年前期） 看護総合演習（看護学科４年　通年） 看護総合実習（看護学科４年　通年） 高齢者支援学Ⅰ（保健福祉学部共通科目　２年集中） 高齢者支援学Ⅱ（保健福祉学部共通科目　４年集中）※履修者０名で開講せず 看護学（栄養学科３年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　社会保障概説　】 講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の４本柱を、社会福祉士の外部講師を含み３人で担当している。単位認定者として、その調整も担った。 中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできて、苦手意識を持っている学生は多い。そのため、制度の解説と法的根拠の整理だけではなく、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護とのつながりを意識することを重視した。また、過去に国家試験で出題された問題を、授業の最後に解いてもらい、解説することで理解を深めるようにした。また、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保した。　法律や制度は暗記する部分が多いが、期末テストは遠隔になる事を予測して、早い段階で自筆で作った資料を持ち込みを許可することにした。すべての学生が、まとめの資料を作って授業を終了することができた。
授業科目名【　家族と健康　】 講義は家族看護学の教科書を使い、社会学を専門とする外部講師にも２回講義してもらって、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。理論の解説後は、使える知識になるよう看護の対象となる事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、事前に学生支援室に協力を依頼するとともに、あえて自分の家族を説明したり分析したりしなかった今年はリモートだったため学生の反応が読めず、講義後も負の反応を見せる学生はいなかった。

授業科目名【　対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ　】

この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。

さらに、個人ワークからグループでディスカッションをして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深めようとした。しかし、ディスカッションに慣れておらす、意見を出し合うことが難しく、思考することなく時間が過ぎる状況であった。学生に思考させる方法について課題が残った。

授業科目名【　在宅看護学・在宅看護学演習　】

今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作り、理解を図った。演習の在宅看護過程では、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個々人の知識・理解の習得を目指した。共通事例の看護過程を見本として配布し、在宅看護過程のポイントを共通事例で解説して、別に提示した事例を個人で展開する方法をとった。教員４人で担当しているため、コメントに差が出ないように頻繁に打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。

学生は解剖・生理、疾病などの基礎的知識に乏しく、それを補うために口頭試問を実施したが、アセスメントに既習の知識を結びつけることができず、在宅看護の特性を踏まえた看護過程まで到達する学生が少なかった。全体の達成度も低かった。

授業科目名【　在宅看護学実習　】

在宅看護は対象の生活環境が違うところで臨機応変に看護を提供するもので、実習は現場から得ることが必要である。そのため、依頼している実習施設の中で、同伴訪問もしくは事業所で指導してくださる訪問看護ステーションに、例年より多くの学生数を無理に引き受けていただいた。そのため、一部の学生を除いて、１回以上の同伴訪問が実施でき、学生に貴重な体験を提供することができた。臨地に行けない日には、学内で DVD や YouTube から在宅介護における社会問題についてテーマを決めて事例画像を作成し、事例学習を実施した。

他の看護領域は学内のみの実習が多い中に学生を臨地に行かせたことで、今までになかった失敗やヒヤリハット事案が発生し、実習施設に謝罪に行くことが多かった。しかし、施設側は実習の重要性を理解していただいており、中断させることなく最後まで実習を継続させていただいたことに感謝している。

学生は臨地実習に慣れていないため、過緊張となり、楽しんで実習する様子が見られないまま終了することが多かった。希望を聞くとリモート実習を要望する学生も多く見られ、学生自身が看護学実習の辛さから逃れようとする姿勢があった。これは、在宅看護学実習だけの問題ではないことから、他の看護領域とも協働して指導していく必要性を感じた。

また、多様化せざるを得ない実習に、助手が「どうしますか」「何をすればいいですか」と動揺し、考えられない状況であった。助手の動揺を受け止め、混乱を整理し、方向性を示し、行動の指示をすることが求められた。学生に実習の成果を担保すること、助手の段取り力、指導力を支える事を、常に考えた。

授業科目名【　看護総合演習・看護総合実習　】

５人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域に来た学生であった。それでも、在宅看護はあらゆる年齢、あらゆる疾患を対象としているため、学生にはもともと興味のあった分野の在宅バージョンで、テーマを決めてもらった。前期は、自分が設定したテーマについて、入手可能な論文を読んで調べ、毎週１回、対面またはリモートで発表しあった。学生は、先行研究を探すために図書館の利用を指導しても、図書館ではなくネットから入手し、「文献が無い」「keyword が見つからない」と申し出てくるため、文献検索の指導にかなりの手間があった。コロナウイルス感染症のよい影響として、リモートで無料の看護の研修会が多くある。自分のテーマに見合ったリモート講演会を探して受講することも勧めたが、それに応じたのは半数だった。

看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。リモートでの論文指導は、学生の進行速度とやる気が影響する。期限を決めてもなかなか提出しない学生がおり、しかも、連絡を絶たれるとなすすべがなかった。

授業科目名【　看護研究　】

本講義は 5 名の教員で担当した。前半は講義中心で、研究の流れ・研究デザイン・研究手続・研究倫理・研究計画書についての解説を行う。後半は、グループワークで研究計画書の作成・質問紙調査・分析・結果・考察・論文作成をし、最後に発表会を行う。5名の教員が、４つの小グループを分担して指導するため、授業前に打合せを十分に行い、方向性を一致させた。

学生は初年次セミナーで文献検索、論文の書き方を学び、これまでもレポートをいくつも書いた経験があって

も、研究テーマ設定や文献検索からの段取りができず、また、グループのリーダーシップをとる学生が少なく、どう進めていくのかを導き、学生自身に考えさせることに力を注いだものの、グループ間で取り組みの差があった。

一方、学生はオンライン授業に慣れ、オンラインでのグループワークの手法も獲得しており、フォームを使ったアンケート、ドライブ上のファイルの共同編集などの機能を使いこなした。また、時間外の作業も自分たちで時間調整して実施していた。一部のメンバーに負担があったグループもあったため、学生同士でのリーダーシップ・メンバーシップのあり方を学ぶことが、今後の学生の課題であるように思う。

授業科目名【　高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ　】

高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部の３学科共同で行われる。
高齢者支援学Ⅰは福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、２日目に３学科合同で事例を使ったグループワークを行う。講義では、各学科のカリキュラムが違うために、高齢者の特性を共通認識させることに特化した。グループワークでは、3学科の学生が自分の得意分野を示そうと作業分担しがちになることから、3学科でディスカッションさせることに注力した。事例の問題をあげるだけでなく、その原因や要因を話し合う事を約束事にしたことから、解決方法が導きやすく具体的な方法が出された。看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかにわかった。

高齢者支援学Ⅱは、受講生がおらず開講されなかった。

授業科目名【　看護学（栄養学科）　】

この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について２コマ担当した。今年度は受講生がおらず、開講されなかった。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		１９９７年6月～（現在に至る）
日本地域看護学会		１９９７年10月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		１９９８年4月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		１９９８年4月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		１９９９年4月～（現在に至る）
日本学校保健学会		１９９９年4月～（現在に至る）
日本老年看護学会		１９９９年8月～（現在に至る）
日本看護研究学会		２００１年11月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		２００４年8月～（現在に至る）

２０２０年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				

２０２０年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2023年3月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020年4月～2022年3月
福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員	2021年4月～2023年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 学生募集委員 〔学科役割〕 要ネット・学生募集関連担当（リーダー）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　一　期　﨑　直　美	職名　　講　師	学位　修士（教育学）（熊本大学　2010 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
養護教育	養護教諭、専門職、ケア

研　　究　　課　　題
専門職としての養護教諭の仕事について研究を行っている。現在、養護教諭の仕事に関する教育学及び社会学の基礎的研究を踏まえ、養護教諭を対象とした社会調査について分析している。

担　　当　　授　　業　　科　　目		
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ	（前期）	看護学科
学校保健	（後期）	看護学科
養護概説	（後期）	看護学科
健康相談	（前期）	看護学科
学校保健教育法	（後期）	看護学科
事前及び事後の指導（4 年生対象）	（前期・後期）	看護学科
教育実習事前事後指導（3 年生対象）	（後期）	看護学科
養護実習事前事後指導（3 年生対象）	（後期）	看護学科
養護実習	（前・後期）	看護学科
教育実習Ⅰ	（前・後期）	看護学科
教職実践演習〈養護教諭〉	（後期）	看護学科
教職実践演習〈中・高等学校〉	（後期）	看護学科
看護総合演習	（前・後期）	看護学科
看護総合実習	（前・後期）	看護学科

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ】

① この科目は、看護学科公衆衛生看護関係科目の選択科目である。学生は、公衆衛生看護活動の場である「学校保健」「産業保健」の概要について学ぶ。担当の「学校保健」は、これまで学生が経験した学校生活で理解できる点もあるため、この経験と結び付くよう説明した。

② 学校における特別支援教育についても理解が深まるよう、発達障害の事例を用いる演習を取り入れている。

③ 講義内容について知識や理解を深めるように、事前学習に選択式問題の課題に取り組ませた。

授業科目名【学校保健】

① 学校保健は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学生の主体的な学習を促すために、授業における事前学習課題についてポートフォリオを作成するよう指導した。

② 事前課題と講義内容を深化させるために、討論したり発表したりする機会を設定した。

③ 学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介し、必要な資料については、学生にダウンロードさせ授業で活用するようにした。

④ 学校保健における健康課題を理解するために、図書館の雑誌を紹介し、学生の発表につなげるよう指導した。

授業科目名【養護概説】

① 養護概説は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学校保健活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な知識・技術を学ぶ。そのため学校保健の内容と連動するように構成している。

② 主体的な学習を促すために事前学習については、学生に発表の機会を設定した。

③ 養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について実務経験を含め説明し、演習を取り入れた。

④ ロールプレイ（救急処置・保健指導など）は、学生が養護教諭と児童生徒役を相互に担うような設定にし、学生の振り返りは自己および他者評価を取り入れた。

⑤ 図書館に所蔵されている養護教諭が活用する雑誌を紹介し、養護教諭の具体的な活動について調べ発表する機会を設けた。

授業科目名【健康相談】

① 養護教諭は、児童生徒への支援が求められている。支援の基礎となる知識・技術について学ぶ。また、学生自身が、自己理解を深めるよう演習を取り入れた。

② 養護教諭の職務の特質を活かした健康相談の基礎・基本を身につけるために、演習では、事例を活用した。

③ 学校における課題を抱える子ども（虐待、不登校など）への理解を深めるだけでなく、そのような子どもたちへの対応について、学生同士で討論させ理解を深めさせた。

④ 保健室来室者への対応場面の演習では、ロールプレイを取り入れた。

授業科目名【学校保健教育法】

① 学校保健教育法は、教職課程における養護教諭一種免許状取得希望学生を対象とした必修科目である。養護教諭として保健教育が担えることを目指し実践できるよう講義を構成した。

② 学校における保健教育（教科保健・特別活動）は、教職課程での既習事項を確認しながら進めた。

③ 養護教諭が主に担う保健教育〈歯の健康づくり、性に関する教育、環境教育、安全教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する教育〉について事前学習するように指導し、演習内容と連動するよう授業を構成した。

④ 各学生が実施した模擬授業について、他者評価を含め学生が自己評価できるようにて工夫した。

⑤ 学校保健教育で役立つホームページなどを学生に紹介し、活用を促した。

⑥ 授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などについて、学生への個別支援を行った。

授業科目名【事前及び事後の指導】４年生対象（前・後期）

① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程の実習は、4年次で、はじめて学生が経験するため、事前指導を充実させるよう構成した。

② 主体的に実習となるよう、期間中に経験できる授業や行事について学生自身に情報を収集させ、模擬授業等に活かすように指導した。

③ 学生は、実習で初めて児童生徒へ授業を行うため、学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも支援した。

④ 学生が行う模擬授業の評価は、振り返りを深化させるよう教員だけでなく、学生からの他者評価も取り入れた。

⑤ 実習後に学生が実習校での学びを共有できるよう、実習発表会を実施している。

⑥ 学生主体の実習発表会になるよう、会の進行などについても学生が担うよう指導している。

⑦ 次年度実習予定の３年生が参加できるよう発表会の時間設定を工夫した。

授業科目名【教育実習事前事後指導】３年生（後期）

① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程の実習は、4年次で、はじめて学生が経験するため、事前指導を充実させるよう構成した。

② 学生の実習時期は、実習に行く学生でそれぞれ異なる。実習時期を考慮しながら、他学科の教職課程の担当者と相談しながらオリエンテーション等の日程は検討している。

授業科目名【養護実習事前事後指導】３年生（後期）

① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程の実習は、4年次で、はじめて学生が経験するため、事前指導を充実させるよう構成した。

② 救急処置や健康診断などの演習を多く取り入れた。

③ 学生の実習時期は、実習に行く学生でそれぞれ異なる。実習時期を考慮しながら、他学科の教職課程の担当者と相談しながらオリエンテーション等の日程は検討している。

授業科目名【養護実習】

① 養護実習は、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学校で養護教諭としての仕事を体験する３週間の実習である。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を確認した。

② 学生自身が、将来、養護教諭として働くことを目指し積極的に実習するよう指導した。

③ 各自の目標が達成できるよう、主体的に実習校と連絡をとり準備をすすめるよう指導した。

④ 学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に可能な限り計画し訪問するようにした。

授業科目名【教育実習Ⅰ】

① 教育実習は、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う。高等学校における看護教員としての仕事を体験する２週間の実習である。学校で実際に生徒に関り、現職の看護教員の授業を参観したりや担任の役割についても学ぶ。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を確認した。

② 学生自身が看護師としてのキャリアを考え実習に臨むよう、事前に面談した。

③ 各自が実習の際に実践する授業内容について、主体的に実習校と連絡をとって準備をすすめるように指導した。

④ 学生は、出身校の実習ではないため、事前に学生と実習校に訪問し意欲を高めていくように指導した。

⑤ 学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に訪問した。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）

① 教職課程における学び及び実習を振り返らせ､教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるような機会を設定した。

② 教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の学習状況を把握した。

③ 栄養学科の栄養教諭志望学生と看護学科の養護教諭志望学生で､相互の職務について発表したり討論したりするよう講義を企画した。

④ 学生は特別支援学校の実習経験がない。そのため、特別支援学校の養護教諭の職務や子どもたちの実態を学ぶ機会として特別支援学校に訪問した。

⑤ 養護教諭の研究の場を学ぶために、養護教諭養成者や養護教諭が多く参加する学会に学生を参加させた。

授業科目名【教職実践演習】（中・高等学校教諭）

① 教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための集大成の講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるような機会を設定した。

② 教職課程担当者全員で指導を行う授業に参加し、学生の学習状況を把握した。

③ 学生が模擬授業の際には、事前に指導計画について個別指導を実施した。

授業科目名【看護総合演習】

① 看護総合演習は、看護学科専門の必修科目である。各個人で看護実践につながる自己の課題を探求し、レポートを作成していく。全体の進行について、学生と調整しながら計画した。

② 学生の進行状況に応じて、レポートの個別支援を行った。

授業科目名【看護総合実習】

① 看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、主体的に計画から展開していくことが重要になる。学生が主体的に実習指導者と連絡を取りながら実習を進めるよう指導者と連絡をとりながら指導した。

② 学校保健の領域は、養護教諭になるうえでの課題を解決できるような計画を立案できるよう個別支援した。

③ 担任と連携しながら、学級での保健教育（授業）を実践するために、指導計画について個別支援した。

④ 実習中、学生が学級で保健教育（授業）を実施する際は、可能なかぎり参観し、授業内容の改善を図るように、実習指導者と連携しながら指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会		2008年～現在に至る
日本養護教諭教育学会		2008年～現在に至る
日本健康相談活動学会		2008年～現在に至る
日本教育保健学会		2013年～現在に至る
日本看護協会		2015年～現在に至る
日本看護学教育学会		2016年～現在に至る
日本養護実践学会		2020年～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1. 養護教諭によるケアに関する予備的考察（刊行予定）	単	2022.3.（刊行予定）	先端倫理研究（熊本大学文学部倫理学研究室編）	① 養護教諭が学校でどのように生徒を支えているのかについて、養護教諭の聞き取り調査を社学的に検討した。 ② 一期崎直美 ③ 先端倫理研究第16号（p5～16 予定）
（翻訳）				
（学会発表） 1.「教職実践演習」における養護教諭と多職種連携の事例を用いた教育効果の研究	共	2021.11.28	第29回日本養護教諭教育学科学術集会 （於　徳島大学Web開催）	①「教職実践演習」において、学生の受講前と受講後に自由術式の自己評価を行い、その結果をKJ法により分析を行った。 「教職実践演習」で事例を用いた養護教諭と多職種連携の教育効果について報告した。 ②共同発表者名　西丸月美　一期崎直美 ③日本養護教諭教育学会第29回抄録集（p84-85）
（その他） 1. 養護教諭の専門性に関する基礎研究	共	2021	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	①現在、男性養護教諭が増加している。その男性養護教諭の通信を分析し、養護教諭の専門性を検討した。男性養護教諭の加入は、これまでの養護教諭のルーティン化された仕事に気づかされる機会となることを報告した。 ②共同発表者名　一期崎直美　新谷恭明　西丸月美 ③西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所穂2020報告書（p4~5）

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2.　「教職実践演習」における養護教諭と多職種連携に関する事例を用いた教育効果の研究	共	2021	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	①「教職実践演習」において、学生の量的および質的調査を行った。「教職実践演習」で事例を用いた養護教諭と多職種連携は学生の自信へとつながるという教育効果について報告した。 ②共同発表者名　西丸月美　一期﨑直美 ③西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所穂2020報告書（p10~11）
				教育研究業績　総数　(2022.3.31現在) 著　書　(内訳　単　0, 共　1) 学術論文　(内訳　単　2, 共　4) 翻　訳　(内訳　単　0, 共　0) 学会発表　(内訳　単　3, 共　5)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
教職課程委員会（全体・学科）	2021年4月1日～2022年3月31日
ＦＤ委員会委員（全体・学科）	2021年4月1日～2022年3月31日
看護学科２年・４年アドバイザー	2021年4月1日～2022年3月31日
教員免許状更新講習コーディネーター	2021年4月1日～2022年3月31日

２０２１ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　井手　裕子	職名　　助　教	学位　　修士(看護学)（大分大学　2006 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学　　看護教育 コロナ禍における看護学実習

研　　究　　課　　題
成人慢性期看護学の教育活動に関して、学生が慢性期にある患者および家族の特徴とその看護を理解するために、学内での演習とそれに連動する臨地実習での指導の在り方について考察する。また、コロナ禍において臨地実習の中止を余儀なくされているなかで、いかにして看護実践を学ばせるかについての検討及び実践を通して、今後の臨地実習指導について考察する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
・成人看護学演習（前期） ・成人慢性期看護学実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人看護学演習】 ＜看護過程演習（対面および遠隔授業）＞ 新型コロナウイルス感染状況に応じて大学の BCP レベルが変更したため､5 月には一時的に遠隔演習となる時期があったが、特に混乱を招くことはなかった。 演習自体は、1 グループ 5 人編成で、2 人の教員で 5 グループ(25 名)を担当した。対面での実施の際は、グループダイナミックスによる効果を上げるために、グループワーク時に発言の少ない学生に意図的に声掛けを行い、理解度を確認した。遠隔になるとワーク時の他学生との交わりによる表情や態度などがほぼ把握できないため、対面時には特にその点は意識して関わり、個々の学生の特性について把握し、遠隔時の指導にもその内容を活用した。 事例は例年通り、慢性期事例（肝硬変）と急性期事例（胃癌）の 2 事例であり、事例ごとにもう一人の教員と担当を変えて全グループ把握に努めたり､演習前後で教員間で個々の学生への指導等について調整を図った。 ＜技術演習（全日程対面授業）＞ ・全日程で対面での実践が可能となった。 糖尿病食事療法の演習では、実際に患者指導を実践するという従来の形式で実施した。患者役として 4 年生（統合実習で慢性期看護を履修している学生）に参加を依頼した。指導場面では、看護師役と患者役の学生の間にパーテーションを設置し、感染予防対策を講じた。 術直後の演習では、今年度から、術後の清潔ケアの学習を取りくみ、全体での演習後、1 グループの学生達のデモンストレーションを実施、学びを共有させた。

授業科目名【成人慢性期看護学実習】

昨年度に引き続きコロナ禍ということで、2022年1月期のグループを除いてはすべて学内実習となった。

・学内実習

BCP レベルに応じて、全日対面のグループ、対面と遠隔が混合のグループなどが混在しており、それぞれのグループに応じて工夫をした。昨年同様に、模擬患者を設定しその模擬患者を教員が演じることで実習を進めていった。また今年度は、電子カルテ教材の導入を行い、実習経過とともに患者カルテがリアルタイムで閲覧できるようにした。

教員が患者を演じる際は、実際の病棟での患者の生活をイメージし易いように、個々の患者に応じたベッド周囲の生活物品の配置、医療器機の装着(静脈持続点滴や心電図モニターなど)、治療に係る装具の装着（圧迫骨折患者の腰部への軟性コルセット装着など）また、慢性疾患患者における家族支援の学習のために、他教員に依頼し患者家族を演じてもらった。

多職種連携の視点の学習に際しては、一部のグループの学生は、協力の得られた病院の地域連携室勤務の看護師の講義を遠隔(Zoom 利用)で受けることが出来た。講義終了後には学生からの質問の時間をとり、直接現場の看護師への質問ができ貴重な体験となった。また DVD などの視聴も取り入れ、看護師の役割についての学習を強化した。

例年、看護師国家試験における状況設定問題の得点率が低い傾向にあることに加え、臨地での実習体験が乏しいことを鑑み、実習で使用した模擬患者の看護に関連する過去の国家試験問題 10 問ほどのテストを実施し、解説などもまじえながら、「状況設定」という出題形式に少しでも慣れさせるよう工夫した。

・臨地実習 1 グループ(6 名)のみ（2022 年 1 月期）

この期間の学生 6 名のみ、約 2 週間に渡って臨地実習を実施することができた。事前のおよび実習中の健康チェックや感染対策を入念に実施した。内容としては通常の実習に準ずるものであったが、当該学年の学生は 2 年ぶりの臨地実習であったため、最初の 2 日程度を、臨床側の協力を得てシャドーイング実習を実施した。シャドーイング実習の本来の目的は、慢性期看護実習を行うにあたり、現場を知る・現場に慣れるという事であったが、結果としては、目的の達成もさることながら、早期に現場のスタッフとのコミュニケーションが図れ、効果的な実習指導が得られた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
聖路加看護学会		1996 年　4 月
日本看護研究学会		1996 年　6 月
日本看護学教育学会		1998 年　4 月
日本看護診断学会		1998 年　6 月
日本糖尿病教育・看護学会		2003 年　8 月
日本看護科学学会		2008 年 10 月
日本慢性期看護学会		2017 年　7 月

2021 年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役職名等	任　　期 期　間　等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

＜2年生アドバイザー＞

① 個別面談の実施

昨年に引き続き新型コロナの影響のため、当初対面で実施していた新年度の個別面談が５月中旬からは遠隔での実施となった。この学年は、昨年度の入学以来遠隔での講義を強いられ、キャンパスでの大学生活を送れていないことから、特に大学生活における不安の有無やその内容に注意しながら面談を実施した。

県外出身の学生の中には、１年次は実家で遠隔授業を受けていたが、２年次になってようやく一人暮らしを始めて、不安の強い学生やそのことにより心身に不良をきたす学生などもいた。その際は、当該学生の保護者、学生総合支援室などとも密に連携を図り、学生の支援に努めた。

② コロナワクチン接種に関わる支援

７月下旬および８月下旬に、大学の職域接種による学生へのコロナワクチン集団接種が実施された。接種の実施に際して、２年生の接種希望の有無、接種券番号の確認、大学での当該部署との連絡調整、接種当日の学生誘導など、ワクチン接種が迅速安全に実施できるように支援した。

③ 保護者会の企画・実施

昨年同様、新型コロナの影響で、ZOOM を利用したオンラインによる保護者会を 12 月上旬に実施した。学生同様､遠隔や対面が一定しない異例の学習形態が進行する中で保護者も様々な不安を抱えていると推察し、3 年次に向けての学習の取り組みや実習状況などについての説明を行った。特に実習については、実際に臨地での実習を体験した学びについて学生４名にも参加してもらい､学生の生の声を保護者に聞いてもらった。事後のアンケート結果では、昨年同様開催時期や開催方法およびプログラムの内容については９割前後の保護者が「適当であった」と回答しており、概ね有効であったと考える。

④ 模擬試験実施

新型コロナの影響により実習の実施時期の変更が重なり、模擬試験の実施時期がずれ込み、３月末の実施となった。実施内容はこの時期に実施可能な業者模試(解剖生理学・病態生理学)を対面で実施する予定である。この結果を次年度の３年生アドバイザーと共有し今後の学習指導に活用する予定である。

＜国家試験対策委員＞

① 模擬試験

昨年度からの新型コロナ影響が続く中、今年度は模擬試験をできるだけ対面で行えるよう、また、遠隔にも対応できるように業者選びや実施月などの計画を早期に実施した。その結果、７回の実施中、９月実施の模試のみが Web による実施となったが、それ以外の６回分は感染対策（登校時の検温、ソーシャルディスタンスを保つために実施教室を 2～３分割にし、マスクを外すことを避けるために昼食は挟まず前中だけの実施など）を十分に配慮しすべて対面での実施が可能となった。

② 強化学習

昨年同様毎回の模擬試験終了後に、低得点率の学生を対象として感染対策を講じながら強化学習を実施した。強化学習対象者の傾向として、学習時間の絶対的不足に加えて、基礎学力が定着していない、自己に適した学習方法が修得できていない、設問の読解力が乏しい、などが挙げられる。従って、集団の指導ではなく個々の学生の傾向に応じた対応が必要であり、回答の正誤のみに注目するのでなく、なぜその回答を選択したのか、その根拠について確認するようにした。またその学習時間の成果を評価するために、10 問程度の小テストなども実施することもあった。

コロナ禍での２年目の学習であり学生は比較的このような環境下での学習には慣れてきているようで、昨年ほど、学習環境による精神的ストレスを抱える学生は減少しているようであった。

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　伊藤直子	職名　教授	学位　学士（社会学）（佛教大学　1996年）

研究分野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学　地域看護	公衆衛生看護　介護保険　地域包括ケア

研究課題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担当授業科目
公衆衛生看護学概論（後期）必修　8/14 公衆衛生看護管理演習（後期）選択　14/14 公衆衛生看護学実習（通年）選択 保健医療福祉行政と政策（前期）選択　7/7 保健福祉学入門（前期）必須　1/7 地域母子保健（前期）（助産別科）8/14

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】 「公衆衛生看護学概論」は、1年生の前期必修科目である。学生の受講動機は、例年変わらず「必修科目である」ことが、99.6%を占め、ほとんどの学生の動機となっている。 例年、この事を踏まえ、第１回の授業では、シラバスによる説明で、本科目を学ぶ意義について重点をおいた説明を行い、毎時の授業では、講義開始の冒頭で本時の学習目的を学生の理解しやすい言葉で説明した。初年次の学生の講義であることを踏まえ、毎時のコメントカードで得られた学習内容への質問・意見等は次の講義冒頭に還元し、学習内容の理解に努めたていた。学生と教員の双方向コミュニケーションを心掛け、全員に対し、毎回コメントについて、返信し、授業成果を個別に共有することに努めた。
授業科目名【　保健医療福祉行政と政策　】 「保健医療福祉行政と政策」は、3 年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっている。受講動機には「資格取得に必要である」が81.8%、「関心のある内容である」が31.8%となっている。受講生には保健師課程選択のための資格取得が主目的となっているが、科目内容に関心を持っている学生もいることが考えられる。 科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっている。現存する日本における制度について具体的事例を通して、思考する構成としているため、課題及び個々の学生とのやり取りにより主体的学習を促した。 結果、授業評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」100%、「説明は理解しやすいものであった」95.5%、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」95.5%であり、意図した主体的学習を促すための教育方法については、一定の成果を上げたと評価できる。

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】

「公衆衛生看護学実習」は、コロナ禍の中、実習指導教員と実習施設指導者のコミュニケーションを十分に得ながら、学生の実習環境の整備に苦労した実習となった。直接、住民と触れ合う場面に限界がある実習ではあったが、実習施設指導者の熱意に学生達の成果は、コロナ禍とはいえ、様々な形で得ることができた。

また、学生の学習意欲及び効果が得られるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行ったことにより、学生の教育支援が効果的に運営された。実習環境は行政の対応により異なるが、学習成果の達成状況に大きく差は見られず、全員の学生が到達レベルに達することができた。

授業科目名【　保健福祉学入門　】

「保健福祉学入門」は、1 年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部の教育への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。

オムニバス形式の講義となるため、講義開始前の導入について、担当講師との打合せおよび調整を行った。各々の学科の学生は、他学科の教員の講義を聴くことで、自身の学ぶ学問領域の関心を深め、他職種と協働していくことの重要性を考えていくこと目的としている。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996 年 4 月～1997 年 3 月） 訪問看護委員会委員長 （1997 年 4 月～1998 年 3 月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997 年 4 月～2004 年 3 月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001 年 4 月～2006 年 3 月） 介護保険関連委員会委員長 （2004 年 4 月～2006 年 3 月） 第 46 回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録選考委員 （2014 年 3 月～2014 年 9 月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015 年 11 月～2016 年 7 月）	1977 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979 年 4 月～現在に至る
日本地域看護学会		1999 年 4 月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000 年 9 月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002 年 4 月～2014 年 3 月
日本病院管理学会		2002 年 9 月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003 年 8 月～現在に至る
日本看護教育学会		2003 年 2 月～現在に至る
日本健康教育学会		2005 年 6 月～現在に至る
日本看護研究学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本臨床救急医学会		2011 年 8 月～2016 年 3 月

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月～2020年3月
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013年7月～2018年7月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005年4月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013年4月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進	構成員	2014年2月～2021年3月

にかかる意見交換会		
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013年4月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015年4月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016年7月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017年12月～2018年2月24日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018年2月25日～現在に至る
北九州市健康づくり活動表彰選考委員会	審査員	2018年10月1日～現在に至る
福岡県公衆衛生看護実習連絡協議会	当番校	2021年4月～2022年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
学校法人西南女学院　評議員　　2005年4月～現在に至る
学校法人西南女学院　理事　　2021年4月～現在に至る
・学院将来計画委員会
西南女学院大学　保健福祉学部長　2021年4月～現在に至る
・倫理審査委員会　委員長
・動物実験委員会　委員長
・入学試験会議　構成員
西南女学院大学　教務部長　　2013年4月～2022年3月
・教務委員会　委員長
・教務人間科学小委員会　委員
・教職課程委員会　委員
・非常勤講師候補者選考会議　構成員
・教員免許状更新講習会　委員
・大学点検評価改善会議　構成員
・大学点検評価改善会議　FD部門　部門長
・教育の質保証プロジェクト会議　代表
・教学マネジメント検討会　構成員
・3部門会議（教務部・学生部・入試部）　構成員
・教学ＩＲ推進室　構成員
・地域連携室運営会議　構成員
・COVID-19対策会議　構成員
・学生総合支援室運営連絡協議会　構成員
・将来計画検討プロジェクト会議　構成員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　大嶋　満須美	職名	学位　　修士（健康福祉学）山口県立大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人慢性期看護 看護管理	慢性期、家族、ゆらぎ、受容過程 組織、人材育成

研　究　課　題
慢性疾患を抱えた患者・家族の揺らぎと受容過程 看護教育

担　当　授　業　科　目
成人看護学概論　（前期） 成人看護学演習　（前期） 緩和・がん看護　（前期） 保健福祉学入門　（前期） 成人慢性期看護方法論　（後期） 成人慢性期看護学実習　（通年） 看護総合実習　（通年） 看護総合演習　（通年） 看護学特論　（後期） 看護研究演習　（後期））

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　成人看護学概論　】 成人期の位置づけを明確化し、成人看護の対象は地域社会で暮らす生活者であり健康の側面から理解できるように、統計資料等を用いて教授した。青年期にある学生が自身の成長発達と関連づけながら理解が出来るよう意識化を図った。学生の主体性や共同学習の観点から、グループワークや発表を交え授業を構成した。また、学生の意見には毎回フィードバックに努めた。
授業科目名【　緩和・がん看護学　】 がん治療や緩和ケアに関する最近の動向を把握し、看護の専門性と役割拡大を踏まえ解説した。自己決定を主体とした個別化医療も進む中、「がん」の罹患による健康障害と患者・家族が歩む治療過程を事例や教材を紹介し具体的に解説した。この科目は看護者の健康観や人間観そして「死生観」を育む重要な機会として捉え、人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者かかわることの意義について教授した。
授業科目名【　成人慢性期看護方法論　】 系統別看護の展開として、既習の知識、また導入的科目である成人看護学概論や基礎看護学実習の体験を基盤に、健康障害とアセスメントの視点、および看護について具体例を示しながら解説した。特に、形態機能や疾患と結び付けながら、エビデンスに基づいた対象への看護について教授した。授業は遠隔授業で行ったが、学生の既習の知識が看護実践に応用できるよう単元毎に確認を行い、次回に繋げた。
授業科目名【　成人看護学演習　】 成人看護学実習に臨む前段階として位置づけ、模擬患者による課題演習を基本とし、「看護過程」と「看護技術」を柱として展開した。グループワークと個人ワークを組み合わせ、学生の進行状況を確認しながら解説を行い、個別にも配慮しながら領域担当が全員で関わった。遠隔授業による困難感はあったが、演習終了後、課題や到達度について教員間で協議し、進捗状況や方向性について情報共有を行った。

授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】

コロナ禍のため、作成した模擬患者事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら学内実習を行った。DVD などの視覚教材を使用しイメージ化を図るとともに、指導においては、アセスメントの視点を重要視し個別指導に時間をかけた。また多職種協働の機会を得るため、その実際について外部講師による遠隔講義を受け指導を頂いた。学生カンファレンスの場を通じ、看護実践について助言を行うとともに学びの共有を図った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。

授業科目名【　看護総合実習：成人慢性期・終末期　】

学生が課題とする自身のテーマに沿って実習計画を立案し、調整する等、看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図した科目である。COVID-19 の影響により、実習時間や実習形態、および時期も変更し、臨地実習の機会を確保した。緩和ケア病棟での限られた条件の中で、メンバーと協力しながら「安楽」「生きる」「看護」などのキーワードを意識しスタッフと共に実践し、直接指導を受けた体験から、臨床におけるターミナルケアのあり方を深く学び、看護観を育むことが出来た。

授業科目名【　看護総合演習　】

看護総合実習前後の演習として位置づけられている科目である。学生が関心あるテーマや自己の課題について文献検索を踏まえ、課題に向き合い、主体的に取り組めるよう個別に関わった。思考の整理を行い、現象を概念化し、論文作成のプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。成果発表をはじめグループメンバーとの学びの共有により、新たな視点や看護の多様性について学修できた。

授業科目名【　看護学特論　】

4 年生後期の選択科目である。授業は各看護領域の教員によるオムニバス形式で行い看護学領域を超えて看護に対するニーズを解説し、現在の課題と看護政策、これからの看護の展望について投げかけ、考察を行った。看護を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、看護の社会的意義についても考える機会とした。

授業科目名【　保健福祉学入門　】

履修学生は学部 3 学科(看護・福祉・栄養)の 1 年生である。社会の期待に応えるための保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、課題に対する認識を深め、学部の入門編として自己の専門性との関連を学修できるよう構成されている。合同講義を通じ、専門性を深め、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることを意図している。遠隔授業となったが、看護の社会的責務を伝え「他職種」との協働の必要性、および実践者として課題の明確化を図った。

授業科目名【　看護研究演習　】

既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。本年度のゼミ生には履修選択者はいなかった。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本家族看護学会		1975 年～　現在 1997 年～　現在

２０２１年度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～　現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～　現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～　現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～　現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・看護学科　学科長　（2018年4月～　現在） 運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 学科会議議長 学科運営・人事にかかわる事項 ・看護キャリア支援センター長　（2018年4月～　現在） 看護キャリアセンター運営にかかわる事項 認定看護管理者教育課程　講師 ファーストレベル講師　（2021年6月26日） 認定教育課程検討委員長　（2018年4月～現在） 認定教育課程運営委員長　（2018年4月～現在） ・高大連携　講義　（2021年11月16日）

２０２１ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　小田日出子	職名　　教授	学位　修士（法律学）（九州国際大学 1998 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学，基礎看護技術 社会人基礎力の育成・向上	看護技術教育，社会人基礎力，主体的学習

研　究　課　題
看護技術教育に関する研究 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担　当　授　業　科　目
フィジカルアセスメント技術演習（1 年後期） 生活援助技術論演習（1 年後期） 看護過程論（2 年前期） 看護キャリア形成論（2 年前期） 基礎看護学実習Ⅰ(1 年後期)，基礎看護学実習Ⅱ（2 年前期・後期） 看護総合演習（4 年前期・後期） 看護総合実習（4 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　看護過程論　】

・昨年度に引き続きコロナ禍ではあったが，今年度は，2 年次生 104 名を対象に，授業は全て「対面」で，6～7 名の学生からなるグループワークおよびグループ学習活動の進捗に合わせた全体講義の組み合わせによる授業（100 分×28 回 2 単位）として実施した.

・昨年度同様，本授業の概要、流れを把握するために必要な情報（学習目標，授業内容及び授業進行など）は，Google Classroom の「ストリーム」を利用し，受講生全員に事前に配信した．また，毎回の授業に必要な資料（授業スライド，参考・補足資料，課題など）についても，Google Classroom「授業」の「トピック」毎に事前に提示し，「予習」など，学生が余裕をもって授業準備を整えられるよう配慮した.

・授業資料や取り組むべき課題を事前に提示することで，学生には「看護過程」を学ぶことや看護師に必要な基本的思考＝問題解決思考のプロセスを理解・修得する過程を「面白い」と感じ，自主的・主体的に学習に取り組む姿勢を身につけてもらうこと，また，「予習」も含め，学生個々の学習レディネスが高まることを目指した.

・授業は，学生のグループ学習活動の進捗に合わせて全体講義を組み入れる形で構成した．従って，毎回の授業終了後には担当教員間で Meeting を開き，各グループの学習活動の進捗状況やグループ内学生の理解度，グループワークを進めるにあたっての課題の有無など，教員間の情報交換と情報共有に努めた.

・今年度，基礎看護学分野を担当する教員は，教授２名，講師１名、助教１名の４名および助手１名の計５名で，講師，助教の２名が欠員のままである．この体制で演習(グループ学習活動)を軸とする授業を進めなければならなかったため，外部講師１名に応援を求めた.

・グループ学習活動への支援は，基礎看護学分野の教員４名＋外部講師１名の計５名を中心に行った．教授、講師、助教、外部講師の４名が学生 6～7 名のグループを 3 グループずつ担当した．科目責任者については，助手１名との２人体制で，４グループを担当，助手とともに各グループのチューター役割を果たした.

・グループワーク時の振り返りには独自に作成した観点別評価シートを用い，学生自らが所属するグループの学習活動を客観視するとともに，グループとしての目標達成状況を確認できるようにした．振り返りの結果は全体で共有し，他との違いを意識させることでグループ学習活動の充実と活性化を図った．
・各グループの学習成果の披露と学びの共有を目的に，それぞれが導き出した看護技術を発表・実践・評価する場を設けた．各グループ，アセスメントにより導き出した看護技術の実践に意欲的に取り組み，パフォーマンス後の意見交換会は，学生間の活発かつ積極的な意見交換の機会となっていた．
・当該科目の最終評価は，筆記試験・小テスト(60%)，個人学習・レポート(20%)，学習成果発表(10%)，学習貢献度(10%)による総合評価とした．

最終評価としてのクラス平均は78.6±6.61（81.4)点（最高93(93)点，最低68(61)点）で再試該当者はなかった．最終成績の内訳は，秀 5(6)名，優 42(56)名，良 45(27)名，可 11(2)名で，科目履修登録していた受講生104名(再履修者5名を含む）のうち，学期途中からの長期欠席による受験失格，その後，休学した学生1名を除く103名が，2021年度当該科目の履修を修了した（※ 文中( )内は前年度の人数)．

授業科目名【　看護キャリア形成論　】
・2年次生104名を対象に，今年度も，全て「遠隔」での授業（100分×7回 1単位）として実施した．
・昨年度と同じく，授業はGoogle Meetでの全体講義，個人ワークおよびClassroom内に設定したブレイクアウトルームを利用したリモート・グループワーク，また先輩OGによるリモート・パネルディスカッション等により構成した．
・授業に必要な情報（授業概要，授業進行等）は，Google Classroomの「ストリーム」を利用して，事前に受講生全員に配信した．特に「評価」については，予め，学習ポートフォリオの作成・提出を求めること，科目の特性から筆記試験は行わず，課題レポート，学修ポートフォリオ，発表，学習参加度/貢献度等を総じて評価対象とすることを具体的かつ丁寧に説明した．
・特定のテキストは使用せず，毎回の授業に必要な資料（講義資料，各種ワークシート，課題など）は，全て独自に作成したものを使用した．資料類は対面授業時よりも数日早く、Google Classroomの「トピック」毎に事前にアップロードし，印刷等，学生が余裕をもって授業準備を整えられるよう配慮した．
・講義は助教との2人体制で臨んだ．授業中，同席の助教には，チャットを利用して，①学生の入退室状況の確認，②講義内容の要点整理，③学生の質問への回答，④問い合わせへの応答，⑤強制退出等，遠隔授業中のトラブル対応等を依頼し，円滑な授業進行に努めた．
・授業では，①“キャリア形成”に関する知識・理論を概説し，看護職としての自身の未来を考える“きっかけ”づくりの場となるように，②学生の自己理解を促し，③職業理解を深めさせ，さらに④キャリア選択に係る意思決定を促し，現時点での⑤看護キャリアプランの作成を支援した．
・授業中，受講生には必要時以外「マイクOff,カメラON」を指示，PCの画面越しではあったが，講義の合間に個人ワークやグループワークを取り入れ，可能な限り双方向での参加型学習となるよう，場づくりを工夫した．
・グループワークは，学生6〜7名を配したブレイクアウトルーム16室を設定し，折々に学生間のディスカッションを取り入れていった．教員は，随時，各部屋を訪問しつつ全体をファシリテートしていった．
・看護キャリア形成，キャリアアップの実際例として，授業4回目に本学看護学科OG 4名｛助産師，本学看護学科教員，小学校養護教諭，海外で看護師養成支援事業を主催）を外部講師として招聘し，昨年度に引き続き，Google Meetでの「リモート・パネルディスカッション」を企画・実施した．受講生の興味・関心は極めて高く，積極的に質問する学生も多く見られ，盛会であった．次年度も，様々な場で看護専門職としてのライセンスを活かしつつ社会貢献している看護学科 OG を招聘し，学生個々に自らのキャリアビジョンを明確化する〝きっかけづくり〟の場として，本企画を継続・実施したいと考えている．
・当該科目の達成度評価は，学習成果としての課題レポート(50%)，発表（口頭，プレゼンテーション：10%)，レポート外の提出物（20%）および「その他」として，日ごろの遠隔授業への取り組み（積極的・主体的学習姿勢・態度，Meet Meetingへの参加度／貢献度，出席状況など：20%）により総合的に評価を行った．

総合評価の結果は，クラス平均が78.6±7.93点（最高100点，最低63点）で，成績分布の内訳は，標準レベル以上の学生が96/104名 92.3%，このうち理想レベルに達した者は43/96名，44.8%であった．努力を要する「可」レベルの者 は8/104名 7.8%と昨年(0名)より多かったが，「不可」はいなかった．最終評価の内訳は，秀8名，優 35名，良53名，可8名で，104名全員が当該科目の履修を修了した．

授業科目名【　生活援助技術論演習　】

- 1年次生99名を対象に，後期COVID-19感染拡大防止策を講じつつ，対面授業(100分×42回 3単位)を実施した.
- COVID-19感染拡大防止策として，講義は一斉に，技術演習は学生を2班に分け，①技術演習／②課題学習の組み合わせで3コマの授業を2分割し，班毎に入れ替える形で行った．これに伴い，基礎看護学分野を担当する教員6名も，①技術指導5名，②課題学習支援1名と役割を分担し，全員体制で授業に臨んだ.
- 昨年度まで，自身も「食事援助技術」の講義・演習合せて6コマ（12時間）を担当してきたが，今年度について，試みとして講師および助教の2名を主たる科目担当者として単元毎に2名のいずれかが主担当となって授業を展開する方法に変更し，自らは，前述②課題学習中の学生支援を役割とし，後方支援に徹した．コロナ禍の影響により，特に技術演習時間を短縮せざるをえない状況での学修を促進するには，学生―特に初学者―に求める課題学習の場を，基礎的知識と技術の統合に向けた意図的な働きかけの機会として，効果的に活用する必要があると考えたからである.
- 課題学習を支援するにあたっては，教員に「正解」を求めたがる学生の態度・行動特性を念頭に，敢えて「何が気がかりか」,「なぜ気になるのか」,「なぜそう思うのか」「自身の考えはどうか」など，さまざまに〝問い〟を発するなかで，学生を立ち止まらせ，考えさせ，気づかせ，発見させること，結果として，学生自らの思考の末に〝答え〟を導き出すことができるように，意図的に働きかけることを心がけつつ関わった.
- 当該科目の達成度評価は，筆記試験(65%)，ポートフォリオ(15%)およびその他(20%){課題レポート(15%)＋学習貢献度(5%)}により総合的に評価した.

総合的に評価を行った結果，クラス平均は72.9±9.0（68.7±9.21）点(最高87点，最低32点)で，全体として標準レベルに達していた．成績分布の内訳は，標準レベル以上の学生が66/99名 66.7%，このうち理想レベルに達した者は21/66名，31.8%であった．努力を要する「可」レベルの者は24/99名 24.2%,「不可」は9/99名 9.1%いた．「不可」となった9名については再試験を実施し，7名は再試合格で「可」に，残り2名は不合格で「不可」となった．最終成績の内訳は，秀0名，優21名，良45名，可31名，不可2名で，受講生99名中97名が当該科目の履修を修了，2名が次年度再履修となった.

授業科目名【　フィジカルアセスメント技術演習　】

- 後期「対面」2日/週,「遠隔」3日/週の体制で授業が行われた今年度，1年次生101名(1年次生98名＋再履修者3名)を対象に，COVID-19感染拡大防止策を講じつつ，3密を避けての「対面」授業を実施した.
- 本授業は「技術演習」を中心とする科目であるため，全体講義の時間以外は，クラスを2～4分割し，看護学実習室・準備室の各室に分散して技術演習を行った．また，クラスの半数は大講義室に残し，課題学習に取り組む時間として授業を構成した.
- 技術演習は，1コマ（100分）ずつの交替制をとり，看護学実習室に入室する学生数を制限しつつ「対面」での演習を展開した．通常であれば，学生間で役割（患者，看護者）を交替しながら技術演習を行うが，今年度は，原則，患者にはモデル人形を使用，学生間の接触を極力少なくした.
- 通常の授業計画では，観察技術としてのバイタルサイン測定技術，呼吸･循環器系，消化器系，感覚器･神経系，筋・骨格系のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の順に演習を進めるが，今年度については，COVID-19感染拡大による学内BCPレベル引き上げに伴う「学内入構禁止」措置への懸念から，昨年度に倣い，，バイタルサイン測定技術の習得を最優先と考え，自主練習も含めた時間確保に努めた．しかし，週2日の「対面」授業日に100名を超える学生に看護の基本技術を確実に習得させることは容易ではなかった.
- COVID-19感染拡大防止策の徹底を図りながら学生個々の技術習得に向けた支援・指導を行う目的でクラスを2～4分割し，26～28名の少人数グループを編成して技術演習を行った．グループ毎に自主練習時間・場所を確保し，使用物品の準備・片付け時の消毒，教員の指導時間の確保・調整など，例年以上にきめ細かな練習環境の整備・調整に努めた．しかし，自主練習の回数は例年の1/3程度にとどまっていた．結果として，「バイタルサイン測定技術」実技本試験実施後の印象も，学生の技術習熟度・到達度の低さが気になった.
- コロナ禍でやむを得なかったとはいえ，前述のような準備状況で実技本試験を実施した結果，本試受験者99名中合格者は34名(34.3%)で，例年を大きく下回った昨年度（105名中57名（54.3%））をも下回る内容であった．本試当日を発熱で欠席した追試験対象者も1名いた．不合格となった66名と合わせ，総員67名の

実技再試験を行うこととなった.

・本試受験までがそうであったように，対面授業は週2日のみ，限られた曜日，限られた時間，限られた場所と，様々な制約がある中での再試該当学生の自主練習日の確保は難しかった．約1か月後に再試験を実施したが，その結果は，追試験対象者と本試不合格者の計2名が当日病欠により「不合格」となった．最終的に，再試受験者65名のうち44名は「合格」，残り21名は「不合格」であった（※不合格者数は昨年度(12名)の2倍）．いずれにせよ，今回「不合格」となった23名については，次年度臨地実習（基礎看護学実習Ⅱ）前のバイタルサイン測定技術の再指導が不可欠と考えている．

筆記試験のクラス平均は60点満点中44.5(43.0)点（最高59(55)点，最低24(25)点）で，実技では昨年度を下回ったが，筆記は昨年度をやや上回っていた．総合評価は筆記(65%)，実技(20%)，課題レポート(10%)及び学習貢献度(5%)で行った．総合評価のクラス平均は71.0点（最高89点,最低44点），成績の内訳は，秀0名，優25名，良33名，可28名，不可15名であった．不可＝再試験該当者15名については筆記(100点満点)による再試験を実施，その結果，12名は再試験に合格して履修を修了，残り3名は不合格のため，次年度再履修となった．（※( )内の数値は前年度）

授業科目名【　看護総合演習　】

・4年ゼミ生5名を対象に，後期「看護総合実習（看護管理)」に向けて，通年にわたり，遠隔および対面でのゼミナールを実施した.

・ゼミナールでは，8月末に予定した「看護総合実習（看護管理)」に必要な課題学習を中心に，「看護管理」に関わる3テーマ｛医療安全管理，感染管理，地域包括ケア（地域医療支援ー入退院支援・退院調整ー)｝を取り上げ，テーマ毎に学生のプレゼンテーション（資料提示，口頭発表)を基にグループディスカッションを展開し，学びの共有を図っていった.

・4年間の学びの集大成と位置づけた「看護総合実習（看護管理)」の実施に向けては，実習の企画・実施・評価に至る一連のプロセスは，全て学生の主体的な取り組みによって整備される．この間，教員はファシリテーターとしての役割を担い，適時，助言・指導を行いながらゼミを進める．但し，今年度については，4月末時点で学生1名がメンタル不調・安静療養の必要からゼミを長期離脱，また，前期途中（7月末）より保健師課程辞退の学生1名が新規にゼミに加わるなど，異例の事態となった．そうした中，当初からのゼミ生4名だけが予定した課題学習に地道に取り組み，その成果を実習の目的・目標へとつなげていくこととなった.

・コロナ感染拡大に伴う病院内BCPレベルの上昇により，当初予定した8月の臨地実習は，実習受け入れ先病院の「実習停止」の措置により，昨年度に引き続き，実現不可能となった．看護総合実習(看護管理)のゼミ運営自体が危ぶまれる難しい状況であった.ただ、昨年の轍は踏むまいとの強い思いから，早々に近隣病院の看護部に直かに相談し，臨地実習可能な施設を探索した結果，準備した3テーマのうちの2つ(感染管理，地域包括ケア（地域医療支援）体制)については臨地での実習が可能となった.

・「感染管理」については，昨年度も遠隔での講演にご協力いただいた感染管理認定看護師資格を有する現役看護管理者（看護副部長）が所属するK病院協力のもと，「COVID-19禍中における病院での感染管理の実際」について，臨地実習を通して体験的に学ばせていただくことができた.

・「地域包括ケア（地域医療支援）体制」についても，本学看護キャリア支援センター「セカンドレベル」の講師を務めておられるH病院看護部長に相談し，H病院協力のもと，今回初めての試みではあったが，地域に根ざした地域密着型中堅病院での地域包括ケア（地域医療支援）体制の全体像―入退院支援・退院調整・訪問看護の実際ーに至る一連のプロセスを学ぶ機会を得ることができた．学生にとっては，ここでの体験は，大病院とは異なる視点での，根本的に患者ファーストの姿勢で臨む「地域包括ケア」の実際を学ぶよい機会であったと考えている.

・「医療安全管理」については，臨地での実習が難しかったため，学内実習として「看護管理者がみた医療安全管理」と題して看護キャリアセンター専任教員（元看護部長）に講義を依頼した．その後，ＫＹＴ(危険予知トレーニング)を実施した．課題に「新人看護師が起こしやすい事故事例」のいくつかを取り上げ，グループ討議を通して，①各事例の事故原因・要因を明らかにする，②各事例について事故防止策を検討・考察するを目標に，字学内実習に取り組んだ．学生は，将来の自分にも起こり得る身近な問題と捉え，興味をもって積極的に課題に取り組んでいた.

・7月より本ゼミに途中参加した学生1名については，他のメンバーとの学習レディネスの違いや看護管理の実習に臨む学習の遅れを取り戻すことを目的に，実習までの期間，他4名とは別メニューの，教員主導での演習

を企画・実施し，実習に臨む段階で他のメンバーと実習の目的・目標を共有しやすいような準備が整えられるように配慮した．具体的には，看護キャリアセンター；看護管理者養成（ファーストレベル）の講義のうち，人材管理，質管理がテーマの 4 講義を聴講させていただき，看護管理の前提となる基礎知識の強化を図った．実際の実習場面では，他のメンバー同様に，学生間で検討・作成した実習の目的・目標を達成するために，皆と同じく必要な行動がとれていた．

・ メンタル不調による途中離脱の学生 1 名については，本人都合により臨地実習に臨むことはできなかった．本実習は卒業要件でもあるため，最終的に，看護師国家試験受験終了後の 2 月，個人としての課題学習への取り組みを経て，補習実習としての学内実習を行い，当該科目の履修を修了とした．

当該科目の達成度評価については，①個人学習/課題レポート，②ゼミナール中の発言や口頭説明の適切さ，③演習全般を通しての学習貢献度(マインドセット，ゼミナールの参加状況・参加態度，個人学習への取り組み等)のそれぞれについて，社会人基礎力の 3 つの能力/12 の能力要素を指標として 10 段階で評価し，総合評価としている．今年度，総合評価の平均は 81.5 点（最高 90 点, 最低 60 点）で，成績の内訳は，秀 2 名，優 2 名，良 1 名，可 1 名で，2021 年度ゼミ生全員が当該科目の履修を修了した．

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		1998 年 7 月～現在に至る
日本看護科学学会		1998 年 12 月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999 年 4 月～現在に至る
日本看護診断学会		1999 年 6 月～現在に至る
日本看護技術学会		2007 年 12 月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009 年 6 月～現在に至る
日本がん看護学会		2009 年 12 月～現在に至る
日本看護管理学会		2012 年 10 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文） 特記事項なし				
（翻訳） 特記事項なし				
（学会発表） 特記事項なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
特記事項なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・日本看護協会/福岡県看護協会	会員	2005 年 4 月～現在に至る
・西南女学院大学認定看護師教育課程	認定看護師教育課程検討委員	2016 年 4 月 1 日～現在に至る
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル	「論理的思考による問題解決」講師(3 時間)	2021 年 5 月 15 日
	「資源管理Ⅰ(医療・看護情報の種類と特徴」講師(6 時間)	2021 年 7 月 23 日
・北九州市国民健康保険運営協議会	副会長	2012 年 2 月～現在に至る 委嘱期間(継続)：2019 年 9 月 1 日～2022 年 8 月 31 日まで(3 年間)
①北九州市委託業者審査委員会 ②令和 2 年度第 1 回北九州市国民健康保険運営協議会 ③令和 2 年度第 2 回北九州市国民健康保険運営協議会	審査委員	2021 年 7 月 2 日(於；北九州市庁舎) 開催されず（資料郵送のみ） 2022 年 2 月 4 日(リモート会議)

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

【大学委員会】

- 2021.4.1～2022.3.31　看護学科入学試験委員
  - ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し，看護学科入試委員として，看護学科長とともに 2022 年度入学試験に関する事項（入学者選抜要項の検討，入学試験実施に関する事項，入学者選抜方法に関する事項，入学者の選抜に関する事項等）の審議に加わり，コロナ禍における入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を COVID-19 感染拡大防止策にじゅうぶん配慮しつつ粛々と遂行した.
  - ✓ 推薦入学試験(指定校推薦・公募推薦)の折，担当した業務・役割を支障なく遂行した.
  - ✓ 一般入学試験（前期）の折，主任監督者としての業務・役割を支障なく遂行した.
  - ✓ 一般入学試験（後期）の折，面接試験等，担当した業務・役割を支障なく遂行した.
  - ✓ 助産別科一般入学試験に関して，依頼された業務・役割を支障なく遂行した.

- 2016.4.1～現在に至る　学び場プロジェクト委員
  - ✓ 2016 年度より，旧 FD 研修企画委員会メンバー（5 名）のうち，上村眞生准教授（福祉学科）を中心に，教・職・学合同の全学的な取り組みとして，「学びの拠点づくり」として，主に看護学科，福祉学科の学生有志による自主活動グループ；STEP UP への支援を継続して行っている.
  - ✓ 昨年度に引き続き，看護学科，福祉学科の新一年生を対象に，教務課との連携を図りながら，先輩学生による新 1 年生へのリモートによる「履修指導支援」を企画・実施した．今年度も多くの学生が参加しており，次年度もさらに充実した支援が行えるよう工夫していきたい.
  - ✓ 教員集団としては，本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる.

【学科役割】

- 2016 年度より，看護学科入学試験委員を継続して担当している．また，実習コーディネーター，2 年生アドバイザー責任者，認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等，学科で与えられた業務・役割を支障なく遂行した.

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　鹿毛　美香	職名　　講師	学位　修士（医科学）（久留米大学 2008.3 月）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護学　産業保健学　労働衛生学　環境医学 公衆衛生学　公衆衛生看護学	労働衛生　ワークストレス　雇用不安　疲労蓄積 大学生の健康　現任教育　住民の健康　保健行動

研　究　課　題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する. ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する.

担　当　授　業　科　目	
社会保障概説（後期:看護学科）	公衆衛生看護学概論（後期；看護学科）
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ（前期；看護学科）	疫学（前期；看護学科）
公衆衛生看護活動演習（前期；看護学科）	公衆衛生看護学実習（前期・後期；看護学科）
看護総合演習（通年；看護学科）	看護総合実習（通年；看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　社会保障概説　】

１．人の生活が安定していくように、国がどのような社会保障および施策で保障しようとしているのか，ライフステージ毎に，事例を通しながら概要を捉えることができるように努めた．特に施策や制度は，国の課題背景があり，それを解決するために整えられるため、背景と施策や制度の流れを連動して講義を組み立て資料化することで意識づけた.

２．基本的に講義資料は，１枚（A3）で作成し，制度の構造，支援の流れ等が体系的にイメージできるよう工夫した.

授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】

１．公衆衛生看護活動の場として，行政（地域保健），産業看護および学校保健について，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，図式や画像，動画を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした.

２．特に行政（地域保健），産業看護の活動については，学生が接したことがない領域になるため日常生活や学生生活の中にもある行政看護（地域保健）や産業看護活動を見せることで学生自身や大学職員がどのように支援されているのか実感出来るようにした.

３．授業後の課題を「自分がどんな活動の場で働きたいか，それは何故か」というものにし，講義した内容から，自身の就職後をイメージさせることで将来展望を描きやすいように試みた.

授業科目名【　対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ（産業保健・看護）　】

１．産業保健および産業看護について，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした．また，産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた.

２．産業保健師の活動の一部を実践させることで，ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた．今回は遠隔授業であったため学生自身の VDT 作業状況を振り返り，３管理の視点で改善提案書を記録するなどした.

授業科目名【　疫学　】

1．保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法，また，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，ペーパーシュミレーションを取り入れた.

2．授業資料の１枚目には，毎回，新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ，今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた.

2．遠隔演習であったが，少人数の協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように試み，グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した.

3．保健師課程以外の学生も受講できるため，看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら，現場との連動を行った.

授業科目名【　公衆衛生看護活動演習　】

1．科目責任者と共に，講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ，演習組み立てを行った．演習組み立て時には，演習目標の設定，時間数の配分，協同学習の活用など検討した.

2．演習時はすべてにおいて協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし，協同学習のメンバーを実習メンバーにすることで，実習へ繋げるように試みた.

3．家庭訪問技術に関しては，実習で必ず経験する新生児～4 ヵ月児までの母子への訪問を題材とし，母子手帳の交付時の保健指導から電話によるアポイント，次回の訪問の予約までと一連の流れをロールプレイ形式で行うことで，この科目の学習と実習との連動を図った.

4．母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては，現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし，解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた．これは，最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である.

5．健康教育（集団）技術では，地区診断技術と連動させ，学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど，何のために健康教育をするのかを意識づけさせ，教育スキルだけを学習するのではなく，保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った.

6．地区診断技術では，保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については，学生が実習を行う地域を題材とし，この科目の学習と実習が連動するよう試みた.

7．地区診断を進めるにあたり，教員側から指標等の提示を極力せず，学生の疑問・興味関心から思考を広げ，深めていくように努めた.

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】

1．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

2．学生の実習目標の到達進度に合わせ，発問内容や提示文献を選択し，個別の学習効果を上げる工夫をした.

3．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し，実習場面を再構成しやすいようにし，学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた.

4．抽象的な事柄を説明する際は，学生自身に身近な具体例を加え，実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し，学生がイメージしやすいように心がけた.

5．講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ，知識の振り返り先を明確にした.

授業科目名【　看護総合演習・看護総合演習（行政・産業）　】

1．すべての看護各論実習を修了した学生が，自身の疑問や課題を明確にし，実習と連動できるように指導した．そのために，演習では，地域保健や産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ，それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた．また，産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため，個々の学びを補うことを目的に，演習に関しては 2 グループ（3～4 名/グループ）での集団学習とした.

2．実習終了後は，集団学習ではなく，各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し，課題解決に向けるようにした．また，ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がりを求めた.

3．看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため，学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し，実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように，学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ.

授業科目名【　その他　】
１．自分自身が看護職として，学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた.

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008 年 11 月～） 倫理審査委員（2018 年 1 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会		2003 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本産業保健師会		2013 年 1 月～現在に至る
日本産業看護学会		2014 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015 年 5 月～現在に至る

２０２１年度　　研　　究　　業　　績　　等　　に　　関　　す　　る　　事　　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
◎（公社）日本産業衛生学会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する．また，審査を受けるまでの相談等を受ける．	倫理審査委員	2018 年 1 月～現在に至る
◎（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等，現任教育に努める．また，役員として現場の看護職からの相談等を受ける． ・産業看護部会本部（全国）と協働し，産業看護職に関係する法改正等がある場合は，現場より意見を集約する．	役員幹事	2006 年 4 月～現在に至る
◎保育士・教職員等の優先接種事業 ・北九州市からの依頼によりエッセンシャルワーカーに対する covid-19 ワクチン接種の医療従事者派遣に携わる．	看護師	2021 年 7 月（1 日）
◎新型コロナウイルス感染症等に係る対応人材(IHEAT)派遣 ・北九州市からの依頼により北九州保健所での積極的疫学調査（ファーストタッチ）等に携わる．	保健師	2021 年 8 月～9 月（4 日間） 2022 年 1 月～3 月（17 日間）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
・学生個人情報保護委員会	2021 年 4 月～現在に至る
・２年生アドバイザー	2021 年 4 月～2022 年 3 月
・生協理事	2012 年 5 月～現在に至る

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　　梶原江美	職名　　教授	学位　修士（看護学）（佐賀医科大学 2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学 看護教育学	ラテックスアレルギー 看護基礎教育 看護技術 コミュニケーション

研　究　課　題
ラテックスアレルギーの予防に関する研究 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究 ケアリングに関する研究

担　当　授　業　科　目
看護技術論演習　（前期）（看護学科） 生活援助技術論演習　（後期）（看護学科） ヘルスアセスメント演習（後期）（看護学科） 診療関連技術論演習（前期）（看護学科） 看護過程論（前期）（看護学科） 早期看護実習（前期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科） 看護総合演習（前期・後期）（看護学科） 看護総合実習（前期・後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【看護技術論演習】 １年次前期必修科目１単位で講義と演習形式で行う。内容は、「看護技術概説」「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術」「コミュニケーション」「記録・報告」について教授する。履修学年が 1 年生であることから、看護への動機づけを行うとともに、わかりやすい説明を心掛ける。同時に、演習形式で実際に技術を教授するため、可能な限り、実践しながら根拠を説明するように心がける。
授業科目名【生活援助技術論演習】 １年次後期必修科目２単位で講義と演習形式で行う。内容は、「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」について教授する。日々の生活の中で自分たちの日常生活行動を振り返ることで、疾病や障害を持って自立した生活行動ができなくなった場合の援助方法について考える。その後、一つの基本的な援助方法を基に考え方と根拠を理解し、看護技術を実践する。
授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 １年次後期必修科目１単位で講義と演習形式で行う。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「生きている」ことをアセスメントするうえで必要となる「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」、「生きていく」ことをアセスメントするうえで必要となる「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントである。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていく。

授業科目名【診療関連技術論演習】

2年次前期必修科目2単位で講義と演習形式で行う。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていく。

授業科目名【看護過程論】

2年次前期必修科目2単位で講義と演習形式で行う。グループワークで、6名/Gで構成される3グループ18名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授する。この科目は、基礎看護学だけにとどまらず、その後の各領域別実習でも共通の思考過程をたどる。また、看護過程の思考過程が身につくと、看護実践が面白くなるという要素がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループでわからないことをわからないと言える雰囲気づくりと看護における看護過程の思考の重要性と理解できた時の面白さについても伝えていきたい。

授業科目名【早期看護実習】

1年次前期必修科目1単位の実習形式で行う。看護の対象者の療養環境を知り、生活を整える意味について考える機会とする。また、看護師と患者のコミュニケーションを通して、看護におけるコミュニケーションの在り方、看護学生に求められる態度や姿勢についても学ぶ機会とする。病院実習を担当し、学生の動機づけを行う。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】

1年次後期必修科目1単位の実習形式で行う。初めて受け持ち患者を持ち、受け持ち患者や実習指導者とのコミュニケーションを通して、患者との関係構築と生活上のニーズの充足を目指す援助について考え、実施することを目指す。学生は、慣れない環境の中で不安と緊張が高まるため、心理的変化に注意しながら一つの達成感を得ながら自分の課題を考えられるように支援していく。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

2年次前期必修科目2単位の実習形式で行う。受け持ち患者を通して、初めての看護過程の展開を病院で行う。学生は、まだ実習に慣れておらず不安と緊張、実習への期待が入り混じる。そのため、ひとつひとつの患者の生活行動と患者の心理に目を向けながら、患者のニーズの充足を目指した看護を学生自身が考えられるように支援していく。

授業科目名【看護総合演習】

4年次前期・後期必修科目2単位の演習形式で行う。ゼミ生5名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行う。また、次年度は看護師として働いていることを想定した意識づけや国家試験対策についても支援していく。

授業科目名【看護総合実習】

4年次前期・後期必修科目2単位の実習形式で行う。ゼミ生5名が看護総合演習で立案した計画を基に、病院での実習を行う。学生が自ら実習の中で看護師と調整をしたり、多職種との連携を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援する。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1996年4月～現在に至る
日本看護研究学会会員		2000年9月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2003年3月～現在に至る
日本看護診断学会会員		2003年5月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2005年4月～現在に至る
日本看護技術学会会員	選挙管理委員会委員（2021年7月～2023年）	2010年4月～現在に至る
日本看護倫理学会会員		2011年2月～現在に至る
STTI会員		2011年12月～現在に至る
日本看護管理学会会員		2012年7月～現在に至る
日本ラテックスアレルギー研究		2015年4月～現在に至る

会会員 特定非営利活動法人日本コクランセンター 日本看護福祉学会 日本医療・病院管理学会		 2019 年～現在に至る 2018 年 5 月～現在に至る 2020 年 2 月～現在に至る

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
特になし	特になし	特になし

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学委員会：入学試験委員会委員 学科役割：１年生アドバイザー 学科プロジェクト ４年生アドバイザー

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　金山　正子	職名　　教授	学位　修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学、看護教育	看護教育、看護倫理、看護実習、看護学生

研　究　課　題
看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果の研究

担　当　授　業　科　目
看護学概論、看護倫理、看護理論、看護技術論、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、フィジカルアセスメント技術演習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護学概論　　】 1 年次前期に対面授業および遠隔授業で実施した。看護の定義、看護の概念について、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について理解をするため、個人の課題レポートとグループミーティングを導入し、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護事例を紹介し、理解を助ける工夫を行った。 講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。
授業科目名【　看護倫理　　】 2年次後期に遠隔授業を実施した。Classroomで掲示した資料と教科書を使用し、看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の修得をめざした。また、事例検討の時間を設定し、meet機能を利用してブレイクアウトルームでグループ学習と発表を行い、相互に学ぶようにした。講義終了時に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認し、授業に活用した。
授業科目名【　看護理論　　】 3 年次前期に遠隔授業を実施した。看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。また、講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認するようにした。
授業科目名【　看護過程論　】 2年次前期に対面授業と遠隔授業を実施した。看護過程論のグループ学習では対面授業と遠隔授業ではclassroomとmeet機能を利用して、学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。

授業科目名【　看護技術論　】

1 年次前期に対面授業と遠隔授業により、複数の教員で実施した。対面授業が可能となった時に、実習室において、感染予防対策を厳重に行い、ベッドメーキング、シーツ交換などの技術、模擬患者とのコミュニケーションの技術を学び、プロセスレコードの作成を課題として取り組むようにした。早期看護実習は、市内の感染状況により学内実習を行い、臨床現場の状況や看護師の活動の話を視聴し、動画をとおして学び、グループで意見交換と発表、課題レポートを提出して、学びが深めるようにした。

授業科目名【生活援助技術論演習】

1年次後期に、対面授業と遠隔授業により、複数の教員とともに実施した。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。

授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】

1年次後期に、複数の教員とともに、フィジカルアセスメント技術演習への指導を行った。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】

1年次生2月の1週間の実習である。感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して学内実習を行った。教員が模擬患者となり、学生が患者からの情報収集やアセスメント、コミュニケーションの取り方やプロセスレコードの作成などについて学習し、助言や指導を行った。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

2年次生8月、9月、10月、3月に班を分け、対面実習により、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して実習した。8月から10月は、臨地実習を行い、3月は学内実習を行い、模擬患者の事例と模擬電子カルテを作成し、受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、思考過程を学ぶ実習が円滑に進むように工夫し助言を行った。

授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】

4年次に遠隔授業と対面授業により実施した。市内の感染状況により、学内実習を行った。

日常生活援助技術を中心に課題学習を行い、実習室で相互に看護技術を実施し、演習・実習を行った。また、看護倫理に関する事例について意見交換を行った。さらに自己の看護観についてレポートを作成し、看護専門職の役割への理解を深めるようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本看護科学学会		1990年～現在 1990 年-2012 年、2014 年～現在

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	講師	2021年6月
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	講師	2021年8月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員会委員 看護学科教育課程の変更に伴う文科省申請書類の作成担当 4年生アドバイザー 認定看護師教育課程検討委員

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　　木村　政伸	職名　　教授	学位　博士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
日本教育史	民衆教育史　地域教育史　識字　子ども史

研　究　課　題
・近世民衆社会における識字能力の獲得・普及過程について ・近世社会における子ども忌避論の論理展開について ・明治後期における中等学校の運動活動にみる地域代表性の獲得について

担　当　授　業　科　目
初年次セミナー 教育原理 教職概論 教育方法論 教育課程論 教育実習の事前事後指導 教職実践演習 看護総合演習

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【教職概論・教育方法論・教育課程論　】 ・理論的な講義に加えて、多くの具体的な実践例を映像として提供し、その教育実践を構成する理論をグループワーク、発表、総括の過程を通して、学生自身の手によって把握できるようにする。
授業科目名【　教育原理　】 ・正解のないオープンエンドの問題ついて、ディベート形式で学生同士の討論を行い、学生が無自覚に持っている思考枠組みに気付くようにする。 ・特定のテーマについて KJ 法を用いてグループワークを行い、様々なファクターを構造的に整理し、また図式化して発表する。これを通して、羅列的な分析ではなく、物事を論理的に構造化して分析する方法を学ぶ。
授業科目名【　初年次セミナー　】 ・「レポートの作法」において、講義するだけではなく、実際の学生のレポート例を示して説明し、また学生のレポートの文章を推敲してもらうことによってレポートのみならず文章作成の技法の向上を図る。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州教育学会 教育史学会 全国地方教育史学会 日本教育学会	会長（2019～現在に至る） 理事（2013～現在に至る） 幹事（1999～現在に至る） 理事（2018～現在に至る）	1981 1981 1981 1987

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任期 期間等
自主夜間中学「福岡・よみかき教室」 岡山県備前市	共同代表 旧閑谷学校世界遺産登録検討委員	1997～現在に至る 2019～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員長（2022 年～現在に至る）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　財津　倫子	職名　　講師	学位　修士（看護学）（広島大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・看護教育学→	看護大学生、臨地実習適応感、 アタッチメントスタイル
・成人看護学→	医療システム、退院調整、医療提供システム

研　究　課　題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめて投稿した。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について調査を行い、結果を論文にまとめて投稿している。 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担　当　授　業　科　目
クリティカルケア看護学（前期：看護学科） 成人看護学演習（前期：看護学科） 成人急性期看護方法論（後期：看護学科） 成人急性期看護学実習（後期：看護学科） 看護総合実習・演習（前期・後期：看護学科） 看護研究（前期：看護学科） 健康教育論（前期：看護学科） 保健福祉学入門（前期：保健福祉学部全学科） 看護学（後期：栄養学科）←開講なし

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　クリティカルケア看護学　】4 年生前期 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
授業科目名【　成人看護学看護過程演習　】3 年生前期 ＜講義＞ 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説する。 ＜看護過程＞ 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。 3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。 4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前

進できるよう指導を行った。

＜看護技術：周手術期の看護＞

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいようした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。
2. ①深部静脈血栓症の予防として、弾性ストッキング装着の実践。フットポンプの装着。②JVAC の仕組みについての解説と実践。①②が学べるブースを作り、時間ごとに移動し全員が実践しながら学べるよう工夫した。

授業科目名【　成人急性期看護方法論　】2 年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な個所を自身でチェックできるよう工夫した。
3. 課題は、そのまま 3 年生の前期（看護過程）につながるものとし、学びがつながるよう配慮した。

授業科目名【　成人急性期看護学実習　】3 年生後期～4 年生前期

1. COVID19 により臨床実習が行えない状況での実習であった。事例を 8 事例準備し、学生に患者を選ばせ実習に臨む方法とした。
2. 臨地実習の流れと同様の流れを組み（外来➡入院➡手術➡術後➡退院指導）、DVD や実習病院協力のもと、作成した動画などを活用し、大学の教室や実習室にて実習を行った。
3. 学内対面実習期間は、2021 年 9 月 27 日（月）～2022 年 3 月 11 日（金）であった。2022 年 1 月 11 日（火）~1 月 21 日（金）の 2 週間のみ臨地実習が実現している。2022 年 1 月 31 日（月）～2022 年 2 月 4 日（金）の 5 日間のみ遠隔実習を行った。
4. 事例は、ABCDEFGH としたアルファベットの使用であるが、全て実際に存在する患者様の情報であり、情報の取り扱いは十分注意した（USB 管理）。遠隔実習となったグループのみ、グーグルドライブに記録物を提出させたが、メール送信は一切行わなかった。実習終了後は、USB データを教員監視のもと削除させた。グーグルドライブを使用したグループに対しては、教員監視のもとダウンロード履歴の削除を実施した。
5. 対面実習であり、患者役は 4 年生あるいは学生自身が行い、創部やドレーン・点滴・尿道留置カテーテルなどのルート類を装着させ、術直後の観察・清拭・離症の実践を練習後、実践発表を行った。技術チェックの際は、人形を使用し、学生の声掛けに対し教員が返答し、技術チェックを行った。
6. 検査データやローシート等は、パソコン（模擬電子カルテ）を準備し、電子カルテから情報を得られる環境を作った。
7. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
8. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をするべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。
9. 対面実習における記録物の提出は、最終日の 16 時で問題なかったが、遠隔実習の際は、レターパックでの記録提出（郵便ポストの回収状況も踏まえ、土曜日の消印有効）とした。

授業科目名【　看護総合実習・演習　】4 年生（通年）

1. COVID19 禍にて臨地実習は行えなかったが、3 年生の各論実習（学内対面）における患者役や指導する役割を担いながら、学びが得られるよう実習を組み立てた。事前課題として、3 年生に指導を行う技術項目について、その目的・根拠・注意点をレポートにまとめて提出させた。ICU・OP 室実習では、4 年生は技術指導が行えるように事前に練習を重ね（事前に技術チェックを実施した）、教員監督のもと技術指導を行った。手術直後の観察・手術後の清拭・手術後の離床・退院指導においても事前に技術練習に取り組み知識を得て、教員監督のもと患者役や指導を行いながら学びを深めた。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。

2. 文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。
3. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（遠隔する（質疑応答5分)。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

授業科目名【　看護研究　】3年生前期

1. 科目の主担当の教員が講義（遠隔）を行い、それを受けた形でグループワーク（遠隔）をおこなった。
2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、実践、データ集計、結果の分析、まとめ、発表までをグループワーク（遠隔）し、その助言を行った。講義時間内ではまとめきれない内容については、学生と話し合い、時間外に指導を行った。

授業科目名【　健康教育論　】2年生前期

1. 遠隔にて講義を行った。理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表（遠隔）までの実践を行った。
2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個別性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。指導案を作成し、パンフレットを作成するだけではなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会（自己評価表の配布）を設けた。

授業科目名【保健福祉学入門】保健福祉学部全学科1年生前期

1. 看護領域について、そして看護研究について興味を持ち楽しく理解できるような講義内容とした。
2. 専門領域ではないと興味は半減するであろうと考え、写真を多く用い、体験談を伝えた。
3. レポートでは、看護研究をどのように感じたか、学びや気づきを問うた。提出されたレポートは、ルーブリックを使用し採点した。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会		2004年12月～現在に至る
日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2005年6月～現在に至る
日本看護科学学会		2007年3月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015年12月～現在に至る

2021年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
(著書)				
(学術論文)				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳）				
（学会発表） 看護学生のストーマ装具を装着した患者疑似体験による学び	共著	2021年12月 4・5日	日本看護科学学会学術集会（ポスター）	①看護学生のストーマ(人工肛門)装具の疑似体験をとおしての学びを明らかにした。 ②坂本美穂　高橋甲枝　財津倫子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)

1. 学生を4クラスに分け、名簿を作成。それぞれのクラス委員長を決定後、連絡網の作成。
2. 前期及び後期に1回ずつ担当クラスメンバーに面接（対面）を実施。
3. 各論実習前に模試を対面で実施。同時にアンケート調査も実施した。
5. 11月に、保護者懇談会（遠隔）を実施（COVID19禍における講義・演習・実習をどのように実施しているかを説明・模試結果報告・就職活動について）
6. 各論実習期間中に担当クラスの学生に問題があれば、その都度対応（保護者を交えての面談等）
7. 3月22日（火）に各論実習後知識確認模試を実施。

教育経費予算配分委員会（2018 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

1. 当該年度予算について
   1）5 月に、5 月 1 日現在の学生数によって決定した確定シーリング額を会計課よりメール報告を受ける。
   2）6 月末までに 2021 年度の確定予算を会計課に提出した。
   3) 学科内の予算執行は、実習関連以外は可能な限り 11 月末までに終了するよう 8 月の学科会で依頼した。
2. 翌年度予算について
   1）8 月の学科会議で翌年度の予算計上の依頼を行った。
   2）各領域から提出された予算を確認して、暫定シーリング額内に収まるように調整した（調整する際は、前年度と購入物品の相違や金額を確認し、大幅に違いがある場合、予算作成者へ直接確認をおこなった。
   3）2022 年度暫定シーリング額におさまるよう、調整・話し合いを行った。
   4）2022 年度の暫定シーリング額に調整し、暫定シーリング内におさまった 2022 年度の予算書を 11 月上旬（従来は 10 月末）に会計課へ提出
3. 委員会の開催について
   会議は、リモートにての開催あるいは、メールにて意見交換が行われた。
4. その他
   今年は、委員長が看護学科より選出された。リモートにおける会議の司会進行、年度末には、委員会別業務評価表の作成と提出を行った。

看護総合実習（BLS 受講調整：2017 年 4 月 1 日～継続中）

1. 受講料は、COVID19 の状況を踏まえ、後期の学費で追加納入（会計課へ 3 月に受講者名簿をメール送信した）。
2. 4 月初旬に博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行った。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 知識面はオンラインでの受講を選択した（2021 年度より開設される）。オンラインパートへのアクセス方法は、直接博多トレーニングセンターからメール送信されたが、アクセスできない学生については大学が対応した。
6. 技術の受講日と就職試験日と重なる学生から報告が来るため、博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れた。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日は、8 時 30 分からの開始であるが、当日に BLS 人形等の搬入があるため、7 時から搬入が開始された。体温測定及び出欠確認は、博多トレーニングセンター（インストラクターが担当）が実施。欠席者・遅刻者は無かった。
8. インストラクターに受講中の写真撮影の許可を得て、写真撮影を行い、ブログ UP の準備を整えた。
9. コロナ禍にあり終了時、機材の消毒を実施した。

実習コーディネーター(2019 年 4 月 1 日～継続中)

1. COVID19 禍における臨地実習が可能であるかを、実習病院へ必要時メールにて確認を行った。指導者会議の調整も行った。
2. 各論実習前のオリエンテーション運営（第 1 回・臨時 2 回）と、「個人情報取り扱いと SNS 利用について」

スライドを用いて説明した。さらに、手指消毒液やポシェットの配布。

3. 実習誓約書作成（学生）に向けた調整
4. 2022 年度の実習病院（2 病院）の実習配置を作成し調整（他大学）後、病院へ提出。
5. 2022 年度の実習配置表作成。

キャンパスハラスメント相談員（2019 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

4 月の学年別オリエンテーションでメールアドレスを公開し、常に相談を受け付けている。

2021年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名　笹月　桃子	職名　教授	学位　医学博士（九州大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・小児緩和ケア ・小児の生命倫理 ・小児の臨床倫理	小児、生命倫理、臨床倫理、小児緩和ケア、代理意思決定、協働意思決定、きょうだい支援

研　究　課　題
1. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児のいのちに関わる医療の方針決定に際する医療者と家族の協働意思決定はいかにあるべきか 2. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児の代理意思決定とはいかに可能か 3. 自己決定概念が基盤にある現代医療において脆弱な立場に置かれた子どもの最善の利益、尊厳はいかに捉え得るか 3. 重篤な病態や重度障害を抱える子どものきょうだいの心理社会的体験とは何か・支援はいかにあるべきか

担　当　授　業　科　目
・看護形態機能学Ⅰ ・看護形態機能学Ⅱ ・初年次セミナー Ⅰ ・初年次セミナー II ・医療と倫理 ・疾病学各論Ⅱ：小児科 ・緩和・終末期看護：小児緩和ケア ・キリスト教と生命倫理（助産別科） ・解剖生理学（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護形態機能学　Ⅰ・II　】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。後期に実施した解剖実習見学を通じて、いのちへの畏敬の念と医プロフェッショナルとしての覚悟を自身の内に芽生えさせ、自覚できるよう、綿密な事前事後学習の上で実習に臨めるよう支援した。
授業科目名【　疾病学各論Ⅱ：小児科　】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【　医療と倫理　】 全て遠隔講義であったため、一方向性にならないよう、医療をめぐる倫理的な課題について、折々に意見を求めながら講義を進めた。8回講義のうち、最後の2回は、投票システム等を利用し、思考問題を提示し、課題を自分ごととして考えさせつつ、他者の意見や思索を聞く機会とした。正解を示すのではなく、今後医療者として倫理的課題に対峙した際の思考アプローチを示すよう努めた。

授業科目名【　緩和・終末期看護学：小児緩和ケア　】

子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【　初年次セミナー　I・II　】

初年次セミナーI

①昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。

②学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。

③担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

初年次セミナーII

①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。

②学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。

③プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。

④発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。

⑤プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【　キリスト教と生命倫理　】（助産別科）

出生前診断や重篤な病態・重度の障害を抱える新生児の治療中止等をめぐる現代の周産期医療現場の課題を共有した。その上で、医療者としてそこで生じる倫理的ジレンマにいかに対峙するか、どのように妊婦・母親・家族と協働するかについて考察する機会とした。

授業科目名【　解剖生理学　】（栄養学科）

身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医 倫理委員会委員（2020年～）	1994年～ 1998年～
日本小児神経学会	第 58-62 回日本小児神経学会学術大会実践教育セミナー企画責任 第 59-62 回日本小児神経学会学術大会シンポジウム企画責任	2010年～ 2015年～
日本小児血液・がん学会	教育研修委員会（緩和ケア等事業委員会）委員（2015年～）	2015年～
日本緩和医療学会	日本緩和医療学会緩和ケア研修指導者（2011年～）	2015年～

	将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員（2014 年～）	
日本生命倫理学会	第 28 回日本生命倫理学会年次大会プログラム委員 第 30-33 回同大会シンポジウム企画者 新生児・小児部会　幹事（2021 年～）	2016 年～
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士（2016 年～） 上級倫理認定士（2021 年～） 上級倫理委員会委員（2022 年～）	2016 年～

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 臨床倫理の考え方と実践：医療・ケアチームのための事例検討法	共著	2022.2	東京大学出版会	清水哲郎、会田薫子、田代志門編著 分担執筆　pp.53-55 「親・家族が小児の治療を望まないとき」
＜反延命＞主義の時代：安楽死・透析中止・トリアージ	共著	2021.7	現代書館	小松美彦、市野川容孝、堀江宗正編著 分担執筆　pp.201-232 「小児科医の問いと希望」
（学術論文） De novo ATP1A3 variants cause polymicrogyria.	共著	2021 Mar	Science Advances	Miyatake S, Kato M, Kumamoto T, Hirose T, Koshimizu E, Matsui T, Takeuchi H, Doi H, Hamada K, Nakashima M, Sasaki K, Yamashita A, Takata A, Hamanaka K, Satoh M, Miyama T, Sonoda Y, Sasazuki M, Torisu H, Hara T, Sakai Y, Noguchi Y, Miura M, Nishimura Y, Nakamura K, Asai H, Hinokuma N, Miya F, Tsunoda T, Togawa M, Ikeda Y, Kimura N, Amemiya K, Horino A, Fukuoka M, Ikeda H, Merhav G, Ekhilevitch N, Miura M, Mizuguchi T, Miyake N, Suzuki A, Ohga S, Saitsu H, Takahashi H, Tanaka F, Ogata K, Ohtaka-Maruyama C, Matsumoto N.
Brain-sparing cord blood transplantation	共著	2021 Jun	Mol Genet Metab Rep.	Yada Y, Torio M, Koga Y, Yamashita F, Ichimura T,

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
for the borderline stage of adrenoleukodystrophy.				Eguchi K, Ishimura M, Mushimoto Y, Hiwatashi A, **Sasazuki M,** Kira R, Sakai Y, Ohga S.
Neurodevelopmental Outcomes of High-Risk Preterm Infants: A Prospective Study in Japan.	共著	2021 Oct	Neurol Clin Pract.	Torio M, Iwayama M, Sawano T, Inoue H, Ochiai M, Taira R, Yonemoto K, Ichimiya Y, Sonoda Y, **Sasazuki M**, Ishizaki Y, Sanefuji M, Yamane K, Yamashita H, Torisu H, Kira R, Hara T, Kanba S, Sakai Y, Ohga S.
18 トリソミーの子どもの家族の医師との話し合いにおける心理社会的体験	共著	In press	日本周産期医学学会雑誌	櫻井浩子,**笹月桃子**,加部一彦
（翻訳）				
（学会発表） 子どもの声を代弁するシンポジウム:小児神経領域における緩和ケアの今とこれから～10 年先を見据えて～		2021.5.28	第 63 回日本小児神経学会学術集会	
小児緩和ケアにおける薬剤師の役割の多元性 シンポジウム:小児緩和ケアと薬物療法？薬剤師はどう関わるのか？		2021.10.10	第 31 回日本医療薬学学会年会	
重篤な病態や重度の障害を抱える子どもの意思決定支援の特性 ワークショップ: 小児医療におけるアドバンスケア プランニングの理念定義とその主体の曖昧さ		021.11.28	第 33 回日本生命倫理学会年次大会	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	○笹月、（酒井、板井、加部、櫻井、松岡）	代表　4,030,000
小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	科学研究費補助金・基盤研究(B) 2019-23	（○松岡、奈良間、川合、岡崎）、笹月	分担（総15,730,000）
子どもを亡くした家族のビリーブメントプログラム開発	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	（○藤田、濱田）、笹月	分担（総3,770,000）
小児からの臓器提供にかかる基盤整備と普及・教育システムの開発に関する研究	厚生労働科学研究費2021-24	（○荒木、種市、多田羅、他）、笹月	分担（総9,685,000）
新生児臨床倫理コンサルテーションシステム構築及び新生児医療の倫理的判断基準の検討	国立成育医療研究開発費：2021-23	（○賀藤、髙橋、掛江、加部、横野、武藤、稲森、瀧本）、笹月	分担（総1,232,000）
重篤な病態を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	本学共同研究費：2021年度	○笹月、野井、文屋、樋口、山本	代表　1,151,780

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・厚労省委託事業、現在日本緩和医療学会及び日本小児血液がん学会　共催事業、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム：CLIC」	プログラム作成・コアファシリテーター・講師	2010年～現在に至る 年に2～4回定期開催継続中
・新生児生命倫理研究会	世話人	2019年～現在に至る

・九州大学病院小児緩和ケアチーム及び小児倫理コンサルテーション	医師	2015 年 4 月～現在に至る
・福岡市立こども病院	倫理委員会外部委員 非常勤医師	2018 年 4 月～現在に至る
・研究支援（学会雑誌論文査読）		
・九州大学医学部小児科	非常勤講師	2017 年度～：小児臨床倫理の講義
・中村学園大学栄養科学部栄養科学科	非常勤講師	2019 年度～：小児疾病の講義
・京都大学大学院医学研究科	非常勤講師	2019 年度～：小児臨床倫理の講義
・東北大学文学研究科社会学	特別講義	2021.8.4
・修猷館高校	特別講義	2021.12.3
・グリーフケア・スピリチュアルケアに取り組む人のための小さな学び場	講演	①2021.5.14, ②2021.5.22
・厚生労働省 第５回「小児からの臓器提供に関する作業班」	ヒアリング	2021.9.6
・厚労省小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ	WG 員	2021.4～
・令和３年度 九州・沖縄ブロック小児がん看護研修会	講演	2021.10.30
・第 31 回生命倫理研究会	講演	2021.10.31

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員会 委員　2018 年～ 保健福祉学部附属研究所　運営委員　2018 年～ 学生総合支援室 室長　2021 年～ 看護学科　国試対策強化学習講義

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　隅田由加里	職名　　講師	学位　修士（看護学）（産業医科大学 2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、看護経験１~3 年看護師 看護学生、職業的アイデンティティ

研　究　課　題
＊2017 年の研究で抽出された、看護実践能力習得の影響因子である「学習支援」「看護師経験年数」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」を中間変数、それ以外の先行研究で抽出された因子を潜在変数、看護実践能力を目的変数とし、これらの変数がどのように関連しながら、経験 1～3 年の看護師の看護実践能力を向上させているのかを共分散構造分析を用いて考察する。 ＊看護学生が職業的アイデンティティを形成していくにあたっての効果的な教授方法を考察するため、まずは、文献検討を開始し、アイデンティティ形成の仮説を立案する。

担　当　授　業　科　目
＜前期＞ ・診療関連技術論（必修） ・看護技術論（必修） ・看護過程論（必修） ・看護マネジメント論（選択科目） ・基礎看護学実習Ⅱ ＜後期＞ ・看護マネジメント総論（必修） ・生活援助技術論演習（必修） ・フィジカルアセスメント技術演習（必修） ・基礎看護学実習Ⅰ ＜通年＞ ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　診療関連技術論演習　】 2 年前期科目。対面式授業で予定されていたが、感染拡大に伴い遠隔授業へと変更となった。このため遠隔期間中は先に講義を行うことで対応した。また例年行っていた実技試験は感染問題から実施困難と判断し、講義終了時のミニテストへ変更し知識定着に重点をおくこととした。このミニテスト終了後に対面授業も再開となったため、クラス別に人数を制限し演習を実施した。学生は１年次から殆ど演習を行うことが出来ておらず技術演習のニードを強く持っていたので、希望者には感染防止対策を講じ自主練習が行える環境も提供し学習の場の構築に努めた。また動画等を活用しイメージ化を図る工夫も行った。
授業科目名【　看護技術論　】 １年前期科目。「環境を整える技術」を中心に授業を展開した。5 月に入り感染拡大によって対面授業は一旦中止となったため、「ベッドメイキング」「シーツ交換」の演習は対面授業再開後に行うこととし授業スケジュールを状況に応じて変更した。この間主担当教員と調整を図り、遠隔で可能な授業、そして遠隔で早期看護実習を企画し行った。早期看護実習の目的の１つである「病院を知る」「看護師の役割・業務を知る」という課題に関しては、日本看護協会等の動画を活用して目的達成に向けて取り組んだ。

7 月に入り遠隔授業が再開された後、当初の予定通り感染防止対策に留意し、少人数ずつ「ベッドメイキング」「シーツ交換」の演習を実施した。

授業科目名【　看護過程論　】

終始対面授業で行われたため、感染防止対策に留意を払った。グループ学習では主担当教員の授業を聴講し、その教授内容を補填するような形でグループワークの支援を行った。学生の記録物は適宜確認を行い、学習内容を把握し適宜コメントを行った。

授業科目名【看護マネジメント論（4年生)】

看護総合演習・実習の中の「看護管理」を選択したゼミ生が中心に選択しているため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、学生の実習部門を考慮し授業を構成した。最も看護管理を学ぶにあたってわかりやすい組織である「医療安全管理部門」を軸に看護管理とは何かから実践例を盛り込み

遠隔授業で対応した。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

本来は 2 年前期の 9 月に全員一斉に実習を 3 施設に分かれて行われっていたが、感染拡大に伴い各病院の方針もあり、当初の予定の実習病院では実習を行うことは困難な状況となった。このため主担当教員が中心となり、大学周辺の病院施設に実習依頼を行い新規開拓を行った。病院の規模から一斉の実習は困難であったため、第1陣、第2陣、第3陣と分散した上で、各施設の状況に則って実習詳細スケジュールを企画調整し、可能な限り臨床実習が行えるように配慮した。複数の病院から院内での飲食禁止が求められたため、AM・PM に分け約 3 時間の臨地実習と、それ以外は学内に戻っての振り返り実習という形式をとった。臨地では学生が有意義な実習ができるよう、管理者、指導者と調整を図り、学内では学生が

看護を思考できるよう 情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案を支援し、適宜記録物は Google クラスルームの電子媒体を活用しながら確認しコメントを行っていった。た最後の看護技術の提供は臨地では困難と判断し学内で実施した。しかし約 32 名の学生は

オミクロン株の蔓延の影響で臨地実習に行くことができず学内実習となった。学内においても臨地と同様の実習が行えるよう、電子模擬カルテを作成するとともに、学生の関わりがほとんどなかった教員等に患者役を依頼するとともに、看護師役・教員役と役割分担を明確にし、学生の実習支援・指導を行った。

授業科目名【看護マネジメント論総論（2年生)】

2年後期科目。遠隔授業であったため、学生の体調や心理面に問題はないかなどの配慮を行うとともに、授業終了後は、質問 foam アンケートを毎回実施し、学生の質問には翌週回答するようにした。また看護管理は経営学などの要素も入っているため、まずは用語理解に努めること、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえて授業を展開した。現在の医療において重要性が高い医療安全は国家試験に出題されるため、講義内にも盛り込み授業を展開した。

授業科目名【生活援助技術論演習】

1年後期科目。対面授業で実施した。3 単位の科目であるため、診療関連技術論演習のように講義と演習を区分することは困難であった。このため、まずは講義を実施、その後昼食を挟んで、診療関連技術論演習同様に人数を分散制限し、2回に分けて同様の演習を感染防止対策に注意を払いながら実施した。

演習がない時間は、各学生が予習や振り返りができるよう、学習用の教室に1名教員を配置し、また動画配信やワークシートを作成し学びを深めることができるよう工夫した。

授業科目名【フィジカルアセスメント技術演習】

1 年次後期科目。主担当教員の指示のもと、バイタルサイン測定技術を中心に演習指導を行った。

バイタルサイン測定に関しては、円滑に実施できるよう手順の詳細な方法をはじめ、根拠や患者の安全、安楽、自立への配慮や、思いやりのある声掛けや説明の方法、プライバシーへの配慮などにも留意して支援・指導を行った。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】

1年後期の2月に行う実習であるが、オミクロン株の蔓延の影響で臨地での実習は行えず、実習は遠隔で行うこととなった。基礎看護学実習Ⅰの主たる目的は、病気が対象者の「からだ」「こころ」「生活様式」にどのような影響を与えるのか、そして看護者のコミュニケーション力が患者に与える影響を思考することである。このため、約6人のグループを編成しグループダイナミクスが発揮できるよう調整を図った。あえて限られた患者情報のみしか提示せず、まだ学生が関わっていない教員等に患者役を依頼し、画面を通して約 10 分とい

う制限時間の中で代表者がコミュニケーションを図る形式として企画した。この限られた関わりから学生が上記の目的を達成できるよう、各担当教員を配置するとともに、Google クラスルーム内にブレイクアウトルームを設け、思考過程に準じや記録用紙を改訂し学生の支援・指導を図った。結果として臨地実習と同等レベルで学生は深く上記の目的に関して思考し記録にまとめることができた。

授業科目名【看護総合演習】

実習施設からは実習時間等の制限はあるものの実習は可能との返事を頂くことができていた。このため実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」の学びを、週に１回水曜に 3・4 限目を活用して行った。演習においては、各学生が上記の部門に関する文献から自主学習を行い、その学習を発表しながら教員が補填をしていく形式として、8 月下旬までの実習に実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築することができた。また実習終了後は遠隔で演習を継続し、各自が実習報告書を兼ねた卒業レポートの記載に取り組み、

2022 年１月には報告書の冊子作成が完了した。

授業科目名【看護総合実習】

4 年前期の 8 月 30 日~9 月 9 日までの期間の計 6 日間 3 時間という時間制限はあったものの、上記演習に記載した全ての部門の臨地実習を行うことができた。実習遂行にあたっては年度初めの 4 月から複数に渡って、教員担当看護副部長と調整を重ね、最終の実習指導者への説明会に関しては教員が代行説明を行うことで補った。病院の指示に従い、実習開始２週間前から学生は自主隔離を行い、感染防止対策をして実習を終えることができた。

コロナ禍において３年次の各論実習の多くが学内実習となっていたため、施設側の配慮から、病棟実習では看護師のシャドウイングを通して患者のベッドサイドケアの見学や多重業務の状況を、感染制御部では脳神経外科のセンターや ICU 内の感染防止対策巡視に同行させていただき、貴重な

実りある実習を行うことができ、就職後のレディネスに役立つ実習となった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会	なし	2017 年４月
日本看護学教育学会	なし	2017 年４月
日本看護管理学会	なし	2017 年４月
日本看護科学学会	なし	2017 年４月

２０２１ 年 度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 経験年数 1～3 年における看護師の看護実践能力習得過程に関わる影響要因の因子構造	単	2,021 年 12 月	第 41 回日本看護科学学会学術集会（オンライン形式）	＊看護実践能力習得過程構造を看護実践能力習得の影響因子である「学習支援」「看護師経験年数」「相互支援の雰囲気」「成功体験からの成長実感」「状況変化対応能力」「コミュニケーション能力」を中間変数、上記以外の因子を潜在変数、看護実践能力を目的変数とし、共分散構造分析を用いて解明した。 ＊セッション名：示説　第 2 群 看護教育Ⅰ　演題番号：P2-82

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
西南女学院大学　認定看護管理者教育課程（ （教育運営委員役割） （フォーストレベル　質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当）	教育運営委員	2017 年より継続

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・学生募集委員 ・看護師国家試験対策担当 ・1 年生アドバイザー

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　髙橋　甲枝	職名　准教授	学位　修士（看護学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護	・　シミュレーション教育 ・　初年次教育 ・　乳がん患者の就業支援

研　究　課　題
・がん患者の就労支援ニードについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにし、投稿を行う。 ・初年次教育の効果を経時的に検討する ・安全な三角筋筋肉注射について投稿を行う。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（前期） 成人看護学演習（前期） 健康教育論（前期） 看護総合演習（前期） 看護研究（前期） 看護総合実習（前期） 初年次セミナーⅡ（後期） 成人急性期看護方法論（後期） 成人急性期看護学実習（後期） 救急・クリティカルケア看護学演習（後期） 看護学特論（後期） 看護のための臨床検査（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 14 コマ、1 コマ 100 分　対面授業 ① 昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を 1 コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。 ② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式(構成)と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。 ③ 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
授業科目名【成人看護学演習】前期 28 コマ，1 コマ 100 分　対面授業 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）の 2 例を展開した。 グループワーク人数を 5 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、術食後の観察と援助と報告の演習、新たに術後患者の清拭・

離床を取り入れた。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。ストーマ造設した患者の看護については、学内時にパウチを配布して遠隔授業下で患者体験を行った。

授業科目名【健康教育論】前期 7 コマ，1 コマ 100 分　遠隔授業

健康教育論は、科目担当者 2 名で講義・個人ワーク（パンフレット作成)、発表をとおして、健康教育、患者教育の学びを共有した。

ヘルスプロモーションの定義および行動変容について解説を行った。パンフレット作成および発表に対してコメントをとおして患者指導の必要性について説明を行った。

授業科目名【看護研究】前期 14 コマ、1 コマ 100 分、遠隔授業

看護研究は、科目担当者 5 名。講義・グループワーク、発表をとおして、基本的な研究について学ぶ科目である。学生は、文献検討を行うなかで疑問をみいだし、学生を対象とした研究計画を立案した。研究計画書の立案、同意書作成、研究対象者への説明とグーグルフォームで調査を実施、分析、発表という研究の一連を実施することで看護研究の基本を学んだ。

授業科目名【看護総合演習】通年　14 コマ、1 コマ 100 分　遠隔・対面授業

看護総合演習では、6 名の学生を担当し、遠隔と対面で授業を行った。

「急性期看護学実習」を想起させ、急性期における看護について「文献研究」を行った。学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、他者評価・自己評価を行うことができていた。

授業科目名【看護総合実習】通年　10 日間（対面実習）

① 看護総合実習では、周手術期の患者の理解と看護師の理解を深めるために、「成人急性期看護学実習」の患者役を通して学びを深めた。
② 基本的な技術の修得と既習の知識の確認を行い、実践の根拠と技術習得を目指した。
③ 事前に肺を切除する患者事例あるいは乳がん事例の病像シートを事前課題とした。
④ 輸液管理、呼吸管理、循環器の検査、血糖・インスリン注射指導、BLS 講習、褥瘡予防、挿管の介助（吸引・口腔ケア、標準予防策）について事前課題を行い、それぞれの技術指導の実践を行った。
⑤ 最後に学びの発表を行った。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 14 コマ，1 コマ 100 分　対面授業

主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。

① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
② 学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを 12 月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
③ プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。
④ 発表時の評価は、担当者 5 名に看護学科教員 1 名を加えた計 6 名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
⑤ プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 14 コマ，（8 コマ担当）遠隔授業

成人急性期看護方法論は，2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的に学習する機会を取り入れた。また、3 年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。

授業科目名【成人急性期看護学実習】1クール（1月）のみ臨地実習　、他は対面実習

① 成人急性期看護学実習は本来2週間の病棟実習と3週目にICUおよび手術室見学実習の3週間実習である。学内実習のプログラム検討を行い、実習目的が達成できる内容に変更した。

② 周術期の理解を深めるために、性、年齢、術式、既往歴の違いによる術後経過の変化および予測する必要性を学べるようにした。さらに身体的な面だけではなく、ボディイメージの変化など心理面を理解するねらいとして、乳がん事例4例、肺がん事例4例を準備した。

③ 周術期にある模擬患者および模擬電子カルテを用いて、臨床での実習に近づけて看護展開を行うようにした。

④ 術前の看護（入退院センターから入院後の術前処置・訓練、術前準備、不安の援助）、術当日の看護、術直後の看護、回復へ向けた看護（離床、清潔援助、退院指導）と周術期の時期を考えながら学ぶことができるようにした。

⑤ DVD視聴、模擬患者に使用する物品は実際に臨床で使用されているものを使用し、イメージ化を図り、使用方法の修得を目指した。

⑥ 1月1クールのみ臨地にて午前中3時間の実習を行った。午後は臨地での情報をもとに学内では情報の整理、ケアの練習を行い、次の日の実践に臨めるように指導を行った。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期　14コマ　対面授業

2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護を対面授業で行った。

授業科目名【看護学特論】後期　7コマ（担当1コマ）　対面授業

4年次生を対象に各領域の7名の教員で対面授業を行った。急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。

授業科目名【看護のための臨床検査】14コマ（担当5コマ）遠隔授業

今年度より看護師3名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査について説明を受けた。授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して立て、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987年4月～(現在に至る)
日本公衆衛生学会会員		1995年5月～(現在に至る)
日本看護研究学会会員		2004年7月～(現在に至る)
日本看護科学学会会員		2004年7月～(現在に至る)
日本看護技術員		2011年4月～(現在に至る)
日本運動器看護学会会員		2015年2月～(現在に至る)
日本看護教育学会会員		2021年1月～(現在に至る)

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 髙橋甲枝、目野郁子、笹月桃子　他：オンライン講義による初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度からみた看護学生の学び -	共著	2022.3	西南女学院大学紀要. 26（in press）	オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。
（翻訳）				
（学会発表） 坂本未穂、髙橋甲枝、財津倫子：看護学生のストーマ装具を装着した患者疑似体験による学び	共	2021.12	日本看護科学学会学術集会（示説）	学生の疑似体験（ストーマ造設患者）からの学びを明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員：2020.4.1～2021.3.31 学科教務：2020.4.1～2021.3.31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2020.4.1～2021.3.31

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　中原　智美	職名　　講師	学位　　修士（保健学）（山口大学 2011 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学 ， 遺伝看護学	慢性期看護 ， 糖尿病教育・看護 ， 生活習慣病 ， 多因子遺伝 ， 遺伝看護

研　究　課　題
・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 ・初年次教育の学修効果に関する研究

担　当　授　業　科　目		
緩和・がん看護学	（看護学科）	
成人看護学演習	（看護学科）	
成人慢性期看護方法論	（看護学科）	
成人慢性期看護学実習	（看護学科）	2020 後期～2021 前期 ／ 2021 後期～2022 前期
看護のための臨床検査	（看護学科）	
初年次セミナーⅠ	（看護学科）	
初年次セミナーⅡ	（看護学科）	
看護総合演習	（看護学科）	
看護総合実習	（看護学科）	
看護学	（栄養学科）	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　緩和・がん看護学（緩和・終末期看護学）　】

主な担当内容は、がん看護（5 コマ），症状緩和のためのマネジメント（1 コマ）である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介した。

講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだりした。そのほか、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介したり、講義前に治療へのイメージについてアンケートを行い、結果を共有して患者・家族の理解につなげたり、小テストを実施することで自己の理解度を振り返る機会を設けるなど、理解を深めるための工夫を行った。

講義終了後には、学び・質問・感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。

授業科目名【　成人看護学演習（成人・老年看護学演習）　】

看護過程演習では、慢性期疾患（肝硬変）の事例を通して看護過程の展開（12 コマ）を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組ませ、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。また、ポイントとなる点は繰り返し説明した。講義前後に教員８名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

グループワークを円滑に行うために適切な人数を検討し、1 グループは 5 名に設定した。個別性のある看護が導き出せるよう、担当グループを巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。必要時には個別面談を行いフォローアップした。

技術演習では、患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら個別性に沿った援助を導きだせるように指導を行った。予習・復習のために、デモンストレーション動画も繰り返し見られるように掲載した。

授業科目名【　成人慢性期看護方法論　】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計７コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、講義で取り上げた各疾患について、観察項目やアセスメントの視点を自分で考える機会を作るよう工夫した。また、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法などはできるだけ具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有したり、単元（2～3 コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにしたりした。講義の間が空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。

授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】

本年度はほとんどが学内実習であり、1 クールのみ臨地実習を行うことができた。感染症拡大の影響により、時期によって対面、遠隔、臨地での実習パターンが異なったため、状況に合わせながら実技実施の機会をできるだけ多く確保できるように努めた。遠隔であっても意図的な情報収集やコミュニケーション技術を実践できるように働きかけ、対面の場合も患者の心情、環境等をできるだけリアルに再現し、実践することでの気づき、失敗からの学びを大切にして自己や他者を深く理解できるように働きかけた。動画教材等も活用し、実際に病棟で治療中の患者の様子などを思い描きやすいように工夫した。

実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の 3 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践

②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考

③学生の強みと今後の課題

学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【　看護のための臨床検査　】

本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査（計 4 コマ）を担当した。検査の理解だけでなく、検査データから患者の病態を正しくアセスメントできるよう、まずは基本的なことや基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。

授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】

①昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。

②学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。

③担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

授業科目名【　初年次セミナーⅡ　】

①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。

②学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。

③プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。

④発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。

⑤プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【　看護総合演習［慢性期・終末期］　】

自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。

そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【　看護総合実習［慢性期・終末期］　】

本年度は臨地実習には行けなかったため、根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題を明確にするために、3 年生（成人慢性期看護学学内実習中の学生）への指導を通して自己の課題を探求できるようにプログラムを組んだ。3 年生への指導を行うにあたり、あらかじめ学内実習の事例に関する事前学習、看護の展開を行い、事例に適した技術を追求し技術練習のプロセスを踏み、さらに他者への伝え方、効果的な助言方法（関わり方）を考えて実践できるように指導した。実習終了時には毎回、自己の成長を振り返り新たな課題を見出すことに繋がるよう、ミーティングや学びを共有する時間を設けた。

また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携として自分がどのような役割、働きかけを行うことが必要かを考え主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。

授業科目名【　看護学　】(栄養学科)

本年度は開講されなかった。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本遺伝看護学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会		2007年4月～現在に至る 2007年5月～現在に至る 2007年5月～現在に至る 2012年7月～現在に至る 2013年7月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） オンライン講義による初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度からみた看護学生の学び -	共著	2022.3	西南女学院大学紀要. 26（in press）	①オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。 ②共著者名：髙橋甲枝，目野郁子，笹月桃子，新谷恭明，中原智美 ③共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 （P未定）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
ギラヴァンツ北九州における ・救護ボランティア （ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動） ・ホームゲームでの防災イベントでのAED・CPR講習 ⇒9月11日開催に向け準備していたが、感染拡大のため中止となった	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導，引率	2019年2月～現在に至る （2020・2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策担当 （国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など） ・1年生アドバイザー （学年全体の活動方針策定、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や精神的サポート等の個別面談・保護者面談、学生総合支援室との連携、科目担当者との連携、遠隔授業に関するサポート、保護者懇談会の開催、ワクチン接種状況の確認など） ・公開講座委員 （2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催困難のため公開講座の開講は見合わせとなった）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　樋口　由貴子	職名　　講師	学位　修士（看護学）（産業医科大学　2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援 学生支援

研　究　課　題
・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。 ・大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・学生支援の一つとして、本学保健福祉学部１年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。

担　当　授　業　科　目
小児看護学概論（前期：看護学科） 小児看護学方法論（後期：看護学科） 小児看護学演習（前期：看護学科） 小児看護学実習（通年：看護学科） 看護総合実習・演習（通年：看護学科） 緩和・がん看護学（前期：看護学科） 看護学特論（後期：看護学科） 助産診断・ケア学Ⅳ（前期：助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学概論　】 正常な子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。リモート形式での講義であったため、学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の理解が難しいところは、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率は高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。今後、反復学習など知識の定着に繋がる方法を考える。
授業科目名【　小児看護学方法論　】 疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護について、リモート形式で講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。コロナ禍で、実習での看護の現場を経験する機会の減少や、もともと子どもと触れあう機会が減少している学生も、小児医療の現場がイメージできるよう、DVD や画像、また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。 障がいをもつ子どもと家族の看護の実際については、実際に現場で働く外部講師に講義を頂いた。現場の写真などを多く取り入れた講義を展開することで、実際の看護を学べる機会となっていた。

授業科目名【　小児看護学演習　】

ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVD や写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては、発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めるようにした。

技術演習についても、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。しかし、実習において学生の技術習得には至っていなかった。今後、技術の習得につながる方法を検討する必要がある。

授業科目名【　小児看護学実習　】

新型コロナウイルス感染症流行のため、病院施設の実習受け入れが一部中止となった。代替として、大学内の BCP に合わせて学内・リモートでの実習とした。実習内容は、教材 DVD などを用い架空患者を設定。患者役を人形とし、家族・看護師役を教員が行った。病院実習同様のスケジュールとし、病院に類似した電子カルテを作成し目的をもって学生が情報収集できるように工夫した。また、看護技術も可能な限り人形を用い実施した。技術が実習中に比べ実施できない分、教材 DVD や論文などを用い学生と実技についてのディスカッションや技術発表会を行うなどして、学生の技術習得と達成感が得られるよう工夫した。

また、NICU や多職種連携などを自己学習し、カンファレンスでディスカッションすることで、本来病院実習で学習する予定だった小児特有の看護も学習できるよう工夫した。

一部病院施設での実習受け可能な時期は、例年とは違い、病棟での実習は行うことができなかったが、小児外来での実習で、学生が小児看護の実際を学べるよう、時間、学習内容を指導者と協議をしながら運営した。

授業科目名【　看護総合実習・演習　】

看護総合演習では、学生の大学内の BCP に合わせて学内・リモートで、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。

看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。

最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。

授業科目名【　緩和・がん看護学　】

小児の緩和・終末期・がん看護について 1 コマを担当した。DVD を用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について、教授した。

授業科目名【　看護学特論　】

これから看護職として社会にでる 4 年生後期に開講された。1 コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。

理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅳ　】

助産別科前期「助産診断・ケア学 Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、助産師として乳幼児と関わる中で、遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉えることができるよう工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		2002 年 4 月（現在に至る）
日本小児看護学会会員		2009 年 1 月（現在に至る）
日本小児保健協会会員		2009 年 4 月（現在に至る）
日本環境感染症学会会員		2010 年 10 月（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2013 年 6 月（現在に至る）

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 研究報告会発表 1.女子大学生を対象にした健康　管理カルテの作成と有用性	共	2022.3	2021 年度　西南女学院大学　保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告会	①　女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい　「健康管理カルテ」を作成する。 ②　樋口由貴子, 目野郁子, 髙﨑智子, 水貝洵子, 山田恵, 大内田知英
				教育研究業績　総数（2021. 3. 25現在） 著書　　0 学術論文　0 翻訳　　0 学会発表　1　（内訳　単0，共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
・重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学共同研究費：2021 年度	○笹月桃子、 （野井未加）、 文屋典子、 山本佳代子、 樋口由貴子	1,151,780
・女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所研究費：2021 年度	○樋口由貴子、 目野郁子、 髙﨑智子、 水貝洵子、 山田恵、 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・保健福祉学部１年生および助産別科１年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨（2011 年６月～現在に至る） ・親子遊びの会（ほほえみの会/2021 年度より名称変更：ほほえみ project）（2016 年４月～現在に至る） ・看護学科の学生募集関連担当（2021 年４月～現在に至る） ・看護学科の国家試験対策強化学習講義担当

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　布花原　明子	職名　　教授	学位　修士（看護学）（兵庫県立看護大学 2001 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動 公衆衛生看護学教育

研　究　課　題
公衆衛生看護学において、地域の健康課題の解決に向けた公衆衛生看護活動の方法、発展要因との関連、支援課題について考察する。また、保健師基礎教育の効果的な教育方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
公衆衛生看護方法論Ⅰ（前期） 公衆衛生看護活動演習（前期） 公衆衛生看護学実習（前期） 公衆衛生看護方法論Ⅱ（後期） 公衆衛生看護学概論（後期） 災害看護学（後期） 看護総合演習・実習（前後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ】 対面授業（一部、遠隔）にて実施した。公衆衛生看護における対人支援の技術について、基礎的な知識及び理論を理解できるよう、講義の最初にキーワードの説明を行った後、事例を提示し、学生が知識や理論を用いて考え、理解を深められるように工夫した。教材動画コンテンツを活用し、講義、視聴、ワークを組み合わせて進めた。
授業科目名【公衆衛生看護活動演習】 実習地域のアセスメントを行う「地域診断演習」と、実習地域に生活する人々を対象とした「家庭訪問」「健康教育」の技術演習を実施した。グループメンバーとの関係を形成し、実習への意欲、保健師学生としての態度を備えることも意図している。集中講義では進度が速いため、各グループの進捗状況を把握し、授業時間外にも質問対応ができるよう配慮した。技術演習では、対面と遠隔とを組み合わせ、両方のメリットを生かしてハイブリッドで実施した。
授業科目名【公衆衛生看護学実習】 北九州市保健所及び３区役所を担当した（5 週間）。現地実習の機会が少なかった学生が、指導者との関係を形成し、能動的に実習に取り組めるよう、巡回時に学生の状況について実習指導者と情報交換し、実習期間中の調整を行うよう工夫した。また、事例検討や成果発表に向けて、実習指導者と意見交換ができるよう、グループメンバー間の相互学習を促すよう工夫した。

授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ】

地域全体を対象とした公衆衛生看護方法について、講義の最初にキーワードの説明を行った後、事例を提示し、学生が知識や理論を用いて考え、理解を深められるように工夫した。地域診断では、理論を用いて一部を演習した。学生が、集団として地域を捉えるための統計データの見方や、将来を予測し予防の視点でデータをアセスメントすることの必要性について、実践的に理解できるよう工夫した。

授業科目名【公衆衛生看護学概論】

全15回のうち4回を担当し、公衆衛生看護の理念及び対象理解と支援方法について担当した。
行政保健師の経験を生かし、地域保健活動事例などを紹介しながら、保健師について理解と関心を高められるよう講義を行った。また、講義後に提出される授業の学び及び質問への対応を随時行った。

授業科目名【災害看護学】

災害看護に関する基本的な知識と実践活動を紹介し、学生が卒後の進路を意識して、災害看護への関心、意欲を高めることができるように工夫した。地域、病院、災害支援組織における災害看護活動の実際と看護の役割について、災害看護の活動経験をもつ医療者を講師に招き実践的な授業を進めた。

授業科目名【看護総合演習・実習】

現地及び遠隔実習のハイブリッドで実施した。学生が実習企業の健康課題を分析し、課題解決の施策、事業計画を立案し、一部を実践できるよう、全プロセスを指導者と随時協議し指導した。新規施設が加わり、学習環境の整備に努めた。企業が提供可能なデータのセキュリティ管理を厳重に行い、現地実習に近い演習・実習ができるよう工夫した。成果発表後のレポート作成では、看護実践内容について考察の視点や文献検索及び引用の仕方について丁寧な指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～　〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～　〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～　〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～　〃

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 若年妊産婦の継続的な個別支援の明確化と標準化に向けて	共	2021.12	第 80 回日本公衆衛生学会（於　京王プラザホテル東京）	①　若年妊産婦を対象に、家庭訪問及び妊婦登録カードから抽出された実態について、保健師間で支援課題を分析し、母子健康手帳交付から小学校入学までの個別継続支援マニュアルを作成し報告した。 ②　共同発表者　萬徳香織, 布花原明子 ③　第80回日本公衆衛生学会抄録

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009 年 4 月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人審査会	審査委員	2020 年 4 月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1．就職委員　2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 ・推薦受験を希望する学生の決定 ・進路登録カードと就職（進路）報告書の周知と回収 ・卒業生アンケート　回収率 34.1%（前年度 19.6%） ・学科 3 年生保護者を対象とした「就活動向と対策」情報提供の企画、調整 2．看護学科３年生アドバイザー　2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 ・保護者懇談会 ・個別面談による学生生活支援 ・看護師国家試験低学年模試実施（9 月.3 月）及び学習ポートフォリオ作成指導

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　前田　由紀子	職名　　教授	学位　修士（教育学）（九州大学　2004 年） 博士（教育学）（福岡大学　2010 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研　究　課　題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担　当　授　業　科　目
精神看護学概論（後期）（看護学科） 精神看護方法論（後期）（看護学科） 精神看護学演習（前期）（看護学科） 精神看護学実習（通年）（看護学科） 看護総合演習（前期）（看護学科） 看護総合実習（前期）（看護学科） 看護学特論（後期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅰ（前期）（看護学科） 看護教科教育法Ⅱ（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【精神看護学概論】

新型コロナウィルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。授業・本試は、対面授業を実施できたが、感染拡大の影響で追再試験のみがリモートになった。心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。

授業科目名【精神看護方法論】

新型コロナウィルス感染症の影響で、授業は１月以降がリモートでの実施となった。本試験・再試験もリモートでの実施となった。精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら，精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。対象者やその家族の心理面の理解、共感能力の向上を目的に、精神疾患当事者や家族などの著作を５編読み、感想を提出させた。授業の進行と読書を重ねることで対象者の理解が進んだと思われる。国家試験対策を兼ねて、精神看護学に関する問題の解説を記述させポートフォリオの作成を行った。

授業科目名【精神看護学演習】

新型コロナウィルス感染症の影響で、授業は部分的にリモートでの実施となった。本試験・再試験は対面で実施することができた。精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例を展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについて演習を実施した。例年、実習病院の指導者が演習に参加し、精神科看護のイメージが捉えやすくなっていたが、今年度はできなかったので、病棟がイメージしやすいような DVD を購入し適宜活用した。例年、グループワークを実施しているが、今年度は前半がリモート、後半が対面でのリモートのグループワークになった。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。

授業科目名【精神看護学実習】

実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、指導を行った。新型コロナウィルス感染症の影響で、現地オリエンテーションは、実施できる病院とできない病院が出てしまった。できない場合は。実習病院から資料をいただき教員が説明したり、実習指導者に大学でオリエンテーションおよび講義をしていただいた。新型コロナウィルス感染症の影響で、臨地実習が実施できたのは 3 グループのみであった。3 グループ以外は、学内実習またはリモート実習で対応した。教員が患者役を担い、学生との対話を進めた。教員は、統合失調症やうつ病の患者役になりきり、対話を中心に進めることで患者理解が図られた。学内実習時は、感染予防に留意し、感染状況によって適宜リモートを取り入れた。

授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】

6 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。本科目は、4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、リモートで文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミでリモート発表会を行った。実習は、新型コロナウィルス感染症の影響で、看護総合演習の授業はリモートでの実施となり、精神科訪問看護および精神科デイケアの臨地実習は実施できなかった。地域で生活している精神障害者の DVD や精神科病院のコロナ感染症対応のテレビ番組などを視聴しグループディスカッションを繰り返し精神障害者の地域ケアについて考察を深めさせた。

授業科目名【看護教科教育法Ⅰ】

新型コロナウィルス感染症の影響で、授業の一部はリモートでの実施となったが、大半は対面での授業が実施できた。本科目では最終的に「講義」形態の授業ができることを目的に授業を展開した。学習指導要領に基づき、高等学校看護科教育の目標・教育課程を理解できるように、教育方法論・学習理論について学びを深めさせた。模擬授業の展開においては、教材研究及び教材開発に積極的に取り組み、授業案の作成に取り組ませた。模擬授業の練習を重ね、実際に模擬授業を展開し、自身の授業について客観的に評価でき、自己の課題を明確にすることができた。今年度は受講者が 2 人であったため、学生同士で協力して模擬授業の練習等に取り組むことができていた。

授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】

看護実習終了後の 3 月に集中講義を行った。新型コロナウィルス感染症の影響はあったが、対面授業を実施することができた。看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導を行った。前年度に引き続き今年度も新型コロナウィルス感染症の影響で、学生が臨地実習を経験しておらず、臨地実習における指導計画・指導方法について、具体的に考えさせることは困難であった。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。今年度は受講者が 2 人であったため、学生同士の協力がありよかった。

授業科目名【看護学特論】

本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論の 7 つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科ファーストエイドの講義後に最近のトピックスや国家試験に関連ある内容を講義した。対象学生が 9 名であったので次年度はもっと多くの学生が受講するよう、本科目の意義を説明したい。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2003年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2003年4月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2007年10月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007年10月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008年4月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 精神科における長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護の特徴に関する文献研究	共	2022.3	西南女学院大学紀要 Vol.26	① 本研究は、精神科における長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護の特徴を明らかにするために文献研究を行った。「ストレングス」「精神」「看護」をキーワードに全年検索し、看護と患者の変化が詳細に記載している事例研究12件を対象とした。長期入院患者のストレングスに焦点をあてた看護は、①意欲や内在する力を育む時期、②退院に向けた主体性を育む時期の２つに分類された。 ② 共著者名：安藤愛、後藤有紀、前田由紀子 ③ 本人担当部分：考察を担当する。
（翻訳）				
（学会発表） 精神科における新卒看護師の成長要因（示説）	単	2021.12	第41回日本看護科学学会学術集会（WEB）	① 本研究の目的は、精神科病院に就職した新卒看護師の成長を促進する要因を明らかにすることである。新卒看護師６名を対象に、就職後3・6・12・18・24・36か月目に半構成的面接を個別に実施した。就職後3年間に

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				おいて、新卒看護師の成長を促進する要因として、＜卒後教育の充実＞＜患者とのかかわり＞＜現実に向き合う力＞＜積極的向上心＞＜先輩の支援＞＜後輩の存在＞の６つのカテゴリーが抽出された。 ② 第41回日本看護科学学会学術集会講演集

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 図書委員会 2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 〔学科委員〕 国家試験対策委員長　2020 年 4 月 1 日～現在

２０２１年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名　溝部 昌子	職名　教授	学位　博士（保健学）東京大学　2003年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力 グラフィックレコーディング

研　究　課　題

・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策
・看護基礎教育における血管看護技術教育
・血管看護教育における教材開発
・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア
・外国につながりのある人たちへの看護におけるコミュニケーション
・グラフィックレコーディングのヘルスケアコミュニケーションへの活用
・グラフィックレコーディングのスキル修得に関すること

担　当　授　業　科　目

・老年看護学概論（前期）
・老年看護学演習（前期）
・看護研究（前期）
・看護総合看護学演習（前期）
・看護総合看護学実習（通年）
・老年看護学実習Ⅰ（通年）
・老年看護学方法論（後期）
・国際保健論（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【老年看護学概論】

① この科目の評価配点は、小テスト 4 回 60%、レポート提出 39%、その他 1%で、小テストの平均点 47.7 点、レポート平均点 33.6 点で、最終評価は、平均 81.2±6.0 点、秀 5 名、優 61 名、良 35 名、可 2 名で、目標は概ね達成された。レポートは認知症や ACP に関する課題で、資料の検索や情報の整理が不十分であったり、感想にとどまる、短絡的な意見の記述、多様な観点を考慮していないなど、思考判断、態度面で減点対象となる物があった。

② 講義中に示した、Web サイトや文献、資料についてはリンクから学生が閲覧できるようにした。また、「自分なりに情報検索をした」。「たくさんの資料が紹介されていて興味深い」という意見は、毎回終了時に行っている振り返りに記載があった。一方で、授業評価では、図書館や文献については利用しなかったと回答した人が 9 割近く、授業評価のデータ収集方法、回答の信憑性や意味付けに検討の余地があると考える。

③ ディクテーション機能や字幕機能を活用したが、高齢者の生活や看護について伝えようとしている叙情的な部分が遠隔授業でどの程度伝わるのか、昨年同様に気がかりな部分があったが、画面越しであっても教室で伝えるよりも近くに感じられる面もあるし、またその限界もあると考える。情報の共有など遠隔での実施が効率よく効果的であったものは今後もそれを継続し、ドキュメンタリーなどの動画や文書の共有などは当事者の感情を理解する上で対面で行ったほうがよく、内容によって方法を選んで授業の質を高めたいと思う。シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【看護総合看護学演習・実習】

① 昨年度に引き続き、コロナ禍での活動に制約があったため、オンラインと対面で柔軟に進行できるようにした。今年度は高齢者の薬物療法を大きなテーマとして、分担し、複数の学生が複数のテーマを担当し、論文としてまとめていく作業を精力的に行った。最終的には、引用文献数 163、約 80 ページの成果報告書が完成した。

② 学年を通じて、グラフィックレコーディングの手法を用いたことで、調べる、整理する、プレゼンテーションする、繰り返し見る、記憶するという活動を通して、演習、実習、国家試験対策で、個人とグループでの学修が促進されたと感じた。

③ 科目の活動には直結しないが、就職活動と国家試験対策へのサポートは、4 月からオンラインでの集合指導、対面やメールでの個別指導などに精力的に取り組み、いずれも早い段階で着手し、結果を得ることができ、夏以降の学修が心理的にも落ち着いた状況で進められたことが良かった。

授業科目名【看護研究の基礎】

① この科目の評価配点は、個人課題レポート 20 点、グループワークの貢献度に関する記録 20 点、グループで提出する成果物 60 点で、個人の評価とグループの評価から構成されている。最終評価は、平均 76.7±6.8 点、秀 0 人、優 33 人、良 56 人、可 0＋2 名となった。個人課題レポートでは、研究プロセスと看護研究の意義に関する論述であったが、情報の整理が不十分であったり、結論に至っていなかったり、論述が不完全な学生が半数に及び、知識理解、思考判断での達成度は低めであり、そのことが秀の学生が出なかった背景である。グループワークの貢献度は、自己評価票と評価基準を予め提示し、毎時提出されたものをもとに教員が評定した。グループワークへの貢献は個々に様々な形があると考えられ、総合的に勘案して概ね達成されたと判断した。

② Google ドライブ内でのファイルの共有、form を利用したアンケート調査など遠隔授業の特徴を活かして、効率よく効果的に学修活動が行えたものと考える。図書館経由のデータベースが利用しづらい状況に関しては、昨年度同様、WWW での一般公開情報でも遜色なく情報収集できるようなので、デメリットは少ないと感じた。

③ 学修活動の性質上、講義時間外でのグループワークが必要となったが、グループ間、個人間で取り組みには差があるようであった。15 回設定であり、講義時間内の作業時間は 10〜30 分程度とし、講義及び指導時間を確保できたと考える。講義内でグループワーク作業時間を組み入れることを要望する声もあるが、そうなると 30 回設定で、学生にとって自由度はより低くなると思われるので、現行の時間配分で継続したいと考える。

④ 学生は、1 グループ 5 人、16 グループとし、調査研究を実施し、それにまつわる前後の作業を体験的に学んだ。学生が設定した研究テーマは、恋愛、睡眠、アルバイト、学修、健康状態などについてで、対象となる看護学生と自身についての疑問や興味について、資料を調べ、リサーチクエスチョンとして設定し、調査により明らかになったことから方策を検討して提示するという一連の活動を、研究の知識や方法に基づいて実施できた。今後も学生が興味を持てるあるいは実感している問題について課題として調べる面白さや方法を学べるようにしていきたい。

授業科目名【老年看護学演習】

①この科目の評価配点は、看護技術課題のワークシート 40%、看護過程 40%、参加態度、その他の提出物 20%で、最終評価は、平均 84.0±9.6 点、秀 12 名、優 64 名、良 12 名、可 4 名＋2 名となった。14 回それぞれに一つ以上の提出物があり、地道で絶え間ない努力を必要とする科目であり、多くの学生はそれを達成できた結果となった。可の 4 名については、看護過程や老年看護学についての知識が全く不足している状態ではなく、時間管理、タスク管理、生活管理に努力の余地が多い。一方、秀となった学生は、すべての課題において完成度が高く、また修正や改善などの向上心が評価された結果となった。

②授業の振り返り form で、一番印象に残ったこと、学びについて自由記載で尋ねているが、毎回ほとんどすべての学生が新たな発見や興味、学びの実感についてかなり具体的に記載しているが、授業評価における点数とこの科目における学生が実感している成長とが乖離していて一致していないのではないかと感じる。

③高齢者看護のアセスメントは、看護学的な視点と様々な評価スケールを用いること、生活者としての視点や家族を含んだケア、エンド・オブ・ライフケア等様々な状況を加味する必要があり、アセスメントにおいて 11 のすべての側面を選別したり省くことはできない。他の領域では割愛することもあると聞いているが、自身で課題に取り組み、学びに妥協を求めず看護学生としての自覚、責任感を高めて欲しいと考える。シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【老年看護方法論】

① 老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討する

ことが多く、どの単元においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿った授業を展開した。また、栄養や排泄など、どの単元においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。

② 最終評価は、平均点 75.2 点、標準偏差 7.3、最高 92 点、最低 58 点であった。課題提出 7 回の配点は 35%、各回のフォーム提出は 15%であり、日常的な学修態度と課題の完成度が反映される結果となった。課題への取り組みは大変良く、資料の検索や情報の整理は行えているものの、筆記試験のみで見ると、平均点は 66 点で、記憶につながっていない。このため、知識の定着を意識した授業構成に変更し、この学生が次年度受ける 3 年生前期老年看護学演習で、既習事項も含めて新たな内容についても展開していく予定としている。このため、シラバスを見直し、教科書教材を変更の作業を行った。

授業科目名【国際保健論】

① 文化背景や病態を学生個々に設定し、対象にふさわしい栄養指導についてのグラフィックレコーディングを各自作成し、プレゼンテーションした。媒体としてのグラフィックレコーディングは「文化的安全を守る看護　食事にまつわる患者ケア」収録集としてまとめた。

② ４回の課題提出において、学生の取り組みは熱心で、最終課題のグラフィックレコーディングについても、１ヶ月以上前から課題を提示し、調べ学習や下書き、清書、プレゼンテーションも丁寧に行われており、欠席のなかった学生を優と評価できた。

③ 国際保健論の目的である、世界的な健康課題や、看護の対象へのアセスメントの視点や、様々な患者ケアサービスへの興味や関心を引き出し、人としてどのように対応できるかを調べ、資料を作成し、自らが当事者として対応を検討することにつながったと考える。

授業科目名【老年看護学実習 I】

① 学内と臨地実習の組み合わせで実習し、臨地実習では、担当患者の日常的な看護への参加、看護技術の見学・実施、患者とのコミュニケーション、継続看護の展開、豊かな生を支える看護計画、看護の文献的検討とプレゼンテーション、学内では誌上患者について看護過程の展開、倫理課題、従来の実習目標を達成できるよう再構成した。概ね、設定した課題については、内容的にも達成されていたと考える。看護過程の展開や、テーマに対するディスカッションは遠隔であっても従来のカンファレンスよりも発言機会や内容も充実する傾向があった。事例についての分析についても、文献検討や情報収集が捗り、充実した成果が得られた学生が多かった。本科目は進行中のため、最終評価ではないが、平均点は 70 点台後半となる見込みである。

② これまで 11 グループが実習したが、遅刻欠席がなく、取り組み姿勢は全体としてよかった。時期により臨地実習で直接患者に接することができなかったグループが 5 グループについては、実際の患者の動画や、看護師への質問、教員からの説明で補足した。実際に患者を対象に実習できた学生は、看護実践や記録、相談や指導を受けるなど全てにおいて積極的に臨んでおり、動機づけや意欲が非常に高かったと感じた。

③ 新型コロナウィルス感染症流行下において、新たに 2 医療施設と臨地実習施設として契約することができ、高齢者急性期、回復期、慢性期実習ができる環境が整った。このプロセスで、実習目標、実習方法を臨地実習指導者と共に再検討することができ、アフターコロナを見据えた新たな実習方法への移行過程を進められていると考える。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護系大学協議会	広報・出版委員会委員　2012-2014 年	
日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014 年～現在に至る
日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015 年～現在に至る
日本リンパ浮腫治療学会	評議員　2016-	2016 年～現在に至る
日本看護科学学会		1999 年～現在に至る
日本看護管理学会	選挙管理委員会委員　2003-2005 年	2003 年～現在に至る
日本看護評価学会	編集委員会委員 2016 年- 編集委員会委員長 2021 年-	2011 年～現在に至る
日本循環器看護学会	学術委員会ワーキンググループメンバー2018-2020 年	2014 年～現在に至る
日本看護理工学会		2016 年～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
【著書】 なし				
【学術論文】 なし				
【報告書】 国際保健論 「文化的安全を守る看護　食事にまつわる患者ケア」	共著	2022 年 2 月 20 日	西南女学院大学 国際保健論	国際保健論で、受講者がそれぞれ患者の病態や文化的背景を設定し、文化的安全を守りながら患者の食事療法を支援する看護、サポートについてグラフィックレコーディングを用いて示し、プレゼンテーションしたものを収録したもの 看護学科２年生受講者 50 名、 溝部昌子
令和３年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究　コンテンツ報告書	共著	2022 年 2 月 28 日	千葉大学大学院看護学研究院	JSPS（A）「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドラインにおいて、1 年間、4 回のドイツシャリテ医科大学との国際セミナーの記録をまとめたもの 野地有子、野﨑章子,飯島佐知子,近藤真理,溝部昌子,小寺さやか,神島滋子,大友英子,浜崎美子,藤田比佐子,炭谷大輔,米田礼 A4 判 114 ページ 担当箇所の逐語録と、グラフィックレコーディングの収載
n Globe ガイドライン 2022 病院と看護の国際化ガイドライン-患者中心の看護実践のために-	共著	2022 年３月	千葉大学大学院看護学研究院	2017-2021 に行った上記研究成果として、看護国際化ガイドラインとして 12 の項目を図入り資料として示したもの 野地有子、野﨑章子,飯島佐知子,近藤真理,溝部昌子,小寺さやか,神島滋子,大友英子,浜崎美子,藤田比佐子,炭谷大輔,米田礼 A3 両面リーフレット
グラフィックレコーディング活動参加者の主観的体験の検討-説得モデルに基づく自記式質問紙（Web）調査及びインタビュー調査より-	共著	2022 年３月	西南女学院大学保健福祉学部保健福祉学研究所	グラフィックレコーディングを用いて学修した約200名を対象とした調査研究により、情報整理や理解のプロセスを明らかにし、ヘルスケアコミュニケーションへの活用可能性を検討するための基礎的研究の計画 溝部昌子,吉原悦子,金子由里,野地有子

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
看護総合演習・実習成果報告書 高齢者の薬物療法と看護	共著	2022 年 3 月 16 日	西南女学院大学保健福祉学部看護学科溝部ゼミ	高齢者の薬物療法について、薬物動態、服薬管理能力、高齢者特有の薬物療法、副反応について整理し論文作成したものと、グラフィックレコーディングを用いて事例検討や薬物療法指導案を作成したものを論文集としてまとめた 碇﨑春佳,小森遥,杉本愛弓,関瑞歩,長嶺恵里花,中村恵里香,溝部昌子 A4 判　p78
【学会発表】 The difficulties experienced by foreign patients in accessing to the healthcare in Japan	共著	Aug 19-20,2021	The 3rd Technological Competency as Caring in the Health Sciences (Webinar)	日本の病院に入院した外国人患者を対象に、提供された医療の質についてインタビュー調査を行った。患者が体験した問題は、医療従事者との言語的障壁、通訳を準備しなければならないこと、症状に対する注意が低下していること、インフォームドコンセントが不足していること、日本人患者への対応と異なること、保険の確認までの間診療が保留となることの6つに分類された。 Sayaka KOTERA, Satoko UENO, Ariko NOJI, Mari KONDO, Sachiko IIJIMA, Akiko MIZOBE, Hisako FUJITA, Eiko OTOMO, Yoshiko HAMASAKI
看護管理に活かす看護国際化ガイドラインの創出：国際標準と看護職の経験知の集約から	共著	2021 年 8 月 29 日	第 25 回日本看護管理学会学術集会（ハイブリット於：横浜）	国際化ガイドラインとして示した 12 項目について、参加者の FGD で意見を交換した。1 文化安全、2 職員構成、3 研修、4 多言語支援、5 通訳の能力査定、6 文化言語の情報収集、7 内部評価、8 苦情解決プロセス、9 外国人コミュニティ、10 文化対応、11 食事の配慮、12 宗教上の配慮 野地有子,飯島佐知子,溝部昌子,小寺さやか,近藤麻理,野崎章子,小林康司,浜崎美子,大友英子,別府佳代子

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
【学会発表】のつづき				
学生の実習レポートからみる施設入所高齢者がライフストーリーを語る意義-各施設にける学生の捉え方の特徴-	共著	2021 年 9 月 29 日	第 52 回日本看護学会学術集会（Webinar）	老年看護学実習における施設入所高齢者へのライフストーリー聴取で学生が得た学びを実習レポートからテキストマイニングにより分析したところ、高齢者のアイデンティティの強化、自己肯定感の強化、生活の活性化や維持につながると捉えたことが分かった 吉原悦子,金子由里,丸山泰子,溝部昌子
Nursing Strategies in a Multicultural Environment Ongoing Japan-Germany Online Case Study	共著	2021 年 10 月 21 日	The 13th International Nursing Conference2021（poster）	日本-ドイツ間で行っている看護における多文化対応セミナーでの事例検討について整理したもの。1 日本の婦人科診察におけるカーテンの使用、2 匂いが広がる食べ物の持ち込みや利用、3 文化に則った葬送儀礼への対応は、過去の調査研究から類型化された外国人患者の対応で困難と示された、生と死に関するもの、医療的処置に関するもの、生活に関するものから一つずつ代表する事例を選定した。互いの国での経験を共有し、組織的対応、個人的対応について検討した。 Ariko Noji, Ute Siebert,Mari Kondo, Akiko Mizobe, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Nosaki, Eiko Otomo, Yoshiko Hamasaki, Shigeko Kamishima, Hisako Fujita
Nightingale Challenge on International Collaborative Education for the Development of Young Nurse Global	共著	2021 年 11 月	ICN Congress 2021(Webinar)	日本の千葉大学とドイツのシャリテ医科大学が共同で行っている看護の国際化研修プログラムを COVID-19 パンデミックにおいて、オンラインでリアルタイムの研修を継続的に実施してきた成果について報告したもの Ariko Noji, Hisako Fujita1, Mari Kondo, Sachiko Iijima, Sayaka Kotera, Akiko Mizobe, and nGlobe

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
【学会発表】のつづき				
個別性のある看護尺度日本語版（J-ICS）の信頼性と妥当性の検討	共著	2020年12月	第41回　日本看護科学学会（横浜 ハイブリット）	医療の質の評価のうち、患者が入院中に個別性のある看護を受けたかについての視点が注目されており、patient-reported experience mesures日本語版の計量心理学的検討を行った。ｸﾛﾝﾊﾞｯｸα0.86であり、HCHAPSとの基準関連妥当性も確認された。 飯島佐知子,松岡光,野地有子,近藤麻理 ,小寺さやか,溝部昌子,藤田比左子,小山内泰代, 池亀俊美,塚本美晴,武田智子,大嶺千代美,須永桂子,今麗子,鈴木千晶,内藤俊夫,幅下貞美 ,岡美穂,三星彩香,小島友紀,坂美恵子,中村仁美,太田有香

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【招聘講演・講師】				
COVI-19 の経験が方向付ける新しい看護教育の姿-看護教育と新人教育にできることを考える-	単著	2021 年 5 月 19 日	第 6 回日本血管看護研究会特別講演 3 ,名古屋（Webinar）	溝部昌子 第 6 回日本血管看護研究会抄録集
Webinar 事例 2 「カリカリのトースト」事例提示、グラフィックレコーダー	共著	2021 年 7 月 17 日	n Globe 交流スタディ 2021 多文化環境と看護ケア　ドイツとの交流セミナー第 2 回	n Globe メンバー 溝部昌子 令和 3 年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究　コンテンツ報告書
新型コロナウィルス感染症流行下における看護基礎教育課程での対応と課題	共著	2021 年 9 月 16 日	2021 年度第 2 回西南女学院大学 FD 研修会	保健福祉学部看護学科教員, 溝部昌子
深部静脈血栓症の発生機序とリスク要因―ポケットエコーの活用を前提として―	単著	2021 年 9 月 18 日	日本血管看護研究会第 1 回 Zoom 勉強会	溝部昌子
看護国際化ガイドライン試作版 座長、グラフィックレコーダー	共著	2021 年 9 月 18 日	n Globe 交流スタディ 2021 多文化環境と看護ケア　ドイツとの交流セミナー第 3 回	n Globe メンバー 溝部昌子 令和 3 年度看護職の文化的能力の評価と能力開発・臨床応用に関する実証研究　コンテンツ報告書
グラフィックレコーディングの活用による学修効果への影響の検討	共著	2022 年 3 月 24 日	2021 年度保健福祉学研究所研究報告会	溝部昌子,吉原悦子,金子由里,野地有子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン（17H01607）	文部科学省科学研究費補助金 基盤（A） （H29-33）	代表：野地有子 （千葉大学） 研究分担者	分担研究者 200,000 円（R３）
看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-（20H03990）	文部科学省科学研究費補助金 基盤（B）	代表：○溝部昌子 （FY2020-2024）	910，000 円（R３）

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）				
（2）　個人研究				
研究題目		交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
グラフィックレコーディングの活用による学修効果への影響の検討		西南女学院大学保健福祉学部附属研究所研究費	141,000 円	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター	共同研究員	2015 年～1 年毎に継続更新中 研究会議出席　8 回 セミナー主催、運営 4 回
日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員	2015 年～ 2015 年～毎年 2015 年～毎年
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018 年度より ファーストレベル開講式出席 運営会議出席　3 回
日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	2020 年 12 月 1 日～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・国際交流委員会委員 ・紀要委員会委員 ・看護学科 1 年生アドバイザー ・看護学科研究推進委員会委員 ・研修会「岸智子先生とグラフィックレコーディングしよう」（2022 年 2 月 22 日）実行委員長

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　目野　郁子	職名　教授	学位　博士（医学）（九州大学 1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
病原微生物学　　免疫学	微生物　　感染症　感染対策　　ワクチン　抗体

研　究　課　題
・学生支援の一つとして、本学保健福祉学部１年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。 ・看護学科１年生を対象にオンライン講義における初年次教育プログラムについて教育効果の検証を行う。 ・保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。

担　当　授　業　科　目
感染と免疫（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（福祉・栄養） 初年次セミナーI（前期）（看護） 初年次セミナーII（後期）（看護） 微生物学（後期）（福祉）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【感染と免疫：看護】 ① 専門基礎科目のため、教科書とパワーポイントを使い感染症についての基礎的知識をわかりやすい言葉で説明した。また、新型コロナウイルス感染症など感染症についての最新情報を講義に取り入れた。 ② 昨年同様、早期から講義の復習を促す意味で小テストを２回実施した。 ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、今年度は、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。 ④ 講義内容がかなり多いため、講義で質問を受ける時間をとる、メールで質問を受けるなどの対応をした。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ① 受講動機が、"関心ある内容と答えた学生が 49.3%"と低いため、まず、興味関心をもってもらうことを一番とした。講義では、興味や関心をもてるように”日常生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて講義を行った。 ② 学生の復習の機会を早期からつくる目的で、昨年から実施した小テスト２回の導入を今年度も実施した。 ③ 講義への積極的な参加を促す一案として、今年度は、教員側から学生に質問をする、また、講義の振り返りとして、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。 ④ 講義の後半に必ず質問を受ける時間をとった。

授業科目名【生物と生命科学：福祉・栄養】

① 多くの学生が高校の時に文系コースで学んだと思われるため、講義では高校で学ぶ生物を基礎に、大学での講義に興味や関心がもてるように、”日常生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて講義を行った。また、講義内容を理解しやすいように、わかりやすい言葉・表現を使うよう心がけた。

② 学生の復習の機会を早期からつくる目的で、講義進行に合わせて小テストを 2 回実施した。また、ポイントの整理を提示して学びの振り返りを促した。

③ 講義への積極的な参加を促す一案として、教員側から学生に質問をする、また、講義説明後には、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。

④ また、講義の後半には、質問を受ける時間をとり学生の積極的な参加を促した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】

① 昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義 3 回目に学生の交流を図る場を１コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。

② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。

③ 担当教員 5 名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。

② 学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを 12 月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。

③ プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。

④ 発表時の評価は、担当者５名に看護学科教員１名を加えた計６名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。

⑤ プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【微生物学：福祉】

① オンライン講義であることを意識し、教科書の重要点をパワーポイントにまとめ、わかりやすい言葉で説明した。また、新型コロナウイルス感染症などの最新情報は積極的に講義に取り入れた。

② 教科書を用いて講義の振り返りを促すために、講義進行に合わせてポイントの整理を classroom にアップした。

③ また、小テストを２回実施し、試験後には試験結果と解説を行ない学生にフィードバックした。

④ 講義への積極的な参加を促す一案として、教員側から学生に質問をする、また、講義説明後には、学生にスライドを見ながら復唱してもらうなどの取り組みを行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会		1987 年 4 月～現在に至る
日本感染症学会		1996 年 4 月～現在に至る
日本小児保健協会		2000 年 4 月～現在に至る
日本環境感染学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016 年 4 月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1. オンライン講義による初年次教育の学修効果 - 批判的思考態度からみた看護学生の学び -	共	2022. 3	西南女学院大学紀要 vol.26 (in press)	① オンライン講義による初年次教育の学修効果を「批判的思考態度の修得」「学修行動目標達成状況」の側面から経時的に把握し検討した結果、学修行動目標の達成には論理的思考の強化とグループ学習を効果的に行うための主体的に取り組む姿勢「探求心」の育成が必要である。 ② 高橋甲枝, 目野郁子, 笹月桃子, 新谷恭明, 中原智美 ③ (in press)
（翻訳） なし				
（学会発表） 保健福祉学研究所報告会 1.女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022. 3	西南女学院大学保健福祉学部附属保健　福祉学研究所	① 女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ② 樋口由貴子, 目野郁子,　髙﨑智子, 水貝洵子,　山田恵, 大内田知英 ③ 2021年度西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告会 教育研究業績 （2021. 4. 1-2022. 3. 31日現在） 著書 0　（内訳 単 0　共 0） 学術論文 1（内訳 単 0　共 1） 報告書　0（内訳 単 0　共 0） 学会発表 0（内訳 単 0 共 0） 研究所報告会 1（内訳 単 0 共 1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学 保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 研究費	○樋口由貴子 目野郁子 髙﨑智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において，食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。	委員	2021年5月1日～2023年4月30日
・遠賀・中間地区保育協会の会員を対象に「感染症予防−予防接種について」というテーマでe−ラーニングによる研修を行なう。	研修会講師	2022年3月22日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

・人事委員会 委員長　2017年4月1日～ 現在に至る
・動物実験委員会委員　2016年4月1日～ 現在に至る
・保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る
・外部資金促進導入プロジェクト（統括管理責任者）　2021年4月～ 現在に至る
・看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当
　課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。
・ 学生の健康支援
　保健室と協働し保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　吉原　悦子	職名　　講師	学位　修士（看護学）大分大学 2007 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学 地域包括ケア	認知症高齢者のケア 地域貢献活動 実習における学生の学び

研　究　課　題
・認知症高齢者のケア ・地域活動に参加した学生の学び ・実習における学生の学び（高齢者理解について）

担　当　授　業　科　目
（前期） ・地域連携協働支援論 ・地域生活支援論 ・老年看護学演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護研究 ・高齢者支援学Ⅰ ・高齢者支援学Ⅱ（開講なし） （後期） ・老年看護方法論 ・看護学（栄養学科）（開講なし） （通年） ・老年看護学実習Ⅱ ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【地域連携協働支援論】 昨年と同様、自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージするような課題を提供した。毎回の講義での学びや質問を記載してもらい、次の時間に解説を行い、学生の気づきや疑問を表出しやすいようにした。学生の自由な発想を妨げないように、学生が提出した課題について発表を行い、共有した。講義の中で地域・看護・認知症・高齢者・障害者などのキーワードを柱とし、トピックスなどを交えて提供し、地域で生活する人々への幅広い視点を持てるようにした。途中、小テストを行い、学習状況の確認を行った。 講義開始時にシラバスを用い、評価基準や講義で課される課題について説明を行ってきたが、授業評価でシラバスを確認した学生の割合が少なかったため、複数回、丁寧に説明をする必要があると考える。今年度は、対面と遠隔併用での講義であったが、講義資料は余裕をもって事前にクラスルームに提示し、予習や印刷に時間がとれるようにした。講義の中ではできるだけ集中して取り組めるように、具体例をあげ、学生がイメージしやすいように話をし、興味や関心を持ってもらう工夫を行った。

授業科目名【地域生活支援論】

本科目は、必修科目である。2 年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるための知識・ケアを学ぶ科目である。そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。講義内容は様々な領域にわたるため、身近な具体例を用いながら関心を持ってもらうようにした。 昨年と同じく、講義終了後には出席カードにより、学びや質問を確認し、次の講義の際に説明を行った。4 コマ目には確認テストを行い、学習状況の確認を行った。 今年度は対面と遠隔での併用の講義であったため講義資料を余裕をもって提示し、予習や印刷が可能となるようにした。また、配布資料については、学生の意見を取り入れ、余白の量について検討した。課題以外の学習はほとんどの学生が行っていないが、毎回の課題をきちんと提出しており、課題によって復習や調べることにもつながっていた。講義後半については、対面講義であり、課題について学生同士で検討を行うことができるようにしていった。

授業科目名【老年看護学演習】

老年看護学概論・老年看護方法論をもとに演習を行った。前半、看護技術、後半は事例患者を用いて看護過程を行う際に、具体な視点を学生に伝えていった。看護過程では、教員の模範解答ではなく、学生自身が記載したものを元に解説を行った。事例については2年時の方法論でも触れており、老年特有の疾患で、対象理解を進めていった。事例患者をイメージしながら看護実践が行えるように関連性を持たせ、技術演習を行っていた。遠隔講義であったため、パソコンやタブレットなど複数の機器を使い、教員がリアルに看護実践を行う様子を映像として映し、伝えていった。特に安全面やプライバシーの配慮、十分に気を付けることが望ましい場面については、繰り返し伝えていった。さらに、ユニ・チャームの出張講義を活用し、おむつの開発側からの講義を行ってもらい、学生の視野を広げていった。

授業科目名【在宅看護学】

継続看護、地域包括ケアの部分を担当した。なぜ地域包括ケアが必要になったのかについて、社会的背景、制度を含めて解説した。学生は、昨年も臨地実習に行けておらず、疾患や後遺症などのイメージがつきにくく、これまで、各領域の概論や方法論で学んできたことを繰り返し、想起しながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を具体的に実際のやり取りや身近な話題を組み込みながら伝えた。

授業科目名【在宅看護学演習】

在宅看護学を踏まえながら、演習を行っていった。特に看護過程では在宅の特有の視点と特徴を踏まえることができるように指導を行った。今年度は、家庭訪問の場面や実際のケア場面をロールプレイし、実習と関連付けておこなった。自己課題が進まない学生については、担当教員で個別に指導を行った。在宅看護では、いろんな世代を対象とするため、演習内容も幅広いことや看護師だけでなく、多職種と連携する必要や家族への視点も重要であり、特に意識して伝えた。疾患を治療することだけでなく患者さん本人と家族の可能な限り望ましい生活に近づけるための援助を伝えていった。

授業科目名【看護研究】

本講義は5名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで構成している。研究計画書の作成から簡易的な調査を実施し、抄録を作成し、発表する一連の流れを行っている。初めて行う作業であり、学生はイメージがつかないまま、グループワークを行っていることも多く、具体的にどう進めていくのか考え方を説明した。特にオンラインでのグループワークを行ったため、学生間の困りごとにも耳を傾け、修正を行った。

授業科目名【看護総合演習・実習】

今年度は6人の学生を担当した。看護総合演習・実習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。しかし、今年度も臨地の実習は難しく、実践はできなかった。しかし、今年度より、新規の実習場を開拓し、地域での困りことや地域支援の視点での実習を行うことができた。また、実習先の職員へのインタビューなどを行い、高齢者支援の理解を深めることができた。

授業科目名【老年看護学方法論】

高齢者のリハビリテーション、認知症、高齢者に起こりやすい症状とケアについて担当した。基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な実習場面を盛り込

み、講義を行った。しかし、昨年は遠隔での講義であったため、1 年生での復習の部分も取り入れ、形態機能学や概論などとの関連科目とのつなぎを行いながら講義を行った。特に認知力の低下した高齢者については一般的なかかわりの原則は理解しているが、実習中のエピソードなどを取り入れることで、具体的な場面をイメージしながら講義を聞くことができた。また、講義ごとに質問や学びの意見を収集し、次の講義で解決し、さらに追加の解説を行っていった。

授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】

3 年生後期から 4 年生前期にかけての実習である。この実習では、高齢者施設での実習であり、コロナ感染対策のため、学生の施設への立ち入りはできなかった。しかし、教員の施設への立ち入りを許可していただき、オンラインで療養者と学生をつなぎ実習を行った。しかし、画面上では、療養者の全体像が見えにくい実習であるため、学生の考えや捉え方を十分に確認することや職員へのインタビューを行いながら療養者の生活の全体が把握できるように行った。また、訪室する時間帯を変えて食事の様子や他の入居者とのかかわり、歩行状態や施設の設備などをオンラインでつなぎ、学生が施設に入所する高齢者の生活を環境も含め把握できるために工夫した。高齢者は難聴や認知力の低下がありオンラインでのコミュニケーションは難渋したが、パソコンやスピーカーなどを使用し、出来るだけ直接やり取りができるようにかかわった。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。オンラインの中でも一緒に歌を歌ったり、折り紙を折るなどの気分転換活動へのケアも提供できた。また、学生の主体性や積極性を育むためにも学生自身の 1 日の組み立てに沿って、実習を展開するように行い、学生の学びにつながったと考える。

コロナ禍における実習のため、教員は、毎回の実習開始前には PCR 検査にて陰性を確認した後、実習施設への入館を行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本科目は、保健福祉学部 3 学科合同の科目であり、アクティブ高齢者への支援について、講義と PBL（事例検討）を通して検討した。本年度は遠隔授業で実施しため、例年以上に、学生の内容 理解を助けられるよう、説明方法や提示資料を工夫した。特に看護学科以外の学生の理解が進み、その後の PBL においても、ディスカッションがスムーズに進むように働きかけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4～現在に至る
日本老年看護学会		2003.4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4～現在に至る
日本看護科学学会		2008.6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016.5～現在に至る
血管看護研究会		2021.11～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 施設入所高齢者がライフストーリーを語る意義について学生が捉えた施設別の特徴―実習レポートの分析から―	共	2021年11月	第 52 回日本看護学会学術集会	①高齢者施設実習において学生が入居高齢者のライフストーリーを聞き取り、高齢者が語る意義について書かれたレポートを分析し、施設別の特徴を明らかにした。頻出語についてそれぞれの施設で特徴があった。 ②吉原悦子、金子由里、溝部昌子、丸山泰子 ③第52回日本看護学会講演集（P230）
（その他） グラフィックレコーディングの活用による学修効果への影響の検討	共	2022年3月	2021 年度保健福祉学研究所研究報告会	溝部昌子, 吉原悦子, 金子由里, 野地有子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
看護師による POCUS 活用に関する研究―DVT予防対策と安全なケアへの効果―	文部科学省科学研究費補助金 基盤（B）	○溝部昌子、吉原悦子、金子由里	910，000円（R３）
グラフィックレコーディングの活用による学習効果への影響の検討	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○溝部昌子、吉原悦子、金子由里	141,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市障害支援区分認定審査会 第７回血管看護研究会	委員 実行委員	2021 年 4 月～現在まで 2022 年 5 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・情報システム管理運用委員　2020.4～2022.3 ・地域連携室員　2020.4～2022.3 ・看護学科 3 年生アドバイザー　2021.4～2022.3 ・看護学科物品係　2021.4～2022.3 ・模擬講義（高稜高校）2021.10.19 ・認知症サポーター養成講座（看護学科、福祉学科合同）2021.1.14

福　祉　学　科

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　荒木　剛	職名　准教授	学位　博士（保健福祉学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研　究　課　題
・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践の在り方 ・社会福祉士養成教育における実習の在り方

担　当　授　業　科　目
福祉入門（1 年次通年）、介護技術演習（1 年次後期）、高齢者福祉論（2 年次通年）、相談援助実習指導Ⅰ（2 年次通年）、相談援助演習Ⅱ（2 年次前期）、相談援助演習Ⅲ（2 年次後期）、高齢者支援学Ⅰ（2 年前期）、相談援助実習指導Ⅱ（3 年次通年）、相談援助実習（3 年次通年）、相談援助演習Ⅳ（3 年次前期）、相談援助演習Ⅴ（3 年次後期）、専門研究Ⅰ（3 年次通年）、専門研究Ⅱ（4 年次通年） 【不開講科目】 基礎実習（1 年次通年）、高齢者支援学Ⅱ（4 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【福祉入門】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生の社会福祉への動機や関心を高めることを主な目的としている。講義では、初学者である 1 年生が福祉課題の現状を理解するとともに、対人援助職の魅力とやりがいを実感できるよう、統計資料や DVD を活用するなどの工夫を行った。また、授業運営のマネジメントを担い、教授内容の検討や外部講師との日程調整を行った。
授業科目名【介護技術演習】 本科目は、外部講師（2 名）による介護技術の実技指導を主な内容としている。講義では、教授内容、授業環境や使用物品の準備などについて外部講師との調整を行った。また、単元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく、介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。
授業科目名【高齢者福祉論】 本科目は、社会福祉士指定科目である。講義では、教科書を中心としたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けるとともに、遠隔授業であることを考慮した展開を行った。また、講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 本科目は、社会福祉士指定科目であり、相談援助実習（3 年次）の実施に向けた準備学習を主な内容としている（高齢者福祉領域と地域福祉領域を担当）。講義では、自己学習とグループ学習を通して、実習領域、施設、利用者理解が深まるよう努めた。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】

本科目は、社会福祉士指定科目であり、相談援助実習（3 年次）の事前および事後指導を主な内容としている（高齢者領域福祉を担当）。実習前には、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、学生の動機づけを行った。実習後には、個別面談、報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。また、昨年度同様に新型コロナウィルスの影響で実習時期・期間にばらつきが出たため、各人の状況に応じた指導を行った。

授業科目名【相談援助実習】

本科目は、社会福祉士指定科目であり、福祉施設・事業所において学外実習（180 時間）を行うものである（高齢者福祉領域を担当）。実習を実施するに当たり、実習指導者との連絡調整を密に行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、昨年度同様に新型コロナウィルスの影響で実習時期・期間にばらつきが出たため、各人の状況に応じた対応を行った。

授業科目名【相談援助演習Ⅱ】

本科目は、社会福祉士指定科目の１つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法、記録などについて教授した。また、遠隔授業であることを考慮した授業展開を行い、教育効果の担保に努めた。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】

本科目は、社会福祉士指定科目の１つである。講義では、要支援高齢者の事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、遠隔授業であることを考慮した授業展開を行い、教育効果の担保に努めた。

※相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは、学生４グループに対して、教員５名がローテーションで授業を行うため教授内容と展開方法は同じ。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本科目は、保健福祉学部３学科による合同講義である。内容は、アクティブ高齢者への支援について、講義と PBL（事例検討）を通して検討するものである。講義では、遠隔授業であることを考慮した資料作成や説明を行った。また、PBL においても、学生の議論が活発化するよう展開方法を工夫した。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を深め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。学生指導においては、コミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会		1998 年 4 月～現在に至る
日本社会福祉学会		2002 年 3 月～現在に至る
日本地域福祉学会		2007 年 3 月～現在に至る
日本介護福祉学会		2007 年 3 月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2008 年 1 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市社会福祉協議会（権利擁護・市民後見センター運用委員会）	委員	2009 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会（福祉人材バンク事業運営委員会）	委員	2012 年 4 月～2020 年 3 月
北九州市社会福祉協議会（総合企画委員会）	委員	2018 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園（評議員会）	評議員	2017 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人北九州市福祉事業団（評議員会）	評議員	2021 年 6 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019 年 4 月～現在に至る） 地域連携室室長（2021 年 4 月～現在に至る）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　稲 木　光 晴	職名　教授	学位　博士（体育科学）（筑波大学，1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学	持久性パフォーマンス、トレーニング、栄養

研　究　課　題
長距離走者の競技力向上に関する研究

担　当　授　業　科　目
運動と健康（前期）（看護学科）
運動と健康（前期）（福祉学科）
チームスポーツ（前期）（看護学科）
チームスポーツ（前期）（福祉学科）
チームスポーツ（前期）（栄養学科）
チームスポーツ（前期）（英語，観光文化学科）
生涯スポーツ（後期）（看護学科）
生涯スポーツ（後期）（福祉学科）
生涯スポーツ（後期）（栄養学科）
生涯スポーツ（後期）（英語，観光文化学科）
運動処方論（後期）（福祉学科）
専門研究Ⅰ（前・後期）（福祉学科）
専門研究Ⅱ（前・後期）（福祉学科）
母性の運動科学（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【運動と健康】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. google form で作成した様式を用いて、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに前回の復習と質問についての回答を行った。
授業科目名【チームスポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。
授業科目名【生涯スポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。

授業科目名【運動処方論】

1. 学生の理解度をチェックしながら授業を進めた。
2. google form で作成した様式を用いて、授業内容についての理解度を確認し、また授業内容に関する質問を受け付けた。授業のはじめに前回の復習と質問についての回答を行った。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

1. 様々な健康や体力に関連する記事や動画を用いて、興味関心の幅を広げた。
2. 記事や動画内容についての理解度を確認し、また知らなかった用語等について調べさせ、より多くの知識を獲得できるよう促した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

1. 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。
2. 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。

授業科目名【母性の運動科学】

1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。
2. 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999 年～）	1988 年 4 月～現在に至る 1993 年 4 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
日本高等教育評価機構 北九州市立浅生スポーツセンターマラソン教室	評価員 アドバイザー	令和３年度 2021年4月1日～2022年3月31日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
福祉学科長 人事委員 衛生委員 保健福祉学研究所　運営委員 西南女学院　評議員

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　今村　浩司	職名　教授	学位　修士（福祉社会）（福岡県立大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス（精神保健福祉）領域におけるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス（精神保健福祉）、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研　究　課　題
メンタルヘルス領域における地域生活支援に関しての研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関しての研究 精神保健福祉士の専門性向上に関しての研究 精神障害者の成年後見に関しての研究 触法障害者・高齢者の地域定着に関しての研究 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

担　当　授　業　科　目
ソーシャルワークの基盤と専門職（福祉学科１年前期必修２単位） ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）（福祉学科１年後期必修２単位） 福祉入門（福祉学科１年前期必修２単位） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（福祉学科３年前期選択４単位） 精神保健学（福祉学科３年後期選択４単位） 精神障害者地域生活支援論（福祉学科４年後期選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（福祉学科３年通年選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（福祉学科４年通年選択２単位） 精神保健福祉援助演習Ⅰ（福祉学科２年後期選択１単位） 精神保健福祉援助演習Ⅲ（福祉学科４年後期選択１単位） 精神保健福祉援助実習Ⅰ（福祉学科３年選択４単位） 精神保健福祉援助実習Ⅱ（福祉学科４年選択４単位） ボランティア概論（保健福祉学部の看護学科・福祉学科・栄養学科１年前期選択１単位） ボランティア概論（人文学部の英語学科・観光文化学科１年前期選択１単位） 専門研究Ⅰ（福祉学科３年通年必修２単位） 専門研究Ⅱ（福祉学科４年通年必修２単位）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【ソーシャルワークの基盤と専門職】【ソーシャルワークの基盤と専門職（社会専門）】 福祉学科１年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。本年度より新カリ移行で、通年講義から半期ごとでの単元に変わった。本年度も一部webによる講義になったが、毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、高等学校の福祉科教諭やスクールソーシャルワーカーの現任者をwebにてゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパー的な機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。

授業科目名【福祉入門】

対人サービスを行う福祉専門職養成のために、福祉学科4名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供し、①障害福祉、②司法福祉、③低所得者福祉、④子ども家庭福祉、⑤災害福祉を担当した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。本年度も一部webによる講義になったが、リアクションペーパー的な機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】

精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。本年度も一部webによる講義になったが、リアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健学】

精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士を受験をしない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。本年度も一部webによる講義になったが、毎時間リアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神障害者地域生活支援論】

精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。本年度も一部webによる講義になったが、毎時間リアクションペーパー的な機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】

精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。本年度も一部webによる講義になったが、実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】

上記同様3人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。本年度も一部webによる講義になったが、実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】

精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。本年度も一部webによる講義になったが、次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】

精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。本年度も一部webによる講義になったが、特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。

授業科目名【ボランティア概論】

人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、全てwebではあったがさまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

24 名のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等のwebによる施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、web による参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

16名のゼミ生に対して専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生のダブル合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年4月～2020年3月）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書　等） 1.「入門　社会保障」	共	2021年5月	ミネルヴァ書房	①　社会福祉士・精神保健福祉士養成の「社会保障」に関する専門書である。 ②　編集　川村　匡由 ③　担当部分「社会保障制度の体系」における第1節「医療保険制度」(p.83～p102)を担当した。 ④　総頁数　250頁　A4版
2.「入門　保健医療と福祉」	共	2022年3月 （発行予定）	ミネルヴァ書房	①　社会福祉士・精神保健福祉士養成の「保健医療と福祉」に関する専門書である。 ②　編集　川村　匡由 ③　担当部分　第3章　医療保険制度「1　医療サービス（国民医療費の内訳とその動向）、2　医療費の自己負担や保険料の減免制度、高額療養費制度、無料低額診療、3　労働者災害補償保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度(30頁分)を担当した。 ④　総頁数　240頁　A5版 （入稿済み、発行待ち）
3.「医療ソーシャルワーク実践テキスト」	共	2021年9月	日総研出版	①　医療ソーシャルワークにおける臨床実践的テキストである。 ②　編集　日本医療ソーシャルワーク学会 ③　担当部分　第1部　医療ソーシャルワークの基礎　第5章　社会資源の活用　3　更生保護（刑余者の社会復帰のための社会資源）を担当した。 ④　総頁数　239頁　A4版

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（論文・総説・報告等） 1.「熱心な統合失調症の人への後見支援の実践研究」	共	2022年1月	「実践　成年後見№96」民事法研究会	① 統合失調症の方に対する成年後見制度利用の支援の実践を、精神保健福祉士の視点でまとめた実践報告である。 ② 民事法研究会発行 ③ 担当部分　特集　統合失調症の人と成年後見（8）熱心な統合失調症の人への後見支援の実践研究」（84頁～93頁）を担当した。 ④ 総頁数　148頁
（学会発表等） 1.「新型コロナウイルス感染症の流行下における臨床及び学内・リモート実習併用実施に関する教育実践報告 -2020・2021年度の実習を通してみた実習教育に関する一考察 -」	共	2022年3月	日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック精神保健福祉士養成教育・研究部会研修会（熊本学園大学担当　Web開催）	① 本学の精神保健福祉士養成レーンの、新型コロナウイルス感染症の流行下における臨床及び学内・リモート実習併用実施に関する教育実践をまとめて報告した。 ② ○今村浩司　高口恵美　梶原浩介

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月～2020年3月
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協議会	代表世話人	2006年4月～

北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006年4月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013年4月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）　精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014年6月～2021年3月
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016年8月～
北九州市社会福祉協議会	評議員	2021年3月～
中間氏社会福祉協議会	評議員	2021年3月～

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学・短期大宅部　入試部長　学生募集委員長
西南女学院大学・短期大学部　地域連携室　室員
教員免許状更新講習講師
西南女学院大学　精神保健福祉研究会　顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）
福祉学科　精神保健福祉士養成レーン　担当

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　上村　眞生	職名　　准教授	学位　博士（教育学）（広島大学 2012 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研　究　課　題
・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・保育者の研修効果に関する研究 ・保育者のストレスマネジメント ・幼児の言葉に関する研究

担　当　授　業　科　目
保育原理（前期） 子どもの理解と援助（前期） 保育内容　環境（前期） 保育内容の理解と方法Ⅲ（前期） 保育課程論（後期） 保育内容　総論（前期） 保育内容　ことば（後期） 保育内容の理解と方法Ⅳ（後期） 保育実習Ⅰ（通年） 保育実習Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅰ(通年) 保育実習指導Ⅱ(通年) 保育実践演習（通年） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生のよる発表に加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開方法について教授を行った。

授業科目名【保育課程論】

保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障害のある子どもの保育に展開についても解説した。

授業科目名【保育内容　環境】

保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。

授業科目名【保育内容　総論】

保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

授業科目名【保育内容　ことば】

保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。

授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】

保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。

授業科目名【保育実践演習】

保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4 年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。

授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】

保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。

授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】

実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1 日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	２００５年６月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	２００６年７月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	２００７年８月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	２００９年５月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	２０１８年５月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
学習管理システム(Learning Management System)を用いた保育者の研修に関する研究	単	2022年	西南女学院大学紀要	①本研究では、保育者が常時受講可能な研修システムの開発を行い、その研修受講後にどのような認識を有するかについて明らかにし、保育者にとって有意義な研修とはどのようなものかについて検討した。今回LMSを用いた研修を通して、保育者は自身の資質・専門性の向上を実感し、一定の研修効果が得られたことが明らかとなった。 ②P25-32

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 (松本 博雄) (水津 幸恵) (片岡 元子) (中西 さやか) (岡花 祈一郎) (大野 歩) (越中 康治) (佐藤 智恵)	200,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001 年 4 月～
・福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター	2018 年 4 月～
・福岡県保育士等キャリアアップ研修	指定講師	2017 年～
・北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会専門委員	専門委員	2020 年 4 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・情報システム管理運用委員　2017 年 4 月 1 日～現在に至る ・PHOTO 部　顧問　2010 年 12 月 14 日～現在に至る ・FD 委員　2018 年 4 月～2021 年 3 月まで ・学生募集委員　2019 年～現在に至る ・WEST 管理責任者　2018 年 4 月～現在に至る

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　岡　田　和　敏	職名　　教　授	学位　修士（社会学）（佛教大学　1984年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研　究　課　題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担　当　授　業　科　目
医療福祉論　（2年前期） 福祉行財政と福祉計画（3年前期） 社会福祉特講（4年後期） 相談援助演習　Ⅰ（1年後期） ソーシャルワーク演習（1年後期） 相談援助演習　Ⅱ（2年前期） 相談援助演習　Ⅲ（2年後期） 相談援助演習　Ⅳ（3年前期） 相談援助演習　Ⅴ（3年後期） 相談援助実習指導　Ⅰ（2年前・後期） 相談援助実習指導　Ⅱ（3年前・後期） 相談援助実習（3・4年） 専門研究　Ⅰ 専門研究　Ⅱ 社会福祉概説（栄養学科Bクラス2年後期） 社会福祉概説（栄養学科Aクラス2年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　医療福祉論　】 医療が身近な問題であることを認識し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性について基礎的な理解ができるよう説明するとともに、医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。
授業科目名【福祉行財政と福祉計画】 社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。 また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。

授業科目名【社会福祉特講　Ⅱ】

『福祉行財政と福祉計画の動向』

社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画における制度・政策の最新動向について講義を行った。

『保健医療施策の動向』

保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。

授業科目名【　ソーシャルワーク演習　】

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を理解したうえで、1. ソーシャルワーカーとして求められる基礎的な能力、2. ソーシャルワークの価値規範と倫理、3. ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術について、実践的に学ぶことを基本として、学生とのコミュニケーションを取りながら学ばせた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅱ】

ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践について考えさせる形で学ばせた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅲ・Ⅳ　】

問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅴ　】

地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅰ　】

医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅱ　】

他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。

コロナ禍により実習が年度内に行えてない者がおり､学年を越えて実習可能となるよう個別に対応している。

授業科目名【　相談援助実習　】

学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。

配属先が感染者を出し受入れが中断している。その為、実習先の変更で調整している。

授業科目名【　専門研究　Ⅱ　】

専門研究Ⅰから各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。

授業科目名【　社会福祉概説　B,A 】

社会福祉の理論、制度・政策、援助技術などの基礎知識について、さらに、社会福祉の各領域の動向及び現状についても解説した。

専門職の連携と云うが、医療、福祉領域での栄養士、管理栄養士の役割は他の専門職とともに重要な存在であり、人に関わる専門職として社会福祉の知識と技術は重要なものであるとできるよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1990 年 10 月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1985 年 4 月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会		1998 年 6 月～現在に至る
日本医療社会社会福祉協会		1998 年 4 月～現在に至る
日本医療ソーシャルワーカー協会		2010 年 9 月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 4 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） （その他）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
福岡県鞍手町地域福祉計画策定委員会	委員長	2020年10月28日～2022年10月27日
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2021年5月～2022年3月31日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人　北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2021年4月1日～2024年3月31日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月～現在に至る
社会福祉法人　敬寿会	理事	2021年6月～2023年6月
特定非営利法人　生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る
社会福祉法人　療養介護事業所「ひなた家」	理事	2021年6月15日～2023年6月14日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
①　附属図書館長　2020年4月1日～2022年3月末日 ②　図書委員会委員 ③　ITK（イラスト制作）顧問

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　梶 原 浩 介	職名　　講 師	学位　博 士(社会福祉学) (熊本学園大学 2017年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社 会 福 祉 学	家族福祉、子ども福祉、ファミリーソーシャルワーク、ソーシャルワーク

研　究　課　題
地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族１人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究を用いて考察する。家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。

担　当　授　業　科　目
保健福祉学入門（1 年次前期）
ソーシャルワーク演習（1 年次後期）
精神保健福祉に関する制度とサービス（2 年次前期）
地域福祉論（2 年次通年）
精神障害者の生活支援システム（2 年次後期）
相談援助演習Ⅲ（2 年次後期）
相談援助演習Ⅳ（3 年次前期）
相談援助演習Ⅴ（3 年次後期）
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（3 年次通年）
精神保健福祉援助実習Ⅰ（3 年次通年）
専門研究Ⅰ（3 年次通年）
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（4 年次通年）
社会福祉特講Ⅱ（4 年次後期）
精神保健福祉援助実習Ⅱ（4 年次通年）
専門研究Ⅱ（4 年次通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保健福祉学入門】 本科目は看護学科、福祉学科、栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。そのうち福祉学科教員として、福祉の実践現場でおこなわれる支援者間の協働の事例をもとに福祉専門職の価値・専門性について学生の理解を促した。
授業科目名【ソーシャルワーク演習】 近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解については、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。

授業科目名【精神保健福祉に関する制度とサービス】

メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。

授業科目名【地域福祉論】

地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。

授業科目名【精神障害者の生活支援システム】

精神障害者の生活支援の意義と特徴およびそれに関する制度と施策、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】

本科目は、社会福祉士指定科目の１ つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】

福祉学科３年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】

福祉学科 4 年生を対象にした実習科目。3 年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4 年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で､学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。

授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】

本科目は、4 年次の開講科目であり、社会福祉士国家試験対策としての位置づけもある。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	正会員（2014 年 6 月～現在に至る） ・九州地域部会事務局・事務局員（2018 年 6 月～現在に至る）	2014 年 6 月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員（2019 年 6 月～現在に至る） ・全国大会第 36 回年次大会 事務局・実行委員(2021 年 4 月～現在に至る)	2019 年 6 月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員（2014 年 7 月～現在に至る）	2014 年 7 月～現在に至る

日本学校ソーシャルワーク学会	正会員（2012 年 5 月～現在に至る） ・全国大会第 15 回熊本大会 事務局・運営委員(2021 年 5 月～8 月迄)	2012 年 5 月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 「第 4 章 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題」	共　著	2021 年 5 月	ミネルヴァ書房・『入門 地域福祉と包括的支援体制』・1-171 頁	担当章では,まず地域社会の概念と理論を概観した.次に,日本の人口動態の推移や過疎化,都市化,地域間格差等の現状を理解した.そして,地域住民が抱える地域生活課題の現状と課題について説明できるようになることを目標に学習内容を構築した.近年,問題視される地域生活課題の背景には社会的孤立や社会的排除,セルフネグレクトの問題が潜んでいる.担当章を通し,主に公式な統計資料などをもとに近年の地域生活課題の現状と課題について理解を深められる内容を目指した.(213 字) （著者）川村匡由,豊田宗裕,小野篤司,岡部由紀夫,松永尚樹,倉持香苗,梶原浩介 , 山村靖彦,石田路子,谷川和昭 （担当頁）第 4 章を担当.
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興会	研究代表者(○本郷秀和)、分担研究者(鬼崎信好、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、田中将太、島崎剛)、梶原浩介	4,420,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興会	2,210,000 円	
新型コロナウイルス感染症の流行下における生活困窮者、ひきこもり当事者・家族が抱える生活の現状・課題に関する実態把握調査	厚生労働省 2021 年厚生労働省補助事業 コロナ禍と孤立を乗り越える居住支援事業	―	※2021 年(令和 3)年 9 月全国居住支援ネットワークより調査研究について委託。

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員会	調査研究班	2014 年 11 月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014 年 5 月～現在に至る
福岡県精神保健福祉士協会	会員	2019 年 12 月～現在に至る
実習指導委員会	委員	2021 年 4 月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2019 年 12 月～現在に至る
北九州市民カレッジ企画運営委員	企画運営委員	2019 年 12 月～現在に至る
北九州市福祉事業団 福祉サービス苦情解決体制・第三者合同委員会	専門委員	2021 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター 運営委員会	運営委員	2021 年 4 月～現在に至る
NPO 法人障害者支援要会 カフェ・ラポール	監事	2021 年 6 月～現在に至る
北九州市発達支援センターつばさ・ケース検討会	アドバイザー	2021 年 7 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
地域連携室　2020 年 4 月　～　現在に至る
・室員　　2020 年 4 月　～　現在に至る
国際交流委員会　2021 年 4 月　～　現在に至る
・委員　　2021 年 4 月　～　現在に至る
学生アドバイザー　2019 年 4 月　～　現在に至る
ハラスメント相談員　2021 年 4 月　～　現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　金谷　めぐみ	職名　　講師	学位　修士（芸術学）（日本大学 2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽 子どもの音楽表現 発声法	讃美歌 音楽表現 声楽技術

研　究　課　題
キリスト教の礼拝における音楽の歴史をたどり、音楽の役割について考察する。 子どもの音楽表現について研究し、子どもの発達に適した指導法を検討する。 歌唱における発声法を検討する。

担　当　授　業　科　目
保育内容・表現（前期）（福祉学科） 保育内容の理解と方法Ⅰ（前期），保育内容の理解と方法Ⅱ（後期）（福祉学科） 保育実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 保育実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科） 保育実習１（通年）（福祉学科） 保育実習Ⅱ（通年）（福祉学科） 初年次セミナーⅠ（前期），初年次セミナー Ⅱ（後期）（福祉学科） キリスト教と西南女学院のあゆみ（前期１回）（大学全学科） キリスト教と文化（後期２回）（大学全学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容・表現】（遠隔授業） 保育所保育指針解説を用いて、表現領域以外の他領域をふまえた表現に関わる事項について解説し、保育内容における総合的な理解を深められるよう工夫した。子どもの表現を引き出すための表現の可能性について事例を用いて検討し、表現について学びを深めた。演習では、子どもの発達と活動の目的に適した指導案を作成させ、全員で検討した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅰ】（遠隔授業） 授業実施にあたって、学生の手指が画面に映るよう、機器の置き場所を的確に指示した。演奏表現の指示については出来るだけ曖昧な表現を避け、具体的な表現を用いて学生に伝わる説明を心がけた。歌唱指導では、画面を通しても表情豊かに歌えるよう、姿勢、顔の表情、音程および歌詞の発音の仕方などを指導した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 ピアノ奏法は、主に演奏時の姿勢、手指のフォームについて指導を行った。毎回の課題内容を具体的に伝え、ノートに記録させることで自主練習の効率化を図った。歌唱では、感染対策のためマスクを着用しながら、呼吸、姿勢を意識して歌うための指導を行った。子どもの歌のレパートリーを増やすだけでなく、季節の合唱曲を取り入れて様々な曲を歌う機会を設けた。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ】（遠隔授業） 実習先の理解について学習を行ったうえで、実習の現場で行う保育を想定し、オンライン上で指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行った。発表者の改善すべきところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。また、指導案作成においては、繰り返し個別の指導を行うことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。

授業科目名【保育実習指導Ⅱ】（遠隔授業） 「保育実習指導Ⅰ」に引き続き、実習先の理解について学習を充実させた。そのうえで実習の現場を想定した指導案の作成および設定保育の発表を行った。また外部講師の講義を設け、子どもの具体的な支援方法について学習し、保育現場における子ども理解について、実習生としての学びを深めることがきるよう工夫した。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】（遠隔授業） 高校と大学での学習内容の違いについて説明し、前期の授業レポート課題に対応できるよう、レポート作成の手順について解説した。資料の収集および文献引用について具体例をあげながら丁寧に説明し、レポートを書くための基本的なルールについて理解を深められるよう工夫した。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】（対面＋遠隔授業） 初年次セミナーⅠで学んだ内容をもとに、授業レポート課題に対応できる授業を行った。日常生活における身近な疑問や問題、課題をテーマとして、調べた事柄を整理し、問題意識をもって発表するなど、セミナーⅠとの関連性をもって学習できるよう工夫した。
授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】（動画配信１回担当） 西南女学院でキリスト教を学ぶ意義について考え、キリスト教における賛美の意味、讃美歌の成り立ちについて解説した。西南女学院ゆかりの讃美歌を選曲し、讃美歌の作曲者作詞者について解説した。讃美歌担当教員が演奏し、録音した音源を配信し、実際に曲をイメージできるよう工夫した。
授業科目名【キリスト教と文化】（遠隔２回担当） キリスト教の歴史における宗教改革以前および以後の教会音楽について解説した。教会暦に添って作られた礼拝の音楽について解説し、西洋におけるカトリック教会、ロテスタント教会の音楽および日本における讃美歌の成り立ちおよび課題について解説し、教会音楽について考察できるよう工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本演奏連盟 日本保育学会 日本声楽発声学会 日本音楽療法学会		2009年12月～現在に至る 2012年10月～現在に至る 2013年～現在に至る 2018年3月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共著	2021年6月	ミネルヴァ書房	保育士, 幼稚園教諭,保育教諭, 小学校教諭をめざして学ぶ学生にとって、すぐに調べることのできる用語辞典であり、基本的事項や最新動向を網羅している。 執筆担当項目：p.359「数量・図形、文字等への関心・感覚」、p.359「豊かな感性と表現」
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（資格取得）				
リトミック指導者資格 （ディプロマ取得）		2022年3月	特定非営利活動法人 リトミック研究センター福岡第一支局	リトミック指導者養成において指導者養成コース特別課程を修了した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
苅田キリスト教会 国立音楽大学同調会北九州支部 ふたば保育園	奏楽者 副支部長 リトミック講師	2006年～現在に至る 2011年4月～現在に至る 2018年6月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
懇親会委員 合唱サークル　クールベルフィーユ顧問 西南女学院ハンドベル部顧問 大学・大学短期大学部チャペルの賛美指導 新任研修会講師 クリスマス礼拝指揮、合唱賛美指導、独唱 聖書学課の奏楽・賛美

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　木村　茂喜	職名　　准教授	学位　修士（法学）（九州大学　1997 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、犯罪をした者、自立支援

研　究　課　題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

担　当　授　業　科　目
法学(前期)(看護学科) 法学(前期)(福祉学科) 法学(前期)(栄養学科) 日本国憲法(後期)(看護学科) 日本国憲法(後期)(福祉学科) 日本国憲法(後期)(栄養学科) 社会保障論(通年) 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI(前期) 初年次セミナーII(後期) 専門研究 I(通年) 社会福祉特講 II（集中）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【社会保障論・公的扶助論・司法福祉論】これら科目について、2021 年度も 2020 年度に引き続きすべて遠隔授業で行うことになったことに伴い、以下の工夫を行った。 ①配布レジュメ・資料を講義前日までに Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が事前にダウンロードすることを可能にした。対面授業の配布レジュメではキーワードや重要な語句を学生に書き込ませていたが、遠隔授業の配布レジュメについては、学生の通信環境が不安定になるおそれがあることを想定して、キーワードや重要な語句はあらかじめレジュメに記載した。 ②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表等を多用して講義を行った。また、スマホで講義を受けている学生がいることを想定して、文字の小さな図表の使用は極力避けた上で、スライドの文字を対面授業より大きめのポイントで作成した。 ③講義時間が 100 分となったことに加え、パソコン・スマホの画面を長時間見ることによる疲労を考慮して、途中 10～15 分程度の休憩を入れた。 ④講義内容の理解度の確認のため、講義途中（休憩前）と講義終了後の 2 回、Google Form を使った確認テストを実施した。確認テストは出席確認に用いたほか、成績評価に加えた。 ⑤講義終了後、出席確認と学生の理解度の確認を兼ねて、Google Classroom を用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。

授業科目名【法学・日本国憲法・権利擁護論】これら科目について、2021 年度は一部を除いて対面授業で行い、以下の工夫を行った。
①配布レジュメ・資料を講義前日までに Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が事前にダウンロードすることを可能にした。講義当日にレジュメ・資料を配布する際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。
②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。
③講義時間が 100 分となったことで、学生の集中力維持のため、途中 10 分程度の休憩を入れた。
④講義内容の理解度の確認のため、講義途中（休憩前）と講義終了後の 2 回、Google Form を使い、学生はスマホを用いて解答する確認テストを実施した。確認テストの結果は、成績評価に加えた。
⑤講義終了後、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。

授業科目名【法学】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。

授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を 2 回（前期末・後期末）行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。
生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【司法福祉論】2024 年度より改定される社会福祉士国家試験の試験科目である「刑事司法と福祉」の内容を踏まえ、犯罪と刑罰制度、施設内処遇・社会内処遇、医療観察制度、高齢・障害者による犯罪と福祉、犯罪被害者等支援など、幅広い内容で講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。

授業科目名【初年次セミナーI・初年次セミナーII】1 年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。
「初年次セミナーI」では、「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。
「初年次セミナーII」では、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1 クラスを 3 グループに分けて「ディベート」を行った。

授業科目名【専門研究 I】菊池馨実『社会保障再考―〈地域〉で支える』（岩波書店、2019 年）を講読し、現行の社会保障制度が抱える問題点やその解決方法としての相談支援と地域の再構築のあり方について、学生と積極的な議論を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～2017年3月) 企画委員(2018年10月～現在に至る)	1995年12月～現在に至る
日本労働法学会		1998年5月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月～現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月～現在に至る
日本障害法学会		2016年12月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員（会計監査担当）(2013年4月～2014年3月)	1995年4月～現在に至る
社会法判例研究会		1995年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 「犯罪をした知的障がい者の自立支援と社会保障法」	単著	2021年12月	日本社会保障法学会編「社会保障法」37号（法律文化社）	①犯罪をした知的障がい者が社会復帰し、自立するための支援を受ける権利について考察し、伴走型支援と多機関連携を中心に、犯罪をした知的障がい者の自立支援のために求められる法政策の方向性および自立支援のあり方について検討する。 ②163-174頁
（翻訳）				
（学会発表） 「犯罪をした知的障がい者の自立支援と社会保障法」	単独	2021年5月	日本社会保障法学会第76回大会（Zoomによるオンライン開催）	①犯罪をした知的障がい者が社会復帰し、自立するための支援を受ける権利について考察し、伴走型支援と多機関連携を中心に、犯罪をした知的障がい者の自立支援のために求められる法政策の方向性および自立支援のあり方について検討する。

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②日本社会保障法学会編「社会保障法」37号163-174頁（学術論文として掲載）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
「犯罪行為者の社会復帰と自立支援法理の構築」	日本学術振興会	1,200,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
放送大学　総合科目「社会福祉と法(20)」第8回～第10回	印刷教材執筆担当講師・放送教材担当講師	2020年4月～2024年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学生活協同組合　理事長　2021年6月1日～2022年5月31日 図書委員会　委員　2020年4月1日～2022年3月31日 フォークソング部　顧問 KOIKOI 顧問

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　杉谷修一	職名　　准教授	学位　教育学修士（九州大学　1990 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション、ゲーム

研　究　課　題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2)教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3)ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担　当　授　業　科　目
道徳教育の理論と実践（前期）（看護学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（福祉学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（栄養学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（英語学科） 社会調査の基礎（前期）（福祉学科） 教育原理（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（看護学科） 教育社会学（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（栄養学科） 教育社会学（後期）（英語学科） 社会学と社会システム（後期）（福祉学科） 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） 教職実践演習（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科） 養護実習（福祉学科） 養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科） 事前及び事後の指導（三期にわたる）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（福祉学科）） 専門研究Ⅱ（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　道徳教育の理論と実践　】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に着けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。 遠隔授業であったため、道徳教育の動画視聴、クラスルームを活用した指導案の添削指導などを心掛けた。

授業科目名【　社会調査の基礎　】
国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。
遠隔指導による板書指導の不足を補うため、ホワイトボードアプリの導入など工夫した。

授業科目名【　教育社会学　】
子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。
遠隔授業であったため、テキストの図表およびそれを補う視聴覚教材を準備し、そこに書き込み等ができるよう教材を工夫した。

授業科目名【　社会学と社会システム　】
国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。
また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。本年度は遠隔授業中心であったため、クラスルームを活用して丁寧な指導となるよう心掛けた。

授業科目名【　初年次セミナーⅠ・Ⅱ　】
1 年生対象授業でありながら遠隔授業となったため、できるだけ学生の発言を促す取り組みを行った。Meet で小グループを作ってディスカッションを行い、スライド作成アプリでグループ共同作業を行うなどの形式を取り入れた。一方でグループ活動に抵抗感がある学生や、初年次セミナー以外でのつながりを希望する学生の要望に応えるために、時間外に初年次セミナーの Meet を活用して団らんできる機会を設け、そのリアクションを学生にフィードバックするなど、遠隔授業から大学生活を開始せざるをえなかった新入生支援を行った。

授業科目名【　教職実践演習　】
教職課程の総仕上げにあたる科目であり、養護実習での経験を土台に教員としての資質能力の再点検を行った。特に「教師としての使命感」をテーマに、教員の不祥事やメンタルヘルスについて、事例や統計を用いながら自己省察と具体的取組を検討した。

授業科目名【　養護実習　】
養護実習中の巡回訪問指導が感染症対策のため実施できなかった。それを補うために電話による指導教員からの聞き取りの充実を図った。また実習中の実習生からの質問等にはメールを使って迅速かつ詳細に行った。

授業科目名【　養護実習事前事後指導・事前及び事後の指導　】
３月のオリエンテーションで養護実習の意義と目的を基本的に理解させると共に、実習経験者の体験を直接聞く機会を設けた。質疑応答や教員の指導を組み合わせることで事前の心構えから、不安の具体的解消法などについて授業を展開した。
事後指導については分野別の振り返りから始め、実習内容を深化させるための演習を行った。また実習校の規模や学校段階、その他学校の特性に起因する実習経験の偏りを少なくし、多様な養護活動を理解させることを意識した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会 九州教育社会学会 日本教育学会 九州教育学会 日本社会学会 日本教育方法学会	九州教育学会紀要編集委員（2009年4月～2011年3月、2016年3月～2016年12月）	1985年6月～現在に至る 1985年6月～現在に至る 1990年5月～現在に至る 1990年5月～現在に至る 1990年11月～現在に至る 1997年5月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） ゲーミフィケーションにおける経験の組織化	単著	2021.3	西南女学院大学紀要 Vol.24	目標達成に向けてデザインされた教育ゲーミフィケーション内部において、個人がデザインするゲーム内ゲームの特徴を整理するとともに、個人経験がゲームデザインを通じて共時的、通時的に組織化されることが個人の主体性につながることを論じた。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007.9～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員　２０１４年4月１日～現在に至る 福祉学科リカレント委員　２０１９年4月１日～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　杉本有紗	職名　　講師	学位　　人間環境学（修士）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床心理学　心理学的介入　心理リハビリテーション	高齢者臨床　臨床心理学的援助　役割意識　心理劇　施設職員

研　究　課　題
・認知症高齢者の臨床心理学的理解及び臨床心理学的援助 ・対人援助場面における自己と他者の行動及び心理の理解を促す研修のあり方 ・児童養護施設職員のストレッサーの理解と支援

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（前期）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 心理学と心理的支援Ⅰ（前期）（福祉学科） 発達心理学Ⅱ（前期）（福祉学科） カウンセリング論（前期）（福祉学科） カウンセリング演習（前期）（福祉学科） 発達臨床心理学演習（前期）（福祉学科） 高齢者支援学Ⅰ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 高齢者支援学Ⅱ（前期・集中）（看護学科・福祉学科・栄養学科） 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科） 心理学と心理的支援Ⅱ（後期）（福祉学科） 発達心理学Ⅰ（後期）福祉学科） 社会心理学（後期）（福祉学科） 高齢者臨床心理演習（後期）（福祉学科） 子ども家庭支援の心理学（後期）（福祉学科） 保育相談支援（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】 本演習では、１年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2021 年度は 17～18 名のグループを１グループあたり４回、全３グループを担当した。発達心理学の新書を題材に、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。対面授業ではグループワークを行い、ディスカッションの中で他者と自己の読み方、気づき方、書き方などの違いを認め合い、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 本演習では、ヒューマンサービスの基礎となる対人場面での援助につながる自己理解の向上を目指した。 2021 年度は全１年生をＡクラス３グループ、Ｂクラス３グループの計６グループに分けた。その結果１グループ約 15 名で構成された。教員３名は、各々Ａクラス１グループ、Ｂクラス１グループの計２グループを

担当した。対面とオンライン（コロナ流行により一時的に変更）のコミュニケーション課題を通して一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、グループの組み合わせを工夫するなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう心掛けた。

授業科目名　【　心理学と心理的支援Ⅰ　】

本講義では、心理学の研究法、発達心理学、人格心理学、臨床心理学の基礎となる理論や著名な研究、導き出されたな理論等、心理学の概論について解説を行った。また、心理的支援について解説を行った。

プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。

授業科目名【　発達心理学Ⅱ　】

本講義では、青年期から老年期までの生涯発達心理学について、特に老年期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

授業科目名【　カウンセリング論　】

本講義では、カウンセリングの理論、カウンセリングの基本的な進め方と基礎的な技法について解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。学生同士でロールプレイングを行ったり、内容について感想や質問を出し合う中で、カウンセリングの基本についての学習を進めた。学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

授業科目名【　カウンセリング演習　】

本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。

授業科目名【　発達臨床心理学演習　】

本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。

授業科目名【　高齢者支援学Ⅰ　】

本講義は、看護、福祉、栄養の3学科6教員により、看護、福祉、栄養の3学科の学生を対象に、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法について、解説と実技指導を行うものである。講義では、高齢者の心理的発達、高齢者の社会参加とその臨床心理学的意義についての解説を担当した。アイスブレイクを行い、3学科の学生合同のグループでのPBL（問題解決型学習）が円滑に進むよう促した。

授業科目名【　高齢者支援学Ⅱ　】

本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。

授業科目名【　初年次セミナーⅡ　】

本演習では、１年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。

2021年度は17～18名のグループを１グループあたり6回、全2グループを担当した。心理学研究の研究論文

を課題図書とし、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。対面授業ではグループワークを行い、ディスカッションの中で他者と自己の読み方、気づき方、書き方などの違いを認め合い、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。

授業科目名　【　心理学と心理的支援Ⅱ　】

本講義では、学習心理学、認知心理学、社会心理学等の基礎となる理論や著名な研究等、心理学の概論について解説を行った。

プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。

授業科目名【　発達心理学Ⅰ　】

本講義では、胎児期から青年期までの生涯発達心理学について、特に乳幼児期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。本年度は遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

授業科目名【　社会心理学　】

本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促し、知識の定着を図った。

授業科目名【　高齢者臨床心理演習　】

本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達的側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮について演習を行った。また、認知症高齢者の心理について文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、その効果について、事例検討を通して理解を深めた。

授業科目名【　子ども家庭支援の心理学　】

本講義では、生涯発達心理学、家族・家庭の機能や構造、支援を必要とする家庭についての講義、解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

授業科目名【　保育相談支援　】

本講義では、保育相談支援の考え方、支援の実際についての講義、解説を行った。また、事例検討を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。学生同士が小グループでディスカッションを行えるよう促し、理解を深められるよう工夫した。遠隔授業であったため、毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

本年度は受講する学生は０名であった。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】

本年度は受講する学生は０名であった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理臨床学会	会員	2001 年～現在に至る
日本臨床心理劇学会	監事（2012 年 4 月～現在に至る）	2001 年～現在に至る
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会	会員	2002 年～現在に至る
日本臨床心理士会	会員	2004 年～現在に至る
日本発達心理学会	会員	2007 年～現在に至る
日本心理学会	会員	2008 年～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員（2021 年 4 月～現在に至る）	2021 年～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター	研究員	2021年4月～2022年3月（1年間）
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2021年4月～2022年3月（月1回）
日本発達心理学会ニューズレター第95号（特集「高齢者の心理学」に「高齢者の心理臨床」について執筆した。）	日本発達心理学会会員	2022年2月28日発行

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
（大学） 公開講座委員会　委員 職員研修委員会　委員 （学科） ヒューマンサービス基礎演習　担当 福祉学科ニューズレター　　ワーキンググループメンバー

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　通山　久仁子	職名　　講師	学位　　博士（コミュニティ福祉学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、発達障害、「親亡き後」、当事者組織

研　　究　　課　　題
発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
ソーシャルワーク演習（後期） 相談援助演習Ⅱ（前期） 相談援助演習Ⅲ（後期） 相談援助演習Ⅳ（前期） 相談援助演習Ⅴ（後期） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 保健福祉学入門（前期） 福祉入門（前期） 福祉経営論（前期） 就労支援サービス論（前期） 障害者福祉論（後期） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ソーシャルワーク演習Ⅰ　】 本演習は新カリキュラム移行後、本年度初めて開講された科目である。初年次の学生を対象としているものの、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワークの技術等が詰め込まれた科目である。そのため、ソーシャルワークに関する基礎的な知識の説明を加えながら、わかりやすい事例を選定し、演習を展開できるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。そして学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】 本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。学生が相談援助の技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。ロールプレイの際には、面接場面をクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【　相談援助演習Ⅲ　】 本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、

その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅳ　】

本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅴ　】

本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であり、学生の学びとしては馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、地域福祉の視点をもって地域を理解できるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中で、また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】

実習前指導を行う本科目では、実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けた。昨年に引き続き、本年度も見学実習を実施することができなかったため、利用者の障害特性や支援方法等を自己学習する機会を増やし、グループワークを通して利用者の生活課題やニーズについて理解を深められるようにした。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】

実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの実習施設ごとにプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。

昨年に引き続き、今年度もコロナ感染症流行下での実習であったため、学生や各実習施設への説明を十分に行い、感染症予防を徹底して安全に実習が行われるよう調整を行った。

授業科目名【　保健福祉学入門　】

本科目は保健福祉学部の７人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について１コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も含まれるため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学での学びを実例としてあげ、大学で研究に取り組むことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。

授業科目名【　福祉入門　】

本科目は４人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の２コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。

授業科目名【　福祉経営論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。

本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。

授業科目名【　就労支援サービス論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また実践現場で障害者の就労支援や困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会を設けた。

授業科目名【　障害者福祉論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。

本科目は、2 年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、動画等の視覚教材を用いるようにした。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

前期は学生の関心のある文献を取り上げ、その読み方を中心に、論文作成の方法についての学習を進めた。後期は学生の関心のあるテーマにしたがって、論文作成に向けた指導をした。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】

学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。また国家試験の受験勉強のサポートを行った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004 年～現在に至る 2005 年～現在に至る 2009 年～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 発達障害者家族の「親亡き後」に関する先行研究	単	2022 年 3 月	西南女学院大学紀要 Vol.26	①本稿では、障害者家族の「親亡き後」に関わる先行研究のレビューを行い、発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制について検討していくための視点や枠組みを提示した。 ②pp.33-45
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制の構築に関する研究	日本学術振興会	1,820,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特定非営利活動法人 nest	理事	2008 年 6 月～現在に至る
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2013 年 4 月～現在に至る
北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会	委員	2020 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人喜久茂会評議員選任・解任委員	委員	2021 年 6 月～現在に至る
北九州市障害者自立支援協議会地域生活支援拠点フェイスシートワーキンググループ	構成員	2021 年 8 月～2022 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
【教育経費予算委員】 2020 年度より本委員を務めている。学科の教員に対して学科全体の予算をわかりやすく説明できるよう資料等を工夫した。また予算の組み換え等の学内の調整を行った。 【倫理審査委員】 2021 年度より本委員を務めている。学科の教員が提出した申請書に対する相談に応じ、研究計画等に対する検討をともに行った。また規定や申請書等の改訂作業に参加した。加えて「初年次セミナー」において 1 コマ、研究倫理についての講義を行った。 【保健福祉学研究所運営委員】 2017 年度より本委員を務めている。研究所講演会の企画、報告会の運営の補助等を行った。 【社会福祉士国家試験対策委員】 国家試験対策の年間を通じた企画、日程調整や担当教員、業者への依頼等の調整を行った。学生の受験勉強の状況等を適宜学科内で共有し、各教員が受験勉強をサポートできる体制をつくることができるよう努めた。学生に対しては、オリエンテーションや個別面接を通じて、国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。 【出前講義】 高校生が福祉の視点に触れ、福祉の仕事の楽しさを感じられることを目標に、福祉の仕事が求められている状況、社会福祉士がどのような仕事かについてわかりやすく伝えられるよう工夫した。また演習などを取り入れることで、大学での授業を体感できるようにした。

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　　中川　美幸	職名　　講師	学位　修士（社会福祉学）（福岡県立大学 2020 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
医療領域（一般）におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、退院支援、院内連携、地域連携、医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師との協働

研　究　課　題
医療機関で、医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師がそれぞれの専門性を最大限に発揮しながら、クライエント支援を行うための協働にはどのような取り組みが有効か。協働の方法によって、クライエント支援に違いがあるのか。在院日数等にも違いがあるのかなどを研究している。

担　当　授　業　科　目
福祉入門（1 年前期） ソーシャルワーク演習（1 年後期） ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ（2 年通年） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2 年通年） ソーシャルワーク実習（2 年） 相談援助実習指導Ⅱ（3 年通年） 相談援助実習（3 年） 相談援助の理論と方法Ⅱ（3 年通年）

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【　福祉入門　】 福祉専門職が各領域で、どのような実践を展開しているのかを伝え、学生の社会福祉への関心を高めることができるよう工夫する予定。
授業科目名【　ソーシャルワーク演習　】 ソーシャルワーカーに求められる基本姿勢や価値・倫理などを、事例を用いたグループワークを通して学んでもらう予定。毎回、ワークシートを活用しながら進めていく予定である。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ 】 ソーシャルワーカーとしての基本姿勢や面接技術などを事例を通して、グループワークを中心に学んでもらう予定。また、毎回、ワークシートを活用し、疑問点がないか、また理解度なども確認しながら進めていく予定である。
授業科目名【　ソーシャルワーク実習指導Ⅰ　】 医療領域の実習（3 年次）の実施に向け、自己学習とグループ学習を通して、医療領域の基礎知識や倫理や価値観、クライエント理解などが深まるよう工夫していく。

授業科目名【　ソーシャルワーク実習　】

学生と、実習指導者（医療ソーシャルワーカー）との連携をとっていく。また、学生の状況に応じ、個別に対応していく予定である。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】

医療領域の実習に必要な知識の再確認や、支援技術について対応する。また、必要書類等の作成についても行う予定である。実習後には、実習の振り返り等も行う。その他、必要に応じそれぞれの学生の状況に合わせ対応予定である。

授業科目名【　相談援助実習　】

学生と、実習指導者（医療ソーシャルワーカー）との連携をとっていく。また、学生の状況に応じ、個別に対応していく予定である。

授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅱ　】

事例を用いながら、「人と環境との交互作用の中で生じた問題」を捉える視点や、ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点を理解できるよう工夫していく。また、ソーシャルワークのアプローチについても、事例を用いて、それぞれの特徴を理解できるよう工夫していく予定である。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1990年7月～
日本医療ソーシャルワーク学会	理事（2014年度～） 会長（2020年度～現在に至る）	2015年4月～
日本医療・病院管理学会		2017年4月～
日本社会福祉学会		2021年4月～
日本社会福祉士会		

社　会　に　お　け　る　活　動　等

団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡県医療ソーシャルワーカー協会	副会長	2014年6月～2022年6月迄

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

学生個人情報保護委員会　2022年4月1日～2023年3月31日迄

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　中島俊介	職名　　教授	学位　博士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス　　心理教育　　地域精神保健

研　究　課　題
平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築

担　当　授　業　科　目
保育内容（人間関係）　　教育心理学　　こころと人間　　発達心理学　　保育の心理

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容（人間関係）】 保育士として必要なスキルを身につけるために学生との対話型授業に工夫と努力した。「ケンカや遊び場面」での人間関係の問題点に自然に気付くように配慮した。人間関係の基礎である、「聞く力・書く力・話す力」が向上したと自負している。
授業科目名【教育心理学　】 教育学と並んで教職科目の重要科目の一つである。教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の課題レポートも採用試験を意識した内容とした。教師として最も重要な「人権感覚」のセンスも磨けるように配慮した。
授業科目名【こころと人間　】 こころは見えないが言動は見える。人間の言動に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて苦慮した。今年度も「映像を講義中を必ず入れる」は実行できた。「学生の感想・質問をできるだけ活かす」に挑戦し、できるだけ発問をして意欲を喚起した。
授業科目名【発達心理学】 看護の仕事は人間の年齢ごとの発達課題を学習しておくことは必要である。看護学科の必須科目の訳である。エリクソンの「人生８段階説」を基盤にして胎児期から老年期までをその周辺のトピックと共に講義した。
授業科目【保育の心理学】 保育の心理学は子どもを対象とする保育士の重要な科目であると認識している。心理学の知見から保育に関係する内容を精査して学生の反応を見ながら丁寧に講義するように努力した。次年度も挑戦したい。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理学会 日本教育心理学会 日本人間性心理学会		2018年4月加入 1982年4月加入 1998年4月加入

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
（著書） 技ありの人間関係	単著	2021年5月	花書院	フリーペーパー「リビング北九州」のコラム欄に2006年から2019 年連載の内容をまとめたもの。
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市人権施策審議会委員（第一期・二期・三期・四期・五期、現在に至る）	第三期より委員長	2003 年から 2023 年 6 月まで

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
なし

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　西丸　月美	職名　　講師	学位　教育学修士（熊本大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、不登校、多職種連携

研　究　課　題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

担　当　授　業　科　目
地域保健学Ⅱ（前期） 基礎看護技術（前期） 学校保健教育法（後期） 養護概説（後期） 教職実践演習（後期） 看護学（後期） 養護実習（通年） 看護臨床実習（通年） 養護実習事前事後指導（三期にわたる） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク（ロールプレイなど）も取り入れておこなう。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会行った。
授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるための工夫を行った。技術の定着を確認するために、バイタルサイン測定の実技試験を実施した。

授業科目名【看護臨床実習】

本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめた。

3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。

4年生の看護臨床実習では、学校現場で実際行う保健指導ができるようグループワーク等を取り入れた。また、グループで指導案を作成し、模擬授業を実施した。

授業科目名【学校保健教育法】

学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中･高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。

授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10 分間の保健教育を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。

教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。

授業科目【養護概説】

学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健教育と健康相談などである。

授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。特に保健室経営についての講義では、「私の理想とする保健室」について、ディスカッションを行い、グループごとに発表を行った。

授業科目【養護実習事前事後指導】

養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参与するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。

授業は新型コロナウイルス感染症の影響で予定通りに進まないこともあったが、養護実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前期に予定されていた実習が後期に実施となった学生も多かった。そのため、養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。

授業科目【看護学】

看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について、緊急度の判断の方法及び適切な処置･対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。

授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてプレゼンテーションを行い、基礎的な知識の定着を図った。

授業科目【教職実践演習】

この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。

養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、「現職の養護教諭の講話」、「性に関する指導」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。

授業科目【養護実習】

養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において３週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実習期間が変更になる学生が多かったが、全ての学生が実習を終了し、実習報告会を実施した。

授業科目【専門研究Ⅰ】

専門研究Ⅰでは、　テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。

また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説し、理解が深まるように授業内容を工夫した。さらに、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。

授業科目【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、さらに、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成にも工夫した。また、2 年間のまとめとして研究レポートの作成し、研究のまとめをおこなった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会員 日本教育心理学会員(現在に至る) 日本教育保健学会会員（現在に至る） 日本人間性心理学会会員(現在に至る) 日本教育カウンセラー学会員(現在に至る) 日本学校心理士会学会員(現在に至る) 日本アロマコーディネーター協会会員（現在に至る） 日本養護教諭教育学会　第 23 回学術集会　熊本大会実行委員　事務局 日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会　第 28 回学術集会　熊本大会実行委員　事務局		平成 21 年 4 月～(現在に至る) 平成 21 年 9 月～(現在に至る) 平成 21 年 6 月～（現在に至） 平成 22 年 6 月～(現在に至る) 平成 26 年 8 月～(現在に至る) 平成 27 年 1 月～(現在に至る) 平成 27 年 1 月～(現在に至る) 平成 27 年 10 月 平成 28 年 2 月～ 令和元年 4 月～令和 2 年 3 月

2021 年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 養護教諭、看護師、保健師のための 新版　学校看護 ―すべての子供の健康実現を目指して―	共	2022.1	東山書房	①養護教諭が職務を遂行するために欠かせない基礎的な看護学の知識や技術をわかりやすく解説した専門書である。 ②監修者名 編著者:遠藤伸子・池添志乃・

2021年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				籠谷恵 ③担当部分 第4章　急性期にある子供と家族の理解と援助 2　多様な急性期症状の理解と援助 2)腹痛（P178～P182） 4)便秘 （P184～P187） 総頁数P. 319 ④B5判
（学会発表） 「教職実践演習」における養護教諭と多職種連携の事例を用いた教育効果の研究	共	2021．11	第29回日本養護教諭教育学科学術集会 （於　徳島大学 Web開催）	①「教職実践演習」において学生の受講前と受講後に自由術式の自己評価を行い、その結果を KJ 法により分析を行った。「教職実践演習」で事例を用いた養護教諭と多職種連携の教育効果について発表を行った。 ②共同発表者名　西丸月美 一期崎直美 ③（P84～P85）
（報告書） 「教職実践演習」における養護教諭と多職種連携の事例を用いた教育効果の研究	共	2021.8	西南女学院大学 保健福祉学部研究所報告書	①「教職実践演習」においては学生の受講前と受講後に自己評価式アンケート調査を行い、行動目標の変化を分析し、「教職実践演習」で事例を用いた養護教諭と多職種連携のあり方について、学生の自己評価をもとに教育効果について報告書にまとめた。 ②共同発表者名　西丸月美 一期崎直美 ③（P4～P5）
（報告書） 養護教諭の専門性に関する基礎研究	共	2021.8	西南女学院大学 保健福祉学部研究所報告書	①男性養護教諭が発行した通信をテキストデータ化し、男性養護教諭と子どもとの相互関係について分析した。養護教諭の専門性の再構築につながる可能性について報告書にまと

2021年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				めた。 ②共同発表者名　一期﨑直美、新谷恭明 西丸月美 ③(P10～P11)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員　2017年4月～2022年3月31日 教員免許状更新講習プロジェクトリーダー　2019年4月～2022年3月31日 教員免許状更新講習講師　2017年4月～2022年3月31日 キャンパスハラスメント委員　2020年4月～2022年3月31日 オープンキャンパス模擬授業　講師　2018年8月～2022年3月31日

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　文屋　典子	職名　　講師	学位　修士（社会学）（関西学院大学　1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、　子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研　究　課　題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅱ（通年） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 相談援助実習（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 保育実習Ⅲ（通年） 相談援助演習Ⅱ（前期） 家庭支援論（前期） 社会的養護内容（前期） 保育者論（後期） ソーシャルワーク演習（後期） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅱ　】 ソーシャルワーク実践におけるミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用的視点を理解すること、問題に直面した人々の状況を「人と環境との接点における相互作用として」理解する視点を涵養することに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについては、それぞれの基盤理論をふまえ具体的な事例を用いることによりアセスメントや介入における各アプローチ固有の視点を理解することに重点をおいた。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】 子どもの発達や特性、障害の理解、実習施設の役割と機能、援助の実際について、相談援助実習において必要となる知識や技術を資料や視聴覚教材による学習を中心に学びを深めた。新型コロナウィルス感染症感染拡大予防のため、今年度も見学実習を実施することができなかったが、多様な教材の活用によって児童・障害児領域の現状と課題を理解し、3 年時の実習に向けて意識・態度の形成と必要な知識を身につけることができるよう努めた。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえたうえで実習課題を各自が明確化できるよう指導を行った。2 年次の「指導Ⅰ」の最終回の授業にて、春休みに自主的に取り組むべき学習課題を示したが、全ての学生が春休み中にこれに取り組み、オンラインで自主的に提出する

など、意欲の高さが見られる学生たちだった。新型コロナウィルスの感染拡大をめぐる社会的状況から、実習延期が繰り返されたため、学生のモティベーションを支えることが教員側の重要な課題であった。12 月中旬にはすべての学生が 180 時間の実習を終えられたため、実習後の振り返り、報告を一人ずつ行い、実習での学びや考察したことをクラス全体で共有、全体実習報告会での領域報告の準備を全員で協力して行うことができた。

授業科目名【　保育実習指導Ⅲ　】

これまでの保育実習やさまざまな授業を通して学んできたことを整理し、自身の課題をふまえつつ実習目標を設定するために個別指導を強化した。視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法について個別指導を行った。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいては、学生の学びや課題を整理し実習報告会を実施、実習のまとめを行った。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

事例についてのグループディスカッションを通して相談援助の理論や技術について学ぶと同時に、援助関係形成のためのコミュニケーション技法やよりよい援助を実践するために協働するための技術、その重要性を実践的に学ぶことに重点をおいた。事例の選定においては、倫理的ジレンマの生じる場面等が含まれるものを用意することで、専門職としての価値観や倫理観について深く考察し、他者の考えを踏まえて自分自身に問いかける経験ができるよう授業を展開した。

授業科目名【　家庭支援論　】

現代の家族を取り巻く状況を概観し、保育士に求められる家庭支援、保護者支援の方法と基盤となる法制度、活用する社会資源について保育の既習科目やソーシャルワークに関する知識や理論と関連づけて解説を行った。家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。

授業科目名【　社会的養護内容　】

子ども家庭福祉や社会的養護に関連する既習科目の知識を確認しつつ、社会的養護事例に関する考察・検討を通して実践的理解を深めた。事例の選定にあたっては、アセスメントにおいて多角的な視点と身体・心理・社会的側面が相互に作用して問題状況を維持していることに着目し、解決の方法についてあらゆる社会資源の活用の可能性を検討することが求められる事例を採用した。遠隔授業であっても学生間のディスカッションが深まるよう配慮し、学生自身の気づきを引き出しつつ事例検討の視点やポイントを示すことによってファシリテートを行った。

授業科目名【　保育者論　】

子どもと家庭の支援に携わる専門職として、保育士に求められる姿勢や知識・技術について解説し、福祉学科で学ぶ意義、ソーシャルワークや心理学等の知識と関連させることの重要性、強みを伝えることでこれからの大学での学びに対する学生の意欲につながるよう努めた。保育者の職務内容と実際の子どもの姿を具体的にイメージできるよう視聴覚教材を用いると同時に、観察や記録を専門的学びの導入として実践し、保育者に求められる文章上の表現方法や観察の視点についても触れることで意識づけを行った。

授業科目名【　ソーシャルワーク演習　】

ソーシャルワーカーの視点、ソーシャルワークの価値と倫理、相談援助におけるコミュニケーション技法、ソーシャルワークの展開プロセスについて取り上げる科目であるが、理論系科目より先行して教授する科目であるため、専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、事例やグループワークを活用したアクティブラーニングにより、今後、専門科目で学ぶ内容を理解し吸収する土台を形成することをねらいとして授業を展開した。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992 年 10 月～　現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 3 月～　〃
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991 年 11 月～　〃
日本家族研究・家族療法学会		1998 年 11 月～　〃
日本小児保健学会		1997 年 5 月～　〃
日本特殊教育学会		1999 年 8 月～　〃
日本保育学会		2011 年 10 月～　〃

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
重篤な疾患や重度の障害を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月　桃子 （野井　未加） 文屋　典子 山本　佳代子 樋口　由貴子	1,151,780

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
社会福祉法人喜久茂会	評議員	2017年4月1日～2021年6月
北九州市　指定管理者の評価に関する検討会議	臨時構成員	2021年7月
社会福祉法人あゆみの森たけのこ会	評議員	2021年3月～
特定非営利活動法人学童保育協会	放課後児童支援員認定資格研修会講師	2017年度～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員 就職委員 吹奏楽部顧問

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　水貝　洵子	職名　　講師	学位　臨床心理修士（専門職）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床心理学	青年期　発達障害　生涯発達　アクションメソッド

研　究　課　題
青年期前期後期における発達障害者への臨床心理学的支援の在り方について検討を行う。 特に，臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討を行う。

担　当　授　業　科　目
【福祉学科】 （前期）ヒューマンサービス基礎演習　初年次セミナーⅠ　家族心理学演習　発達アセスメント演習 健康臨床心理学 （後期）初年次セミナーⅡ　臨床心理学概論　障害者心理学　発達臨床心理学　認知行動療法基礎演習 スクールカウンセリング論 （通年）専門研究Ⅰ　専門研究Ⅱ **【看護学科】** （前期）対人関係論　（後期）臨床健康心理学

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については，実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 他者との円滑なコミュニケーションの体験や自分自身への気づきを深める体験が得られることを目指し，様々なワークを実施した。その都度，受講生自身による振り返りを行った。1 年生前期での対人交流の演習のため，受講生の緊張感に配慮し，自発的にワークに臨めるようにワークの内容について吟味を行った。
授業科目名【　初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 学生の提出した課題に対し，多かった回答内容や模範となる回答内容などを示しながら，ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方向的なやり取りに限定されないよう，上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講学生との相互的なやり取りを心がけた。
授業科目名【　家族心理学演習　】 家族の成立から，その後の家族がたどる発達段階についてその特徴や課題，支援の在り方についての解説を行った。事例などを提示して，受講学生にとって，より実践的に家族の特徴や課題を捉え，支援について考える機会となるよう心掛けた。
授業科目名【　発達アセスメント演習　】 学生の多くが実習や就職後において活かせる知識と技術を身に着けようと意欲的に受講していることが予測された。そのためオンライン授業においても，発達検査や知能検査の概要を紹介するだけでなく，検査場面を具体的に提示するなどして，実践的学びとなるよう配慮した。

授業科目名【　健康臨床心理学　】

「単位数を確保する」という受講動機の学生がほとんどであり，受講人数も少なかったため，受講学生の関心領域を尋ねて授業内容と関連を持たせるなどし，学生が意欲的に受講できるよう配慮した。体験型のワークを実施し，ワークを通じた学生なりの考えや感想を述べる課題を多く設け，またそれに対し教員がコメントをするなど双方向的なやり取りをこころがけた。

授業科目名【　臨床心理学概論　】

1 年生を対象に臨床心理学の基礎的理論について解説を行った。学生からの各授業への質問や感想などに対し，次の授業で回答や解説を行うなどして，学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。

授業科目名【　障害者心理学　】

精神障害から身体障害にわたり代表的な障害を取り上げ，診断的理解および社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の視点から解説を行った。診断的理解にとどまらず，当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう，事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても，臨床心理学的援助を紹介しながら解説を行った。

授業科目名【　発達臨床心理学　】

発達障害当事者の手記などを題材として，障害当事者の体験理解を目指した。障害に対し多面的に考える機会となるよう様々な事例を提示した。

授業科目名【　認知行動療法基礎演習　】

認知行動療法について初めて学習する学生もいたため，授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて解説した。後半は，医療や福祉など様々な領域において実践された事例を紹介し，学生が学習した知識や理論をどのように実践の場で活かしていくのかイメージできるよう工夫した。

授業科目名【　スクールカウンセリング論　】

受講人数は少なかったが，実習や就職後に活かそうと意欲的に受講する学生が多かった。そのため，学校における諸問題について多角的な視点から捉えられるようになることを目標とし，複数の事例の提示を行い，学生が援助者だった場合にはどのように事例に対応するかについて，学生同士や教員も交えた議論を多く実施した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ・Ⅱ　】

学生は自らキーワードやテーマを設定し、文献を選択した。文献講読やディスカッションを通じ、そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう，学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。

授業科目名【　対人関係論　】

看護における対人関係の基礎となる心理学的理論や知識について解説を行った。1 年生を対象としており，心理学を学習するのは初めての学生が多いと考えられたため，学生からの各授業への質問や感想などに対し，次の授業で回答や解説を行った。相互的なやり取りを増やし，学生の理解が促されやすいよう配慮した。

授業科目名【　臨床健康心理学　】

臨床心理学についての基礎知識および医療現場で出会う患者の心理についての解説を行った。受講生によって臨床心理学に関する基礎知識への理解度の差がみられたため，基礎的な内容について解説を行うとともに，医療現場ではどのように活かされるのか等の具体例や適切な対応例を挙げるなどして，発展的な内容となるよう配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理劇学会		2010年4月～現在に至る
日本リハビリテイション心理学会		2010年4月～現在に至る
日本心理臨床学会		2013年4月～現在に至る
日本発達心理学会	日本発達心理学会ニューズレター委員会委員（2022年1月～2023年12月）	2016年4月～現在に至る
特殊教育学学会		2016年4月～現在に至る
日本心理学会		2019年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） IBS症状を呈する女子大学生の臨床動作法への主体的な取り組みのための工夫	共著	2021年6月	心理臨床学研究 第39巻2号	①概要： 臨床動作法の取り組みにおいて長期化したIBS症状の軽減が認められた女子大学生との面接経過を報告した。症状の軽減に寄与したと推察される臨床動作法の体験および，そのうえで重要な工夫や配慮点について考察した。 ②共著者名：古賀聡 ③該当ページ：p.97-107
（翻訳）				
（学会発表） 研究報告会発表 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022年3月	2021年度西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所報告会	①概要： 女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行った。今後、その有用性を調査し改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ②共著者名： 樋口由貴子、目野郁子、髙﨑智子、山田恵、大内田知英 ③該当ページ： 報告書は発刊前のため記載なし。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所研究費	○樋口由貴子 目野郁子 髙﨑智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	面接指導員	2021年4月～2022年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職，委員，学生支援など）
学生個人情報保護委員会　2021年4月～2022年3月 キャンパス・ハラスメント 相談員　2021年4月～2022年3月

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　山根　正夫	職名　教授	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児（者）の支援方法・応用行動分析・保育ソーシャルワーク	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研　究　課　題
障害児・者の支援全般について行動分析学的視点から考察する。 保育におけるソーシャルワークのあり方に関する検討。

担　当　授　業　科　目
子ども家庭福祉論 障害児保育 社会的養護Ⅰ 社旗的養護Ⅱ 特別支援教育論

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　子ども家庭福祉論　】 社会福祉士養成のための必修科目であり、遠隔授業でパワーポイントを利用して講義したが、学生個々のその時々の反応の確認が困難であった。授業の途中で学生に語り掛け応答することで理解の深化に勤めた。
授業科目名【　障害児保育　】 ３年生子ども家庭福祉コースのみが受講。演習系科目であり、副読本についてノート作成し提出を求め、点検の上返却した。また、お互いに分担して調べた内容について、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きいため、各々の授業のまとめの中で補足的解説をして理解を深めるように配慮した。
授業科目名【　社会的養護Ⅰ・Ⅱ　】 ３年生対象科目で、Ⅰは、学科学生が選択できるが、Ⅱについては子ども家庭福祉コースの学生のみが受講できるが、Ⅰは講義科目であり社会的養護の概要について教員が作成したパワーポイント資料をもとに解説した。Ⅱについては演習系科目として、テキストを参考にして、課題について学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられるきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得ることができるように解説を加えた。
授業科目名【　特別支援教育論】 4 学科合同授業であり、遠隔授業であった。それぞれの学生のレディネスが不明の為、授業中に各学科にまたがって確認しつつ講義を進めた。7 回の授業であることから十分に理解を深めることができるように参考文献等を提示した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 福岡教育大学付属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		平成12年11月～ 平成22年4月～ 平成28年～

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共著	2021年6月	ミネルヴァ書房	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中で、「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活とのかかわり」の項を担当執筆した。
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
九州市児童福祉施設等第３者評価委員会委員	会長	平成 28 年 4 月～令和３年３月
北九州市福祉事業団評議員		平成 29 年 4 月～令和３年６月
社会福祉法人福音会評議員		平成 29 年 11 月～現在至る
社会福祉法人喜久茂会理事		平成 29 年 11 月～
北九州市社会福祉審議会委員	児童福祉部会長	平成 29 年 4 月～令和３年３月
北九州市社会福祉協議会評議員		平成 29 年 4 月～令和３年３月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室長 倫理審査委員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　山本　佳代子	職名　助教	学位　修士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
レクリエーション　障害者福祉	障害者、レクリエーション、子ども、余暇、QOL、アート

研　究　課　題
学齢期以降の障害のある人の余暇や生活の充実を目指し、障害のある人が取り組む表現活動や創作活動に着目し、障害のある人がそれらの活動に取組む意義、またそれらの活動を通した支援を展開する事業所や支援者の役割とその意義を明らかにする。

担　当　授　業　科　目
ヒューマンサービス基礎演習（前期） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 新入生が前期に履修する必修科目であり、ヒューマンサービスの専門家として基礎的なスキルを習得できるよう、3 名の教員で分担し授業を展開している。対面学習がのぞましい科目であるが、コロナ禍のため途中からオンラインでの実施となった。オンラインにおいてもグループワークを積極的に取り入れ、話し合いや共同作業を体験しながらコミュニケーションをとる機会を設け、目的が十分に達成できるよう工夫した。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】 実習へ行く前の事前学習を深める科目であり、先輩の実習体験や学びを聞く機会を設け、一人ひとりが主体的に学ぶ姿勢を持つことができるよう工夫した。実習領域に関する事前学習では、グループワークを取り入れ、課題に向けメンバー間で協力する姿勢を身に着けることも目的とし、自分自身が苦手とすることや課題に気付き、他者と協力しながら達成できることを目指した。また車いす操作等の実技を取り入れ、基礎的な技術を習得できるよう努めた。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 実習の事前事後指導を行う科目である。一人ひとりが実習に対し明確な目的を持ち、実習に臨むことができるよう個別指導のもと必要書類の作成を行った。コロナ禍であり、予定されていた実習が延期され不安を抱える学生も多くいたため、個別に対応し随時説明できる環境を整えた。また、実習時期がそれぞれ異なり、実習生同士での振り返りをすることが難しい時は、個別にそれぞれの課題達成度を確認し、方向性の転換や継続を学生本人と確認し、最後まで意欲をもって実習に取組むことができるよう工夫した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会		2004～
九州レジャー・レクリエーション学会		2013～
日本小児保健協会		2021～

2021年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
重篤な疾患を抱える子どものきょうだいに対するパフォーミングアーツを活用した支援の検討	西南女学院大学	○笹月　桃子 （野井　未加） 文屋　典子 樋口　由紀子 山本　佳代子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○ボランティア相談室 学生が積極的にボランティア活動に参加できるよう、外部ボランティア依頼団体と協力し、年１回のボランティア講習会の開催、学生へのボランティア活動案内、相談等への対応を行っている。 ○障害のある子どもときょうだいを対象とした余暇活動支援「ちゃれんじ」 主に福祉学科の学生と共に年間を通し活動を行っている。今年度はコロナ禍のため、例年開催していた 体育館での活動は開催することができなかったが、野外での活動や学生から提案された「カレンダーづくり」などコロナ禍でもできる事を模索しながら活動を展開している。新たにきょうだいだけを対象とした「きょうだい編」もスタートするとともに、インスタグラムも開設し（challenge.sw.fukushi）対象者に広く情報が届くよう努める。

栄　養　学　科

２０２１年度教育研究活動報告用紙（様式９(2021)）

氏名　　青木　るみ子	職名　　准教授	学位　博士（食農科学）（龍谷大学　2021 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
給食経営管理 健康教育学・食教育 栄養学	給食施設・衛生管理・HACCP 食教育・ライフスキル 幼児期・学童期・食育

研　究　課　題
1. 中小規模給食施設における衛生管理体制に関する研究 2. 勤労者の健康の維持・増進に寄与する事業所給食の規模別、提供システム別にみた食事と栄養管理の評価 3. 給食施設内厨房調理器具の洗浄度検査および洗浄方法の検討 4. 食中毒統計資料を用いた給食施設食中毒発生状況の分析 5. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討

担　当　授　業　科　目	
給食計画論（2 年前期）	給食経営管理論（2 年後期）
給食経営管理実習Ⅰ（2 年後期）	給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期）
総合演習Ⅰ（3 年前期）	臨地実習Ⅰ（3 年後期）
管理栄養士演習Ⅱ（4 年通年）	初年次セミナー（1 年前期）
卒業ゼミ（4 年通年）	実践活動（3 年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【給食計画論】2 年前期科目

後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰとする）の基盤となる科目である。
本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント，②食事摂取基準 2020 年版の給食管理における活用，③献立立案，④栄養・食事管理の評価、改善，について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめた PP を活用した。また、実習Ⅰ（後期）の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Ⅰのアセスメント情報として活用することとしている。

本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」，「衛生管理」も詳細に解説している。「衛生管理」については、厚労省食中毒発生状況調査等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を図っている。

授業科目名【給食経営管理論】2 年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促している。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC 分析」には、前年度の実習Ⅰの食品の総使用量を使用しており実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3 年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。この項目はライフステー

ジ別の栄養学である『応用栄養学』や行政の栄養学である『公衆栄養学』との関連もあるため、これらの科目との関係性も意識した解説を心掛けている。また、各種特定給食施設の内容として、定期的に改定が行われる『診療報酬』や『介護報酬』についても、改定部分を簡略化して説明している。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを6班編成とし、3班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。近年の傾向として、調理技術が未熟な学生が多く、食材の取り扱いの基礎から指導の必要性が増している。また、衛生管理に関しても基本的な理解ができておらず、器具の取り扱いから作業区域の使い分けまでを徹底して指導を行った。給食施設で備える義務のある帳票の説明から書類の書き方の指導、確認を全て入念に行った。さらに、本実習では管理栄養士としてリーダーシップ力を身につけることも目的としているため、実習当日に十分な調理現場指導が行えるよう、作業工程の確認と打ち合わせの時間を別途授業時間外に設け、1班単位で指導を徹底した。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス6班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「大学生（女性：18～29歳）対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数100食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。

しかしながら、2021年度はコロナ対応のため、調理工程及び提供管理を従来の状態で実施できず、『弁当給食』を採用し、また食数を大幅に縮小し指導を実施した。給食施設を想定した実習としては、規模の縮小および定食献立による提供ができなかったが、前年度よりも実践的な実習が可能となり、後期の臨地実習Ⅰに繋げることができたと考える。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3年後期科目である「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」のための事前指導を中心とした科目である。また、「高齢者施設」、「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関しての講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。

また，本学科の臨地実習として最初に学外へと出る実習であるため，実習Ⅰ～Ⅲに必要な準備物から社会的なマナー指導までを授業回数内の時間および時間外で徹底して取り組んでいる。この部分に時間を割くことが最も多く，近年では指導の難しさを痛感しているところでもある。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生のため導入教育としての位置づけも持たせている。本年度も新型コロナ感染状況により、実習施設からの受け入れ辞退があったが、迅速に代わりの実習先を確保することができ、可能な限りの学外実習が実施できたと考える。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】4年通年

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。前期では、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、後期では、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関係する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、大量調理施設衛生管理マニュアルの改定内容等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は近年の改定内容を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書とし

ている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。
授業科目名【卒業ゼミ】4年通年 障害者支援施設の給食部門と連携したお弁当の企画・販売を行った。販売店舗の立地、客層、現在の人気商品等のマーケティングリサーチから行い、献立計画・立案を行わせた。今回は九州各県の郷土料理を採用し、地域色を強く押し出した献立内容とした。栄養面はもちろん、衛生面でからも弁当として適しているか、また、給食施設の人事・設備面で生産可能かどうかを考慮し、計画を進めた。今回の実践活動から、献立はただ単に栄養面に着目するだけでは不十分であることを身をもって学ぶことができたようである。また、大手食品メーカーとコラボし、マーケティング強化対象商品を用いたコラボメニュー開発を担当し、食品メーカーにおける管理栄養士の可能性を学ぶ機会を得ることに繋がった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
	日本栄養士会雑誌査読依頼候補者登録	2022.1～現在
日本給食経営管理学会	正会員、評議員、産学連携委員、	2013.9～現在
	スマートミール審査委員（給食部門）	2016.4～現在
日本災害食学会	正会員	
JKYB	正会員	

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第12巻 給食経営管理論実習 給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解	共著	2021.3.15	医歯薬出版株式会社	① 管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠の第12巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。 ②監修　特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 編者　富田教代，神田知子，朝見祐也 共著者　青木るみ子，他11名 ③担当部分　第3章　6） p.58 第4章　3）～5） p.71～75
Nブックス 新版給食経営管理論（第2版）		2021.11	建帛社	①管理栄養士国家試験出題基準をもとに，管理栄養士国家試験を視野に入れ，実践の場で活用できるような知見を取り入れた教科書である。

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				②編者：岩井達，名倉秀子，松崎政三 　共著者：青木るみ子，他 11 名 ③担当部分：第 2 章 1.6「事業所給食」p.30～34 ④B5 判
（学術論文） 給食施設内設置冷蔵庫取っ手の洗浄方法の検討 【査読あり】	共著	2021.3	日本調理食品研究会誌 Vol. 26　No.3	①給食施設において使用頻度が高く，調理従業者が高頻度で接触し，なおかつ標準作業書にて詳細な洗浄・殺菌方法が示されていない給食施設内調理済み食品保存用冷蔵庫の「取っ手」を対象とした 4 種の洗浄法について検討した。また，その衛生状態を簡便な検査法である ATP ふき取り検査を用いて評価することを試みた。 ②共著者：青木るみ子，甲斐達男，竹之山愼一，朝見祐也 ③担当：データ分析，論文執筆全頁（p86～99）
テンペの呈味性向上に関する研究 【査読あり】	共著	2021.4	日本食品・機械研究会誌 Vol. 40　No.4	①テンペの呈味性に着目し，菌株，大豆銘柄別，浸漬液添加の有機酸，乳酸菌による原材料の全発酵処理，乳酸発酵液への糖添加およびだし類等の添加など，種々の品質向上を図るための検討を行い，その効果を確認した。 ②共著者：甲斐達男，上森洋子，緒方冴香，田中貴絵，青木るみ子 ③本人担当部分抽出不可能
食中毒統計調査結果（2000～2018 年）を用いた給食施設における食中毒発生状況の現状分析 【査読あり】	共著	2021.5	日本栄養士会雑誌 Vol.64	①2000 年から 2018 年の過去 19 年間の食中毒総数と，このうち給食施設を原因施設とした食中毒，および給食施設と不明を除く給食施設以外の施設を原因施設とした食中毒について，食中毒発生状況（厚生労働省発表）を用いて分析し，その動向について考察した。

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
我が国の給食施設の食中毒発生状況と衛生管理の実態【博士論文】	単著	2021.11	博士論文	②共著者：青木るみ子，山﨑正幸，朝見祐也 ③担当：研究計画，データ分析，論文執筆全頁（p.29～40）
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				
				教育研究業績総数 （2021年度3.6現在） 著書　4（内訳　単0　，共4） 学術論文　17（内訳単2，共15） 学会発表　30（内訳単2，　共28）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
勤労者の健康の維持・増進に寄与する事業所給食の規模別、提供システム別にみた食事と栄養管理の評価	第 12 回 日本給食経営管理学会研究助成	青木るみ子（共同研究者） ○太田淳子（代表者）	25,0000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
だいすき　にっぽん -子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」と「ことば」　西南女学院で「日本の伝統文化」にふれてみようー	一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 「令和3年度社会貢献活動助成金」	青木るみ子	70,000

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	令和４年度 保育所調理員研修会・講師「食品衛生・アレルギー対応研修」 令和 4 年度　福祉施設栄養士・調理員研修「衛生管理と災害時対応」	2022 年 1 月 2022 年 1 月
日本給食経営管理学会	評議員・研修委員 産学連携委員 スマートミール審査委員（給食部門）	2019 年 10 月～2021 年 9 月 2021 年 10 月～現在 2021 年 5 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員 栄養学科カリキュラム検討 WM 地域貢献活動『だいすきにっぽん』運営委員 料理研究部顧問

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　天本　理恵	職名　　准教授	学位　博士（医学）　　九州大学 2012 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
応用栄養学　分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝（特に葉酸）、生活習慣病（主に癌、心疾患、加齢性疾患）とミトコンドリア

研　究　課　題
生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。

担　当　授　業　科　目
応用栄養学Ⅰ　（ 2 年後期　栄養学科 ）
応用栄養学Ⅱ　（ 3 年前期　栄養学科 ）
総合演習Ⅰ　（ 3 年前期　栄養学科 ）
総合演習Ⅱ　（ 4 年前期　栄養学科 ）
応用栄養学実習　（ 3 年後期　栄養学科 ）
管理栄養士演習Ⅰ（ 4 年前後期　栄養学科 ）
管理栄養士演習Ⅱ（ 4 年前後期　栄養学科 ）
臨地実習Ⅰ　（ 3 年後期　栄養学科 ）
実践活動　（ 3 年後期　栄養学科 ）
栄養学概説　（ 1 年後期　栄養学科 ）
母子栄養学　（ 前期　助産別科 ）
栄養学　（ 2 年後期　福祉学科 ）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　応用栄養学Ⅰ,応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説　】

今年度は、応用栄養学Ⅰ以外は遠隔講義を実施した。遠隔講義であれ、これまでの講義スタイルを出来るだけ変更せずに講義を展開した。

1. 視覚教材にPower　Pointを使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
2. 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。また、Power　Point教材だけでは不十分なところについては､板書し(遠隔講義ではパワーポイント上に手書きにて図式化し)、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。
3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。

以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。

授業科目名【　応用栄養学実習　】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。今年度は対面での実習が可能であったので、示範の際、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。コロナ禍のため、調理作業中の接触や試食の時間を短くする必要があり、学生は少人数制で重点献立のみの調理とした。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。

授業科目名【　総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ　】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言をメールおよび meet で行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅰ、管理栄養士演習Ⅱ　】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。演習Ⅰでは「基礎栄養学」の一部、演習Ⅱでは、「応用栄養学」を担当した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書または遠隔の場合には、手書きで書いたスライドを配信し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【　母子栄養学　助産別科　　】

視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

授業科目名【　栄養学　福祉学科　　】

栄養学の講義は全て遠隔で実施した。栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り嚙み砕いて教授するように努力した。
毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。試験も WEB にての実施であったが、学生の成績は「秀」が約 70%を占め、高成績であったため、理解度は高かったものと考える。

授業科目名【　実践活動（3 年生後期～4 年生前期）　】

2020 年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021 年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2021 年度は、看護・福祉・栄養の 3 学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児 40 名、幼児 80 名、学童 30 名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3 学科の学生たちが協力して実施した。また、ゼミ生の一部は、『母性栄養』をテーマとして、「妊娠期に相応しい栄養管理について」や「不妊症と栄養との関連性」など、文献検索を行い、科学的根拠に基づくデータをまとめて、助産別科の学生対象に発表を行った。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本栄養・食糧学会 日本スポーツ栄養学会 日本癌学会 日本分子生物学会		2002 年 4 月～現在に至る 2002 年 4 月～現在に至る 2002 年 11 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2010 年 6 月～現在に至る 2012 年 9 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（学会発表） 大会テーマ:コロナ禍における子どもたちの健康と口腔衛生を考える。 「コロナ禍というストレス環境における子供たちの成長と栄養管理について考える」	単	2022. 3.20	第 28 回北九州市小児口腔保健学会　総会・学術集会（誌上開催）	①コロナ禍というストレス環境における子供たちの成長に対する影響と栄養管理について考えた。 ②天本理恵 ③　第29回　北九州市小児口腔保健学会　総会・学術大会　プログラム・抄録集（P12）
				2021年度教育研究業績（2022. 3. 現在） 学会発表　1　（内訳　単1　，共　0　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・北九州市立保育所給食調理業務受託候補者選定検討会構成員（北九州市こども家庭局）	構成員	2022 年 1 月 28 日
・北九州市小児保健研究会	理事	2021 年 8 月～現在に至る
・2021 年度　穴生学舎　健康づくりサポーターコース	講師	2021 年 10 月 12 日 2021 年 10 月 19 日
・福岡県栄養士会　研究教育事業部	企画運営委員（本学）	2021 年 4 月～現在に至る
・遠賀中間地区保育協会オンライン研修会	講師	2022 年 3 月撮影
・高大連携講義　西南女学院高等学校	講師	2021 年 6 月 7 日
・高等学校進路ガイダンス　小野田高等学校	講師	2021 年 9 月 21 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
・地域連携室　室員（子ども・子育て支援分野）	2016 年 8 月～現在に至る
・学生募集　委員	2014 年 4 月～2022 年 3 月
・学生　委員	2021 年 4 月～2022 年 3 月
・国家試験対策委員	2020 年 4 月～現在に至る
・動物実験委員会　委員	2019 年 4 月～現在に至る
・ほほえみ project(ほほえみの会 2014 年 4 月～2020 年 3 月活動終了からの後継 project)	2021 年 6 月～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　扇谷恵美子	職名　　特任教授	学位　学士（教育学）　　（福岡教育大学 1975）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
学校における食育 食育における栄養教諭の役割	栄養教諭、食育の系統性、食育の全体計画 食育と学習指導、食育と給食指導

研　　究　　課　　題
１、小学校や中学校、保育園における食育の現代的課題を探り、解決に向けての具体的手立てを考察する。 ２、栄養教諭に求められる資質や力量を、具体的に探る。

担　　当　　授　　業　　科　　目
学校栄養指導論Ⅰ（3 年前期）、学校栄養指導論Ⅱ（3 年後期）、栄養教育実習事前事後指導（3 年後期～4 年後期）、栄養教育実習（4 年前期～4 年後期）、教職実践演習（4 年後期）

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【　学校栄養指導論　Ⅰ　】 本科目は、栄養教諭の職務内容や職務の実態を学ぶ専門科目である。学校給食の意義と栄養教諭の使命や役割を理解して、児童生徒の食に関する課題とその解決策を探ろうとする意識や態度をもつことを目標とする。教師として不可欠な「自ら学ぼうとする力」を伸ばすために、授業では、文献や資料を調べる調査活動と感想や意見を発表する表現活動を多く設定して、授業に主体的積極的に取り組ませた。また、文を書く場面も多く設けて、文章を書くことへの抵抗感を減らすようにした。授業は、非常勤講師の先生と協力し役割分担して実施した。
授業科目名【　学校栄養指導論　Ⅱ　】 本科目は、学校栄養導論Ⅰを踏まえて、小学校・中学校における食に関する指導内容を理解して、授業構想案を作成したり具体的指導方法を理解したりすることを目標とする。 授業は、非常勤講師の先生と協力して、自作ワークシートを中心に進めていった。毎回、小テストを実施して、重要ポイントの確認と知識の定着を目指した。授業構想案は、個別指導を実施しながら、各自に複数回修正させて、現実的な授業構想案へと導いた。なお、相手が理解しやすいスピーチ力を身につけさせるために、毎回、対象とする児童生徒の年齢を変えた１分間スピーチを実施した。
授業科目名【　栄養教育実習事前事後指導　】 本科目は、教育現場における栄養教育実習を受けるに当たっての心構えや留意事項、具体的な指導方法を理解し、習得して、効果的な栄養教育実習を迎えることを目標とする。また、実習の終了後には、実習に関する反省や問題点等の分析を行って、今後の教育実践へと繋いでいくことも目標としている。 授業においては、学習指導案の作成や模擬授業を繰り返して、実習校からの要望に対応できるレベルの指導スキルの習得を目指した。なお、希望者にはオンラインで、実習前の個別指導を実施し、指導スキルの更なる定着を図った。 実習終了後は、実習報告書や発表資料を作成しての実習報告会を実施した。これからの教師には、効果的なプレゼンができる表現力も必要である。そのため、効果的な資料となるように発表原稿を工夫させ、一人当たりが６分程度のプレゼンでの報告会とした。

授業科目名【　栄養教育実習　】

本科目は、履修した教職科目での理論やスキルを基盤に、学校での食の指導を推進する一端を体験することを目標とする。また、児童生徒の人格形成、身体の成長と発達に寄与し、教育における研究課題を発見するとともに、自己の望ましい教師像を形成することも目標である。こうした実体験は、教師としての実践的・研究的能力を高めるものである。

大学の指導者は、実習中に実習校を訪問した。(ただし、コロナ流行の為に、訪問は遠慮してほしいとの実習校には、訪問せず。)　実習先の管理職や学級担任、栄養教諭との意見交換等は、学生が大学に戻ってからの指導や次年度以降の栄養教育実習の改善に繋がった。

栄養教育実習を体験することによって、学生の殆どが、栄養教諭になりたい意欲が非常に高まった。

授業科目名【　教職実践演習（栄養教諭）　】

本科目では、他学科の教職課程指導者と協力しての授業を一部含めながら、これまでの教職課程での学習や教育実習を振り返って、栄養教諭としての使命感、資質・能力、指導スキル等を考察していった。そして、将来的に栄養教諭になるために各自にまだ不足している部分の発見と向上を目標とした。

授業では、各自に残された課題に対して、具体的手立てを講じて解決を目指す場を構想させた。また、外部講師として現職の栄養教諭を招いて実践発表を聞かせ、意見交流の場を設けた。実習先以外の栄養教諭と関わらせて多様な視点をもたせ、「栄養教諭になるための学び」の集大成とした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

２０２１年度　　研　　究　　業　　績　　等　　に　　関　　す　　る　　事　　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
社会福祉法人真照会　則松保育園	理事	2014年4月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
教員採用試験対策における個別指導

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　岡部　明仁	職名　　教授	学位　　博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学　2001 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）、Cl^-共輸送体、細胞内 Cl^-濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研　　究　　課　　題
１．発達期における細胞内 Cl^-濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 ２．哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担　　当　　授　　業　　科　　目
応用生理学（後期） 解剖生理学実習（後期） 初年次セミナーII（分担・後期） 管理栄養士演習Ⅰ（分担・通年） 生理学（後期）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　応用生理学　】 講義スライドを全て PDF 化し classroom に公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めてもらうため、可能か限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
授業科目名【　解剖生理学実習　】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けてもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
授業科目名【　初年次セミナーII　】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて伝えた。
授業科目名【　管理栄養士演習Ⅰ　】 解剖生理学分野を担当した。講義スライドを全て PDF 化し classroom に公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。また、単に過去問を解くのではなく、なぜこの選択肢が誤答になるのかを一つ一つ丁寧に解説し、類似問題にも対応できるようにした。

授業科目名【　生理学（福祉学科）　】

毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。また、講義スライドを全て PDF 化し classroom に公開し、カラー画像のままいつでもどこでもどの端末からでも資料が確認できるようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会	評議員（2002 年 4 月～現在に至る）	1999 年 7 月～現在に至る
日本解剖学会	代議員（2019 年 3 月～現在に至る） 九州支部代議員（2013 年 11 月～現在）	2001 年 10 月～現在に至る
日本神経科学会		1996 年 7 月～現在に至る
北米神経科学会		1999 年 11 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） 1. Development of the GABAergic network in the mouse spinal cord.	共著	2021 年 6 月	*Academic Press*, *Elsevier*, U.K.	Kobayashi, S., Shimizu-Okabe, C., Kim, J., Kosaka, Y., Sunagawa, M., **Okabe, A.**, Takayama, C.
2. **Slow progression of sciatic nerve degeneration and regeneration after loose ligation through microglial activation and decreased KCC2 levels in the mouse spinal cord ventral horn**	共著	2021 年 10 月	Neuroscience Research	Yafuso, T., Kosaka, Y., Shimizu-Okabe, C., Okura, N., Kobayashi, S., Kim, J., Matsuda, K., Kinjo, D., **Okabe, A.**, Takayama, C.
3. Developmental Formation of the GABAergic and Glycinergic Networks in the Mouse Spinal Cord	共著	2022 年 1 月	International Journal of Molecular Science	Chigusa Shimizu-Okabe, Shiori Kobayashi, Jeongtae Kim, Yoshinori Kosaka, Masanobu Sunagawa, **Akihito Okabe** and Chitoshi Takayama
（翻訳） なし				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） なし				
				教育研究業績　総数　(2022.3.31現在) 著　書　2（全て共著、査読有、内訳　英文1　和文1） 学術論文　40（全て共著、査読有） 学会発表 116（全て共著、内訳　国際学会41　国内学会75）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役職名等	任　期 期　間　等
なし		

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
動物実験委員会　委員　2017年4月1日～現在に至る 同上　副委員長　2018年4月1日～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　尾　上　　均	職名　　教授	学位　博士（医学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+}動員機構 細胞内 Ca^{2+}恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研　　究　　課　　題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
生活の中の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能基礎実習 管理栄養士演習Ⅰ 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　生活の中の化学　】

- 本年度は基本的に対面形式で設定されていたが、途中緊急事態宣言のため遠隔形式に変更された３週間は、遠隔にて行なった。
- 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った
- 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントの PDF ファイルを Classroom に提示し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた
- 講義は､スライドを用いて行った。スライドには改訂を加えた。
- 遠隔とのハイブリッドとなる可能性が高かったため、スライドのレジュメは、Classroom に提示した
- 講義中に話した内容に関する質問を学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　生化学Ⅰ　】

- すべての講義を遠隔で行った。
- 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた
- 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした
- 講義に用いるスライドには遠隔授業用に改訂を加えた
- 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて PDF ファイルを Classroom に提示(一部は郵送)した
- 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた

- 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。

授業科目名【　生化学Ⅱ　】

- 本年度は基本的に対面形式で設定されていたが、途中緊急事態宣言のため遠隔形式に変更された３週間は、遠隔にて行なった。
- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 遠隔とのハイブリッドとなる可能性が高かったため、スライドのレジュメは、Classroom に提示した
- 生化学Ⅰで Classroom に提示した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて PDF ファイルを配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、できるだけ同じ週に行うよう努めた
- 講義中に話した内容に関する質問を学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　人体の構造と機能総合実習　】

- 本年度は本科目 14 回にすべてを私が担当した
- 本年度は基本的に対面形式で設定されていたが、途中緊急事態宣言のため遠隔形式に変更された３週間は、ビデオによるデモンストレーション実験とその結果(データ)を用いて行った。
- 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　生化学実習　】

- 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを要求した
- 本年度は基本的に対面形式で設定されていたが、途中緊急事態宣言のため遠隔形式に変更された３週間は、ビデオによるデモンストレーション実験とその結果(データ)を用いて行った。
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅰ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

授業科目名【　卒業ゼミ　】

- 担当教員が休職した学生１名を前期だけ代行担当した。
- 本人の希望により、野菜から DNA を抽出する学生実験のプロトコール立ち上げのための実験に参加してもらった。本予備実験を通して学生と決定した実験条件や方法によるプロトコールは、実際に人体の構造と機能総合実習で用いた。
- 国家試験や模試の解説書を学生自らが作成し、それに添削を加えた。これは受講生の希望で行ったことである

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1995年５月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試委員

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　木　村　宏　和	職名　教授	学位　博士（農学）（九州大学 1999 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
応用微生物学 食品科学	バクテリオシン、乳酸発酵、未利用バイオマスの有効活用、採卵鶏の腸内環境

研　　究　　課　　題
発酵食品から新規バクテリオシン産生乳酸菌を分離し、新たな食品保存料としての利用可能性について検討する。 未利用バイオマスの有効利用について検討する。具体的には、農産廃棄物を有用乳酸菌でサイレージ化し、それを用いた新たな採卵鶏用飼料の開発について検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目			
食品衛生学実験	前期		(栄養学科)
微生物学	前期		(栄養学科)
食品機能特論	前期		(栄誉学科)
食品衛生学	後期		(栄養学科)
加工食品機能論	後期		(栄養学科)
栄養学概説	後期	オムニバス	(栄養学科)
管理栄養士演習　I	通年	オムニバス	(栄養学科)
卒業研究			(栄養学科)
実践活動			(栄養学科)

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【食品衛生学実験】 実習書を作成した。市販の実習書に載っていない取り組みなどを説明し、学生の理解力向上に努める。
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本農芸化学会　会員 日本生物工学会　会員 日本乳酸菌学会　会員 バイオテクノロジー研究推進会会員		1994 年～ 1994 年～ 2006 年～ 2013 年～

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役 職 名 等	任　　期 期　間　等

学 内 に お け る 活 動 等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員 国家試験対策委員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　坂田郁子	職名　　教授	学位　修士（人間環境学）（福岡女子大学大学院　2010 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆栄養学	食環境整備、生活習慣病予防、地域包括ケアシステム

研　究　課　題
１．厚生労働省「予防・健康づくりに関する大規模実証事業」（イ）食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業に協力し、高血圧予防のための減塩とカリウム増加の働きかけ手法の検討。 ２．「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」を普及するため、配食サービスの実態を調査し、健康支援型配食サービスのあり方についての検討

担　当　授　業　科　目
公衆栄養学Ⅰ　（後期）（栄養学科） 公衆栄養学Ⅱ　（前期）（栄養学科） 公衆栄養学実習　（後期）（栄養学科） 地域栄養活動論　（後期）（栄養学科） 臨地実習Ⅲ　（後期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅱ（前期・後期）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】 集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
授業科目名【公衆栄養学実習】 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について外部講師の講義を交えながら解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
授業科目名【臨地実習Ⅲ】 実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ蔓延防止期間中のため、２週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習に臨ませた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県公衆衛生学会 日本栄養改善学会 日本公衆衛生学会 日本在宅栄養管理学会 日本高血圧学会		１９８７年2月～現在に至る ２００５年3月～現在に至る ２００６年5月～現在に至る ２０１８年5月～現在に至る ２０２１年9月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市学校給食審議会	委員	２０２０年7月１日 ～２０２２年6月３０日
公益社団法人福岡県栄養士会	第 46 回福岡県栄養改善学会 一般口演審査委員長	２０２１年１０月３１日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
人事委員会　委員　　2021 年 4 月　1 日～2022 年 3 月 31 日 栄養学科　学科長　　2021 年 6 月 16 日～2022 年 3 月 31 日

２０２１ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　相良かおる	職名　准教授	学位　博士（工学）奈良先端科学技術大学院大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理　辞書　データベース　医療用語 日本語学　語彙調査　語彙分類

研　究　課　題

医療文書の分かち書き用辞書 ComeJisyo を作成し無償公開している.
実践医療用語を対象とし，語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している.

担　当　授　業　科　目

情報処理基礎　（前期）（栄養学科）
情報処理応用　（後期）（栄養学科）
情報の理解と表現（前期）（栄養学科）
健康情報処理論　（前期）（栄養学科）
健康情報処理実習（後期）（栄養学科）
卒業研究・演習　　（通年）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については，実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【情報処理基礎】

本授業では，情報処理に必要な基本的知識，クラウドコンピューティングや SNS 等の最新の ICT に関する情報，インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と，Word 及び Excel の基本操作の演習が含まれる．タイピング教材には日本国憲法全文と，管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている.

本年度はコロナ禍の影響で遠隔授業と対面授業の併用となったため，新入生を対象とする本授業では，遠隔授業を受講するために必要なパソコンのスキルとサイバー犯罪&セキュリティに関する内容に時間を割いた．また自宅で家族と一緒に受講する学生がいることをを踏まえ，各家庭のパソコン環境に関する質問を受け付けるようにした.

授業科目名【情報処理応用】

本授業では，Word の演習としては，「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成，Excel の演習としては，銀行およびクレジット会社で使われている利息計算，そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い，情報の加工と表現法を行っている．また地域社会の一員としての貢献について気付き，学ぶために，自分の住む地域の名物料理，名産の食材とそれらの栄養成分，機能等を調べ，地域活性化事業を提案し，レポートにまとめ，PowerPoint を使ったプレゼンテーションの演習を行っている．パンフレットおよびプレゼンテーションについては，評価票を用いてクラス全員で評価し，成績評価に反映している.

授業科目名【情報の理解と表現】

本授業は，栄養教諭１種免許取得に必要な授業であり，文書，リポート，スライド，ポスターの作成を通して，テキスト，音声，画像，映像など各種メディアのコンピュータによる処理技術および表現技法を，講義および演習を通して修得し，「読みやすく，見やすく，魅力的なコンテンツ」を制作できる様になることを目指す.

また，作成したものを相互に評価し，評価する側とされる側の立場を経験し，教員としての評価法を学ぶ.

授業科目名【健康情報処理論】

マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と，自分が必要とする健康情報の収集方法，そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業である．本年度はコロナ禍により，PCR 検査に関するニュース等，コロナ感染に関する多くの健康情報がニュース等から流れたためこれらを教材として授業を行った．また「フードファディズム（Food faddism)」と「3 た論法（飲んだ，治った，効いた)」については，具体的な事例を紹介した上で，身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し，問題解決型の授業を行った．

本授業は遠隔授業だったことから，スライドを見せて教員が話す一方向の授業は，学生にとって辛いだろうと考え，Microsoft Witheboard を使って板書をし，ノートを取る時間を設け，対面授業に近い形式で授業を行った．また質問の回答は Google Jamboard を使い，クラスメートの考えや回答をクラス全員で共有し，意見を投稿することで，「教えない」教育を心掛けた．

授業科目名【健康情報処理実習 】

本授業は，「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし，「栄養疫学（栄養学研究)」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である．管理栄養士として調査研究する際に必要な，食に関わるアンケート調査票の作成，実施，集計，分析，報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型，共同学習型の授業を構成し，成果物が卒業後も活用出来るように，教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している．また，評価においてもグループ評価 20%，課題提出 20%，授業貢献 10%とし，毎回の授業の取組を評価するようにしている．

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
情報処理学会		1996 年
教育工学会		2000 年
医療情報学会		2002 年
日本看護科学会		2004 年
大学女性協会		2008 年
言語処理学会		2011 年
情報知識学会		2014 年

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1. 医療用語に含まれる助数詞について	共著	2021年12月	人文科学とコンピュータシンポジウム 2021　194 - 199	全6頁 東条佳奈,相良かおる，西嶋祐太郎，麻子軒，山崎誠 本研究では医療記録文における数量表現の適切な抽出のために，医学分野の用語集・辞典と医師国家試験問題文より抽出した「第」を関する序数詞について「数詞の表記のゆれ」と「名義尺度と順序尺度のどちらにあたるのか」の 2 点に注目して分析を行ったものである．

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳）				
（学会発表） 2.　人間可読と機械可読の看護記録を目指して ー看護と看語ー	単著	2021.7	日本医療情報学会看護学術大会論文集：JAMI-NI,2021,pp. 77-80	全４頁 相良かおる 看護経過記録860文に含まれる誤字・誤変換と，3種類の分ち書き用辞書を用いて分ち書きした語分割の結果について述べている.
3.　実践医療用語の合成語生成ツールの作成と公開	単著	2021.6	第 25 回日本医療情報学会春季学術大会　25th JAMI(Nov. 2021) pp. 108-109	全2頁 相良かおる 形態素解析結果，出力される品詞情報より合成語を生成する方法とツールについて述べている.
4.　ComeJisyoUtf8-3 の語解析調査	単著	2022.3	言語処理学会　第 28 回年次大会　発表論文集 pp. 1520-1523	全４頁 相良かおる 2020 年度の看護師，助産師，管理栄養士国家試験問題文を ComeJisyoUtf8-3 で解析し，語解析の解析について考察を行った.
5.　医療用語の is-a オントロジー構築の FCA を使った効率化	共著	2022.3	言語処理学会　第 28 回年次大会　発表論文集 pp. 705-710	全4頁 黒田航，相良かおる 形式概念分析（FCA）を用いた医療用語のis-a構造の半自動生成について述べている.
			（2022年3月22日現在）総数117 学術論文　36（内訳　単著 8　共著 28） 学会発表　65（内訳　単著 5　共著 60） 翻　訳　1（内訳　単著 0　共著 1） 図書&テキスト　3（内訳　単著 0　共著 3） 随　筆　10（内訳　単著 10　共著 0） 報告書　2（内訳　単著 1　共著 1） （特　許　5）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
医療記録文に含まれる合成語の語構成解析ーリアルワールドデータの利活用に向けてー	文部科学省 科学研究費補助金 (基盤研究(B))	○相良かおる, 高崎智子（山崎誠，東条佳奈）	12,220 千円 (直接経費: 9,400 千円, 間接経費: 2,820 千円) 2021 年度: 3,250 千円 (直接経費: 2,500 千円, 間接経費: 750 千円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
◆実践医療用語辞書 ComeJisyo 公開プロジェクト（特定非営利活動法人言語資源協会正会員）	代表	2012 年～現在
◆大学女性協会福岡支部例会（「人工知能は男性？女性？」）	講師	2022 年 3 月 27 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職，委員，学生支援など）
♦　図書委員
♦　その他：栄養学科全学生を対象に遠隔授業の受講環境の調査を実施
♦　FD 研修会講師「オンライン教育　During and After the COVID-19」2021 年 8 月 21 日

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　髙﨑　智子	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学　2001 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
予防医学	健康寿命、生活習慣、がん教育、がん検診、 胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん

研　　究　　課　　題
・健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。 ・がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討する。 ・がん検診における要精密者の受診率を高めるための課題について検討する。 ・学生支援の一つとして、本学保健福祉学部１年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。 ・医療記録データを利活用するための自然言語処理を支援することを目的とした医療用語の語構成と意味の解析を行う研究に、医学的知識を持つ共同研究者として参加している。

担　　当　　授　　業　　科　　目
病理基礎医学　　（1 年後期）栄養学科 疾病診断治療学Ⅰ（2 年前期）栄養学科 疾病診断治療学Ⅱ（2 年後期）栄養学科 臨床基礎医学実習（3 年前期）栄養学科 管理栄養士演習Ⅰ（4 年前期、後期）栄養学科 臨床栄養管理演習（4 年前期）栄養学科 初年次セミナーⅠ（1 年前期）栄養学科 初年次セミナーⅡ（1 年後期）栄養学科 実践活動　　（3 年後期、4 年前期）栄養学科

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 病理基礎医学 】 １年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目標とした。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていけるように努めた。授業のすべてを遠隔で行ったが、講義内容はプリントして事前に配布した。遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、聞き取りやすいようはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
授業科目名【 疾病診断治療学Ⅰ 】 管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目標とした。授業のすべてを遠隔で行ったが、講義内容はプリントして事前に配布した。遠隔授業への対応として、スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、聞き取りやすいようはっきりと話すよう心がけた。学生側の受講状況が見えないため、授業中に質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。

授業科目名【 疾病診断治療学Ⅱ 】

疾病診断治療学Ⅰで学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めると共に、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得るよう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高めるよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。

授業科目名【 臨床基礎医学実習 】

管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定した。新型コロナ感染予防対策として、体調チェック、マスク着用、換気、消毒などに留意しながら実施した。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となるURLを提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】

4年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出題された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。

授業科目名【 臨床栄養管理演習 】

4年生を対象として、医療現場における勤務環境とその改善策について検討した。医療従事者の働き方改革として、医療職種間でのタスク・シェアリング（業務の共同化）、タスク・シフティング（業務の移管）への取り組みが広がっており、チーム医療を推進することが求められている。具体的な対応策を紹介しながら管理栄養士の役割と専門性について再確認し、今後の医療提供の方向性について理解を深めた。

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

ビタミンB1欠乏症である脚気について、丁寧な食事調査をすることで脚気の原因が食物にあることを示した「脚気論争」について紹介した。栄養学科に入学して間もない1年生を対象として、疫学調査の重要性および食事によって予防できる病気や「栄養学」という学問についての理解を深めることで、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高めることを促した。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】

1年生を対象として、「研究倫理」に関する講義を行った。研究不正行為に関して事例を挙げながら紹介し、それらの行為が学生にとっても無縁ではないことを説明した。大学生としての身近な例として、不正のない実験ノートやレポートの書き方に関する指導を行った。

授業科目名【 実践活動 】

日本人で増加している大腸がんと乳がんは、欧米型食生活との関係が指摘されている。13名の4年生に対して、前年度後期から今年度前期にかけて、大腸がんと乳がんについての「がんの予防と食事との関連」をテーマに、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について、対面および遠隔にて指導を行った。調べた情報をもとに要点をわかりやすくまとめ、地域住民向けに配布することを想定したオリジナルのリーフレットを作成した。また、がんの予防に有益な食材を使ったレシピを調べ、紹介させた。若者ならではの感性で、レイアウト、色彩、イラスト等にこだわったリーフレットを作成しており、これらの活動を通じて、卒業後に管理栄養士として栄養指導等を行う上での具体的な知識や患者とのコミュニケーション能力を養うことができたと考える。今年度後期からは2名の3年生に対して、対面および遠隔にて同様の指導を行っている。学生は自主的に取り組んでおり、今後は、4 年生前期（次年度）にかけて市民公開講座等を開き、地域住民への情報発信と健康支援を行うことを予定している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本人間ドック学会	人間ドック認定医	2005 年 8 月～現在に至る
	人間ドック健診専門医	2012 年 1 月～現在に至る
	人間ドック健診指導医	2017 年 4 月～現在に至る
	人間ドック健診情報管理指導士	2007 年 8 月～現在に至る
	遺伝学的検査アドバイザー	2020 年 4 月～現在に至る
日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医	2020 年 1 月～現在に至る
日本がん検診・診断学会	がん検診認定医	2012 年 10 月～現在に至る
肺がん CT 検診認定機構	肺がん CT 検診認定医	2017 年 4 月～現在に至る
日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医	2006 年 10 月～現在に至る
日本医師会	福岡県医師会認定総合医	2017 年 4 月～現在に至る
	日本医師会認定産業医	2016 年 9 月～現在に至る
	日本医師会認定健康スポーツ医	2011 年 5 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 実践医療用語ー語構成 要素語彙試案表 Ver.1.0	共	2021 年 3 月 30 日 Web 公 開	言語資源協会（GSK）	① 医療記録データを利活用するための自然言語処理を支援することを目的とし、医療記録に含まれる合成語 7,192 語を構成する語構成要素 6,380 要素を対象に、意味的に分類するための意味ラベルを付与した。 ② 相良かおる、小野正子、高崎智子、東条佳奈、麻子軒、山崎誠、内山清子、岡照晃
（学術論文）				
（翻訳）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 講習会発表 1.「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の主な変更点について 「研究取扱規則」および「倫理審査委員会規程」の改正について	単	2022年3月	西南女学院大学・短期大学部 2021年度 研究倫理講習会	① 2021年6月に施行された新倫理指針の主な変更点について解説した。また新指針を受けて本学の規程等を改正し、2022年4月より施行する。その改正点について解説した。
研究報告会発表 2. 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022年3月	2021年度 西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 報告会	① 女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ② 樋口由貴子、目野郁子、髙﨑智子、水貝洵子、山田恵、大内田知英

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
医療記録文に含まれる合成語の語構成解析 －リアルワールドデータの利活用に向けて－	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	○相良かおる 髙崎智子 （山崎誠） （東条佳奈）	2021年度 3,250,000　（直接経費：2,500,000，間接経費：750,000）
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 研究費	○樋口由貴子 目野郁子 髙﨑智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
国家公務員共済組合連合会 新小倉病院	非常勤医師・産業医	2019年2月 ～現在に至る
九州地区学生指導協議会	常任委員会委員・福岡北支部長	2021年4月 ～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院　将来計画委員会　大学・短期大学部　委員（2021年4月 ～現在）
西南女学院大学・短期大学部
学生部長　（2021年4月 ～現在）
大学評議会　委員　（2021年4月 ～現在）
運営会議　委員　（2021年4月 ～現在）
点検評価改善会議　委員　（2021年4月 ～現在）
認証評価ワーキングチーム「学生領域」担当メンバー・ワーキングチーム副責任者 （2022年1月 ～現在）
学生委員会　委員長　（2021年4月 ～現在）
就職委員会　委員長　（2021年4月 ～現在）
国際交流委員会　委員長　（2021年4月 ～現在）
大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会　委員（2021年4月 ～現在）
倫理審査委員会　委員　（2019年4月 ～現在）
「西南女学院　研究取扱規則及び倫理審査委員会規定の改正に関するワーキンググループ」メンバー （2021年4月 ～現在）
学生個人情報保護委員会　委員　（2021年4月 ～現在）
地域連携室運営協議会　構成員　（2021年4月 ～現在）
学生総合支援室運営連絡協議会　構成員　（2021年4月 ～現在）
大学教学マネジメント検討会　構成員　（2022年1月 ～現在）
将来計画検討プロジェクトメンバー　（2021年7月 ～現在）
硬式テニス部　顧問　（2021年4月 ～現在）
栄養学科１～４年生　アドバイザー　（2019年4月 ～現在）
管理栄養士国家試験対策講座（前期・夏期集中・後期・国試直前）（2019年4月 ～現在）
栄養学科学生に対して「遠隔・対面併用型授業における本学学生の健康状態に関するアンケート調査」実施 （2022年1月）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　藤和　太	職名　　准教授	学位　博士(医学)（九州大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん　糖尿病　食生活習慣 遺伝子多型　疫学

研　究　課　題
１．症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 ２．アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 ３．コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担　当　授　業　科　目
公衆衛生学 I（前期） 公衆衛生学 II（後期） 公衆衛生学（前期） 健康管理概論（前期） 管理栄養士演習 I（前期） 管理栄養士演習 I（後期） 国際栄養学（後期） 卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生学 I】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。 クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【　健康管理概論　】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【管理栄養士演習 I】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【公衆衛生学 II】 公衆衛生学 I では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学 II の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 代議員 会員 会員 会員	2002 年　10 月～現在に至る 2003 年　1 月～現在に至る 2003 年　10 月～現在に至る 2004 年　8 月～現在に至る 2010 年　12 月～現在に至る

2021 年 度　　研　　究　　業　　績　　等　　に　　関　　す　　る　　事　　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 健康管理概論 第 3 版 第 8 章	共著	2022 年 1 月	講談社	栄養学 NEXT　シリース 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論　第 3 版 東あかね・久保加織　編
（学術論文） 1. Associations between peroxisome proliferator-activated receptor γ (PPAR-γ) polymorphisms and serum lipids: two cross-sectional studies of community-dwelling adults.	共著	2020 年 8 月	*Gene.*2020 Aug 2;145019.	①　日本多施設共同コホート研究における横断研究で、PPAR-γ多型（rs1801282、rs3856806、rs12497191、rs1151999、およびrs1152003）と血清脂質との関連を検討したものである。今回は静岡地区のベースラインデータと第2次調査データを用いて検討した。結論として、rs3856806およびrs12497191多型は、脂質異常症及び高LDLコレステロール血症のリスク低下と関連している可能性があることが示された。 ②　共著者　Takashi Matsunaga, Mariko Naito, Guang Yin, 他12名 ③　役割：データ収集、統計分析、論文作成、doi：10.1016/j.gene.2020.145019.
2. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.	共著	2018 年 2 月	*Gene*. 2018 5; 642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究においで、2006 年と 2007 の間で募集された 35―69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた７つの選択されたＳＮＰの連合を分析しました。TERT　rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相

2021 年 度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				互作用が見られた。 ②　共著者　Seiki T, Naito M, **Guang Yin,** 他9名 ③　役割：データ収集、統計分析、P172-177
3. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	*Nutrients*. 2016 Sep 6; 8(9). pii: E545.	①　日本多施設共同コホート研究においで、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。②　共著者 Hinako Nanri, **Guang Yin,** 他16名 ③　役割：データ収集、統計分析、P1-16
4. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	*Nagoya J Med Sci.* 2016 May;78(2):183-93.	①　日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究においで、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。 ②　共著者　**Guang Yin,** Mariko Naitou, 他16名。 ③　役割：論文作成、データ収集、統計分析　P183-193
（翻訳） 医学部教科書 病気がみえる　vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 モンゴル語・ 英語・日本語語彙集	共著	2022 年 1 月	Medic Media 名古屋大学	名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科学大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。現在、vol.3 がすでに翻訳が終了し、印刷された。

2021 年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） 1．*PASS1*遺伝子多型と肝機能異常との関連	共著	2022 年 1 月	第 32 回疫学会総会（オンラインで開催）	①　対象者は J-MICC Study（日本多施設共同コホート研究）大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2703 名である。この研究では、PAPSS1 遺伝子多型と肝機能異常との関連が示唆された。 ②　藤和太（銀光）、内藤真理子、若井建志他 11 名 ②　第 32 回疫学会学術総会抄録集（P156）
2．*PAPSS1*遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021 年 1 月	第 31 回疫学会総会（オンラインで開催）	①　対象者は J-MICC Study（日本多施設共同コホート研究）大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2772 名である。この研究では、PAPSS1 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②　藤和太（銀光）、内藤真理子、若井建志他 11 名 ③　第 31 回疫学会学術総会抄録集（P126）
3. カフェイン代謝酵素 CYP1A2 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020 年 2 月	第 30 回疫学会総会（京都大学百周年時計台記念館）	①　対象者は J-MICC Study（日本多施設共同コホート研究）大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2695 名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ②　銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他 11 名 ③　第 30 回疫学会学術総会抄録集（P146） 教育研究業績総数 （2022年3月15日現在） 著書　5（内訳　単 1,共 4） 学術論文　41 （内訳　単　0, 共　41） 学会発表　29 （内訳　単　0, 共　29）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
アジア太平洋がん予防学会（現在に至る）	会員	2002 年　10 月～
日本疫学会（現在に至る）	代議員	2003 年　1 月～
日本癌学会（現在に至る）	会員	2003 年　10 月～
日本がん疫学研究会（現在に至る）	会員	2004 年　8 月～
日本公衆衛生学会（現在に至る）	会員	2010 年　12 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
保健福祉学部研究所運営委員会　委員　2017 年度～現在 予算委員会　委員　2020 年度～現在 国際交流委員会　委員　　2020 年度～現在 FD 委員会　委員　2021 年度～現在

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　永原　真奈見	職名　講師	学位　博士（人間環境科学）（福岡女子大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育学	食育、生活習慣、食事調査、料理区分、特定保健指導

研　究　課　題
1. 小学生における生活習慣や不定愁訴の実態の検証 2. 特定保健指導の６か月時での 3%減量目標の意義と３か月時評価への応用可能性 3. 特定保健指導終了によるメタボリックシンドロームの罹患及び脱却への効果（9 年間の縦断研究） 4. 主食・主菜・副菜等の料理区分を活用した食事評価

担　当　授　業　科　目
・栄養教育論Ⅰ ・栄養教育論Ⅱ ・栄養教育論実習Ⅰ ・地域栄養活動論 ・管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論） ・臨地実習Ⅲ ・高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ ・初年次セミナーⅠ

授業を行う上で工夫する事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　栄養教育論Ⅰ　担当　】（2 年生後期） 管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、出題範囲が広く、教科書の分量も多い。毎回の講義は、教科書に加えて、パワーポイントによるスライド（ムービー等も利用）とプリント資料（書き込み欄付）を作成・配布し、学生の理解度が深まる工夫を行っている。また毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。2 年生で履修する科目であるが、国家試験において出題頻度が高い用語についてはその旨を強調し、時には過去問を示して解説を行うことで、国家試験対策にも通じるよう工夫している。
授業科目名【　栄養教育論Ⅱ　担当　】（3 年生前期） 栄養教育論Ⅰで学んだ理論を基に、各ライフステージやライフサイクルに応じた栄養教育の特徴や課題、国や自治体における健康づくりの制度及び施策について解説している。栄養教育論Ⅱにおいても Ⅰと同様に、毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。また、講義の中で各ライフステージにおける実践活動の実際を紹介することで、学生がイメージしやすいように工夫している。
授業科目名【　栄養教育論実習Ⅰ　担当　】（3 年生前期） 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識・理論を基に、個人及び集団におけるカウンセリングや栄養教育を実際に体験し、計画・実施・評価・改善を通して栄養教育マネジメントスキルを習得することを目標としている。健康や食生活に関する情報収集、優先課題の特定、学習計画の立案、実施、評価、改善までの PDCA サイクルの作業を体験的に学ぶことで、実践につなげられるよう工夫している。
授業科目名【　地域栄養活動論　分担　】（3 年生後期） 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務内容について、実際の手法をもとに解説を行い、管理栄養士の役割について解説している。また、地域栄養活動実践の概要と行政組織、地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法等についても理解が深まるよう工夫している。

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅱ（栄養教育論担当）　】(4年生前期・後期)

「栄養教育論」分野を担当している。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素であることが多いため、「栄養教育論」分野に苦手意識をもつ学生も多い。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識も併せて解説している。

授業科目名【　臨地実習Ⅲ　分担　】(3年生後期)

臨地実習Ⅲでは、保健所へ実習に行く学生の指導を行う。実習期間中に実施される実習課題や研究授業内容を事前に確認し、より円滑に実施できるよう指導している。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行っている。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めている。

授業科目名【　高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ　分担　】

アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法について、看護・福祉・栄養の各専門分野から解説と実技指導を行う科目である。栄養分野では、高齢者の低栄養・過栄養と高齢者に特有な病態との関連、必要なエネルギー及び栄養素とその食事バランス及び栄養状態の評価・判定について指導している。

授業科目名【　初年次セミナーⅠ　分担　】(1年生前期)

学生自らが目的をもって主体的に学ぶための着想力、論理性、表現力、独創性などの力を養成するため、1 年生を対象に、スタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図ることを目的とした科目である。その中でも、ノート・テイキングやリーディングに関する講義を担当し、例題を使って実際に体験させながら習得させることで、講義の中で定着を図るよう工夫している。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2001年4月～現在に至る
日本食育学会		2018年4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2019年9月～現在に至る (2001年4月～2016年2月まで所属)
日本産業衛生学会		2019年11月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文) 1. 男性勤労者における特定保健指導の 6 か月時での3%減量目標の意義と 3 か月時評価への応用可能性	共著	2021年5月	産業衛生学雑誌 63，3	2008年～2017年に，一般財団法人日本予防医学協会によって実施された特定健康診査を受診した男性勤労者を対象とした特定保健指導において，6か月時で 3%減量を目標とする意義と，3か月時評価への応用可能性について明らかにすることを目的とした。特定保健指導において，6 か月時で3%減量を目標とすることの意義が明らかとなり，3か月時における減量目標を 2.0%と

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				する応用可能性が示唆された。
2. 勤労者における特定保健指導終了によるメタボリックシンドロームの罹患及び脱却への効果：9年間の縦断研究	共著	2021年10月	日本食育学会誌 15，187-195	2008年に特定保健指導を終了したか否かによって，その後の9年間におけるMetSの罹患及び脱却の推移，及び追跡期間前後の健診データ変化量に違いが認められるかについて検証した。終了群の方が未了群よりもMetS罹患率は低く，MetS脱却率は高かったことが明らかとなった。
（学会発表） 1. 小学校1年生の生活習慣・不定愁訴の実態と就寝時刻・保護者の生活習慣との関連	共著	2021年6月	第9回 日本食育学会 (開催：Web) ※論文賞受賞発表	入学後2ヶ月時点における小学1年生において，就寝時刻が遅いことが他の生活習慣等に悪影響を及ぼしている可能性，また保護者の朝の不調や好き嫌い，食への積極性が子どもの生活習慣に影響を与えている可能性が示唆された。
2. 10年間のメタボリックシンドロームの推移と生活習慣及び健診値との関連	共著	2021年10月	第68回 日本栄養改善学会 (開催：誌上)	10年間の健診データを用いて、メタボリックシンドローム(MetS)の経年的な該当状況と生活習慣や健診値、特定保健指導の受講状況との関連を検証し、是正すべき生活習慣や保健指導受講の意義を明らかにした。MetSの経年的な該当状況は、朝食の欠食習慣、ベースライン時の健診値の不良、保健指導の未受講と関連している可能性が示唆された。
				研究業績総数 (2022年3月1日現在) 学術論文 原著論文　8(うち筆頭5) 研究ノート　4(うち筆頭0) 紀要　15(うち筆頭4) 学会発表　55(うち筆頭13)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
サッカーチーム「SANXTUS (U-13)」 における栄養講習会	講師 タイトル 「目指せ 健康日本一！ 丈夫な体を作ろう！」	2021 年 7 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員 オープンキャンパスにおける模擬授業担当（2021.8.21 及び 2021.9.4）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　南里　宏樹	職名　嘱託教育職員	学位　博士（医学）（九州大学　1983 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養代謝学　生化学　臨床栄養学　細胞生物学	活性酸素　酸化ストレス　抗酸化防御機構 糖毒性　糖化タンパク質　血管内皮細胞

研　究　課　題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担　当　授　業　科　目
基礎栄養学Ⅰ（1 年生後期）2 クラス 基礎栄養学Ⅱ（2 年生前期）2 クラス 栄養学実習（2 年生後期）2 クラス 運動・環境と栄養(3 年生後期；分担）　2 クラス

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎栄養学ⅠおよびⅡ　】 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いため、基礎的な生化学と関連づけながら講義した。また、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習し、全体の流れが分かるように留意した。重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配付した。また、管理栄養士国家試験の過去問題(2000 年～2021 年)の解説集および基礎栄養学の重要項目の練習問題を配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。 今年度前期の基礎栄養学２(2 年生)は、昨年度に続き新型コロナ感染予防のため、すべての授業が遠隔で実施された。遠隔授業での学生の反応が分かるように、その日の授業に関連する練習問題をなるだけ多くの学生にあて、マイクを ON にして答えさせるようにした。後期の基礎栄養学１(1 年生)は、すべて対面で実施したので、感染予防のため間隔を取って席につくようにしたが、そのせいか授業への集中がやや損なわれたようなところも見受けられた。
授業科目名【　栄養学実習　】 今年度は、第１回のオリエンテーション以外はすべて対面で実施したが、実習によっては、教員が実際の測定方法をデモで示したり、測定の実施者を各班で一人に絞ったりして、実習中の”密“、”会話“をできるだけ少なくするようにした。そのため、実習の目的の一つである共同作業という点では、必ずしも十分な成果が上げられなかった。測定結果については班員全体で共有し、その意義を考察させるようにした。それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1，2 年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。

授業科目名【　運動・環境と栄養　】

３人の教員が分担する栄養学科３年生のための講義で、「環境と栄養」分野を担当した。
ストレス、体内リズム、気温、気圧、重力など５つの環境因子について、「栄養」との関りを身近な具体例を挙げながら講義した。また、関連する管理栄養士国家試験の過去問の解説集を配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。今年度も昨年度と同じく新型コロナ感染予防のため、すべての授業がオンラインで実施されたが、学生の反応が分かるように、また、授業を身近に感じるように、その日の授業に関連する国試の過去問題をなるだけ多くの学生にあて、マイクを ON にして答えさせるようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会 日本肥満学会		1977 年 4 月より現在に至る 2003 年 5 月より現在に至る 2014 年 1 月より現在に至る 2008 年 4 月より 2021 年 7 月まで

２０２１年度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学嘱託教育職員（栄養学科）（2021年4月1日～2022年3月31日）

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　西　村　　貴　子	職名　　講　師	学位　修士（栄養科学）（中村学園大学 2018 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
食生活学（臨床栄養を含む） スポーツ科学・応用健康科学	健康と食生活，食教育，食と環境，栄養アセスメント スポーツ栄養学，障害者スポーツ，栄養指導

研　究　課　題
1. 臨床における障がい特性に合わせた効果的な栄養アセスメント項目の探索 2. 日本人障がい者を対象とした基礎代謝量等のエネルギー消費量推定に関する基礎研究 3. 身体活動（運動を含む）量と摂食行動および摂食関与因子との関連についての検討

担　当　授　業　科　目
臨床栄養管理学（2 年後期） 臨床栄養学実習（3 年後期） 栄養教育論実習Ⅱ（3 年後期） 運動・環境と栄養（3 年後期） 運動栄養演習（4 年前期） 総合演習Ⅱ（4 年前期） 管理栄養士演習Ⅱ（4 年通年） 臨地実習Ⅱ（3 年後期から 4 年前期） 初年次セミナーⅠ（1 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については，実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 臨床栄養管理学 】 本科目では，基礎分野（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち・基礎栄養学）で学んだ栄養についての知識（理論）を，病院や介護といった臨床（現場）でどのように活用するか，その実践方法の修得を目的とした．具体的には，栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)の手法，栄養補給，栄養教育，食品と医薬品の相互作用等について，理解を深め，多職種連携を含めた総合的な栄養ケアマネジメントの考え方について，病院で行われている実例を提示しながら，解説を行った．
授業科目名【 臨床栄養実習 】 傷病者，要介護者および障がい者に対する栄養管理を実践するためには，個人の疾患を理解し，身体状況，栄養状態，価値観，社会経済状況等を総合的・全人的に理解して，適切な栄養管理を提案する必要がある．本科目では，傷病者の抱える栄養障害の病態の理解から課題を明確にし，栄養ケアプロセス（NCP）に基づいた栄養管理を行うため対応力を身に着けることを目的とした．経腸栄養剤の粘度の確認や試飲を行い，的確な栄養補給法の選択に必要な地域を付け，具体的な症例からの NCP の演習を行った．
授業科目名【 栄養教育論実習Ⅱ 】 栄養ケアマネジメントを行うためには，対象者の望ましい行動形成と変容を図るための教育的手法を修得する必要がある．本科目では，人間の行動に関する科学的な根拠をもとに，傷病者を対象とした個人栄養指導・集団栄養指導それぞれの利点・欠点の理解するため，具体的な教育手法についてロールプレイングを取り入れた実習を行った．

授業科目名【 運動・環境と栄養 】

3 人の教員が分担する栄養学科 3 年生のための講義である. 運動刺激に伴った生理反応と栄養の関連について講義を行った. 特に, スポーツ栄養分野で重要視されるパフォーマンスの向上のための競技別の体格獲得に向けた栄養管理について講義を行った.

授業科目名【 運動栄養演習 】

食生活や身体活動は, 子どもの健全な発育発達のみならず, 成人期以降の生活習慣や健康状態にも影響する. しかし, 健康や体づくりに関する栄養や身体活動に関するマス・メディア情報やインターネット情報が散乱しており, 管理栄養士は, 栄養の専門職として社会的ニーズに対応し適切な情報提供する任を担う. 特に, スポーツ栄養の分野では, 未だ栄養アセスメントに関するエビデンスが不足している現状にある. 本科目では, 運動栄養学に必要な基礎知識を活用して様々な競技種目の特性について文献調査を通して理解を深め, 管理栄養士として, 栄養プラン提案をプレゼンテーションと通じて発表することにより, 運動・スポーツ分野で活躍するための実践能力を身につけることをねらいとした.

授業科目名【 総合演習Ⅱ 】

本科目では, 実践栄養分野において, 管理栄養士としてのマネジメント能力を培うことを目的とする. 基礎分野を踏まえ,「臨床栄養管理学」および「栄養治療学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を実際に演習した. 具体的には, 疾患を持つ症例を具体的に提示し, それらに対して, 特有の病態や治療法の把握, 栄養アセスメント項目の選択と総合的な栄養評価の実施, 目標の設定, 栄養補給方法の選択や症例に提示する行動計画といった詳細な栄養ケア計画立案に至るまでの一連のマネジメント手法について, 実際の情況を想定した演習（訓練）を行った.

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】

本科目は, 管理栄養士国家試験「臨床栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている. 演習問題の直接の内容にとどまらず, 実際の現場での活用方法や他職種の理解及び連携について実例を提示し, 一部に固執せず, 多面的かつ総合的な判断ができるような講義展開を行った.

授業科目名【 臨地実習Ⅱ 】

本実習は, 臨床栄養の実践活動の場（病院）における学外実習を通して, 管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り, 具備すべき知識・技能を修得することを目標としている. 病院において, 2～3 週間の実習を行うため, 事前学習として, オリエンテーションを実施し, 実習の目的, 実習に対する心構えおよび身だしなみ等について, 細かく指導した. 実習評価表に記載されている項目に関しては, 学生自身の知識を整理するために, 自己学習ノートの作成を指示し, 実習に対する事前学習の機会を設けた. また, 実習施設より出された課題については, 個別に添削指導しできる限りの指導を行った. 実習中は, 実習施設を訪問し, 施設の実習指導担当者の指導等に基づき, 学生への指導を行った.

授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】

大学は, 学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり, 基礎的な知識の上に, 着想力, 論理性, 表現力, 独創性などの力が求められる. これらの力を獲得するためには, ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく, 自らが積極的に課題を探求していく姿勢をもたなければならない. 初年次セミナーⅠでは, 大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本の強化を図るため, 講義の聴き方, ノートの取り方, 本の読み方, レポートの書き方, より深い学びを得るための文献検索, インターネット等の ICT 活用法等, 大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した. 特に, 栄養学科の学生がさまざまな実験実習に対応できるように『栄養学科で使用する計算・単位』『レポートの書き方』等, 実際の事例を用いることにより, 理解を促した.

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年 4 月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会会員	正会員	2014 年 4 月～現在に至る
九州体育・スポーツ学会会員	正会員	2015 年 6 月～現在に至る
日本健康支援学会会員	正会員	2015 年 12 月～現在に至る
日本体力医学会	正会員	2017 年 5 月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 1. 高校女子陸上長距離選手の月経状況と利用可能エネルギー量および栄養素等摂取量:加速度計法を用いた検討	共著	2021年7月	日本スポーツ栄養学会 第7回大会 （誌面発表）	①日本人女性アスリートの利用可能エネルギー量（EA）の基準値の設定を目的とし，高校女子陸上長距離選手を対象に，運動エネルギー消費量を加速度計法にて客観的に評価し，月経状況とEAならびに栄養素等摂取量の関連を検討した．高校女子陸上長距離選手における月経周期異常は，EAの低下が関連する可能性が考えられた. ②渡邉雄一，熊原秀晃，西村貴子，片渕奈々，平方美都希，石塚麗，小清水孝子，大和孝子 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2. 高校・大学女子陸上長距離選手の月経状況と利用可能エネルギー量および栄養素等摂取量	共著	2021年8月	九州体育・スポーツ学会 第70回記念大会 （オンライン）	①本研究は，高校・大学女子陸上長距離選手を対象に，運動エネルギー消費量を加速度計法にて客観的に評価し，月経状態とEAならびに栄養素等摂取量の関連を横断的に検討した結果，高校・大学女子陸上長距離選手における月経周期異常は，糖質摂取量の低下に起因したEAの低下が関連する可能性が考えられた. ②渡邉雄一，西村貴子，相川響，熊原秀晃 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3. 若年成人男性における中・高強度運動が食欲関連ホルモンおよび食事摂取に及ぼす急性影響	共著	2021年9月	第40回日本臨床運動療法学会学術集会 （オンライン）	①乳酸閾値強度（LT）に代表される中等度の運動は，健康の保持増進に有効であるが，運動実施後の食欲や実際の摂食行動は充分に検討されていない．本研究では，LTならびに高強度の一過性運動が，直後の食欲関連ホルモンおよび食事摂取に及ぼす影響を検討した.

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				高強度運動の直後はアシル化グレリンが減少し，たんぱく質不足に起因したエネルギー摂取量の低下が誘発される可能性が考えられた．一方，LT運動は，運動直後の食欲関連ホルモンおよび摂食行動に及ぼす影響は認められなかった． ②西村貴子，熊原秀晃，一田木綿子，綾部誠也，飛奈卓郎，吉村英一，中野修治5 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4. 若年成人女性における中等度および高強度運動が味の欲求感情に及ぼす急性影響	共著	2021年9月	第40回日本臨床運動療法学会学術集会 （オンライン）	①運動実施が味の欲求感情に及ぼす影響を理解することは重要である．本研究の目的は，中等度・高強度運動が甘味・塩味・脂質・酸味に対する欲求感情に及ぼす影響を明らかにすることであった．味の欲求感情は，運動強度により影響される因子と運動実施に伴う気分・感情により影響される因子がある可能性が示唆された． ②石澤由夏，熊原秀晃，西村貴子，平田遼，八尋瑞季，一田木綿子，綾部誠也，飛奈卓郎，吉村英一，中野修治 ③研究遂行においては共同研究につき本人担当部分抽出不可能

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
【委員会等】		
・公益財団法人福岡県体育協会 スポーツ医・科学サポート事業	スポーツ医・科学スタッフ （スポーツ栄養領域）	2013 年 4 月～現在に至る
・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会　日本パラリンピック委員会 医・科学・情報サポート事業	栄養領域スタッフ	2016 年 4 月～現在に至る
・福岡県女性アスリート医科学サポート研究委員会	委員	2019 年 12 月～現在に至る
・一般社団法人日本パラ陸上連盟 強化委員会	強化委員	2020 年 4 月～現在に至る
・一般社団法人日本車いすテニス協会	栄養サポート強化スタッフ	2020 年 4 月～現在に至る
【講習会・セミナー等　他】		
・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第 1 回 JPA 暑熱対策セミナー	講師	2021 年 6 月 19 日
・日本パラ陸上競技連盟強化委員会 第 2 回 JPA 暑熱対策セミナー	講師	2021 月 7 月 5 日
・日本パラ陸上競技連盟 東京パラ事前合宿	栄養スタッフ	2021 年 8 月 14 日～8 月 24 日
・東京 2020 パラリンピック競技大会	競技団体村外支援スタッフ （日本パラ陸上競技連盟）	2021 年 8 月 24 日～9 月 6 日
・福岡県栄養士会生涯教育 勤労者支援事業部実務研修	講師	2022 年 1 月 29 日
・春日市食育講演会	講師	2022 年 2 月 19 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職，委員，学生支援など）
・学生個人情報保護委員会委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月）
・情報システム管理運用委員会委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月）
・学生募集委員会委員（2022 年 4 月～現在に至る）

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　　花　田　浩　和	職名　教　授	学位　学士（中村学園大学 1984 年卒）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	内分泌疾患　消化器疾患　循環器疾患 腎臓疾患　肝臓疾患　高齢者疾患　周術期栄養管理

研　　究　　課　　題
医療現場における栄養管理方法について治療の効果を検討する。 効果的な栄養教育方法について検討する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
栄養治療学Ⅰ　　（3 年前期） 栄養治療学Ⅱ　　（3 年後期） 臨床栄養学実習　（3 年後期） 臨床栄養活動論　（3 年後期） 臨地実習Ⅱ　　（3 年後期～4 年前期） 臨床栄養管理演習（4 年前期） 総合演習Ⅱ　　（4 年前期）

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【　栄養治療学Ⅰ・Ⅱ　】 医療機関並びに福祉施設に従事するために必要な医学的知識と栄養管理方法の習得を目的とする。 これまでに学んだ知識を復習し、さらに疾病の病態と治療、栄養管理について理解が深める。
授業科目名【　臨床栄養学実習　】 臨床栄養管理に関する演習と実習を行う、実践的な栄養管理方法を理解し習得する。
授業科目名【　臨床栄養活動論　】 臨床現場における管理栄養士業務について実践的な指導を行う。また、外部講師を招き、現場における管理栄養士業務の現状を教授いただくことにより、管理栄養士に必要な能力を養い、将来の管理栄養士像を模索する上で必要な知識を得る。
授業科目名【　臨地実習Ⅱ　】 医療施設の臨地実習に備えるため、臨床における栄養管理の知識と管理栄養士業務について理解を深める。 臨地実習おける心構えや学び方を整理し、充実した学びが得られるように指導を行う。

授業科目名【　臨床栄養管理演習　】 医療機関における臨床栄養管理について疾患別に症例検討を行い、実践的な栄養管理方法について理解を深める。
授業科目名【　総合演習Ⅱ　】 これまで学んできた臨床栄養学の復習と演習を行い、より実践的な栄養管理ができる管理栄養士を目指して、演習を行う。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本病態栄養学会 日本栄養代謝学会		1984 年～現在に至る 2002 年～現在に至る 2007 年～現在に至る

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
就職委員会　委員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　舩越　淳子	職名　　講師	学位　博士（栄養科学） （中村学園大学大学院　2010 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
食品科学	穀類、豆類、抗酸化活性、ポリフェノール 糠床、アントシアニン

研　究　課　題
穀類ならびに豆類における抗酸化活性の比較 ササゲ豆粉を利用した新規加工食品の開発 糠床および糠炊きの美味しさの検証

担　当　授　業　科　目

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本食品科学工学会	正会員	2005 年 4 月～現在に至る
日本保藏科学会	正会員	2007 年 4 月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2019 年 4 月～現在に至る
日本食生活学会	正会員	2019 年 7 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０２１ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　八木　康夫	職名　　教授	学位　　博士(医学)（産業医科大学 2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研　究　課　題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間（RT）を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、サプリメントや栄養素が運動パフォーマンスや代謝経路に及ぼす効果、高次脳機能に及ぼす効果について検討している。

担　当　授　業　科　目
初年次セミナーⅠ（栄養学科、１年前期） 運動と健康（栄養学科、１年前期、必修） チームスポーツ（栄養学科、１年前期） 生涯スポーツ（栄養学科、１年後期） 運動生理学（栄養学科、３年後期） 運動･環境と栄養(栄養学科、３年後期、２クラス) 運動栄養演習(スポーツ栄養を含む)（栄養学科、４年前期） 卒業ゼミ（栄養学科、４年通年） 卒業研究（栄養学科、４年通年） 運動と健康（英語・観光文化学科、１年前期、必修） チームスポーツ（英語・観光文化学科、１年前期） 生涯スポーツ（英語・観光文化学科、１年後期） チームスポーツ（看護学科、１年前期） 生涯スポーツ（看護学科、１年後期） チームスポーツ（福祉学科、１年前期） 生涯スポーツ（福祉学科、１年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　運動と健康　】 1. PCを用いてGoogle classroomを用いた。対面及び遠隔授業のどちらにおいても、連絡及び資料提示等、双方子の教育指導を行なった。 2. 毎講義後に、授業内容のまとめ小テストを行い、アンケートに授業の箇条書きと、興味関心点を出席確認アンケートに記入してもらい提出しさせた。 3. 毎講義の提出用学習ノートを作成させ、全授業終了後に回収し、採点し返却した。

授業科目名【　チームスポーツ　】

1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。
2. 3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、在学中、学外、将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。
3. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。
6. 遠隔授業対応の際にはgoogle classroomを活用し、各種のトレーニング方法を各自で調べ、グループでまとめ、グループでonlineで実施し、ストレッチ運動や自重体力トレーニング方法をonlineで行い、アンケートで内容の達成度を記述させ、評価した。

授業科目名【　生涯スポーツ　】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
5. 遠隔授業対応の際にはgoogle classroomを活用し、各種のトレーニング方法を各自で調べ、グループでまとめ、グループでonlineで実施し、ストレッチ運動や自重体力トレーニング方法をonlineで行い、アンケートで内容の達成度を記述させ、評価した。

授業科目名【　運動生理学　】

1. 対面及び遠隔授業のどちらにおいても、PCを用いてGoogle classroomを活用した。連絡及び資料提示等、双方子の教育指導も行なった。
2. 毎講義後に、授業内容のまとめ小テストを行い、アンケートに授業の箇条書きと、興味関心点を出席確認アンケートに記入してもらい提出しさせた。
3. 毎講義の提出用学習ノートを作成させ、全授業終了後に回収し、採点し返却した。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本運動生理学会	常任理事・編集委員（2008.7~至現在）	1992.4
日本体力医学会	評議員・会計委員（2017.4~至現在）	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（報告）				
遠隔教育における大学生の健康に関する調査 －健康に及ぼす影響と支援－	共	2022.3.31	西南女学院大学研究紀要, 26: 57-70, 2022	遠隔授業による学生の健康状態の現状を把握するため、前期遠隔授業受講に伴う健康状態を問うアンケート調査を実施した。全体の７割の学生が不調を訴え、眼や姿勢、運動不足に関する訴えが多く、視聴環境や授業進行の工夫や配慮が必要であると考えられた。 著者：高崎智子、相良かおる、八木康夫
（学会発表）				
第28回 九州大学バスケットボールリーグ戦 第６位	共	2021.10.2-10.30	九州大学バスケットボール連盟 （九州各地）	九州地区の大学バスケットボール競技の順位を、一部７校がリーグ戦で競い、３枠の全日本大学選手権の出場権をかけて戦かい第６位となった。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
がんと生活習慣の関係を啓発するための地域貢献活動の展開　～多職種連携による予防教育推進～	西南女学院大学 共同研究費	◯高崎智子 八木康夫 坂田郁子 石井愛子 田中貴絵 永田純美 長光里奈 浅野嘉延 高橋甲枝 引地尚子 辻澤利行	486,600円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本バスケットボール協会 日本体育協会 公開講座シニアサマーカレッジ（2021年度中止）	JBA 公認 C 級コーチ バスケットボール指導員 講師	2011.5.25~至現在 2015.3.26~至現在 ~2018.8

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
栄養学科長：2018.4.1～2021.5.31 入試委員：　2018.4.1～2021.3.31 人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 2014.4.1～2021.3.31 総合人間科学小委員会委員：総合人間科学カリキュラムの検討（至現在） 管理栄養士国家試験対策委員長：（2018.4～2021.5.31） バスケットボール部顧問：（1987.4.1～現在）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　山田　志麻	職名　　准教授	学位　博士（歯学）（九州歯科大学 2019 年 12 月）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域健康開発 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学　食育　高齢者　嚥下食　咀嚼　低栄養 口腔ケア　舌圧　健康増進　スポーツ栄養

研　究　課　題
・スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況について体組成を基に考察する。 ・在宅高齢者の口腔・栄養状態の調査により実態を把握し、口腔ケア・栄養指導等の介入により対象者の QOL の向上を図る。 ・地獄釜を利用した調理の応用法について。 ・高齢者のための食事の考察。 ・次世代向けおせち料理の開発。

担　当　授　業　科　目
・基礎調理学実習（前期）（栄養学科） ・調理学（前期）（栄養学科） ・フードコーディネート論（前期）（栄養学科） ・フードスペシャリスト論（前期）（栄養学科） ・実践調理・調理科学演習（前期）（栄養学科） ・高齢者支援学Ⅰ（後期）（栄養学科） ・応用調理学実習（後期）（栄養学科） ・初年次セミナー（後期）（栄養学科） ・管理栄養士演習Ⅰ（通年）（栄養学科） ・卒業ゼミ（通年）（栄養学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎調理学実習　】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理学実習で活用できるよう周知徹底させた。
授業科目名【　調理学　】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い（保存や調理加工）、それにともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。
授業科目名【 フードコーディネート論　】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。

授業科目名【 フードスペシャリスト論 】
フードスペシャリスト認定試験100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。

授業科目名【 実践調理・調理科学演習 】
1年時から学習してきた調理学及び調理科学のまとめとして、数種の官能評価を実施・集計し、その結果を評価できるように実践した。また、食品材料の特性を知り、食品の組織や成分の変化を化学的・物理的な面から学ぶため、実験及び測定を行った。その他、未知の調味料や食材について学習し、実際に調理することで想像力や実践力を身に着けられるよう工夫した。

授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ 】
看護・福祉と合同で高齢者を支援するための知識を習得し、さらにPBLを導入により、それぞれの分野や立場から、課題の抽出、問題の解決を図れるよう、学習内容を検討した。他学科の学生が互いに率直な意見を述べ問題解決までの話し合いとまとめができるよう環境づくりを心掛けた。

授業科目名【 応用調理学実習 】
1年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで簡単に時短料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へステップアップするため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。

授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】
初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。遠隔授業だったため、グループワークを円滑に行えるよう努めた。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】
1年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、基礎的な栄養士認定試験問題から複雑な国家試験問題まで、問題を解かせ解説を行った。

授業科目名【 卒業ゼミ 】
数名のグループに分かれ、テーマにあったデモンストレーションを実施した。計画、買出し、実演することで、栄養士としての立場を理解し、アンケートの実施により実践の評価を行った。自らが今後の課題を見つけ、学習目標につながるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	1997年から現在に至る
日本家政学会	正会員	1997年から現在に至る
〃	第74回大会実行委員	2021年から現在に至る
日本家政学会　九州支部	会計監査	2018年3月～現在に至る
〃	九州支部大会実行委員	2019年度
日本口腔衛生学会	正会員	
日本調理科学会	正会員	2013年から現在に至る
		2013年から現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 調理学の基本	共著	2020 年 1 月 17 日	同文書院	管理栄養士国家試験ガイドラインの内容に準拠。「食生活指針」等の改定も踏まえ、食事設計を重視。必要とされる知識・技術をわかりやすく解説。
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
コロナ禍における感染予防を徹底したリモート介護予防対策の開発とその有効性の検討	科研費	山田 志麻、（○田川達也、藤田 大輔、佐野 伸之、山之口稔隆）	不採択

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
【社会活動】		
・2021 グリーンパーク食育事業 （地域貢献活動：かぼちゃの収穫）	講師	2021 年 7 月 24 日
・2021 グリーンパーク食育事業 （地域貢献活動：食育実習）	講師	2021 年 12 月 4 日
・八幡バプテスト教会主日教会	司式	2019 年 4 月　～現在に至る
【講習会】		
・健・スポ KGK ナイトセミナー	講師	2022 年 1 月 31 日
・北九州市民カレッジ（大学連携リレー講座）コロナ禍下での暮らし方	講師	2022 年 2 月 4 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
・ハラスメン相談委員	2016 年 4 月　～現在に至る
・宗教委員	2016 年 4 月　～現在に至る
・キリスト教センター運営副委員長	2021 年 4 月　～現在に至る
・COC+高齢者支援学委員	2016 年 4 月　～現在に至る
・アドバイザー	2016 年 4 月　～現在に至る
・高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ担当者	2017 年夏期　～現在に至る
・生協理事	2017 年 4 月　～現在に至る
・フードスペシャリスト認定試験責任者	2018 年 4 月　～現在に至る
・チャペルアワー　司式	2019 年 4 月　～現在に至る
・朝礼　　司式	2019 年 4 月　～現在に至る
・弓道部顧問	2019 年 4 月　～現在に至る
・国家試験対策委員	2021 年 4 月　～現在に至る

人　文　学　部

英　語　学　科

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　アンデリュー・ジッツマン	職名　　講師	学位　修士（言語学）（マクワォリ大学　2008 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会言語学	異文化コミュニケーション アイデンティティ

研　究　課　題
オンライン学習環境の認知度 ブレンド型学習 アイデンティティの確立

担　当　授　業　科　目
英語コミュニケーションⅠ, II 英語ディスカッションⅠ ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ II 専門演習 I, II 卒業研究 欧米文化交流Ｂ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【英語コミュニケーション】 このコースは、生徒の英語コミュニケーション能力を、より自然で、スクリプトのない形に向上させることを目的としています。この目的を達成するために、このコースでは様々な社会的コミュニケーションルールを提示し、重要な練習の機会を提供します。
授業科目名【ライティング基礎】 何年も英語を書いていても、生徒たちが問題とする基本的な要素はたくさんあります。そこで、基礎的な部分を強化し、エッセイやリサーチレポートなどの大規模なライティング課題に備えられるように、地道なサポートを行いました。
授業科目名【パラグラフ・ライティング】 アイデアをパラグラフ形式にまとめることは簡単なことのように思えますが、多くの生徒がこれをうまく行うことができませんでした。このコースでは、様々な種類のパラグラフに焦点を当て、その知識をエッセイライティングに移す方法を説明しました。パラグラフからエッセイへの移行は、多くの生徒が苦手とする問題であり、このコースはそれを修正することを目的としています。

授業科目名【エリア・スタディ II】 隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップです。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察しました。最初の学期をオンラインで過ごした経験が、学生のオンラインでのプレゼンテーションスキルを高め、コースを成功させることができました。
授業科目名【欧米文化交流 B】 このコースは、欧米文化を紹介し、対象国との交流の機会を提供することを目的としています。COVID-19 の関係で、海外研修も、用意されていた国内代替オプションも実施できなかった。コース期間中、オンラインであったため、受講生はコースが提供する通常の特典を受けることができず、残念な思いをした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)	1994~現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） EFL Students' Attitudes Towards the Effectiveness of Emergency Remote Teaching Programs	共	2022 年 3 月	西南女学院大学紀要	新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため遠隔授業が突然導入され、各大学では慣れない授業形態に対応することを強いられた。経験もスキルも支援も乏しい中、教員も学生もオンライン環境で授業を実施または受講する環境に適応しなくてはならなかった。本稿ではこの変化がもたらした影響について考察する。特に日本の英語学習者達が遠隔授業をどれほど効果的であると感じたか、その向き合い方に注目する。
（翻訳）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） Student Reflections of Online Presentations	単	2021年5月	全国語学教育学会第20回 Pan-SIG Conference	この発表では、オンラインクラスでプレゼンテーションを行う学生が遭遇する課題に焦点を当てています。従来の授業では学生にとって非常に馴染みのある活動ですが、この活動をオンライン環境に移行することで、聞き手と発表者の両方に新たな課題が生じました。学生から寄せられた詳細なフィードバックは、アクティビティ後の振り返りアンケートの機会サンプルから得られました。学生の個人的な反省は、自分のプレゼンテーションを改善する方法だけでなく、他の学生がオンラインまたは教室でこの活動を改善するのに役立つ方法についても言及しています。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員　（副委員長）2021年4月1日～2022年3月31日 FD部門委員　2021年4月1日～2022年3月31日 職員研修委員　2021年4月1日～2022年3月31日 教育経費予算配分委員　2021年4月1日～2022年3月31日 人文学部将来計画委員　2021年4月1日～2021年11月30日 英語学科カリキュラム構成委員（委員長）　2022年2月21日～2022年3月31日 学科オリエンテーションイベントの企画検討を行う。 English Camp 企画検討を行う。 第三回KANAME杯委員 第2回FD研究会に発表を行う。 ハロウィンイベントの企画検討を行う。 クリスマスインテンシブの企画検討を行う。 ZION Cup（スピーチコンテスト)の企画検討を行う。 第2回学科FDの司会者

２０２１年度教育研究活動報告書

氏名　　太田　かおり	職名　　教授	学位　博士（教育学）（国際基督教大学 2007 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語学（英語音声学）・英語教育学（英語科教育法）・ICT 英語教育（e ラーニング）	英語の発音とリズムの指導法・小中連携英語教育・e ラーニング英語教育

研　究　課　題
英語学の分野において、初等・中等教育における英語の音声指導の調査研究を行い、その重要性と課題点について考察を行う。また、英語教育学の分野では、小中高大連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方についてや、e ラーニング英語教育における教師の役割および効果的な指導に関する研究などを行っている。

担　当　授　業　科　目
[2021 年度 担当授業科目] 実践英語音声学Ⅰ　（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅱ　（前期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅳ　（前期）（英語学科） 専門演習Ⅰ　（前期）（英語学科） 卒業研究（前期・後期）（英語学科） 教育実習Ⅱ　（前期・後期）（英語学科） 事前及び事後の指導　（前期・後期）（英語学科） 実践英語音声学Ⅱ　（後期）（英語学科） 英語教科教育法Ⅲ　（後期）（英語学科） TOEIC 演習Ⅱ　（後期）（英語学科） 教職実践演習（中・高）　（後期）（英語学科） 専門演習Ⅱ　（後期）（英語学科）

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【 実践英語音声学Ⅰ 】 「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法や IPA 表記に加え、文レベルにおける音変化（連結・省略・同化など）、英語特有のリズムについても理論と実践の両面で学ぶ。英語のリズムやイントネーションについては洋楽などを活用し、学生がより興味を持ちながら楽しく学べるよう工夫した。また、同期型オンラインにて授業を実施し、調音点や調音方法を確認しながら授業を進行した。学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって、授業後の英会話や英語学習に活用できるよう、実用的な授業実践を意識した。学生は全体としてたいへん意欲的に授業に参加しており、個別の発音訓練にも熱心に取り組んでいる。学生は、毎回の授業の終わりに Google Form のコメントフォームを入力し、学生からの質問に対してが次の授業冒頭にてフィードバックを行うことによって、双方向型で活気ある授業を心がけた。
授業科目名【 英語教科教育法Ⅱ 】 「英語教科教育法Ⅱ」は、英語科教育全般に関する理論的な知識の醸成を行った。日本における英語教育の歴史的編成に始まり、さまざまな教授法や学習理論の長所・短所にも理解を深めるよう講義を行った。また、４技能５領域を効果的に育成する指導方法の具体についても多く学び、来学期の模擬授業実践につなげる指導を心がけた。学習指導案の作成方法や授業展開、指導技術の基礎についても学ぶ。授業は双方向型で、各学生

が発言する機会も多く取り入れた。学生は多様な意見に耳を傾け、学生間での学び合いにもつながるよう努めた。4年次の教育実習に備えるため、理論と実践の両面における指導を意識した。
授業科目名【 英語教科教育法Ⅴ 】 英語科の教職課程科目で学んできたことの集大成として、教育実習に向けて中学校・高等学校（英語）の模擬授業を実施する。模擬授業担当学生は、英語科学習指導案、配布資料、パワーポイント教材資料、板書計画等を事前に作成したうえで模擬授業に臨む。互いに授業を参観し合い、講評することによって、学生たちは相互に刺激を与え合い、改善点や課題点について学び合う。模擬授業後、一人一人の学生に対して個別に丁寧な指導およびフィードバックを行うことによって、各々の学生が自らの授業の良い点をさらに伸ばし、改善点を克服し、自信をもって教壇に立つことができるよう指導に力を尽くした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音声学会 日本教育学会 国際教育学会 小学校英語教育学会 九州教育経営学会	福岡県理事	平成22年12月～現在に至る 平成22年12月～現在に至る 平成23年 4月～現在に至る 平成26年 4月～現在に至る 平成28年 4月～現在に至る

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1. e-learning英語教育の学習効果に関する研究－学習者の自律学習へ向けた教師の役割－	単著	平成24年3月	九州国際大学国際関係学論集第7巻第2号, 51-80.	大学生を対象に、4ヵ月に亘って実施したe-learning英語教育の成果報告を行った。また、e-learning英語教育における教師の役割や、学習者の自律学習へ向けた授業運営の在り方等についても考察を行った。 （総頁数 30頁）
2. 日本の英語科教育における音声指導の現状－初期英語教育における音声指導の導入及びその教授法の確立を目指して－	単著	平成24年3月	九州国際大学社会文化研究所紀要第69号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校の英語科教育における音声指導の実態調査を行い、その結果を報告した。調査結果に基づいて、英語科教育における音声指導の現状と問題点を提示し、さらには、小学校外国語活動も視野に入れつつ、今後の日本における英語音声教育の在り方について論じた。 （総頁数 21頁）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
3. 日本の英語教育における盲点－音声教育の現状と課題－	単著	平成 25 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 8 巻第 1･2 合併号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実態について調査研究を行い、日本の初等・中等教育において英語の音声指導が充分に行われていない実態を明らかにした。また、音声指導の具体的な内容について詳細な調査を行った結果、子音や母音の音声指導だけでなく、リズム・強勢・イントネーション・連結・同化・省略などを含む超音節的側面についても、学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性と重要性を論じた。 （総頁数 34 頁）
4. 学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	平成 26 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1･2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 （総頁数 20 頁）
5. 教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	平成 28 年 2 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 （総頁数 23 頁）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
6. 小学校外国語活動の課題と展望－小学校外国語活動に関するアンケート調査から読み解く－	単著	令和2年3月	西南女学院大学紀 Vol. 24, 65-84.	北九州市内の全ての小学校135校（有効回答数　90校、有効回答率　66.7%）を対象に実施した「小学校における外国語活動に関するアンケート調査」の結果を分析し、小学校外国語活動の成果と課題について考察した。アンケート調査では、全体の97%（90校のうち87校）が小学校外国語活動に関して「課題はある」と回答し、ほとんどの小学校が外国語活動に課題を抱えつつも、学級担任とALTが授業工夫と努力を重ね、児童の英語力の素地づくりに鋭意取り組んでいる様子が明らかとなった。 （総頁数 19頁）
（翻訳）				
（学会発表） 英語科教育における音声指導のすすめ－学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたか－	単独	平成24年8月26日	日本教育学会 第71回大会 (於 名古屋大学)	日本教育学会第71回大会において、『英語科教育における音声指導のすすめ－学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたか－』と題し、音声教育に関する現状報告と問題提起を行った。 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査：現状と課題、及び改善策の提案～地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して～	産業経済局 高度人材育成課	500,000	平成25年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業

北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連携の在り方を考える～	産業経済局 高度人材育成課	350,000	平成26年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業
小学校-中学校-高等学校の英語教育をCAN-DOリストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫CAN-DOリスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	平成27年度 北九州市学術・研究振興事業調査研究助成事業

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
中間市教育委員会 中間市点検評価委員 公益財団法人 日本英語検定協会 その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に、英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。	教育委員 評価委員 派遣講師	2019年7月8日～現在に至る 2018年4月1日～2019年6月18日 2019年4月1日～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
学生募集委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
研究紀要委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
学生委員会	2019年4月1日～2020年3月31日
教職課程委員会	2019年4月1日～現在に至る
教務委員会	2021年4月1日～現在に至る
地域連携室員	2021年4月1日～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　大谷　浩	職名　　教授	学位　ＥＦＬ修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育、第２言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研　究　課　題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担　当　授　業　科　目
英語学概論Ⅰ、英語学概論Ⅱ、人文学入門、リーディングⅢ、インターンシップ、エッセイライティング、 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【英語学概論　Ⅰ】 教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかりやすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。
授業科目名【　英語学概論　II　】 基本的に上記英語学概論Ⅰと同じであるが、授業形態は遠隔授業であった。ライブで行った授業を毎回録画し、理解不十分な部分を見直すことができるように配慮した。リアクションペーパーの提出は、GoogleClassroom の「提出」を使用した。パソコンでの入力に時間がかかる学生がいるので、提出締切は授業時間終了時ではなく、午後８時まで延長する配慮をした。
授業科目名【人文学入門の担当者】 第１週目の講義担当者として、学問領域における人文学の位置づけを説明し、次週以降に続く各論が、学問領域でどのような位置を占めるのか明確にし、学習効果の効率化を図った。

授業科目名【リーディング III　】

　学生のレベルを考慮し、難しすぎない教材を選出した。読むだけでなく、内容が把握できているか確認を行えるようにした。表面的な意味を取るに留まらず、文法を確認しながら内容確認に努めた。

授業科目名【インターンシップ】

例年どおり外部講師（企業側の採用活動と学生側の就職活動の間に立つ、学生就職支援協会）に座学を依頼し、実社会の様子を伝えながら講義をして頂いた。実際の研修は就職課とも協力して実施した。

授業科目名【　エッセイライティング　】

教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、
各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。

授業科目名【　専門演習　I　】

新聞記事を中心に、世の中での出来事が英語でどのように報じられているかを学習することに努めた。どの記事についても、その背景知識や歴史に対する理解が必要であることを認識させた。

授業科目名【　専門演習　II　】

自分が関心を持つテーマに絞って資料を集める活動を行わせ、スクラップブックに保存させてゆくことで、卒業論文の下準備を始めさせた。

授業科目名【　卒業研究　】

１人１人のテーマに応じて、前半は総論的指導、後半は各自にきめ細やかに指導した。順調に推移し、全員早めに卒論が完成した。完成原稿をゼミ卒論集としてまとめ、学位授与式で各自に渡した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員（常任）、幹事（常任）	1995 年 1994 年

２０２１年度　　研　　究　　業　　績　　等　　に　　関　　す　　る　　事　　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
英語学科学科長、 第3回全国高校生英語スピーチコンテスト（KANAME杯）オンライン開催、 地域連携室の活動「コロナ禍と女性」を企画・運営。

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　倉富　史枝	職名　特別契約教員Ⅲ教授	学位　修士（文学）（久留米大学 1995 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ジェンダー論 家族社会学	ジェンダー構造、企業中心社会 日本型近代家族、性別役割分業

研　究　課　題
ジェンダー論に関して日本の近代化に伴うジェンダーの構造化を中心に考察する。また、ジェンダー意識の形成の過程と現在の意識変容を把握し、今後の女性と男性のキャリア形成連についても考察する。

担　当　授　業　科　目
共生社会とジェンダー（前期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科、保育科の２年次）） 女性史（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科）、保育科の２年次は予定されていたが開講せず キャリア開発（後期）（人文学部及び保健福祉学部の全学科１年次）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【共生社会とジェンダー】 ジェンダー平等や男女平等教育、ハラスメント、性暴力の根絶などのテーマでワークショップを実施した。社会や学問に存在する性差に関わる既成概念や諸問題について講義で学習し、学んだことについてオンライン上でグループに分かれて意見交換した。性別にとらわれずに、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生社会のあり方について当事者性を持って考えられるよう、双方向でのアクティブラーニングで授業を進めた。
授業科目名【　女性史　】 現在の日本の女性の意識形成の過程を確認するという趣旨で、主に明治以降と第２次世界大戦後の教育や政治体制を対比させ、さらに、近代化が現在の学生の実態に与えた影響を理解し、歴史を生きた情報として学習意欲を高めた。卒業後、就職や家族形成など自己決定する際に、社会の仕組みの歴史的背景を理解したうえで適正に情報選択できるよう、課題を提供した。
授業科目名【キャリア開発】 オンライン授業であったため、これからの社会情勢を見据えてキャリアに関する最新の情報をネットで示した。多様な分野から外部講師から講師を招き、多角的な視野でキャリア形成ができるよう支援した。 講義内容を自分のキャリアと結び付けて考えられるよう、レポートを作成させた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
西日本社会学会 日本社会分析学会		1993 年 9 月 1993 年 10 月

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
特になし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　　間　　等
苅田町男女共同参画推進委員		2001年　4月～現在に至る
福岡家庭裁判所参与員		2004年　4月～現在に至る
春日市男女共同参画審議会	会長	2011年　5月～現在に至る
遠賀町苦情処理委員		2013年　4月～現在に至る
福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発･研修講師団		2014年　4月～現在に至る
大木町男女共同参画推進協議会		2015年　3月　～現在に至る
古賀市男女共同参画審議会	会長	2015年　4月　～現在に至る
大川市男女共同参画推進協議会	会長	2015年　9月～現在に至る
福岡県人権施策推進懇話会		2016年　4月～現在に至る
志免町男女共同参画推進審議会	会長	2017年　4月～現在に至る
福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会		2017年　7月～現在に至る
大牟田市男女共同参画推進委員		2019年　4月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
特になし

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　Kristen Maree Sullivan	職名　教授	学位　修士（応用言語学）(Macquarie University 2013 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
応用言語学（特に英語教育)、日本学・日本語学	高等教育における国際化、日豪関係、留学、カリキュラム・デザイン、学習者オートノミー

研　究　課　題
１．日本と豪州の高等教育における国際化に関する政策および戦略の変遷と関係、日豪関係を背景にして両国の高等教育における国際化政策及び戦略、学術交流の在り方について研究を行っている。 ２．留学の学習効果を高めるための取り組みの計画と評価、留学経験者の留学後のことなど、留学に関する研究を行っている。 ３．外国語学習における自律学習能力・学習者オートノミーの育成を目的とした実践的取り組みに関する研究。

担　当　授　業　科　目
異文化間コミュニケーションⅠ（前期） エリア・スタディⅠ（A クラス・B クラス）（前期） ライティング基礎（b クラス・d クラス）（前期） 人文学入門（1 回）（前期） 異文化間コミュニケーションⅡ（後期） 国際ボランティア演習（後期） パラグラフ・ライティング（a クラス・c クラス）（後期） TOEIC 演習Ⅰ（後期） グローバル英語Ⅱ（B クラス）（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ、異文化間コミュニケーションⅡ】 異文化間コミュニケーションにおける誤解や失敗を取り上げるケースについての議論、体験型アクティビティ、視聴覚資料、学外のゲストスピーカーによる講義、振り返り課題などを活用して、異文化間コミュニケーションの概念への理解を深める工夫を行った。
授業科目名【国際ボランティア演習】 国際協力 NGO である日本国際ボランティアセンターおよびカンボジアの幼児教育において活動しているチャリティ団体である TukTuk と協力して、PBL という形をとって、受講生が主体的になってボランティア・プロジェクトの計画・実施・結果報告を行った。ボランティア・プロジェクトの実施を通して、国際協力や世界の情勢について知識や意識を深めると同時に、チームワークスキル、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力などのソフトスキルの向上を目指した。
授業科目名【エリア・スタディⅠ】 CLIL（内容言語統治型学習）手法を用いて行う授業である。様々な情報源や形の資料を活用することで、受講者の理解や関心を高めつつ、エリアを学ぶときの手法についても意識させるよう工夫した。
授業科目名【ライティング基礎、パラグラフ・ライティング】 ライティング・プロセスを踏んで英作文を書くことの大切さ、自らの目標設定や自己評価を行うことの大切さについて意識させるため、それらを意識させる工夫を取り入れたアクティビティおよび課題を実施した。

授業科目名【TOEIC 演習 I】

試験対策と英語能力の向上、両方の側面から授業を行った。自己学習・学習振り返り課題を通して、受講生が自律学習能力についての意識・知識・自信を深めることを目指した。また、Quizlet という単語学習アプリなどを取り入れ、自己学習のための様々なツールを受講者に経験させ、紹介した。

授業科目名【グローバル英語 II】

英字新聞を読む力やメディアリテラシー能力の向上を目指し、世界で起こっていることとその背景について受講者が自ら調べ、理解できること、それについて英語で表現・議論できるようになることを目指しながら、受講者の学習や理解を助けるために必要な工夫を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会（JALT）		2005 年 9 月～現在に至る
Association for Language Testing and Assessment of Australia and New Zealand		2012 年 7 月～現在に至る
大学英語教育学会（JACET）		2013 年 1 月～現在に至る
日本自律学習学会（JASAL）		2013 年 9 月～現在に至る
留学生教育学会（JAISE）		2019 年 4 月～現在に至る
オセアニア教育学会		2019 年 4 月～現在に至る
言語文化教育研究学会（ALCE）		2021 年 6 月～現在に至る
Japanese Studies Association of Australia		2021 年 7 月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1. Supporting Learning During Short-Term Study Abroad: Evaluating a Pedagogical Intervention	単著	2021 年 8 月	JALT Postconference Publication	本論文は、短期留学プログラムにおける学生の留学経験をより有意義なものにすることを目指して、2019 年夏にオーストラリア・ブリスベンでの短期留学期間中に実施した教育的介入について分析した。分析からは、留学開始前・留学中・留学後の各過程において、振り返りのあり方に関するサポートをより充実させることによって、教育的介入の効果を高めることができるという結論に至った。教育的介入においては、学生の振り返り活動をどのようにして支えればよいかに関する具体的な方法を提示した。

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. A Comparative Analysis of the Higher Education Internationalization Policies of Australia and Japan（豪州と日本における高等教育の国際化政策の比較分析）	単著	2022年3月	西南女学院大学紀要	本稿は、1950 年代から現在までの豪州政府と日本政府の高等教育における国際化政策を対象として、政策の変遷とその背景・目的について考察した。戦前の状況を簡単に確認したのちに、特定された 3 つの段階・時期（1950年代～1970年代、1980 年代～1990 年代、2000年代～現在）に分け整理・分析した。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
Investigating Interconnections between the Higher Education Internationalization Policies of Japan and Australia	日本学術振興会	1,950,000円	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
全国語学教育学会年次国際大会査読委員会	査読者	2021年度

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 学生個人情報保護委員会

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　塚本　美紀	職名　　准教授	学位　修士（教育学）（テンプル大学　2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研　究　課　題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担　当　授　業　科　目
グラマー・コンポジション Ⅰ(A)、(B)（前期） 専門演習Ⅰ（前期） 教育ボランティア演習（前期） グラマー・コンポジション Ⅱ(A)、(B)（後期） 英語教科教育法Ⅰ（後期） 英語教科教育法 Ⅳ（後期） 専門演習 Ⅱ（後期） 教職実践演習（中・高）（後期） 北九州の過去・現在・未来（後期） 地域プロジェクト（後期） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年） 教育実習 Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【グラマー・コンポジション Ⅰ】 重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。質問がしやすいように、質問の時間を十分に取ったり、LINE やメールで質問を受け付けるようにしたりした。また、試験前には授業とは別に勉強会を開催した。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、動画を見たり、さまざまな国の人々とインターネットを利用して英語で交流したりする機会が持てるようにした。アジア太平洋地域のユースと身の回りのエコシステムについて調査する半年間にわたるプロジェクトにも参加した。
授業科目名【教育ボランティア演習】 日本の初等中等教育の現状と課題について理解できるようさまざまな資料を用いて解説した。中学校を訪問することができなかったので、この１年間ほとんど英語の授業を受けることができなかったカンボジアの中学生に英語で手紙を送った。

授業科目名【グラマー・コンポジションII】

授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、多くの演習問題を行った。授業のペースについてくるのが難しい学生や、より発展的な学修を望む学生については、授業外の時間で個別に対応した。

授業科目名【英語教科教育法I】

毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。クラスルーム・イングリッシュについての演習では、各自撮影した動画を視聴し互いに評価することで、向上に努めた。

授業科目名【英語教科教育法IV】

これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生同士、互いの模擬授業について、良かった点と改善点について討論する時間を設けた。模擬授業は遠隔授業の中で行うので、その特質を生かした指導案を作成できるように、事前に留意点を示した。

授業科目名【専門演習II】

来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。

授業科目名【教職実践演習（中・高)】

教育実習での経験を活かして模擬授業の教案を作成するよう指示し、模擬授業の振り返りの時には、学生からの意見が出やすいようにいくつかの項目に分けて発言を促した。

授業科目名【北九州の過去・現在・未来】

北九州市についての基礎的な事項の紹介から始まり、北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう紹介した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについてのオンライン・ポスターセッションを行い、学生同士が互いに学ぶ機会を設けた。250 名を超えるオンライン授業なので、授業中は一方通行になってしまうため、学生からのメール等による質問にはできるだけ早く回答するようにした。

授業科目名【地域プロジェクト】

プロジェクトの内容について学生が理解しやすいように、昨年度学生が作成した成果物を示しながら、段階を追って説明し、具体的な指示を与えるようにした。

授業科目名【卒業研究】

計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。

授業科目名【事前及び事後の指導】

オンライン授業であることを活かして、東京都や大阪府学校の教員に講演をしてもらい、近隣の学校だけではなく、他の地域の教育事情についても学ぶ機会を設けた。

授業科目名【教育実習Ⅱ】

教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。また、コロナ禍であるので特に体調管理については実習前から気をつけておくよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」	理事（２００８年8月～現在に至る）	１９９０年9月～現在に至る
日本 ESD 学会		２０１７年4月～現在に至る
北九州サステナビリティ研究所		２０１７年6月～現在に至る
日本比較文化学会		２０２１年１２月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
			教育研究業績　総数（2022.3.31現在） 著書　1　（内訳　単　0、共　1） 学術論文　11　（内訳　単　6、共　5） 学会発表　11　（内訳　単　0、共　11）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
日本と中国における大学キャリア教育に関する研究 ～素質教育を中心にして～	西南女学院	○ 神崎 明坤 高橋 幸夫 塚本 美紀 （林 楽 常） （王 小 燕） （張 小 光）	1,060,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本英語検定協会	委員	１９９３年7月～現在に至る
北九州 ESD 協議会	会員	２０１０年4月～現在に至る
Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体）	北九州ゾンタ　アドボカシー・奉仕委員長	２０２０年6月～現在に至る
福岡県立小倉西高等学校学校関係者評価委員会	評価委員	２０２１年4月～現在に至る
北九州市立ユースステーション	アドバイザリーボード	２０２１年7月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　副委員長（２０１８年4月1日～２０２２年3月３１日）
キャンパスハラスメント相談員（２０１４年4月1日～２０２２年3月３１日）
ゴールデンＺクラブ　顧問（２０１４年4月1日～２０２２年3月３１日）
教職員懇親会　委員（２０１８年4月1日～２０２２年3月３１日）
教務総合人間科学小委員会　副委員長（２０２１年１０月～２０２２年3月３１日）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　ブラウン馬本　鈴子	職名　　講師	学位　文学博士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レッシング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研　　究　　課　　題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。

担　　当　　授　　業　　科　　目
前期 英検演習 I、英検演習 II、英語文学 I、初年次セミナーI、専門演習 I、卒業研究 後期 卒業研究、英語文学 II、専門演習 II、リーディング IV、初年次セミナーII

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　英語文学 I・II　　】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学 I」から「英語文学 II」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である *The Tale of Peter Rabbit* を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。遠隔授業となった時は、「英語文学 I」「英語文学 II」では Google Classroom を使い、対面授業ではむしろ困難であったネットからの資料を随時紹介したり、文章校正のツールを使用したりした。
授業科目名【　卒業研究　　】 前期には、専門演習 I, II を得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターッションの練習会も行った。
授業科目名【　　専門演習 I・II　　】 前期では主に、ジェイン・オースティンの短めの小説を、後期にはイギリス現代文学の短編集を読み、ゼミの中で調べてきたこと、まとめあげたこと、疑問に思ったことなどのディスカッションを行った。またゼミの初めには、各自が持ち寄った新聞記事を紹介し合い、社会現象を分析した。特に後期になってからは、その新聞の活動に加え、就職活動を意識して SPI 対策（特に算数）を始めた。

授業科目名【　　初年次セミナーI・II　　】

通年を通して、テキスト『知へのステップ』をベースに、基礎的な学習スキルや、大学での授業の受け方、生活の送り方、計画の立て方についての概論を教えた。また書き込み式の『マイキャリアノート』を使い、学生個人個人が独自の思いを綴り内省を行ったり、キャリアへの計画、調べ物を行なった。前期後半では個人の、後期後半ではグループでのプレゼンテーションを行い、前期では主にパワーポイントで、後期には Google スライドで発表を行うことで、自分たちで決めたテーマに沿っての研究を行うミニプロジェクトを完成させた。またそれぞれの発表についてのフィードバックを Google クラスルームのアンケートシステムを使ってクラス全員で行い、その結果で学んだことをレポートに課した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本英文学会九州支部	支部評議員（なし）	2001 年 10 月～現在に至る
映画英語教育学会（ATEM）九州支部		2006 年 10 月～現在に至る
日本オースティン協会		2015 年 11 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特になし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特になし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員 就職委員 紀要委員 １、２年生アドバイザー

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　マルコム　ロス スワンソン	職名　　教授	学位　　大学教育部大学院修士課程

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研　　究　　課　　題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担　　当　　授　　業　　科　　目
• English Extension Ⅰ • English Extension II • English Extension III • English Extension Ⅳ • 専門演習 • 卒業研究 • 前期 　o メディア英語Ⅰ 　o 英語コミュニケーションⅠ 　o 英語プレゼンテーションⅠ（2A & 2B） 　o 英語プロジェクトⅠ • 後期 　o 英語プロジェクトⅡ 　o メディア英語II 　o 英語コミュニケーションII（1a & 1d） 　o 英語プレゼンテーションII（2A & 2B） 　o 地域プロジェクト

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【メディア英語Ⅰ & II】 Google アプリケーション（Gmail, Documents, Sheets, Slides, Forms など）の効果的な使い方を教えるトレーニングプログラムを作成。文書作成時の共同作業の方法を指導。全生徒のメール利用を改善した。
授業科目名【英語プレゼンテーションⅠ & II】 プレゼンテーションの作成と実施のためのスキルアップに取り組んだ。シオンカッププレゼンテーションコンテストや外部コンテスト（例：10 回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト）の指導を行った。

授業科目名【地域プロジェクト】

コロナ禍であったが八幡東区の北九州市環境ミュージアムへの見学や、北九州市の SDGs について学ぶカルタの作成などの機会をつくった。

授業科目名【English Extension I, II, III, IV】

４学年それぞれを対象にしたエクステンション活動を作成した。国内外から講師を招き、英語講演会を 16 回開催（https://seinan-jo.com/english/lectures/）した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	会員	１９９６年～現在に至る
	第46全国語学教育学会　大会研究発表記録集編集長	２０２１年１１月
	Website 編集委員	２０１０年５月～現在に至る
CALICO（コンピュータ支援言語教育コンソーシアム）	会員	２００５年５月～現在に至る
Moodlemoot	会員	２０２０年１月～現在に至る
JASAL（Japan Association for Self-Access Learning）	会員	２０１５年７月～現在に至る
Online Teaching Japan		

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 緊急の遠隔授業プログラムの効果に対するEFL学生の意識	共著	2022年3月	西南女学院大学紀要 Vol.26	新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのため遠隔授業が突然導入され、各大学では慣れない授業形態に対応することを強いられた。経験もスキルも支援も乏しい中、教員も学生もオンライン環境で授業を実施または受講する環境に適応しなくてはならなかった。本稿ではこの変化がもたらした影響について考察する。特に日本の英語学習者達が遠隔授業をどれほど効果的であると感じたか、その向き合い方に注目する。(アンデリュー・ジッツマン)
（翻訳）				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学会発表） Online Poster Sessions as a Student Activity	単著	2021年5月	JALT PanSIG 2021	勤務先大学でオンラインポスタープレゼンテーションイベントを運営したことに基づき報告を行った。このプログラムは、4年次が卒業論文の成果を発表し、共有することで、後輩に刺激を与えることを目的としている。 そこで、システム及び多くの課題について説明した。来年のイベントに向け、プロセスをどのように改善するかを報告した。
Designing Your Presentation Media	単著	2021年11月	JALT2021	このワークショップでは、KeynoteやPowerPointのスライドに便利なデザイン要素を追加する方法に焦点を当てた。メディアの見た目や動作を工夫することで、聴衆にどうアピールし、理解を助けるか、また効率的な作成方法やコントロールしやすいプレゼンテーションの可能性についてである。
Creating Escape Rooms in Moodle	単著	2022年2月	MoodleMoot 2022	このプレゼンテーションでは、メディアスキルの授業でMoodle上の脱出ルームをどのように使っているかを実演した。参加者は自分自身でエスケープルームを体験することができ、私はその設定方法を説明した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
梅光学院大学ＥＳＳスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2021 年 6 月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート&スピーチ・コンテスト審査員	2022 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
• 採用選考委員会 　o 英語学科の担当 • 情報システム管理運用委員会 　o 英語学科の担当し、2021 年度副委員長となる。 • 西南女学院大学生活協同組合 　o 英語学科の担当 • English Lectures（ZION CUP スピーチ・コンテストを含む）, Movie Month, Extension Activities, Halloween Event, Christmas Intensive, 卒論のポスターセッションの運営担当を行った。 • 英語学科ウェブサイトの管理 　o 英語学科のウェブサイト情報をアップデイトするための委員会の責任者。 　o Moodle サイトを使ったオンライン学習の管理とトレーニング。

観　光　文　化　学　科

2021年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　池口 功晃	職名　准教授	学位　博士（経済学）（久留米大学2019年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光経済学、地域活性化	日帰り観光、観光の経済効果

研　究　課　題

観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」がその核心であると捉えたものが多く、例えば、温泉、食事、レクレーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達は時間距離を短縮させるため、観光地の「魅力」は相対化されつつある。そこで、この点に着目し、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③産業連関表を通じた観光の経済分析など、主として３つのテーマを設定し、地域経済の計量的・客観的な分析および評価をおこなっている。

担　当　授　業　科　目

（前期）	（(後期）
・国際経済入門　（英語・観光文化学科）	・ビジネスファイナンス（観光文化学科）
・初年次セミナーⅠ　（観光文化学科）	・キャリアデザイン論Ⅱ（観光文化学科）
・日本経済入門　（観光文化学科）	・地域活性化演習（観光文化学科）
・ビジネス演習（観光文化学科）	・初年次セミナーⅡ（観光文化学科）
・観光関連法規　（観光文化学科）	・ツーリズム演習（観光文化学科）
・国内旅行実務（観光文化学科）	・地域観光資源開発論
・専門演習Ⅰ	・専門演習Ⅱ
・卒業研究	・卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　日本経済入門　】

経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎的理解が必須である。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない知識の定着を図った。また、授業の後半では戦後の日本経済（GHQ の占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について上述した基礎を踏まえながら順に説明をおこなった。

授業科目名【　地域観光資源開発論　】

北部九州・山口県における観光の取り組みについて、学生が各グループに分かれて実地・文献調査をおこない、その後発表会を通じて新しい観光のあり方について議論する場を設けた。

授業科目名【　ビジネスファイナンス　】

ビジネスではいわゆる数字（例えば、売上、原価、利益など）を読めることが大切であることから、本授業ではあらゆる業種の財務諸表を扱い、企業財務（ファイナンス）の分析手法について詳しく説明している。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本企業経営学会		2018年4月～現在に至る
九州都市学会		2015年4月～現在に至る
経営行動研究学会		2013年4月～現在に至る
観光学術学会		2012年4月～現在に至る
日本観光研究学会	設立発起人	2008年4月～現在に至る
日本地理学会		2008年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1.「観光メディアの変遷から読み解く「アニメ聖地巡礼」の一解釈」	単	2021．5	日本企業経営学会第62回研究大会 （於、新潟経営大学）	近年、我が国ではアニメの人気が高まってくると、そのアニメファンを中心にアニメの中で題材として描かれたであろうと推測される場所あるいはそのゆかりの地を訪れる旅、すなわち「アニメ聖地巡礼」と呼ばれる旅の形態が若者を中心に流行する。この「アニメ聖地巡礼」で注目すべきことは、アニメの原作者が題材として選んだ場所を公言していないにも拘わらず、アニメファンがそれを推測し、訪問している点である。本研究においては、江戸時代以降の観光メディアの変遷を辿りながら、今日の「アニメ聖地巡礼」という観光の形態が生まれた要因について一つの解釈を試 みた。
2.「アフターコロナの観光政策のあり方に関する一考察―大分県各市の産業連関分析を事例に―」	単	2022．3	日本企業経営学会九州部会 （於、中村学園大学）	2019年初冬から猛威を振るった新型コロナウイルスは、わが国の観光業界に大きなダメージを与えている。特に、2020年の訪日外国人数については前年比約87%減に及び、わが国のインバウンド市場は壊滅的な状況に陥っていると言っても

				過言ではない。一方で、都市間を結ぶ新幹線の開業や地方における高速道路の開通などは着々と進められており、日帰り観光需要は急速に高まっている。この点に着目し、本発表では日帰り観光の経済効果について、大分県各市を事例にその産業連関分析を通じて明らかにし、アフターコロナの観光政策に一定の知見を示した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」）	観光に関する助言・指導	平成25年9月～現在に至る
宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議　審議委員	副委員長	平成27年7月～現在に至る
津久見市まちづくり推進事業審査委員	副委員長	平成28年8月～現在に至る
日田市天瀬農業公園検討委員会	会長	平成30年9月～現在に至る
北九州市民カレッジ 【大学連携リレー講座】 メディアと私たちのよりよい関係づくり	講師	令和3年2月12日
北九州市政テレビ番組制作・放送業務委託業者選定会	選定委員	令和3年2月2日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員会（副委員長）

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 紹 介 用 紙（様式９）

氏名　　角谷　尚久	職名　　准教授	学位　修士（経営情報学）（大阪経済大学 2011 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
人文・社会 / 経営学　経営情報学　観光学	航空産業、観光マーケティング、国際観光（インバウンド）、地方創生

研　　究　　課　　題
1.グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について 2.複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について 3.地方創生において地域のかかえる課題について

担　　当　　授　　業　　科　　目	
（前　期）	（後　期）
・インターンシップ（観光文化学科） ・観光フィールドワーク（観光文化学科） ・宿泊産業論（観光文化学科） ・初年度セミナーⅠ（観光文化学科） ・タウンマネージメント（観光文化学科）	・観光産業論（観光文化学科） ・現代ビジネス人材論（英語学科） ・交通産業論（観光文化学科） ・初年度セミナーⅡ（観光文化学科） ・ニューツーリズム論（観光文化学科） ・フィールドワーク入門（観光文化学科） ・マルチメディアツーリズム（観光文化学科）

授業を行う上で工夫した（する予定の）事項
授業科目名【インターンシップ】 2022 年度においては、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、企業協力を前提に対面型の通常のインターンシップを実施する前提にて講義を行う。
授業科目名【宿泊産業論】 対面型授業の中で、出来るだけ具体例をあげながら、宿泊産業の歴史やビジネスモデルを教授するとともに、現役実務家のゲストスピーカーに登壇頂き、宿泊産業の現状を解説してもらうことにより、就職活動を念頭とした解説を行う。
授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講したフィールドワーク入門のステップアップとして、フィールドワークの役割を再認識するとともに実施する際の意義や手続きについて実務を習得し、スキルを身につけられるように工夫する。
授業科目名【タウンマネージメント】 タウンマネージメントについて世界各国から北九州までの具体例をわかりやすく解説するとともに、グループワークにて文献調査することにより、理解しやすい授業を心がける。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
東北亜観光学会		2009年4月
旅行ビジネス研究学会		2009年4月
日本ウマ科学会		2013年4月
観光学術学会		2016年8月
日本海運経済学会		2016年8月
日本観光研究学会		2018年12月
日本観光経営学会		2019年12月
沖縄経済学科		2021年10月
共生学会	設立発起人	2022年6月

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等	任 期 期 間 等
一般社団法人 全日本学生馬術連盟	副理事長	2021年1月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員会　委員 FD委員会　委員 図書委員会　委員

２０２１年度教育研究活動報告用紙（様式９）

氏名　　神崎　明坤	職名　教授	学位　修士　教育学　九州大学 1995 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研　究　課　題
①　中日の近代における思想家の道徳修養に関する研究
②　日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究
③　中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
入門中国語会話（前期）		○	
中級中国語（前期）		○	
初年次セミナーⅠ（前期）	○		
基礎中国語（前期）		○	
中国語通訳ガイド演習（前期）		○	
専門演習Ⅱ（通年）	○		
卒業研究（通年）	○		
初年次セミナーⅡ（後期）	○		
初級中国語会話　（後期）		○	
上級中国語（後期）		○	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　入門中国語会話　】

1．テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3．講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4．講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5．学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　初級中国語会話　】

1．テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3．講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

4．講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5．学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　中級中国語及び基礎中国語　】
1．テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3．講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4．講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。
5．学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　上級中国語　】
1．テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3．講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4．講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5．学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　初年次セミナーⅠ　】
本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び、一生の知的財産とする。倫理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている。新聞や本を読む習慣が身についている。規則正しい大学生活習慣が身ついていることがこの授業の旨である
1．講義ならびにテレビ、DVD などの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、学修最新情報を紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
3．講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
4．初年次セミナーⅠの教育質の向上を保証するために、大学生としての学習深みを理解する工夫を行った。

授業科目名　【初年次セミナーⅡ】
本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身についていることがこの授業の旨である。
1．講義並びにテレビ、ＤＶＤなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2．学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。
3．授業時に学生のモチベーションを上げるために、発表会を行い、学生にチームワークやリーダーシップを発揮し、自ら積極的に授業を参加するように取り組んでいることをいつも心掛けている。

授業科目名【　専門演習Ⅱ　】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文化漢字や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の日本文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

1．この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでもらい、その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
2．日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
3．実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表や論文作成の方法に必要能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名　【　卒業研究　】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

1．上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
2．それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員との交流を通して、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
3．仮説を論文として展開する力等を養い、学生にオリジナルな論文を書かせることを心がけてもらい、最終的に　　論文完成させる工夫を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年　～現在に至る
日本比較文化学会	会員	2011年　～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 中国における大学キャリ に関する実証的研究	単著	2021年6月26日～27日	日本比較教育学会57回 オンライン形式	近年、中国の高等教育は大衆化に伴い、大衆教育とエリート教育、教養教育と専門教育の間で揺れ動いている。人材の多様化を求める労働市場から学生の

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				キャリア教育形成への支援が求められるようになっている。本研究の目的は、中国の大学におけるキャリア教育に関する「社会人基礎力育成」を中心に据えながら、その導入及び実施状況をアンケート質問紙調査等により明らかにすることで、「キャリア教育」が抱える問題の構造とあり方を検討することである。特に特有な偏重専門教育、軽視教養教育という従来のカリキュラム及び教育内容の改善後に焦点を当てて、因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
日本と中国の高等教育キャリア教育に関する研究 ～社会人基礎力育成を中心として～	西南女学院大学	○神崎明坤 高橋幸夫 塚本美紀 （林楽常、張暁光）	1,229,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○　宗教主事補 ○　観光文化学科長

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　高橋幸夫	職名　　准教授	学位　経済学修士（京都大学）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
マーケティング（広告・ブランド） デザインマネジメント	地域におけるマーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研　　究　　課　　題
・　石炭流通における小倉商人（中原嘉左右）の研究 ・　デザイン重視の経営研究（デザインマネジメント研究） ・　大学における地域活性化活動

担　　当　　授　　業　　科　　目
初年次セミナーⅠ（前期） 専門演習Ⅱ（前期・後期） 卒業研究（前期・後期） マーケティング入門（前期） 広告宣伝論（前期） 消費者行動論（後期） イベント・テーマパーク論（後期） ブランド戦略論（後期） キャリア・デザイン論Ⅰ（後期） 地域プロジェクト（後期） メディア政策論（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナーⅠ（前期）】 ・　大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
授業科目名【専門演習Ⅱ前期・後期】 ・　マーケティング論及びデザインマネジメントの基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・　社会貢献活動の企画・実施を演習授業に取り入れた ・　さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。
授業科目名【マーケティング入門】 ・　受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担っている役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。 ・　実用性の高い知識と応用力を身のつけるために実務家の講義も実施した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
商品開発・管理学会 日本商業学会 産業学会 日本比較文化学会		2005年4月から現在 2006年4月から現在 2006年4月から現在 2021年12月から現在

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
北九州市立響灘緑地および行橋市長井浜公園において販売するオリジナル商品の開発およびイベント開発	（株）オリエンタルコンサルタンツ	700,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会委員 学生個人情報保護委員会 就職委員会委員 西南女学院大学生協理事 各学生地域貢献活動支援

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　林 裕二	職名　　教授	学位　修士（文学）（西南学院大学　1993 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研　究　課　題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画（脚本）を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担　当　授　業　科　目
人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科） 基礎英語（前期）（観光文化学科） マルチメディアイングリッシュ基礎　（前期）（観光文化学科） 専門演習Ⅰ（前期）（(観光文化学科） 北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科） 応用英語（後期）（観光文化学科） 応用ＴＯＥＩＣ演習（後期）（観光文化学科） マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科） 専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科） 卒業研究（通年）（観光文化学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
【人文学入門（前期）（英語学科・観光文化学科）】 人文学部の専門科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目（100 分 7 回）の 4 年目にあたる。人文学部の担当教員 7 名がそれぞれ 1 コマ担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることを目的とする。2020 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の約束事がシラバス（配布）にどのように示されており、それをどう理解するかにも触れた。担当は 2 回目分のみ。そこでは、「読む」行為について話した。
授業科目名【基礎英語（前期）（観光文化学科）】 観光文化学科の専門必修科目で 2018 年度カリキュラムの新規科目の 4 年目である。1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。対面授業であり、E-learning の CHIeru と英文多読活動を二年ぶりに復活させた。この二つの課題は対面ならではの取組であり、達成率が非常に高くなった。
授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎　（前期）（観光文化学科）】 2019 年度の新規科目の 3 年目。E-Learning の CHIeru を使う必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、ほぼ毎回課題を出し、理解度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるようにした。授業最初に小テストを毎回行い、遠隔でも遅刻者が出ないようにした。1 年次の基礎英語、応用英語の CHIeru 学習の体験が生きた。対面でも PC を使う授業であるが、遠隔での端末操作が負担にならないように工夫をした。

専門演習Ⅰ（前期）（(観光文化学科）
前期後期のそれぞれの半期科目として分離した中の前期科目である。文献の探し方、人前でのわかりやすいプレゼンテーションの仕方の学びや、新聞・雑誌等を使っての読み・書きの研究の基本を学ばせた。ある程度内容のある文献を読ませて、要約、発表、質疑応答のサイクルと重ねた。後期授業（専門演習Ⅱ）では独自のプロジェクトをやろうと予告して、その実行を可能とするコミュニケーション力を高めた。

北九州の技と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科）
2020 年度の新規科目。短期大学部が先行した同名の授業があり、その知見を援用しながら、外部講師を招いて、科目名に相応しい内容となるように工夫した。外部講師には、打ち合わせ段階で、100 分を遠隔で行う際の学習効果を上げるための休憩の入れ方、資料の提示の仕方等を説明した。60 名を超える履修者が、それぞれの回の最後には活発に質問をしてくれた。これは遠隔だからこそできたという側面もある。実習系の学科の学生の補講を行った。7 回の授業を 6 回の補講で受講する学生もおり、補講スケジュールを更新し続けた。

応用英語（後期）（観光文化学科）
授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。これは前期の基礎英語でも目指したものでもある。但し、前期後期でクラスが異なる。E-learning の CHIeru の学習と英語の多読がある。両方とも授業外の活動としており、最初に授業外でそれぞれの活動についての講習会を行った。CHIeru の学習マイルコンテストで、上位者を表彰するということで、学習の動機づけとした。予習をサボりがちな学生対策案として予習ページを撮影して、送らせた。これは非常に効果的だった。

応用ＴＯＥＩＣ演習（後期）（観光文化学科）
TOEIC 演習シリーズの中での応用レベルである。応用とはしているが、基本的な文法力を養うことは必要であり、そこを強化しながら、リスニングや読解力を更に伸ばそうとして、少人数を生かして、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。音読の課題として、音読を録音させ、それを提出させた。これは個別指導が非常にしやすかった。学習活動に受講生は誠実に取り組み、質問がよく出された。質問が出されやすいのは遠隔の利点である。

マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科）
前期マルチメディアイングリッシュ基礎で得た力を、更に継続して伸ばす授業である。遠隔授業であり、遠慮なく個別に音読をさせられるようになり、対面に負けない学習の質と量を確保できたと考える。CHIeru の学習マイルコンテストで、上位者を表彰した。

専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科）
プレゼンテーションスキルを伸ばし、文献をさがす方法、文献をどう解釈して、論文・レポートに生かすかを繰り返し、輪読を通して実践していった。ゼミ独自のプロジェクトとして、本の書評大会（ビブリオバトル）を西南女学院大学で初めて開催するということを目的として、計画、立案、実行まで学生主体で行い、見事成し遂げた。英語学科学生の参加も得て、人文学部規模での開催となり盛会となった。

授業科目名【卒業研究（通年）（観光文化学科)】
4 名からなるクラス。卒論指導については、学年当初は全体指導を、そして授業が進むにつれて、個別指導の時間を増やしながら、卒論制作に取り組ませた。質的研究を取り入れることを 3 年の最初には伝えていたが、どうしても就職活動との関係で、取り組みが遅くなる傾向がある。コロナの影響が大きく、遅くなり、大半がオンラインでのアンケートとなった。デジタル世代の学生であり、いろいろなツールを使いこなして、アンケートを実施していた。対面授業だが、印刷された文献の利用がどうしても後手となり、ネットからのデジタル文献利用が主になる傾向がある。妥協点として、印刷された文献のデジタル版を取り込むことを指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) （旧日本商業英語学会）	九州･山口支部長　(2010 年 2 月～2018 年 9 月) 本部理事　(2015 年 11 月～2019 年 10 月) 研究年報査読委員(2016 年 3 月～現在に至る)	1993 年 6 月～現在に至る

	本部常任理事(2021 年 10 月～現在に至る) 九州・山口支部長　(2022 年 3 月～～現在に至る)	
映像メディア英語教育学会 (ATEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査　(2006 年 1 月～2011 年 12 月) 紀要査読委員(2010 年 4 月～2012 年 3 月) 紀要査読委員（2018 年 1 月～現在に至る) 九州支部副支部長(2008 年 10 月～2011 年 10 月) 九州支部運営委員（2012 年 1 月～現在に至る)	1994 年 2 月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員（2011 年 9 月～2015 年 6 月)	1994 年 12 月～2015 年 3 月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013 年 3 月～現在に至る) 本部事務局長・理事	2002 年 10 月～2004 年 3 月 2003 年 4 月～2009 年 3 月 2010 年 2 月～現在に至る
万葉学会		2018 年 5 月～現在に至る 2014 年 2 月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書) 英語の俳句 二句	単	2021 年 5 月	The Asahi Shimbun Asahi Haikuist Network https://www.asahi.com/ajw/articles/14352479	日付は 2021 年 5 月 21 日
英語の俳句 一句	単	2021 年 10 月	The Asahi Shimbun Asahi Haikuist Network https://www.asahi.com/ajw/articles/14450497	日付は 2021 年 10 月 1 日
英語の俳句 一句	単	2021 年 10 月	公益財団法人 山形市文化振興事業団　山寺芭蕉記念館　第 13 回山寺芭蕉記念館英語俳句大会 入選作品集 13th english haiku contest (results)pdf.pdf (samidare.jp)	作品集に掲載。媒体は印刷物とデジタル。

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 鈴木孝夫著「ことばと文化」以降の呼称の一考察	単	2021年6月	日本比較文化学会九州支部研究会 （於　鹿児島女子短期大学）	呼び掛け語について、特に親族内での呼び掛け語の使い方が、1970年代から近年までにどのように変わってきたか、またその要因を考察したものである。夫婦間でのお互いの呼び方については、妻も方からの疑問があり、揺れている。
Ishiguro Kazuo, *The Remains of the Day*の会話分析の一考察	単	2022年3月	日本比較文化学会九州支部研究会 （於　北九州国際会議場）	小説における登場人物の造形は、統語と語彙のカテゴリーにおいて分析される。主人公のコード変換がどのようになされて、当てにならない(unreliable)人物がどう変貌を遂げるかを例証した。 教育研究実績 総数　(2022. 3.31現在) 著書　4（内訳　単4、共0） 学術論文　0(内訳　単0、共0) 翻訳　0（内訳　単0、共0） 学会発表　2(内訳　単2、共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
財団法人日本英語検定協会	委員	1995 年 8 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
人文学部長　2018 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　八尋春海	職名　　教授	学位　修士（文学）（1993 年九州大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、阿蘇市、ニューツーリズム

研　究　課　題
阿蘇市における観光資源の活用

担　当　授　業　科　目
前期 初級英文講読 基礎英語 比較文化論 初年次セミナーⅠ 人文学入門 海外旅行実務 専門演習Ⅰ 卒業研究 後期 映画で学ぶ欧米文化 映画で学ぶ世界遺産 中級英文講読】 応用英語 専門演習Ⅱ 卒業研究 欧米観光文化地理Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】 私が担当している「比較文化論」を履修していた学生がほとんどであるため、その時に取り上げた話題について別の角度からさらに内容を深めるようにした。
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 地名や専門用語でつづりや漢字が難しいものについては、授業前に板書しておいた。
授業科目名【初級英文講読】【中級英文講読】 学生の理解が進むように、内容と関連する動画を見せた。

授業科目名【基礎英語】 第１回目の授業の時に、英語が苦手と訴える学生が多くいたので、進度を遅くして苦手意識が克服できるようにした。
授業科目名【応用英語】 毎回、同じペースで進むようにして学生がテンポよく回答できるようにした。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 オンラインの授業の時には、クラスメイトとのやり取りができる時間を確保した。
授業科目名【人文学入門】 リレー講座であるため、他の担当者の授業との関連を意識して授業を進めた。
授業科目名【比較文化論】 授業の最初にその日のポイントを明らかにして、学生がどこに集中して授業に臨めば良いかを示した。
授業科目名【欧米文化地理Ⅱ】 全員が「映画で学ぶ世界遺産」を履修済みであっただめ、世界遺産以外の地理的な事項を取り上げた。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 論文の書き方の基本を集中的に指導した。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 新型コロナウイルス感染拡大で学外に出ることができなかったため、学内を観光地に見立てて授業を行った。
授業科目名【卒業研究】 履修生によってかなりテーマが違っているが、論文の書き方については共有するようにした。
授業科目名【海外旅行実務】 オンラインの時には、テキストではなく、公開されている国家試験の過去問題を取り扱った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	会長　2018 年度～2021 年度	1996 年
日本比較文化学会九州支部	支部長　2010 年度～2021 年度	1996 年
余暇ツーリズム学会	常任理事　2021 年度～2022 年度	2005 年
余暇ツーリズム学会九州支部	事務局長　2014 年度～2022 年度	2005 年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長　2015 年度～2021 年緒	2013 年

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 「比較文化研究の多様性について」	単独	2021年9月	日本比較文化学会北海道支部設立総会（於 北洋大学）	本発表は、研究者としてどのように学際的研究に取り組むことができるのかについて、比較文化研究について論じたものである。先行研究を分類した上で、それについての解説と分析を行い、幅広いテーマで研究が可能なことを明らかにした。
「with コロナ時代の日本語教育を目指して」	共同	2021年11月	2020年度 台湾日本語研究国際シンポジウム （於　オンライン・台湾輔仁大学）	新型コロナウイルスの影響で世界的に語学留学が激減しているが、本発表ではこれからのwithコロナ時代において、日本語学習者をどのようにして獲得していくのが望ましいのかについて、その方法論の検討を行った。発表においては、語学学習者獲得で成功している英語教育の方法論で日本語教育にも利用できそうな方法について論じた。
「阿蘇の草原の持続可能性について」	単独	2022年1月	2021 年度余暇ツーリズム学会九州支部大会（於　福岡市赤煉瓦文化館）	本発表では、地震・噴火・水害・日韓関係悪化・新型コロナウイルス感染拡大という大きな痛手を被っている阿蘇地域が、その回復のために取り組んでいる観光資源としての草原の活用について論じたものである。牧草地の一部を観光資源に変えて、オフロードバイクやランニングのコース、飛行場、グリーンツーリズムのスポットなど新たな活用に向けてチャレンジするものである。本発表では、その課題や展望を明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
図書委員、学生募集委員、入試委員、教育経費予算委員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　劉　明	職名　教授	博士（経営学）〔立命館大学2011 年〕 学位 修士（観光学）〔桜美林大学1996 年〕

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違、インバウンド観光の人材育成

研　究　課　題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について 5. インバウンド観光対応型の人材育成について

担　当　授　業　科　目	
観光学入門	（前期）
インバウンド観光論	（前期）
観光マーケティング論	（前期）
アジア観光文化地理Ⅰ	（前期）
アジア文化交流研修Ｂ	（前期）
初年次セミナー	（前期）
専門演習Ⅰ	（前期）
ホスピタリティ論	（後期）
観光産業論	（後期）
アジア観光文化地理Ⅱ	（後期）
ツーリズム演習	（後期）
旅行商品企画論	（後期）
経営学入門	（後期）
専門演習Ⅱ	（後期）
卒業研究	（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・ＰＣ・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。

授業科目名【インバウンド観光論】

「インバウンド観光論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア、欧米特に中国、韓国、アメリカ、イギリスなどの国からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。
それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【観光マーケティング論】

「観光マーケティング論」では、観光サービスに関するマーケティングを取り上げる。観光産業に特有の観光マーケティング、観光まちづくりを担う組織などが主体となるデスティネーションマーケティングをそれぞれ事例を基に紹介していく。観光を学ぶ学生たちに観光産業及び観光地域でのマーケティング事例を分かりやすく紹介し、それらの事例を通して、観光マーケティングの魅力とその理論のエッセンスを理解してもらえるように工夫した。

授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】

「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。

授業科目名【アジア文化交流研修B】

「アジア文化交流研修B」は、コロナの影響で、研修先・上海、変更後の京都でも実施することができなかった。研修先での実習の代わりに、学校での授業では、日本ならではのホスピタリティをはじめ、京都の歴史・文化、京都の観光産業及びコロナ禍中での観光活動の事例紹介等を行った。さらに、学生と教員とのコミュニケーションを強化するため、コメント提出と学生全員の発表をしてもらった。

授業科目名【初年次セミナー】

初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のITC 活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。

授業科目名【専門演習Ⅰ】

「専門演習Ⅰ」では、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。

授業科目名【ホスピタリティ論】

ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。

授業科目名【観光産業論】

「観光立国」と 2020 年の東京オリンピックの影響で、観光産業界に多くのインバウンド対応型の観光人材が求められている。本講義ではこのような状況を背景に、観光産業とはいかなる産業なのか、観光産業の範囲・特徴及び各産業の実情について学ぶ。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】

「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。

授業科目名【ツーリズム演習】

「ツーリズム演習」では、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を学び、観光文化学科が実施しているインバウンド観光研修や日本・九州での外国人観光客との異文化交流の具体的な事例をおりこみ、インバウンド観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【旅行商品企画論】

「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。

また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（ＦＷ）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。

授業科目名【経営学入門】

本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説すし、学生がよく理解できるように工夫した。

授業科目名【専門演習Ⅱ】

「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」に続き、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。

授業科目名【卒業研究】

「卒業研究」では、時間をかけて、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。

また、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

さらに、地域貢献活動について、後輩たちへの指導を求めった。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会		1994 年09 月－現在に至る
日本観光研究学会入会		2001 年01 月－現在に至る
ツーリズム学会（現在の余暇ツーリズム学会）入会		2007 年12 月－現在に至る

2021年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
コロナ後の九州インバウンド観光振興について	単	2022年3月	余暇ツーリズム学会誌 第9号	本研究では、新型コロナウイルス感染症による日本と九州の観光への影響とこれまでの政府と自治体の取組を振り返った上で、今後観光政策に関し検討されるべき主な課題を示し、観光復興の出口戦略を示すこととしたい。また、西南女学院大学人文学部観光文化学科劉ゼミの地域貢献活動を事例として、インバウンド観光の人材である学生たちが九州インバウンド促進・地域振興に注力し、日本ファンに「北九州らしさ」と「今」を届けることを考察する。
（学会発表）① コロナ後の九州インバウンド観光振興について	単	2021年 10月30日	余暇ツーリズム学会 2021年度全国大会（北九州国際会議場）	本研究では、新型コロナウイル感染症による日本と九州の観光への影響とこれまでの政府と自治体の取組を振り返った上で、後観光政策に関し検討されるべき主な課題を示し、観光復興の戦略を示したものである。
（学会発表）② 学生の夢実現の環境づくりについて －観光研修を事例として	単	2021年 12月18日	山口大学経済学部観光政策 Informix 日本語セッション	本研究は、観光研修を事例とし学生が夢を持てるように、学生夢を実現することが出来るようになるには、どのような環境づりが必要なのか及び観光教育のあり方を明らかにすることを目的としたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1．人事委員 2．学生委員 3．キャンバス・ハラスメント相談委員

助　産　別　科

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　古賀　玉緒	職名　講師	学位　修士（医科学）（久留米大学　2009 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研　究　課　題
周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担　当　授　業　科　目
【助産別科】 前期：女性の健康支援論、助産診断ケア学Ⅲ（産褥期）、助産診断ケア学Ⅳ（新生児期）、助産診断ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）、・総合看護学・助産学基礎実習 通年：助産診断ケア学Ⅵ（健康教育演習）・助産診断ケア学Ⅶ（助産過程演習）・助産学研究演習 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：（後期） 【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス：（前期）、母性看護学実習・母性看護方法論：（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ　】 助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。遠隔講義では、演習や実習に向けて知識や思考が深められることを意図し、事前学習を実施し、それをいかした。具体的な支援についてグループワープにて考える機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。演習では実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。
授業科目名【　助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ、助産学研究演習　】 助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実践を意図した内容を工夫した。 なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【　助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理）　】 今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部学内実習にふりかえて実施した。学内であっても実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習と併せ、特に不足する内容を学内実習で対応した。臨地実習では適宜、施設担当者と連絡をとり施設の受け入れ条件の確認と厳守し臨んだ。時間や実習内容に制限はあったものの集中して学ぶことができた。 学内実習および臨地実習ともに、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。なお、実習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。

授業科目名【　母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論　　】

看護学科２年生、３年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。なお、看護過程演習では臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当教員との質疑応答の時間を確保した。本年度は個人対応が可能であり、個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて講義に臨んだ。演習では優先度の高い技術を中心に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。
ウイメンズヘルスでは、女性の健康に関するなかでも、更年期老年期の女性の健康について解説を行った。遠隔授業であったが、ネット機能を活用したグループディスカッションの時間を設け、学生の考察が深まるよう取り組んだ。

授業科目名【　母性看護学実習　】

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響がつづき学生の実習は臨地・学内およびリモートと実習形態の相違がみられた。そのため、全ての学生がそれぞれの実習形態のなかで、より効果的な実習を経験することができ、かつ実習目標を達成できるよう実習内容を検討しながら教員間でも検討しながら実習方法を工夫した。学生の指導については、教員間および指導者とも定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえ効果的な指導を心がけた。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	会員	2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会	会員	2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会	会員	2008年4月～現在に至る
日本助産学会	会員	2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会	会員	2014年5月～現在に至る
全国助産師教育協議会	会員	2010年4月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究

研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学） 　入試委員、学生募集委員、付属研究所（保健福祉学部） 助産別科） 　学生支援（アドバイザー）、実習コーディネーター（母性看護領学実習・助産学実習） 　　学生募集に関する業務

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　新郷　朋香	職名　　助教	学位　助産修士（専門職） 天使大学大学院 2009 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産ケア、産後ケア、母性看護学	助産ケア、産後ケア、継続支援、子育て支援

研　究　課　題
助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する コロナ禍での学内実習における学生の学びと実習の成果を考察する

担　当　授　業　科　目		
<助産別科>		<看護学科>
助産診断・ケア学Ⅰ	助産学研究演習	母性看護学演習
助産診断・ケア学Ⅱ	助産学実習Ⅰ	ウィメンズヘルス
助産診断・ケア学Ⅲ	助産学実習Ⅱ	母性看護学実習
助産診断・ケア学Ⅳ		
助産診断・ケア学Ⅵ		
助産診断・ケア学Ⅶ		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ　】

演習の準備や、実践を行った。助産学生の知識がケアに結びつけることが出来るよう支援を行った。
また、ロールプレイで対象者や助産師、第三者の視点に立つことが出来るよう計画し、自分のケアを振り返る機会を設けた。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ・Ⅶ　】

数名の助産学生を受け持ち、平等に学習を深めていけるよう調整を行った。遠隔と対面のハイブリット授業であったため、学生の不安を最小限にするため授業時間以外でも学生対応に努め、教員間でも理解の共有を図り学生の理解の確認を行い、学習が深まるよう努めた。

授業科目名【　助産学実習ⅠⅡ　】

学内実習と臨地実習を組み合わせて行った。
学内実習では、基本的な助産技術の習得や助産過程の展開を行った。また様々な場面を想定した分娩介助練習を行い、臨地実習で生かせるよう支援した。
臨地実習では、学生の体調管理や感染予防に努め、実習施設や母児、学生の安全を最優先に配慮した。学生の個別性を考慮し、指導の方向性を他教員とも共有しながら支援した。また、臨床指導者との意見交換を行い学生の進捗状況や学びをフィードバックしより深く理解できるよう支援した。

授業科目名【　母性看護学演習　】 遠隔授業と対面授業で進行した。実際に実習で活用できるよう、事例を設け看護過程の展開を行った。看護過程の展開では数名を受け持ち、個別での時間を多く設け理解を深めることが出来るよう関わった。対面授業の際は感染予防対策をしっかりと行い、学生の人数や時間の管理に努めた。またその中でも知識とケアがつながるよう支援した。
授業科目名【　ウィメンズヘルス　】 遠隔授業で進行された。 その中で“子宮頸がんとウィメンズヘルス”のテーマで講義を行い、学生の知識の確認、病態や治療・予防における現状について説明した。
授業科目名【　母性看護学実習　】 臨地実習、遠隔実習、学内実習で行った。 臨地実習では、感染対策で実習内容に制限があったが指導者と調整を行い多くの経験や見学ができるよう調整した。また、臨地実習で行う事が出来なかった項目については学内で技術の振り返りを行った。 遠隔実習・学内実習では、「電子カルテ」を作成し、より臨地実習に近づけるよう工夫した。 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期・退院してからの生活と、母児・そして家族を経時的に理解できるような実習内容の組み立てを行った。また実際の出産シーンや産後の生活など想像しやすいような教材を使用し理解を深めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会		2009年4月～現在に至る 2020年4月～現在に至る

２０２１年度　　研　　究　　業　　績　　等　　に　　関　　す　　る　　事　　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
なし		

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
なし

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　田中　満由美	職名　　教授	学位　修士　(経済学)(山口大学　1999 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助　産　学	就労女性の仕事と子育ての両立、ペリネイタル・ロス、不妊症患者に関する看護、父性の研究、女性の尿失禁、性教育

研　究　課　題

「就労女性の仕事と子育ての両立」を主軸に、**「不妊症患者に関する看護」「ペリネイタル・ロスを経験した母親や父親についての援助方法」「妊娠・分娩・子育て期の看護」「性教育」「父性の研究」「女性の尿失禁」**をテーマに研究をしている。学会発表においては、第 41 回日本母性衛生学会会長賞を受賞し、山口県母性衛生学会奨励賞は 5 回受賞している。特に助産学の研究に力を入れ、助産学の質向上に努めている。「就労女性の仕事と子育ての両立」については、就労女性の疲労度を軽減するにはどのような援助が必要かを明らかにし援助方法を提示している。「仕事と不妊治療の両立に必要な援助方法に関する研究」では就労女性の不妊治療における困難やストレスの内容、就労と治療の調整を困難にしている要因を明らかにし、看護援助や治療環境のあり方を提示している。「助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセス」の研究では助産師がペリネイタル・ロスのケア体験に適応していくプロセスを明らかにし、ペリネイタル・ロスのケアに対する助産師教育の方向性を提示している。

担　当　授　業　科　目

基礎助産学Ⅰ　(前期)(助産別科)
助産管理学　(前期・後期)(助産別科)
助産診断・ケア学 7　(前期・後期)(助産別科)
助産学研究演習　(前期・後期)(助産別科)
キリスト教と生命倫理　(後期)(助産別科)
子育て支援論　(前期)(助産別科)
総合看護学　(前期)(助産別科)
助産学基礎実習　(前期)(助産別科)
助産学実習Ⅰ（正常）　(前期)(助産別科)
助産管理実習　(後期)(助産別科)
母性看護学概論　　(前期)(看護学科)
ウィメンズヘルス看護論　(前期)(看護学科　)
看護学特論　(前期)(看護学科　)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　基礎助産学Ⅰ　】

範囲が広いため、授業にはパワーポイントで展開し、国家試験出題基準も意識し、資料はカラーの使用で覚えるところの強調等をして作成した。限られた時間ではあるが、学生に討議するなどの時間もつくった。

授業科目名【　助産管理学　】

病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。

授業科目名【　助産診断・ケア学 7　】

助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。

実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　助産学研究演習　】

前半は研究の講義を実施し、後半はグループ担当教員を決め、担当教員の元、グループでテーマを決めて研究計画書の作成を行い、構想発表会を実施した。

構想発表会では学生は自分たちで研究計画書作成のプロセスでの教員とのやり取りの中での学びをもとに活発な質疑応答を実施することができた。

効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。ただ、本年度はコロナ禍で教員の指導が対面ではなく、遠隔でミートでの指導やメールでの指導が多かった。

授業科目名【　キリスト教と生命倫理　】

7 コマ中、3 コマ担当した。担当部分に関しては、倫理と助産業務、生命倫理(生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生診断)などについて講義をするとともに討論した。本科目の担当コマは受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、そのことを念頭に入れて申請書に沿った授業を展開した。

次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。

授業科目名【　子育て支援論　】

担当分については講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連 3 法その他の法律)について概説した。一方的に講義するのでなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論することができた。

効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。

授業科目名【　総合看護学　】

担当部分は看護理論であるが、助産別科学生は大学卒、看護学校卒、専攻科卒、5 年一貫卒と基礎教育がばらばらであり、それぞれの学校で看護過程を展開する基盤となる主に使用する理論も違っているため、そこを意識し、主たる看護理論を概説した。

授業科目名【　助産学基礎実習　】

本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と比べ、実習目標が低下しないための努力をした。

授業科目名【　助産学実習Ⅰ（正常）　】

本学も実習施設もコロナ禍の緊急事態宣言により、実習に大きく影響し、助産別科教員一丸となって、コロナ対応、調整、学内実習を実施し、例年と実習目標が低下しないための努力をした。

学内実習を実施するにあたり、教員一同会議を重ねて事例の検討や学習効果の向上、質担保に努めた。

授業科目名【　助産管理実習　】

一施設はコロナにより、実習中止となった。コロナ禍において実習日程の変更、条件など調整に努め、例年と同様の質担保に努めた。

授業科目名【　母性看護学概論　】

遠隔授業で 7 コマで教科書 1 冊を教授するという制約の中で、国家試験の意識しながら、ギュウギュウに内容を詰め込んでいるが、学習の理解を助けるため、授業初めに前回のポイントを 5 分程度使用して復習している。時間内に質問は実施しているが、もっとゆっくり考える時間をとりたい。

授業初めに前回のポイントを 5 分程度使用して復習については効果があるので、次年度も継続するが、優先度の低いところを削るという作業を少し実施し、時間的余裕をもって講義を展開したい。

遠隔で、顔が見えないまま、パワーポイントを用いて講義を実施したが、質問は行ったが、対面に比べて反応がわかりづらい面があった。

授業科目名【　ウィメンズヘルス看護論　】

選択科目である。ウィメンズヘルスの領域で母性での講義をより深く、発展した形で、教員が分担してそれぞれのテーマに沿って講義を実施し、最後のコマで学生の学びを発表してもらった。昨年までと授業形態を変更したが、本年度の方法で学習効果が上がったので、次年度もこの方法で実施する。

授業科目名【　看護学特論　】

本年度から開始の４年生対象の選択科目である。１コマを担当した。担当コマについては対面授業であった。学生の評価も良好であったため、担当コマについては次年度もこの方法を実施する。また、やむを得ない事由による出席により、１名に対しては補講授業を実施した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	2009.4～2016.3 評議員、論文査読委員	1974.4～現在に至る
日本看護学会		1975.6～2021.3
日本助産学会	学術学会査読委員	1995.5～現在に至る
STTI	2012.7～2014.6 役員	2004.4～2022.3
NHS		2002.9～2022.3
山口医学	2003.4～評議員(現在に至る)(2003～2年幹事)	1999.4～現在に至る
山口県母性衛生学会	2003.7～2018.6 理事、2003.7～査読委員(現在に至る)	1984.7～現在に至る
日本母性看護学会	2019 年 3 月～2019 年 4 月学術学会査読委員	2015.10～現在に至る
日本看護診断学会		1995.4～2003.3
日本看護研究学会		1997.4～2003.3
日本解剖学会		1999.9～2018.3
日本神経科学学会		2000.5～2018.3
日本神経内分泌学会		2000.10～2018.3

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役職名等	任　　期 期　間　等
なし		

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)
助産別科長、入試委員会委員、学生支援委員会委員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　前田　幸	職名　講師	学位　助産修士（専門職）天使大学 2006 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、出産想起、分娩の振り返り、助産学生、分娩介助、乳がん検診

研　究　課　題
・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着に与える影響について考察する ・助産学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担　当　授　業　科　目
【助産別科】 ・助産診断・ケア学Ⅰ　妊娠期（前期）　・助産診断・ケア学Ⅱ　分娩期（前期） ・助産診断・ケア学Ⅴ　周産期のハイリスク（前期）　・助産診断・ケア学Ⅵ　健康教育演習（通年） ・助産診断・ケア学Ⅶ　助産過程演習（通年）　・女性の健康支援（前期） ・助産学研究演習（通年）　・母子の心理・社会学（前期） ・実習：助産学基礎実習（前期） 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習（後期） 【看護学科】 ・母性看護方法論（2 年後期） ・母性看護学演習（3 年前期）　・ウイメンズヘルス（3 年前期） ・母性看護学実習（3 年後期～4 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

2021 年度は、新型コロナウィルス感染症の影響により、遠隔授業と対面授業を併用したハイブリット型の授業形態となっている。

授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ ・Ⅶ】

助産診断・ケア学では、基礎的知識及びフィジカルアセスメント、助産技術の習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように工夫した。できるだけ、双方向型の授業を意識し、ディスカッションや発表を取り入れるなど、教員と学生同士の学びの共有ができる授業を心掛けた。演習においては、最新のガイドラインなどを活用し、机上の学習で得た知識を統合させ、ケアの実践につながるよう、担当教員とともに環境を整えた。また、実際に臨床の場において体験する場面やケアなどを積極的に取り入れていった。

１．助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）では、母性看護学で培ってきた知識をより深く掘り下げ定着させるために、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら知識習得のための授業を目指した。特に、妊娠期における保健指導の必要性やその根拠について理解し、対象者にとって必要な指導を導き出せるように意識しながら関わった。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第３者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また、模擬妊婦体験を通して、日常生活を妊婦として体験する機会もち、その経験を共有しケアへ結びつけることができるように工夫した。

２．助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）では、事前課題を課して母性看護学で得た知識を復習するとともに、助産の専門的知識の習得に結びつけることができるよう準備をした。分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるように DVD 視聴や模型を使用し、授業を実施した。また、知識の定着を確認できるように小テストを行い、結果をすぐにフィードバックし復習へつなげることができるように工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において必須である分娩介助やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、学生が胎盤の模型を各自作成し、使用することで主体性を促した。分娩経過に沿って、経過診断と時期診断が行えるように、実際にパルトグラムの記載を行いながら、情報収集・アセスメント・ケアの方向性を常に修正し、分娩のケアの演習を行った。記録の重要性にも触れ、助産録など責任をもって記載することを実施した。感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。
３．助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）では、妊娠期を担当した。助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）と連動しながら、保健指導の指導案の作成をおこなった。担当教員とともに、きめ細やかな指導を心掛けた。

授業科目名【 助産学基礎実習 】

新型コロナウィルス感染症拡大状況に合わせて、学内実習と臨地実習のハイブリット形式で実習を実施した。学内実習では、実習目標の到達にそって、臨床での実習と同レベルでの経験ができるように担当教員と共に、準備を行い取り組んだ。基礎助産学実習では、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。具体的には、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように各妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例を用い実習を実施した。また、より臨地実習に近づけるため、小チーム制を取り入れ、それぞれのチームを担当教員が受け持った。実習計画発表・報告、申し送りなども経験できるよう工夫を行うと共に、時間を意識しながら実習を行った。
学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントをしたうえで、今後どのようなことが予測されるか、対象者に必要なケアは何か、学習で得た知識を活用できるようにフィードバックを行い工夫した。全体で実習のまとめを行うことで、この実習での経験が次の段階へつながるようにした。

授業科目名【 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理 】

新型コロナウィルス感染症拡大状況に合わせて、学内実習と臨地実習のハイブリット形式で実習を実施した。すべての学生が、臨地実習を経験できるよう教員間で話し合い、実習を組み立てた。実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。
特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気付き、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して、学内実習では事例を用い実習を実施した。その際に、臨地実習で学生が経験したことを共有する機会をもつなどの工夫を行った。
助産学実習Ⅰ（正常）では、正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを実施できるよう助言等の工夫をした。臨地実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換しながら支援するとともに、学生がより対象者の個別性を考えたケアを実施できるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、１つ１つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。
助産学実習Ⅱ（正常逸脱）では、逸脱の経過やハイリスク疾患の学習をしっかり行い、対象の理解へつなげるとともに、必要な保健指導を考え実施した。また NICU での実習では、施設間での実習に差があったものの、NICU での実習を通して、レポートを課すことで共通の理解ができるように工夫した。

授業科目名【 母性看護方法論 】

2021 度は、産褥期・新生児期を担当した。母性看護は、対象が女性や子どもと家族であるため、学生が自分自身の身体と結びつけることができるよう、日常生活での関連性を示すとともに、体操など学生が机上でも体験できる方法も取り入れた。学生が主体的に学習できるように、事前に講義資料を提示するとともに、予習範囲を提示した上で講義をすすめた。講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。母性看護学をより具体的にイメージでき、また興味を持てるよう写真や動画などの映像を取り入れるなどの工夫をした。また、学生が教科書の知識と結び付けてイメージし

やすいよう臨床の現場で起こりうることや自身が経験したこと、実習で先輩たちが経験したことなど具体的な事例等を用いて、看護者としての考え方や対象者との関わり方を考える機会をもてるよう工夫した。また、時事的トピックも加えることで、学生が日常生活中で母性看護を身近に意識できるよう意識した。

授業科目名【 母性看護学演習・実習 】

母性看護学演習 では、看護過程の習得ができるように、ワーク型の演習を取り入れ、小グループ単位で担当教員がサポートし、個別的で細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、感染対策を行った上で、技術演習を行った。例年に比べ技術に要する時間が少なかったため、動画視聴などを通して学生が繰り返し技術を学べるように教材を工夫した。また、技術習得の不足部分関しては、母性看護学実習の中にフォローを行った。

母性看護学実習 に関しては、新型コロナウィルス感染症拡大の状況により、臨地実習・学内実習を併用して実施した。臨地実習では、実習指導者と相談しながら、学生が学びを深めることができるよう感染対策を行いながら、見学やケアの実施の機会が得られるように工夫した。

学内実習では、事例を用いて看護展開することにより、臨床での実習に近い形で実習ができるよう環境を整えた。同じ時期に学内実習をしている助産学生の行う保健指導やMC、分娩介助を見学する機会を設けるなど工夫した。また、学生自身が妊婦・産婦・褥婦を体験することで、対象者の状況や気持ちを考える機会を設けた。ケアの振り返りやカンファレンスを多く取り入れ、学生自身の気づき、学生同士の気づきを大切にし、ケアをより深く考えることができるように工夫した。また、看護技術の習得が十分ではない部分に関しては、繰り返し実施をすることで技術の定着を図った。臨地実習・学内実習とも実習を行う中で、主体的に学生がカンファレンスを行うテーマを決め、実習の総括として、まとめカンファレンスとともにテーマカンファレンスを実施した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		2003年4月～現在に至る
日本助産学会		2017年3月～現在に至る
母性衛生学会		2018年4月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019 年～現在に至る） 助産別科　教務全般担当 助産師国家試験対策担当 家族計画実施指導員資格認定担当 アドバイザー担当

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　山田　恵	職名　助教	学位　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産ケア　　アタッチメント 女性の健康支援	アタッチメント　敏感性 寄り添う支援 思春期世代の心身の健康　プレコンセプションケア

研　究　課　題
・アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。 ・思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

担　当　授　業　科　目	
＜助産別科＞	
・総合看護学（前期）	・助産学研究演習（通年）
・助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期）	・助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）（前期）
・助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期）	・助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期）
・助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年）	・助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期）
・女性の健康支援論　（前期）	
・助産学基礎実習　（前期）	・助産学実習Ⅰ（正常）（後期）
・助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期）	・助産管理実習（後期）
＜看護学科＞	
・母性看護学演習　（前期）	・ウイメンズヘルス看護論（前期）
・母性看護学実習　（後期）	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　総合看護学　】 授業開始後間もない時期であったが、体験学習や共同学習を取り入れ、学生の自発性を高めるよう工夫した。特に時間内で学習したこと、理解した内容を言語化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。
授業科目名【　女性の健康支援論　】 事前課題（調べ学習）をもとに自己の考えを述べ、全体で意見交換できるよう場の設定を行った。また、教科書内の内容だけでなく、最近の動向や新たな知見、助産ケアの対象の実像を具体的に説明し、社会が求める助産師の役割について考える機会とした。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）Ⅱ（分娩期）Ⅲ（産褥期）Ⅳ（新生児・乳児期）　】 今年度は学生のレディネス（特に看護学実習経験）に差がみられていたため、例年以上に視聴覚教材などを活用し授業計画を立案した。また、知識を統合させ思考しながら実践できるよう、演習の組み立てを行った。その際、演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で検討する機会を設け、意見交換できるよう工夫した。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）　】 母性看護過程展開の経験の有無や、理解度を把握した上で個別対応した。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】
思春期の健康教育演習を担当した。カリキュラム改正とこれからの助産師に求められる内容を意識し、「プレコンセプションケア」の概念を中心に講義内容を組み立てた。今年度も臨地実習の制約があり、学内で学習した助産実践能力を臨床で活かす機会が限られていた。そのため、例年同様「思春期健康教室」を開催できるよう中高に依頼し、実践することで学生の学修の達成感が得られるよう調整した。
準備では、自発性とチーム力を身につけられるよう、企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。そのため、教員は統括チームのサポート的役割を担った。指導内容に関して中高の教育と齟齬が生じないよう指導案や教材の確認を行い、教育の質の保障をした。

授業科目名【　助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理）　】
各施設の受け入れ時期や条件が異なったため実習指導者との調整を繰り返し、綿密な実習計画を立案した。
助産学基礎実習は学内と臨地のハイブリッド形式で行った。学内版実習計画を立案する際には、臨地実習同様の経験となるよう時間設定を行った。また、思考しながら実践できるよう場面設定を行い経時的に評価し、翌日の実習へとつながるようにした。常に実習目標を意識した指導を行い、当初の目標を到達できるようにした。
助産学実習Ⅰでは県外実習（5 週間）を担当した。コロナ感染拡大中の実習施設では、事前の受け入れ要件のすり合わせや実習内容の調整を行い、臨地実習が可能となるよう努めた。
学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。毎日、学生の心身の体調把握に努め、週に 1 回は指導者と電話にて実習調整を行った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。
助産学実習Ⅱ（病棟）では、施設の実習内容制限（病棟滞在時間 3 時間、非会話等）を遵守しながらも、効果的な学びができるよう、学生の計画を指導者に提示し、可能な限り指導者に実践していただけるよう調整した。また、振り返りの時間を確保し、間接的実践を直接的な実践に変換し、評価できるよう指導した。

授業科目名【　母性看護学演習　】
看護過程演習では 20 名の学生を担当した。演習では、学生の学習状況に応じた個別指導を行った。実技演習においては感染対策をとりながら、平等に体験できるよう企画した。国家試験対策につながるよう教科書を活用した学習を組み込み、知識の獲得を図った。

授業科目名【　母性看護学実習　】
予定されていた実習施設ごとに、病院ホームページ等を活用したオリエンテーション資料を作成・実施し、実習病棟の様子が具体的にイメージしやすくなるよう工夫した。母性看護に携わる看護者の実践場面、特に対象との接し方などについて、病院が配信している you tube 動画などを視聴させるなどして、臨床で実習する際の看護学生としての態度や心構えについて再度考える機会をもたせた上で学内実習を開始した。また、助産学生の分娩介助練習を見学させることで、分娩時の看護が具体的にイメージできるよう調整した。看護実践においては、作成した疑似電子カルテや教員が行う申し送りから情報収集させるなど臨地実習同様の形態をとるよう工夫した。また、限られた環境のなかで学生全員が平等に実践できる機会も設けた。実習記録の指導は臨地実習同様、毎日個別対応の時間を設けた。

授業科目名【　ウイメンズヘルス看護論　】
遠隔授業にて進行 2 の「ジェンダーとウイメンズヘルス」を担当した。既習の学びをさらに発展させる形で、学生の身近な環境や体験を題材とすることで、自分事としてジェンダーを考えられるよう、また今後の生活に活かせるように組み立てを行った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在に至る
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在に至る
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在に至る
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在に至る
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	西南女学院大学保健福祉学部研究所	○樋口由貴子 目野郁子 髙崎智子 水貝洵子 山田恵 大内田知英	192,500円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役職名等	任　　期 期　間　等
北九州子育て支援と子ども文化ネットワーク ムーブフェスタ2021市民企画事業 「アタッチメント［愛着］形成と子育て支援」	シンポジスト	2021年7月22日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
＜別科学生募集他＞ ・2021 年度のオープンキャンバス企画・運営担当 ・助産別科ブログ担当 ＜別科業務＞ ・実習コーディネーター（補佐） ・助産学生 3 名のアドバイザー担当 ・国家試験対策（補佐） ・クラス担任 ＜学生支援＞ ・看護学科教員や保健室職員、事務職員の要請に応じて、看護学科学生及び職員等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。 ・個々の女子学生の健康に対する意識を高め、大学として学生の健康維持・増進に向けた学生支援となるよう保健福祉学部 1 年生向けに「私の健康管理カルテ」を作成した。（新型コロナウイルス流行により入構禁止となったため配付は次年度の予定）

短期大学部

保 育 科

２０２１年度教育研究活動報告用紙（様式９(2021)）

氏名　　阿南 寿美子	職名　　准教授	学位　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児心理　幼児教育　保育者養成	社会的能力の発達　規範意識　いざこざ　保育観 子どもの学び　保育カンファレンス　保育記録

研　究　課　題

幼児期の対人交渉場面において、乳幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。子どもの遊びの中における学び（育ち）の捉え方について考察する。

保育者養成校の学生が、2 年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。

保育の質を向上するための保育カンファレンスのあり方について考察する。

担　当　授　業　科　目

学校法人西南女学院　西南女学院大学短期大学部　保育科

・保育の心理学（前期）（1 年生）
・保育内容「言葉」（後期）（1 年生）
・こどもの発達理解とあそび（複数担当教員）（前期）（2 年生）
・こどもの理解と援助（前期）（2 年生）
・教育実習指導（複数担当教員）（2 年間通年）（1 年生、2 年生）
・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（通年・学外）（1 年生）
・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（前期・学外）（2 年生）
・教育実習Ⅲ（複数担当教員）（後期・学外）（2 年生）
・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期）（2 年生）
・こども学基礎演習（通年）（1 年生）
・こども学特別演習（通年）（2 年生）

学校法人扇城学園

・子どもの心理（前期）（1 年生）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【保育の心理学】【子どもの心理】

「保育の心理学」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。

授業科目名【こどもの発達理解とあそび】

共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、現役の幼稚園園長により、集団遊びや身近な素材を使った遊び、ルールのある遊び、わらべうた遊びなど子どもの発達や遊びの展開方法を中心に授業を進めてもらい、それを受けて講義の中で再度、遊びの留意点や子どもへの配慮などについて学生と考察しながら、指導案を作成する中で、実践に向けての取り組みを行った。

授業科目名【保育内容「言葉」】

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、乳幼児期の言葉の発達や保育者の援助についての理解が深められるように配慮した。また、言葉の発達を促す児童文化財についての解説を行ったうえで、絵本・紙芝居・ペープサートなどの実践を行いながら、実際の保育において実践できるような取り組みを行った。

授業科目名【こども学基礎演習】

保育に関する基礎的理解を深められるように、壁面構成やカプラ制作、万華鏡製作、保育科えほんのへやおはなし会などの取り組みを行った。前期は特に学生活に慣れること、他者と協同する力やコミュニケーション能力を高められることを目標に個別面談を実施し。また、話し合いでは教員も積極的発言を行いながら学生間の仲が深められるように配慮した。後期は、ゼミ長・副ゼミ長を中心に学生が中心となって話し合いを行い、学生自らが考え、作り上げられるように教員は主に学生の活動を見守りながら進められるように配慮した。

授業科目名【こども学特別演習】

保育に関する実践的スキルを高められるように、ゼミ活動を展開した。具体的には、保育科えほんのへや及び喜久屋書店（セントシティ７階）における“おはなし会”の実施、身近な素材（玉ねぎの皮）や染料を使用してのハンカチ染めやＴシャツ染め、壁面構成、キャンドル製作などである。準備を含めて学生を中心に進めることで、協同性や責任を持った行動ができるように配慮した。

授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園)】

様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、２人１組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。

授業科目名【教育実習指導】

事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。

報告会は1、2年生合同で行い、2年生よるスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012年～（現在に至る）
日本保育者養成教育学会	会員	2018年~（現在に至る）
日本乳幼児教育学会	会員	2018年～（現在に至る）

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書） 保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	共著	2021年6月	ミネルヴァ書房	子ども、保育、教育、家庭、福祉に関連する用語のうち、2017年に告示された幼稚園教育要領・保育所保育指針、・幼保連携型認定こども園教

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				育・保育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「自立心」、「協同性」（P357）についての解説を行った。
（学術論文） 1. 幼児期のあそびの中にみられる学び～子どもの育ちを意識した実習生の働きかけ～	共著	2022年3月	福岡女学院大学紀要人間科学部第23号	保育者養成校学生が実習において、「あそび」の中にどのような子どもの学びが含まれているのかを明らかにするとともに、保育者として「子どもの育ちを意識した働きかけ」とはどのようなものか考察した。その結果、実習生は、子どもが積極的に遊ぶことができるように見守りながら、必要に応じて介入していること、遊びの特性に応じて、関わり方に配慮していることが分かった。また、「あそび」には、実習生なりの意図を持ちながら関わっていることが示唆された。 松尾裕美・阿南寿美子
（翻訳）				
（学会発表） 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察～保育職と他福祉系対人援助専門職との比較	共著	2021年5月	日本保育学会第74回大会（ポスター発表）	保育実習で学生が作成する実習日誌については、時系列型の日誌が中心となっているが、現在、様々な新しい様式への提案がさている。本研究では保育職と近接領域にある社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の実習日誌と比較することによって、実習の質を高める記録のあり方を検討した。その結果、時系列を中心とした内容に加えて、他職種に見られるエコマップ・ケースレポートのような子の理解や援助方法の理解につながる様式も必要ではないかという気づきを得ることができた。 阿南寿美子・脇信明・上原真幸・金子幸・末嵜雅美・藤本朋美・古林ゆり

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
九州保育者団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員 第 50 回福岡集会副実行委員長	2012 年 4 月～現在に至る 2016 年～現在に至る 2019 年～現在に至る
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016 年 4 月～現在に至る
NPO 法人あゆみの森共同保育園	第三者委員	2018 年 1 月～現在に至る
社会福祉法人喜久茂会（ふたば保育園）	評議員	2021 年 6 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会キャリアアップ研修会	講師	2021 年 9 月 15 日
北九州市児童福祉事業第三者評価事業フォローアップ研修会（地域型保育事業所）	講師	2022 年 1 月 21 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員会 副委員長（2020 年 4 月～現在に至る） 入学試験会議委員（2014 年 4 月～現在に至る） 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員（2016 年 4 月～現在に至る） 短期大学部第三者評価 ALO（2016 年～現在に至る） 認定絵本士資格講座責任者（2018 年～） 2021 年度ガイダンス等（2 回）　他

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　池田　佐輪子	職名　　専任講師	学位　修士（人間関係学） （北九州市立大学 2014 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床教育学	代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援

研　究　課　題

臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みが感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。保育所での３歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

担　当　授　業　科　目

保育者論（前期）
乳児保育Ⅱ（前期）
こども文化（前期）
こども学基礎演習（通年）
こども学特別演習（通年）
保育実習指導Ⅰ（通年）
保育実習指導Ⅱ、Ⅲ（通年）
在宅保育（後期）
乳児保育Ⅰ（後期）
保育・教職実践演習（幼稚園）（後期）
保育総合表現（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　保育者論　】

テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。オンライン授業と対面授業のそれぞれのメリットを生かせるように考慮しながら課題を事前に提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。

授業科目名【　在宅保育　】

基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、オンライン授業で理論の説明をしたうえで、対面授業において身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討していけるよう配慮した。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。

授業科目名【　乳児保育Ⅰ　】

まずは保育所実習で３歳未満児と関わることを念頭に、３歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な３歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また講義授業ではあったが保育所実習を見通し、保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。

授業科目名【　乳児保育Ⅱ　】

1 年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて、知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるように指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。

授業科目名【　こども文化　】

具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、オンライン上で教員が資料を用いてデモンストレーションを行い、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものを、対面授業で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本士の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。

授業科目名【　こども学基礎演習　】

子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。実際に子どもたちと触れ合う機会はほとんどもてなかったが、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。

授業科目名【　こども学特別演習　】

学生の主体的な学びを重視しながら、積極的に企画を出し合い、近隣の幼稚園や保育所、親子ふれあいルームなどに出向いて子どもたちと触れ合いながら、応用的な実践力が身につくように計画をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限されたことが残念であった。その中でもできる活動を工夫し、楽しみながら実践力を身に付けることができたと思われる。

授業科目名【　保育実習指導Ⅰ　】

新型コロナウイルス感染症の影響で実習の制約はあったものの、実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた学びができた。実習に出られなかった学生に対しては内容を吟味して学内演習を行った。様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己題振り返りシートを活用した演習を行った。

授業科目名【　保育実習指導Ⅱ、Ⅲ　】

自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的取り組みができるようにしていった。またオンライン上でお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。

授業科目名【　保育・教職実践演習（幼稚園）　】

実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。

授業科目名【　保育総合表現　】

新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた本学マロリーホールを会場に、シオン山幼稚園の子どもたちを招待して作品の発表を行うことはできなかったが、これまで学んできたことを総合的に活用し、学生同士でアイデアを出し合って、現場で活用できる劇あそびのシナリオを作り、演技・演出に加え、音響や照明も学生同士で話し合い、困難を乗り越えていく喜びを感じられるように心掛けた。教員はできるだけサポートに回り、学生の主体性を引き出しながら作品の完成へと導いた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		2018 年 5 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・コラボラキャンパスネットワーク 親子ふれあいルーム	実行委員 オブザーバー	2009 年 4 月～2015 年 3 月 2015 年 4 月～現在に至る
・特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州	理事	2013 年 3 月～現在に至る
・NPO 法人あゆみの森共同保育園	苦情解決体制における 第三者委員	2018 年 9 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
図書委員会（副委員）	2018 年 4 月～2022 年 3 月
学生募集委員会	2020 年 4 月～現在に至る
職員研修委員会	2021 年 4 月～2022 年 3 月
教員免許状更新講習講師	2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
北九州市民カレッジ講師	2020 年 11 月

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　笠　修彰	職名　　准教授	学位　修士（健康福祉学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉　地域福祉　ソーシャルワーク

研　究　課　題
・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担　当　授　業　科　目
こども家庭福祉（前期） 社会的養護Ⅰ（前期） 社会福祉（後期） 社会的養護Ⅱ（後期） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年） 施設実習Ⅰ（学外実習） 施設実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　こども家庭福祉、社会福祉　】 今年度は、すべての講義を遠隔授業で実施した。授業では、専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、単元ごとに予習プリントを作成、配布し、学習準備性の向上を促すとともに、個々の学生の学習状況が把握できるよう、適宜小テストを実施した。また、遠隔授業であっても教育の質を落とさぬよう、チャット機能を活用した質疑応答や授業資料の見直しを行った。
授業科目名【　社会的養護Ⅰ　】 授業では、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるよう、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。今年度は 14 コマ中 6 コマが遠隔授業となったが、その間についても授業の資料が早い段階で学生の手元に届くよう事前配布を行い、学生の負担軽減、教育の質の確保に努めた。また、学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。
授業科目名【　社会的養護Ⅱ　】 授業では、具体的な事例を用いた個人ワークを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本保育学会	会員 会員	2008年7月 2016年9月

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 臨床的知見に基づいた精神保健福祉士の援助技法の検討―精神障害リハビリテーションにおける援助構造を通じての考察―	共	2022．2	和歌山大学教育学部紀要第72集	①精神科病院の精神保健福祉士の個別援助に焦点を当て、「精神障害リハビリテーション」における援助構造を通じて、「面接」の在り方、援助技法としての行動療法の位置づけなどについて再考した。 ②瀬戸山淳，本山司，笠修彰，宮崎聡，本山貢 ③共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 （P33～P40）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
『保育福祉小六法』（株）みらい	編集委員	2016年4月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会　副委員長（進学ガイダンス6回，高校訪問4校）　2021年4月1日～2022年3月31日 キャンパス・ハラスメント相談員　2021年4月1日～2022年3月31日

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　篠木　賢一	職名　　准教授	学位　修士（体育学　鹿屋体育大学 2001 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研　究　課　題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力との関連について考察する。

担　当　授　業　科　目
スポーツ実技、運動と健康、こどもの運動あそび、こども学基礎演習、こども学時別演習、保育・教職実践演習（幼稚園）、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育所実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　こどもの運動あそび　】 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を 図っている。
授業科目名【　運動と健康　】 運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。
授業科目名【　こども学特別演習　】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
授業科目名【　保育・教職実践演習（幼稚園）　】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2 人 1 組で指導計画を作成し、準備・実践 までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要 になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が 高まるように配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会	会員 会員 会員	1997年～ 2012年～ 2013年～

２０２０年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
九州大学バレーボール連盟	女子強化委員	2006 年～現在に至る
	女子強化委員長	2021 年～現在に至る
附属シオン山幼稚園「運動あそび」	講師	2013 年～毎月 1 回程度
九州大学バレーボール連盟	競技委員副委員長	2013 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員 2017 年度～現在に至る 教育経費予算配分委員 2018 年度～現在に至る 排球部 監督 2014 年度～現在に至る

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　末嵜　雅美	職名　　教授	学位　修士（教育学）（九州大学大学院 1998 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研　究　課　題
①　2 年間の保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成－環境遊びを中心として ②　保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方 ③　現場保育者向けの生活体験プログラムの構築（フィールドワーク） ④　遊び技術を向上する保育士の研修のあり方

担　当　授　業　科　目
教育実習指導（通年） こども学基礎演習（通年） 保育原理（前期） 教育原理(前期) 生活の中の環境学（前期）（開講せず） 保育・教育実践演習（後期） 保育メディア演習（後期） 保育内容「環境」（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。遠隔授業となったため、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。遠隔授業となったため、学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【保育内容「環境」】 授業前半では屋外での体験学習を中心に授業を組み立てた。特に、自然や生活環境への関心が高まるよう工夫した。幼稚園教育要領、保育所保育指針に記載されている「環境」のねらいと内容が十分に理解できるように授業を進行した。一部遠隔授業となったが、授業への参加意識を高めるよう配慮した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー（到津の森公園、獣医師）を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂いた。学生の関心は非常に高かった。

授業科目名【保育メディア演習】
授業の前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、「認定絵本士養成指定講座」に関わる3コマの授業では、外部講師と連携しながら授業を行い、絵本や情報社会との関連について、より学生の理解が深まったと思われる。特に、大学図書館職員からの授業では、絵本検索を通じて絵本の関心を深める非常に良い機会となった。

授業科目名【教育実習指導】
「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。
実習事後指導では一人一人の学生に対し面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会は対面で実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。

授業科目名【教職実践演習】
現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。学生の主体的な学びとなる「模擬保育」では、クラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い意見交換を行った。卒後1年目の卒業生を招いた授業では、現場での実践を想定しながら学生が話を聞いていた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。

授業科目名【こども学基礎演習】
科目の主担当者として全体計画を作成した。ゼミ毎での活動を軸として、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。「認定絵本士」養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では対面授業を実施し、認定絵本士としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。
個別に担当したゼミ活動では、前期オンライン授業期間はそれぞれ自宅で行える活動を工夫しながら行った。対面授業が可能になった後期は、運動遊びや言葉遊び、美術館訪問など学生がやりたい活動を決めて主体的に実施できるよう支援的な役割で関わった。

授業科目名【こども学特別演習】
2 年次のゼミ活動の科目のため、特に対面授業が可能な時期には体験的な学習をできるだけ行えるよう工夫した。「作る」ことが好きな学生が多かったため、科学遊びの一環でバスボムや染め物ハンカチ、ポップアップカードなどを作成したり、自然に親しむ工作なども行った。動物園での学外授業も実施した。
遠隔授業では、学生同士の懇親を深め、意見のやり取りがしやすいよう工夫と配慮をおこなった。科学への関心を深めるために自分の家庭でできる身近な科学遊びやレクリエーションなどを実施した。

授業科目名【生活の中の環境学】
受講者が居なかったため、21 年度は開講せず。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会		2013 年 5 月～　現在に至る
日本保育者養成教育学会		2017 年 3 月～　現在に至る
日本社会教育学会		1996 年 4 月～　現在に至る
日本生活体験学習学会	理事（2004-2010 年、2018 年-）	1998 年 10 月～　現在に至る
九州教育学会	事務局幹事（1996-1998 年）	1996 年 4 月～　現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 1. 保育者養成校における保育者としての資質に関する調査～変数間の関連性の分析～	共著	令和３年４月	西南女学院大学紀要 25 巻	保育者養成課程の学生（短期大学）を対象に行った 2 ヶ年調査の結果分析。保育者として求められる資質が 2 年間の間にどのように変容しながら育成されるのか、また資質の要素がどのように相関をもつのか、無記名アンケートより明らかにした。対人スキルや共感性や援助規範意識は子ども中心の保育観育成に影響することが分かった。
（翻訳）				
（学会発表） 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察～保育職と他福祉系対人援助専門職との比較から	共著	令和３年５月	日本保育学会第 ７４回大会（ポスター発表）	保育実習等で経験の振り返り学習に用いられる実習日誌について、学生の学びがより深められる日誌様式や指導のあり方についての研究の第一報となる。まずは既存の実習日誌の様式の課題を明らかにするために、対人援助専門職養成課程で使用されている実習記録と比較を行い、保育ならではの記録の役割や学習成果を見いだし、対象理解と共にクラスなど集団や一日の流れなど保育全体への理解が求められることを明らかにした。 阿南寿美子・脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・島田知和・末嵜雅美・藤本朋美
2. 保育者を対象とした生活体験プログラムについてー生活体験学校を活用した保育活動の充実をめざしてー	共著	令和３年９月	日本生活体験学習学会第 23 回大会（自由研究、口頭発表）	福岡県飯塚市庄内生活体験学校における野外活動プログラムの実践研究の発表である。飯塚市内の保育者を対象に、畑作りや芋掘り、苗木づくり、蜂蜜採取などのプログラムを実践することで、ゆくゆくは庄内生活体験学校を活用する保育活動や職員研修のプログラムを構築することを目的としている。20 年度から実施したプログラムの中間報告となる。 末嵜雅美・桑原広治・宮嶋晴子。正平辰男

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016 年 9 月～現在に至る（2024 年 9 月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006 年 4 月～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018 年 8 月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018 年 8 月～現在に至る
ＮＰＯドングリ研究部会	研究・実践担当	2020 年 9 月～現在に至る
全国保育士養成セミナー令和 3 年度実行委員会	企画委員（第 10 分科会担当）	2020 年 10 月～2021 年 12 月
九州保育団体合同研究会	4・5 歳児保育、運営委員	2018 年 8 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・保育科学科長　2020 年 4 月～現在 ・人事委員会　副委員長　2020 年 4 月～現在 ・学校法人西南女学院評議員　2020 年 4 月～現在 ・教員免許状更新講習「保育の質の向上と保育の専門性：保育における遊び環境について」講師 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園　幼稚園運営委員　2018 年 4 月～現在 他、学生募集のための高校訪問の実施等

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　末成　妙子	職名　　教授	学位　教育学修士（音楽教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現	・聴覚障がい児教育（聴覚障がい乳幼児） ・こども音楽療育 ・表現（身体・音楽）

研　究　課　題
「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据えて音楽の実践力をつける方法を研究する。障がいのある子も、そうでない子も、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021 年 7 月に出版した『幼児期の表現活動』の執筆活動を通して、自身の講義の振り返りを十分行うことができた。編者となって執筆していた『障がいのある子どもの保育・教育の実践』は 2022 年 1 月に出版の運びとなった。全国の志のある先生方と執筆を通して、遠隔ではあるが専門分野の意見を交わしながら深くかかわり、学び合う貴重な経験をすることができた。

担　当　授　業　科　目
保育内容「表現（身体・音楽表現）」(前期) こども音楽療育概論（前期） こどものためのピアノⅠ こども音楽療育概論（後期） こども音楽療育実習（後期） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年） 保育総合表現（後期） こどものうたあそび（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こども学基礎演習】 教務課のご尽力により対面授業と WEB 授業が臨機応変に計画され、学部全体で決まっていた年間の流れも調整されながら、充実した活動ができた。末成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったが、リズム室で器楽合奏をしたことが学生は楽しかったようで、音楽があまり得意でない学生も笑顔で参加した。こどものうたを題材に WEB で効果音を作りながらお話を作り、演じた。初めての試みだったが大変よい活動になった。後期の「お話し発表会」では、ゼミ長を中心に発表の流れを考え、学生が自主的に準備して臨んだ。キリスト教教育を根幹に据える本校の姿勢は、クリスマスに向けての学びを通して本ゼミ活動でも十分に学生に伝えることができたと考える。
授業科目名【こども学特別演習】 対面授業が可能になった時期は、ゼミ生の希望から、子どもの歌の伴奏を練習した。時間にゆとり思ってピアノに向かい、それぞれが就職試験でその力を発揮した。音楽は苦手という学生がほとんどだったが、就職後を考えると自然に力が入り、コード記号を復習し、歌いながらの和音伴奏など工夫して、互いに聞き合う日を設けても楽しむことができた。 後輩との交流が本年度は少なく、その点は残念だったが、ゼミ生どうしはコロナ禍の不安を払しょくするよ連絡を取り合っていた。
授業科目名【保育内容「表現（身体・音楽）」】 「劇あそびに音楽あそびを加える表現」を本科目のまとめとして設定し、全体の授業を構成した。リモート

ではありながら、学生がお互いの表現活動を考察する授業を展開した。知っている楽曲はもちろん、身の回りのものを使って音の響きを確かめて、工夫したことを披露し合った。お互いの良い点を見つけ合い、子どもにとって表現することの大切さを学んだ。表現の環境を整えるということについても考えを深め合うことができた。

授業科目名【こども音楽療育実習】

昨年に引き続きリモートで市内の園とつなげて音楽療育の実践を行った。コロナウィルスの感染が収まらず、リモートで触れ合う企画の2年目で、本年度は昨年より参加園が増えて対象園が4園となり、4園を同時につなぐ試みも行った。一つのグループは絵本「れんけつがっちゃん」をもとに楽器紹介、楽器当てクイズをしてさいごに合奏した。また別のグループは「まほうのでんしレンジ」を劇に仕立てて身体表現遊びや、子どもとのやり取りのできるおしゃべりクイズをして、子どもの反応を肌で感じて音楽療育活動を行った。Zoomでのリハーサルを重ねたことで、園のホールに設置されたスクリーンの前に集まる園児たちと共有した時間を過ごすことができた。学生たちは園児の反応を画面で見ているので双方向のやりとりも大変スムーズに進めることができた。

学生は3つのグループに分かれて3つのセッションを行ったので、園児さんとは多いところで3回も会うことができたので、回を追うごとにこの仕組みに慣れて楽しむ様子が実感できた。

授業科目名【保育総合表現】

学生による舞台発表は本番1週間前で残念ながらオミクロンの感染拡大により諦めざるをえなかったが、そこまでの準備は大変完成度の高いすばらしいものに仕上がっていた。セリフはもちろんのこと、劇中の曲作り、効果音、大道具小道具・衣装の制作と、メンバー全員が誰も力を抜くことなく、他人任せにせず全員が力いっぱい制作に携わった。台本の作成、ポスターの印刷などすべて学生の手によって作り上げられ、この力は必ず職場に出てからも生かされると確信している。次年度の総合表現で、ぜひ今年の2つの劇を実演してほしいという願いが聞かれた。本番1週間前のリハーサルの模様を録画しておいたことが功を奏し、来場をお願いしていた付属シオン山幼稚園にもそのDVDを届けることができ、学生一人ひとりにも手渡すことができた。

授業科目名【こども音楽療育演習】

音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。この授業では障がいのある子とかかわるときに音楽をどのように使ったらよいかということを検討し、将来自分が現場で使えるセッションができるようになることをめざした。障害のある子にとって一つの大きな壁ともいえる言葉の領域についても理解を深め、また、個に応じた適切な配慮について考え、実際の楽曲を使って楽器の効果的な使い方を実演した。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことで音楽の世界が広がることを実感できたという声が多く聞かれた。

授業科目名【こどものうたあそび】

予習・復習をして、子どもの歌にできるだけ親しむように、何度も講義の中で促した。コロナ禍でも保育園・幼稚園では音楽を使った活動があるので、音楽を使って手や指先、からだを動かして遊ぶことを身に着けてほしいと考えている。音楽を通した活動は人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つ。わらべ歌から最近のこどもの歌まで、限られた時間の中で、どの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。リモートでありながら各家庭から互いに励ましあったりして伴奏を積極的にしてくれたり、個性のある遊び方を披露してくれたり、保育科らしい発展的なリモート授業になった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞った学びも有効だったと考える。

授業科目名【こども音楽療育概論】

末成の行ってきた教育実践を多く取り入れて講義を進めた。聴覚障害について、生活するうえの様々な不自由さを理解し、事例を示しながらその支援の方法を伝えた。インクルーシブ保育を展開するために音楽の力を使って障がいのあるこどもへの働きかけ方を学んだ。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持っているので 19 名の学生は向学心を持ち、緊張感を持っていた。回を追うごとに積極的な調べ学習や取り組みが見られた。発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知り、重度・重複化する子どもの障がいを理解するために、具体的なエピソード、体験談を交えながら講義を進めた。

授業科目【こどものためのピアノⅠ】

本年度からテキストを教育芸術社の「大学生のためのピアノ教本」を変更して、バイエルにとらわれない幅広い選曲が可能になったのは大変良かったと思う。入学して間のない学生がピアノへの不安や練習においての孤独感を感じないように、指導での言葉かけに細心の注意を払った。さまざまな相談、練習方法の悩みなどが気

軽に話し合える雰囲気作りを心掛けた。途中からリモート授業になったが、学生はとても積極的でよく練習しまじめにピアノに向かって動画を送ってくれて練習を頑張っていた。対面での試験も優秀な成績で、これからが楽しみであると確信した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011 年～現在に至る

２０２１ 年 度　　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 幼児の音楽表現	単著	2021 年 7 月	白峰社 (178 頁)	第 1 章では「幼児期の表現」、第 2 章ではその実践、第 3 章では音楽活動が子どもの自己肯定感、コミュニケーション力、社会性を高めるという観点から「こども音楽療育」について述べ、第 4 章で「聴覚障害支援教育」について述べている。聴覚障害の子どもの支援、音楽を通しての言葉の獲得、音楽によるコミュニケーションについて解説している。
障がいのある子どもの保育・教育の実践	共著・ （編者）	2022 年 2 月	学友社 (203 頁)	3 人の編者の一人としてこの本を上梓した。項目立てから著者の選考、校正、索引立てまで行った。保育士幼稚園教諭を目指す学生がインクルーシブ保育を展開する力をつけるための大学生向けテキストである。事例、イラストを多く用いて保育実践に結び付きやすい内容になっている。
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会　副委員長　留学生選考の面接試験において試験官を務めた。 公開講座委員会　委員長 学生委員会　副委員長 7 月 18 日（日）　オープンキャンパスにおいて模擬授業開催「体験！こども音楽療育士」 8 月 18 日（水）　教員免許状更新講習　講師　選択領域「こどもの可能性を広げる保育者の援助」 「幼児の発達を促す音楽あそび」 12 月 7 日（火）　北九州市民カレッジ　講師　テーマ「音楽と私たち」 3 月 15 日（火）　高内進路ガイダンス　講師　宇部西高等学校

以上

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　谷崎　太	職名　　准教授	学位　経営学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研　究　課　題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担　当　授　業　科　目
初年次セミナー（1 年前期） 経済学入門（1 年前期） 子ども学基礎演習（1 年前期・後期） 子ども学特別演習（2 年前期・後期） メディアリテラシー（1 年後期） キャリア開発（1 年後期） 情報処理入門（2 年前期） 保育メディア演習（2 年後期 AB クラス） 保育メディア演習（2 年後期 CD クラス） 実践キャリアプラニング（2 年前期） 保育総合表現（2 年後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【初年次セミナー】 汎用的技能、スタディスキル、スチューデントスキルを身につけるために、グループワークを中心とした演習を次の順序で行った。全体に共通した課題に対する討論をしながらグループを形成する。その後、グループごとに別途提示された課題について資料を集めながらグループとしての発表資料を作成する。一連の活動を振り返り、個人としての振り返りレポートを作成する。これらによって、「 聞く、調べる、読む、書く、考える、発表する、討論する、を鍛錬・強化する姿勢を養う」「 グループワーク、チームビルディングを通して、自己および他者を理解する姿勢を養う」「 課題解決のために、テーマを探求し、解決の方策を探る姿勢を養う」「 自らの行動を省察し、成長へと繋げる姿勢を養う」ことを促した。
授業科目名【保育メディア演習】 保育実践の記録化・可視化を行う上で有用な情報ツールを利用できるよう、文書ならびにプレゼンテーションの作成、利用についての技能向上を図った。現場で必要とされる資料作成の留意点等について考察する課題を提示し、課題の作成から提出までを、ブラウザ、Word、PowerPoint、電子メール等で完結させることでテーマの考察と PC 操作の習熟とを同時に促した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本簿記学会		1994 年 4 月
日本会計史学会		1996 年 11 月
国際会計研究学会		1996 年 11 月
日本企業経営学会	監事（2000 年～現在に至る）	1997 年 3 月
日本会計研究学会		1997 年 9 月
日本生産管理学会	中四国支部幹事（2001 年～2003 年）	1998 年 4 月
広島大学マネジメント学会		2000 年 12 月
経営行動研究学会		2008 年 8 月

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会（2020 年 4 月～2021 年 3 月） 情報システム管理運用委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月）

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　戸田由美	職名　　教授	学位　文学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石、文芸学的諸相、見立て、東洋的視点 西洋的視点

研　究　課　題
夏目漱石文芸における不思議さの究極にある本質的概念を究明する。そのうえで、漱石の人生の課題であった「文芸を科学する」という意味を分かりやすく解明することを研究の第一義としている。日本文学の諸相とそれに及ぶ「見立て」の世界観、言語の本質と人の心の関係性、ならびに東洋的世界観、西洋的視点をも考慮言及することを目的としている。この思想は現代社会に対するテーゼでもあるので、立証できれば「日本語教育」界に貢献できるものである。、

担　当　授　業　科　目
文学 日本語表現法 こども学特別演習 こどもの文学と物語

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　文学　】 最近の学生の文字離れは甚だしく、それを解消するためにも、現代社会においてなぜ文学を学ばなければならないかを説き、古典・歴史・表現・言葉・心・といった事柄はすべて生きていくうえでの自身のアイデンティティと切り離せない故に、「文学とは実学であること」を徹底教示することにつとめた。
授業科目名【日本語表現法　】 大学・短大、それぞれの学科の特徴を意識しながら、良き社会人になるための表現のトレーニングに力点を置き、小論文、伝達文、敬語、話し方、会話法を学ぶとともに、読む・書く・聞く・話す・の言語活動に加えて調べる力、質問する力を身に付けるべく演習を取り入れながら講義した。
授業科目名【　こどもの文学と物語　】 絵本や児童文学には人間が生きていくための原動力となる探求心や想像力、感動する心を育てるエキスに満ちた児童文化があるのでそれを基軸に据えて、文学を通して、もう一度学生たちが自分の生きてきた道をフィードバックすることにより将来の保育職に就くために求められる大切な知識、意義を理解させるべく、基礎的能力を養うことに力を注いだ。
授業科目名【　こども学特別演習　】 「ファンタジ―文学ゼミ」としてファンタジーの世界観が幼児教育の良き教材となり得るものであることを体得することを目的とした活動をしている。したがって、絵本、映画、文学、絵画、音楽、色彩の中から幼児的視点を追究し、幼児を明確にとらえる鍛錬をした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本文芸学会 日本キリスト教文学会 日本近代文学会 日本語教育学会		１９８３年 １９９１年 １９８５年 ２００２年

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳） ただいま翻訳継続中				まだ完成に至らず。
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
子ども・子育て専門委員	専門委員	2023年3月31日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院理事 短期大学部長 附属シオン山幼稚園長

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　東　彩子	職名　　准教授	学位　修士（宣教学：フラー神学大学院） Master of Cross Cultural Studies（Fuller Theological seminary）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
①　キリスト教教育・保育、キリスト教女子教育 ②　キリスト教と身体（演劇・ダンス等身体表現含む）	キリスト教教育・保育、キリスト教女子教育、宣教、神秘劇

研　究　課　題
１：キリスト教教育における身体の神学的意義を探り、演劇(神秘劇)やダンスの実践を伴うキリスト教教育の教育的・宣教的効果について、ホリスティックな観点から研究を進める。 ２：中世の神秘劇研究を土台とし、現代の世界各地における神秘劇について神学的・宣教学的研究を進める。

担　当　授　業　科　目
＜短期大学部保育科＞ キリスト教学Ⅰ（１年前期）、キリスト教学Ⅱ（２年後期）、キリスト教保育（１年後期） ＜大学人文学科（英語・観光文化）＞ キリスト教学（旧約聖書）（１年前期）、キリスト教学（新約聖書）（１年後期） ＜大学共通＞ キリスト教と文化（2 年後期） キリスト教と西南女学院の歩み（1 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【短期大学部キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】 Ⅰ＆Ⅱ共に対面授業での実施が叶い、紙芝居・絵本などに学生自らが触れる機会を増やし、映画など視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。チャペルは前期は YouTube 配信、後期は対面となったが、引き続き Google Classroom を活用し感想記述を収集し、通年での学生の振り返りを把握した。
授業科目名【キリスト教保育】 キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業を行った。「世界の子ども」の発表では、コロナ禍における各国のこどもたちの現状について調査しグループ発表を行い、自分たちにできることを検討した。神秘劇では、シナリオ作成や劇制作により聖書の理解を深めると同時に、こどもたちに聖話を伝えるための実践方法や表現方法を探り、聖書に基づくチームワークやリーダーシップなどについて洞察を深める機会を作った。
授業科目名【大学人文学部　キリスト教学（旧約・新約）】 前期は旧約聖書、後期は新約聖書にわけて講義を行うため、視覚教材もあわせて深い掘り下げが可能となった。学生が１年間を通して聖書全体を概観でき、「感恩奉仕」の精神の土台となる聖書の知識を身につけられるよう、聖書の登場人物を中心に解説した。コロナ禍の遠隔授業である中、通常行うグループワークは実施できなかったが、「星の王子様と聖書」というテーマで、愛とは、命とは、生きるとは、などについて「星の王子様」と聖書の繋がりを元に、自らの考えを深める授業を行った。
授業科目名【大学共通　キリスト教と文化】 キリスト教文化に幅広く触れる機会を提供した。キリスト教の歴史や人物、芸術や文学などについての解説を元に、学生が興味をもった分野について、自らテーマを決めて文献検索を行い、レポート執筆の機会を設けた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本基督教学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年9月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年4月～現在に至る

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 授業科目「キリスト教保育」における神秘劇の実践	単著	2022年3月31日	「キリスト教教育論集」第30号（日本キリスト教教育学会発行）	本論は、キリスト教主義保育者養成校にて、必修科目として開講している「キリスト教保育」における神秘劇の手法を用いたアクティブ・ラーニングの実践報告である。神秘劇を導入するねらい、授業展開、実践例、振り返りをまとめ、学生の聖書理解に関する効果や学びの変化について、振り返り記述等をもとにキリスト教教育的意義を考察し、キリスト教教育における今後の課題を提示した。
（翻訳）				
（学会発表） 授業科目「キリスト教保育」における神秘劇の実践	単著	2021年5月29日	日本キリスト教教育学会	キリスト教主義保育者養成校にて、必修科目として開講している「キリスト教保育」における神秘劇の手法を用いたアクティブ・ラーニングの実践報告を発表した。全15回の授業のうち5回で実施している学生による聖書の物語に即した劇制作について、神秘劇を導入するねらい、授業展開、実践例、振り返りをまとめ、学生の聖書理解に関する効果や学びの変化を、振り返り記述等をもとに考察し、今後の課題を提示した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
キリスト教学校教育同盟 全国新任夏期研修会	運営・実行委員	2018 年 4 月～現在
日本バプテスト宣教団	West Japan, Associate Staff	2020 年 7 月～現在
ワールド・ビジョン・ジャパン	会員・チャイルドスポンサー	2010 年 7 月～現在
日本 YWCA(日本基督教女子青年会)	会員	2010 年 7 月～現在
日本バプテスト豊前キリスト教会	会員	2021 年 5 月～現在
SARA(Stretch and Relaxation in Agape)賛美に合わせて行う Pilates メソッドに基づいて行うエクササイズ	Founder, Instructor	2005 年～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
西南女学院キリスト教センター長	２０２０年４月１日～現在
西南女学院大学・短期大学部宗教主事	２０２０年４月１日～現在
キリスト教センター運営委員会委員長	２０２０年４月１日～現在
大学宗教委員会委員長	２０２０年４月１日～現在
クリスマス礼拝総監督	２０１０年４月１日～現在（2013 年度を除く）
新任オリエンテーション聖書学課講師	２０２１年４月１日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	２０２１年７月１２日～18 日（動画配信）
大学短期大学部チャペル(送別礼拝)奨励	２０２１年１月 12 日
大学チャペル(送別礼拝)奨励	２０２１年１月 13 日
西南女学院月報巻頭言「今月の聖句」	第 686 号（2021 年 6 月号） 第 690 号（2021 年 10 月号） 第 694 号（2022 年 2 月号）
職員研修懇談会（大学）開会礼拝司式	２０２２年２月２８日
地域貢献活動交流会開会祈祷・閉会祈祷	２０２２年３月１１日
短期大学部附属シオン山幼稚園卒園式祝祷	２０２２年３月１２日
大学・短期大学部卒業式祝祷	２０２２年３月１８日
西南女学院聖書学課司会	２０２１年４月２２日、２２年２月１７日
西南女学院大学 FD 研修会開会礼拝司式、祈祷	２０２１年８月１２日、９月１６日、２２年３月２４日

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　藤田　稔子	職名　准教授	学位　修士（看護学）（神戸市看護大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症（感染症対策、予防接種） 小児ぜんそく 医療保育

研　究　課　題
【取り組み始めて COVID-19 流行により中断中の研究課題】 ・医療保育専門士と小児病棟看護師との協働の在り方について→特に、子どもの理解が乏しい新人看護師に対して、保育の専門性を有効的に活用した取り組みついての実施と考察。（医療保育士との共同研究） 【継続していきたい研究課題】 ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。 ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「（身体や症状を表す）ことば」について調査する。

担　当　授　業　科　目
こども学基礎演習（保育科１年　前期・後期） こども学特別演習（保育科２年　前期・後期） 初年次セミナー（保育科１年　前期） 保育内容「健康」（保育科１年　前期） こどもの健康と安全（保育科２年　前期） こどもの保健（保育科１年　後期） こども音楽療育実習（保育科２年　後期） 在宅保育（保育科２年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こどもの健康と安全】 特に、人に触れる実技演習が大半である科目であるため、演習にあたっては、手洗い、1 行為 1 消毒の徹底、不織布マスク 2 枚着用、演習後は着用マスクを廃棄、使用物品の使用前後のアルコールまたは次亜塩素酸水による清拭消毒等の感染対策を講じておこないました。学生達も徹底してくれ、問題なく 14 回の演習を終了することができました。 例年、BLS は日本赤十字社福岡県支部の指導員複数名に学生が十分演習できる蘇生人形の台数を持参のうえ実技演習をおこなっていたが、昨年度・今年度は感染対策の観点から学内者でおこなうことにしました。看護学科所属の助手助教 2 名（急性期看護担当）と共に演習をおこないました。学内者であったため事前の打ち合わせや準備が十分におこなうことができ、効率的な演習ができました。特に、保育現場で遭遇する事例を用いて、ただ BLS 手技を教授するだけでなく、ロールプレイをする中で他の園児達への対応・先生達との役割分担・保護者への連絡の実際の文言等が抽象的には知っているが実際に動けない・話せない今の自分自身の状況に気付き、フィードバックも少人数で時間をかけておこなうことができ、学生達の感想からも現場に直結した非常に重要な学びが得ることができた、と高評価でした。

授業科目名【こども音楽療育実習】

昨年度、zoom で保育園・幼稚園と繋いでの実践をおこないました。今年度は、このノウハウを活かして、1 度に複数園と繋いで配信しました。「音楽」を用いた内容であるため、本来ならば音楽館かリズム室からの配信が理想的でしたが、Wi-Fi 環境が整っておらず、英語学科のご協力の元、3 回のうち 2 回は５３１教室から配信しました。もう 1 回は、私のスマホ回線を使ってのリズム室からの配信であったため、個人的に負担は生じてしまいました。オンラインであること、音が大きく出せない環境であること、を考慮しながらの企画を練っていくことは大変でしたが、学生の様々なスキル向上には繋がったと思います。また、この試みを実践する過程で配信に必要な機器を揃えたり、様々な技術を得意な他学科の教員から教わったり、私自身も勉強になりました。

授業科目名【在宅保育】

本科目は、遠隔授業の科目ではありましたが、どうしても技術演習が必要な数回のみ、対面での演習をさせていただきました。一般家庭訪問保育の業務の内、産後ケアの一部を演習でおこないました。特に、授乳期の母親と乳児への栄養と母親の負担度を考慮したおやつ作りは、実際に、依頼者のお宅の台所を拝借するという想定で、おやつ作りだけでなく、水回り・食品の衛生管理や家庭訪問時のマナーも含めつつ調理実習をしました。特に排水溝を汚さない、洗い物を最小限に、使う器具も最小限に、をモットーに行ったため、自宅でも実践したい、という感想が多かったです。また、とろみ剤を持って帰ってもらい、障がい児への食事介助の体験をオンラインではありましたが、画面の前で体験し、みんなでシェアリングできました。遠隔授業の時は、前もっての準備が必要で少し大変でした。

授業科目名【こども学特別演習】

後期から例年通り市民センターに出向いて、実際の親子への活動ができました。企画の段階から、感染対策を見越した内容作りを課し、子ども達にとってはストレスを感じることなく感染対策の中でのあそびができたと思います。また、日々感染状況が変化する中での活動でしたので、臨機応変に内容を変更したり、新たな対策を講じたり、等例年では経験できないことを得たと感じています。その過程において、学生達が自覚を持てるように、北九州市の方針、学内で提出する COVID-19 対策班への書類等を学生にも見せるようにしていました。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児保健学会		2000 年 4 月～現在に至る
日本小児看護学会		2005 年 4 月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009 年 4 月～現在に至る
日本医療保育学会		2010 年 4 月～現在に至る
日本環境感染学会		2010 年 4 月～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） アセスメント･看護計画がわかる症状別看護過程第2版	共	2021.10.5	照林社	①2014 年に刊行した看護学生が主に実習の時にサブテキストとして活用できる図書である。今回、内容充実を図り学生が実習を行う上で役立つ臨床の最新情報と関連図の内容の吟味をおこなうための大幅な見直しの依頼があり執筆した。 ②編著　小田正枝 執筆　窪田恵子他 22 名 ③担当部分　下痢（P.219-P.230） 総頁数 P.389 ④縦 B5 判、横 A4 判

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
子どもの保健と安全（第３版） ＊2022年３月に刊行予定の保育内容「健康」（青踏社）の執筆をしましたが、まだ完成された教科書を受け取っていませんので、詳細が書けないです。次年度の報告とさせてください。	共	2021.12.1	教育情報出版	①保育士養成に必要な必修科目「子どもの健康と安全」の教科書である。今回、担当執筆箇所に取り上げている疾患の名称変更や治療法の変更等最新の情報を加筆修正した。 ②編著　高内正子 執筆　有馬祐子他33名 ③担当部分　8章2節「子どもの歯の健康状態」（P.76-P.77）、9章3節「子どもと呼吸器の病気」P.84-P.85）、9章5節「子どもと血液の病気」P.88-P.89） 総頁数P.214 ④B5判
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				教育研究業績　総数 著書　6（単0　共6） 学術論文　3（単1　共2） 学会発表　12（単2　共10） その他　8（単0　共8）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
だいすきにっぽん　活動助成	芳賀文化財団	○藤田稔子 青木るみ子	￥150,000
だいすきにっぽん　活動助成	全国栄養士養成協議会	○青木るみ子 藤田稔子	￥80,000
だいすきにっぽん　活動助成	子どもゆめ基金	○向雅彦 藤田稔子 青木るみ子	￥356,000 （第3回目の開催ができなくなったことを受けて取り下げました）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市開発審査会	委員	2013 年 11 月～現在に至る
北九州市私立保育園連盟	外部理事	2018 年～現在に至る
社会法人　真祐会	評議員	2019 年～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・委員会 　倫理委員会　副委員長　2010 年度～現在に至る 　就職委員会　副委員長　2016 年度～現在に至る 　FD 委員　2019 年度～現在に至る ・S.D.C 顧問 ・アドバイザー関連 　保育科 1 年ゼミ　アドバイザー 　保育科 2 年ゼミ　アドバイザー ・進路ガイダンス 　福岡県立北九州高等学校　2022.3.16 ・地域貢献 　いぼりの森の「みんな！だぁ～いすき！」みんな♪フレアイ隊 　だいすきにっぽん ・執筆 　附属シオン山幼稚園「しおんのそののあゆみ」2021 年 11 月号　巻頭言 ・卒業生支援 　医療保育専門士への支援

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　村上　里絵	職名　特任教授	学位　修士（福岡教育大学　1995 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
発達心理学、応答的保育	乳幼児の言語的発達、応答的保育、幼児の思考力

研　　究　　課　　題
発達心理学を基盤に、乳幼児の育ちと保育を考える。特に、乳幼児期の子どものことばの発達と人的環境（母親もしくはそれに代わる養育者や保育者）との関わりについて考える。

担　　当　　授　　業　　科　　目
・保育内容総論(前期) ・こどもの発達理解と遊び（前期） ・教育実習指導（前期・後期） ・こどもの生活とあそび（後期） ・保育の計画と評価（教育課程含む）（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　保育内容総論　】 乳幼児期は、小学校以降の教科別教育と異なり、領域別に保育されるものではなく、子どもが主体の総合活動であり、環境を通して行うものである保育の本質について繰り返し説明する。また、五領域の視点は、保育の振り返りに必要であり、活動にバランスよく組み込まれていることが大切であることを実践事例を基に説明する。更に保育現場でのエピソードを用い、子どもの姿が思い描けるような工夫をしている。
授業科目名【　こどもの発達理解と遊び　】 乳幼児期の発達を理解しながら、子どもの成長発達に必要な遊びや活動を体験し、体で会得できるようにする。また、学生自身の実習での指導計画作成に生かされるように、授業中に説明した「配慮事項」や「援助」などを授業シートに記録する時間を確保し、指導している。
授業科目名【　保育の計画と評価（教育課程を含む）　】 目の前にいない子どもの姿について想像力を働かせながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園保育要領から、各幼稚園・保育園(所)・認定こども園の保育計画（教育課程・保育課程・全体的な計画）に繋がっていることを理解できるように説明する。また、実際の保育計画を見ながら、各年齢の繋がり、計画→実践→記録→評価の PDCA サイクルについて、理解を促すよう工夫している。
授業科目名【　子どもの生活と遊び　】 乳幼児期の生活と遊びが子どもたちに学びをもたらせ、小学校低学年の生活科に繋がることを様々な事例を通して理解できるように説明する。また、日常生活における子どもの遊びの種類や知識の引き出しが増やせるように実際に子どもの室内における遊びを紹介し、オンラインで出来る限りの遊び体験をし、学生自身が興味を持って理解する時間を作った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 保育教諭養成課程研究会		1985年4月～現在に至る 2017年4月～2022年3月

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市児童福祉施設第三者評価委員	委員	2012 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
なし

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　命婦　恭子	職名　　准教授	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床心理学	子育て支援　学校臨床　ストレス　メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研　究　課　題
研究課題は大きく３つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、本学附属幼稚園での発達相談員としての臨床実践とその実践に関する臨床研究である。さらに、2016 年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担　当　授　業　科　目	
心理学（前期） 障がい児保育演習（前期） こども家庭支援の心理学（後期） 教育相談とカウンセリング（後期） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年）	保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 施設実習Ⅰ（学外実習） 施設実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【教育相談とカウンセリング】 これまでの臨床経験をもとに、架空の事例を作成し、それについて学生自身が自分に出来る対処法を考える授業を実践している。事例では、保育現場の実際に即して、園内のチーム連携や園外の専門機関との連携についても具体的な対処方法を伝えている。21 年度はオンデマンドでの授業であったため、学生が提出した課題の内容について、次回の授業動画の中でフィードバックし、双方向性をもてるように工夫した。学生が考えた対応方法については、それぞれの個性が反映されているととらえ、学生の意図を尊重した上でよりよい対処法をさらに考えるような講義内容になるようにコメントを工夫している。
授業科目名【障がい児保育演習】 保育現場で接することが多い発達障害の子どもたちへの支援方法を中心テーマとして授業を構成した。2 年生を対象としていることから、指導案の作成や教材作成も取り入れて実践的な内容とした。
授業科目名【心理学】 進化的な視点から、心理学の幅広い分野について学ぶことができるように配慮した。特に、学習や認知については学ぶことは、専門科目である「保育の心理学」に連携するため、重点的に学べるように配慮した。オンデマンド授業の利点を活かし、多様な情報に触れることができるよう資料を工夫した。
授業科目名【施設実習Ⅰ・Ⅱ】 21 年度も、COVID-19 の感染防止のために、学外での実習を一部実施できなかった学生がいたために、特例措置として学内での演習をもって学外実習の代替とした。学内での実施であったが、視覚教材を活用し、模擬保育や製作などの演習を取り入れることにより、児童福祉現場の様子を学生に伝えることができるように工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康心理学会 日本心理臨床学会 日本心理学会 日本行動医学会 日本ストレスマネジメント学会 日本健康支援学会 日本保育学会 日本生活体験学習学会		1997年4月～現在 1998年4月～現在 2000年4月～現在 2001年4月～現在 2002年4月～現在 2010年4月～現在 2014年4月～現在 2018年11月～現在

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1．保育者養成校の学生を対象としたリモートによる音楽教育についての質問紙作成	共	2021年5月	日本保育学会第73回大会	保育者養成校におけるピアノ教育のリモート授業について受講の負担や利便性、主観的な教育効果について、質問紙を作成する。その尺度を用いて、学生の主観的なリモート授業と対面授業の差異について検証した。
２．保育者養成校の音楽系科目におけるリモート授業の検討－教員が捉えた教育効果と課題－	共	2021年5月	日本保育学会第73回大会	音楽系科目のリモート授業について担当教員にグループインタビューを行い、そこでえられた内容を、リモート授業のメリット・デメリットを軸に抽出して、分類した。ICT機器の活用によりリモート授業でも学生に演奏技術を伝えることができていたが、充分ではなく、技術的な問題の改善や、対面授業との併用が望まれていた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本臨床心理士会会員	会員	2002 年 4 月～現在
福岡県臨床心理士会会員	会員	2002 年～2007 年、2014 年 4 月～現在
北方シネマ運営委員会	会員	2017 年 2 月～現在
わかぞのインクルーシブコミュニティ構想運営委員会	会員	2018 年 11 月～現在
手づくり市場 in 北九州実行委員会	会員	2019 年 4 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員　委員長 教職課程委員 地域連携室室員 内部監査委員 キャンパスハラスメント相談員 附属シオン山幼稚園発達相談員

2021 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　山路 麻佳	職名　　特任講師	学位　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学	ピアノ演奏表現、音楽教育、保育者養成ピアノ教育 幼児の音楽表現、器楽アンサンブル(合奏)

研　究　課　題
保育者養成のためのピアノ教育において、ピアノの経験がない初心者への効率的な指導法を童謡の弾き歌いにおけるピアノ伴奏を中心にして考察する。また、保育者養成におけるピアノ教育が幼児の音楽表現にどのようにかかわっていくのか、ピアノ演奏表現も関連させながら考察する。幼児の音楽表現に関して、器楽アンサンブル(合奏)を中心にして考察する。 ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

担　当　授　業　科　目
こどものためのピアノⅠ（前期） こどものうたと伴奏法Ⅰ（前期） 音楽の基礎（前期） こどものためのピアノⅡ（後期） こどものうたと伴奏法Ⅱ（後期） 保育総合表現（後期） 器楽アンサンブル（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こどものためのピアノⅠ】 ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進度で技術を向上していけるようグループに分けて個人レッスン形式で進めた。途中で遠隔授業に切り替わることもあったが、学生には事前に課題を動画で提出させることで、双方向でのタイムラグによる伝わりにくさを軽減させ、授業当日オンラインでも分かりやすく伝えることのできるようにした。また、ピアノ未経験者が増加している状況を受け今年度より教材を見直し、限られた時間で保育者として実践的な技能習得を効果的に進めていくことができるよう授業を展開した。
授業科目名【こどものためのピアノⅡ】 個人レッスンを進めながら、毎時間各教員のグループから１人ずつ科目担当者のもとに集め発表の場を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。 弾き歌いの課題ではコード伴奏を用いた課題を入れることで、前期で履修した「音楽の基礎」での学びを踏まえて、知識に加えて演奏を通して理解を深めることで、より実践的なピアノ技能を高められるよう進めた。
授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅰ】 保育者として音楽を楽しんで表現することができるよう、学生が曲のイメージを広げ曲に合った伴奏をつくり弾きうたいの演奏ができるよう個々に応じた指導ができるよう授業を展開した。２年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。

授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅱ】

これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた個々に合わせた課題を準備し授業を進めた。特にピアノ演奏に不安がある学生に対しては、自信をもって現場で演奏していくことができるよう簡易伴奏にする方法を教授した。

授業科目名【音楽の基礎】

理論を講義で学ぶだけでなく実際に音楽を感じながら理解を深めていくことができるよう毎時間ソルフェージュの課題を取り入れた。講義の際は机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。途中遠隔授業の期間はパワーポイントの画面に動画やアニメーションを利用して映像や音符の動きを加えながら説明することで、学生が理解しやすい資料の提示・説明を心がけた。歌唱指導では新型コロナウイルス感染予防のため少人数のグループに分け換気・距離を十分にとって行った。他のグループが行っている間は個室の練習室にて各自練習とし、範囲・注意点を明確に提示しておくことで効果的に練習を行えるよう指導した。

授業科目名【保育総合表現】

学生主体で「シオンの丘こども劇場」を作り上げていくために、学生同士で意見を出し合う時間をつくるだけでなく、一人ひとりの考えを引き出せるよう個別に教員と話す機会を設けた。また、作品にふさわしい音楽を選曲、効果音の提案をするなどサポートし、作品を表現していく上での音楽の重要さが伝わるよう進めた。履修者数が少ない中ではあったが、限られたものを使って学生が協力して考え進めることで、より現場に近い形で創り上げていくことができるよう心掛けた。

授業科目名【器楽アンサンブル】

履修者が少人数であったため、編成の大きいアンサンブルはできなかったが少人数でもできる教材を準備し、ハンドベルや保育現場で多く使われる楽器の奏法を学び、アンサンブルの美しさ楽しさが伝わるよう指導した。また、楽器演奏に苦手意識をもっている学生もいたが、身体や声を使ったリズムアンサンブルを取り入れることでアンサンブルへの理解を深めていくことができるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2018 年～現在に至る
九州公私立音楽学会	会員	2019 年～現在に至る

２０２１年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） １．保育者養成校におけるピアノ指導についての一考察 －実践につながる演奏技能の習得に向けて－	単著	2021 年	西南女学院大学紀要 VOL.26	本研究では、保育現場での実践につながる演奏技能の習得に向けて、『大学ピアノ教本』の内容を精査し指導内容の検討を行った。その結果、教本と弾き歌い教材の音楽的要素を関連付けながら『大学ピアノ教本』の曲数を抜粋することで、

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				２年間という限られた時間での習得が可能になるのではないかと考えた。簡易伴奏の演奏技能は個々の学生に応じた方法を教授し、他の曲にも自ら応用できるよう指導することが大切である。今後は学生の習得状況等から本研究の有効性を確認していく必要がある。
２．保育者養成校におけるリズム感を養う指導法について	単著	2021年	西南女学院大学紀要 VOL.26	本研究では、保育者を目指す学生のリズム感を養うための指導法の検討を行った。学生の読譜力の向上を目的に独自の教材を作成し、Step.6までを段階的に構成し、各ステップの内容を細分化して音楽的要素を習得できるようにした。これにより苦手とする要素やレベルに合わせて取り組むことが可能となり、効率良く読譜力を向上することができる。また、ボディパーカッションを取り入れることでリズムを介して他者とコミュニケーションを図り、豊かな感性や表現することの楽しさを育むだけでなく、協調性や責任感など様々な力を養うことにも繋がると考えられる。
(特別寄稿論文) １．日本の保育者養成校におけるピアノ実技演習の現状と課題－K大学のピアノ授業教材の分析事例を中心に－	共著	2021年	東アジア諸国における幼児教育・子育ての実態に関する研究	本研究では、学生が効率良くピアノ演奏の力を習得することができるよう、カリキュラム上の現状等から多角的に検討し、バイエルピアノ教則本と子どもの曲を比較・分析することで課題曲の構成について検討し。その結果、学生にとって音楽を通してより豊かな表現力を養い、意欲的に取り組めるような教材を難易度別に編集することの必要性を見出した。今後は教則本そのものの比較検討と見直しを行うとともに、子どもの曲との関連性を意識しながら並行して取り組めるように

２０２１年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				編成し、必要に応じた教材の開発や課題編成についても検討していく必要がある。 植村和彦・石川ますみ・山路麻佳・井原花綸
（翻訳）				
（学会発表） 日本の保育者養成校におけるピアノ実技演習の現状と課題～K大学のピアノ授業教材の分析事例を中心に～	共著	2021年11月	2021年度 日本語教育と日本学研究国際シンポジウム(オンライン発表)	本研究では、学生が効率良くピアノ演奏の力を習得することができるよう、カリキュラム上の現状等から多角的に検討し、バイエルピアノ教則本と子どもの曲を比較・分析することで課題曲の構成について検討し。その結果、学生にとって音楽を通してより豊かな表現力を養い、意欲的に取り組めるような教材を難易度別に編集することの必要性を見出した。今後は教則本そのものの比較検討と見直しを行うとともに、子どもの曲との関連性を意識しながら並行して取り組めるように編成し、必要に応じた教材の開発や課題編成についても検討していく必要がある。 石川ますみ・山路麻佳・井原花綸・植村和彦
（資格取得） リトミック指導資格（初級）		2021年3月	特定非営利活動法人リトミック研究センター	リトミック指導者養成コースにおいて、3歳児に向けた指導法を習得し指導者として認定された。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州音楽協会	会員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡青年音楽家協会	会員	2016 年 4 月～現在に至る
むなかた第九コンサート	伴奏ピアニスト	2016 年 4 月～現在に至る
カフェ・クリムト サロンコンサート	ピアニスト	2021 年 4 月 7 日
「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	審査員	2021 年 7 月 25 日
カフェ・クリムト サロンコンサート	ピアニスト	2021 年 9 月 29 日
「東京インテリア家具　MOA café コンサート」	ピアニスト	2021 年 11 月 7 日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2022 年 1 月 30 日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2022 年 2 月 19 日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2022 年 2 月 26 日
宗像ユリックス「ロビーコンサート」	ピアニスト	2022 年 3 月 25 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
チャペルアワー　奏楽 クリスマス礼拝　奏楽 ハンドベルクワイヤー　指導指揮　2019 年度～現在に至る 筑豊高校へ出張模擬授業　講師